

上越新幹線關係
埋藏文化財発掘調査報告

第 9 集

田端遺跡

(第 4 分冊)

1988

群馬県教育委員会
（協）群馬県埋藏文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第9集

田端遺跡

(第4分冊)

1988

群馬県教育委員会
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社

目 次

第V章 遺構と遺物

第7節 古墳時代の住居跡

- 1 概 要……………887
- 2 田端地区E区……………888
- 3 寺東地区……………951

第8節 古墳時代の溝・土坑・その他

- 1 概 要……………1030
- 2 各区の溝・土坑・その他……………1031

第9節 縄文時代の遺構と遺物

- 1 住 居 跡……………1059
- 2 遺構外出土遺物……………1062

遺物観察表……………1071

写真図版

分 冊 目 次

- 第1分冊 第I章 調査に至る経過
第II章 調査の方法と経過
第III章 遺跡の立地
第IV章 土 層
第V章 遺構と遺物
 第1節 遺構の概要
 第2節 現代～近代
 第3節 近世～中世
- 第2分冊 第V章 第4節 奈良平安時代の住居跡1
- 第3分冊 第V章 第5節 奈良平安時代の住居跡2
 第6節 奈良平安時代の溝・土坑・その他
- 第5分冊 第VI章 考 察
 第1節 田端遺跡の変遷
 第2節 田端廃寺の推定—瓦類—
 第3節 田端遺跡出土の人骨
 第4節 田端遺跡出土の獣歯・獣骨
 第5節 田端遺跡出土の鉄滓分析
 第6節 田端遺跡出土の陶・磁器
 第7節 心洞寺と木部城
 第8節 遺構と家並み
- 結 語

図 版 目 次

		本 文 対 照 頁
図版289	田端地区E区住居跡群(1)第3面(東から)……………	887
図版290	田端地区E区住居跡群(2)第3面(西から)……………	887
図版291	田端地区E区住居跡群(3)第3面(南から)……………	887
図版292	田端地区E区住居跡群(4)第3面(北から)……………	887
図版293	田端地区E区住居跡群掘形(南から)……………	887
図版294	田端地区E区4号住居跡(北から)・同上掘形……………	888
図版295	田端地区E区5号住居跡(西から)・6号住居跡(東から)……………	888
図版296	田端地区E区7号住居跡(北西から)・同上カマド……………	895
図版297	田端地区E区9号住居跡(1)(北西から)……………	896
	田端地区E区9号住居跡(1)A(左)・B(右)カマド(2)……………	896
図版298	田端地区E区9号住居跡(3)Cカマド・10号住居跡カマド(西から)……………	896・906
図版299	田端地区E区11号住居跡(西から)・12号住居跡(西から)……………	907・908
図版300	田端地区E区13号住居跡(北から)・14号住居跡(北から)……………	915
図版301	田端地区E区16号住居跡(西から)・17号住居跡(東から)……………	920・921
図版302	田端地区E区18号住居跡(東から)・19号住居跡(西から)……………	921・922
図版303	田端地区E区19号住居跡カマド・20号住居跡(北東から)……………	922・925
図版304	田端地区E区21号住居跡(西から)・22・23号住居跡(西から)……………	926・927
図版305	田端地区E区24号住居跡(北から)・26号住居跡(西から)……………	929・931
図版306	田端地区E区28号住居跡(西から)・29号住居跡(西から)……………	935・936
図版307	田端地区E区30号住居跡(北から)・同上カマド……………	936
図版308	田端地区E区32号住居跡(北から)・同上カマド……………	937
図版309	田端地区E区34号住居跡(北から)・35号住居跡(北から)……………	942・944
図版310	寺東地区3次調査南側道住居跡群(東から)……………	887
図版311	寺東地区4次調査南側道住居跡群(西から)……………	887
図版312	寺東地区3次調査本線敷住居跡群(1)(東から)……………	887
	寺東地区3次調査本線敷住居跡群(2)(西から)……………	887
図版313	寺東地区1a・1b号住居跡(北から)・同上……………	951
図版314	寺東地区4号住居跡(北から)・10号住居跡(1)(西から)……………	957
図版315	寺東地区10号住居跡(2)カマド(南東から)・11号住居跡(南西から)……………	957・959
図版316	寺東地区13号住居跡(北西から)・14号住居跡(東から)……………	962
図版317	寺東地区15号住居跡(西から)・同上カマド……………	963
図版318	寺東地区16号住居跡カマド(西から)・17号住居跡(西から)……………	966
図版319	寺東地区18号住居跡(東から)・19号住居跡(北東から)……………	967・968
図版320	寺東地区20号住居跡(南から)21・22号住居跡(東から)……………	970・974
図版321	寺東地区30号住居跡(南から)・31号住居跡(南から)……………	977・979
図版322	寺東地区33号住居跡(西から)・35号住居跡(南から)……………	984・985
図版323	寺東地区37号住居跡(西から)39・40号住居跡(南西から)……………	991・996・997
図版324	寺東地区41号住居跡(北東から)・42号住居跡(南東から)……………	997・1001
図版325	寺東地区43号住居跡(北西から)・44・45号住居跡(北東から)……………	1003・1006・1008
図版326	寺東地区46号住居跡(南西から)・47号住居跡(北東から)……………	1009・1011
図版327	寺東地区48号住居跡(南西から)・42・49号住居跡(1)(南から)……………	1011・1014
図版328	寺東地区49号住居跡(2)カマド・51号住居跡(西から)……………	1014・1017
図版329	寺東地区59号住居跡(南西から)・62号住居跡(南西から)……………	1023・1027
図版330	寺東地区63・64号住居跡・64号住居跡カマド……………	1027
図版331	田端地区B区39号住居跡(1)(西から)・39号住居跡(2)・39号住居跡(3)……………	1059
図版332	田端地区B区97号住居跡(1)(西から)・97号住居跡(2)(南から)……………	1060
図版333	田端地区B区97号住居跡(3)・97号住居跡(4)……………	1060
図版334	田端地区E区4号住居跡出土遺物・6号住居跡出土遺物(1)……………	890・893
図版335	田端地区E区6号住居跡出土遺物(2)・7号住居跡出土遺物……………	894・897
図版336	田端地区E区9号住居跡出土遺物……………	902・903・904
図版337	田端地区E区10号住居跡出土遺物・12号住居跡出土遺物(1)……………	907・910
図版338	田端地区E区12号住居跡出土遺物(2)……………	911
図版339	田端地区E区12号住居跡出土遺物(3)・14号住居跡出土遺物・16号住居跡出土遺物……………	912・918・921
図版340	田端地区E区19号住居跡出土遺物……………	925・926
図版341	田端地区E区22号住居跡出土遺物・23号住居跡出土遺物……………	929・930

図版342	田端地区 E 区26号住居跡出土遺物・28号住居跡出土遺物	934・936
図版343	田端地区 E 区29号住居跡出土遺物・30号住居跡出土遺物・32号住居跡出土遺物(1)	937・938・941
図版344	田端地区 E 区32号住居跡出土遺物(2)	942
図版345	田端地区 E 区35号住居跡出土遺物・37号住居跡出土遺物	946・947・950
図版346	寺東地区 1 a 号住居跡出土遺物(1)	955
図版347	寺東地区 1 a 号住居跡出土遺物(2)	956
図版348	寺東地区 1 a 号住居跡出土遺物(3)・1 b 号住居跡出土遺物・4号住居跡出土遺物	957・959
図版349	寺東地区10号住居跡出土遺物・13号住居跡出土遺物・14号住居跡出土遺物・15号住居跡出土遺物	960・962・963・965
図版350	寺東地区16号住居跡出土遺物・18号住居跡出土遺物・19号住居跡出土遺物(1)	966・968・971
図版351	寺東地区19号住居跡出土遺物(2)・20号住居跡出土遺物(1)	975
図版352	寺東地区20号住居跡出土遺物(2)・21号住居跡出土遺物	976・977
図版353	寺東地区30号住居跡出土遺物・31号住居跡出土遺物(1)	979・983
図版354	寺東地区31号住居跡出土遺物(2)	984
図版355	寺東地区33号住居跡出土遺物・35号住居跡出土遺物(1)	985・987
図版356	寺東地区35号住居跡出土遺物(2)	988
図版357	寺東地区35号住居跡出土遺物(3)・37号住居跡出土遺物	989・990・991・994
図版358	寺東地区39号住居跡出土遺物・40号住居跡出土遺物(1)	996・999
図版359	寺東地区40号住居跡出土遺物(2)・41号住居跡出土遺物・42号住居跡出土遺物	999・1001・1004
図版360	寺東地区43号住居跡出土遺物・44号住居跡出土遺物	1005・1008
図版361	寺東地区46号住居跡出土遺物・47号住居跡出土遺物	1011・1012
図版362	寺東地区48号住居跡出土遺物(1)	1015
図版363	寺東地区48号住居跡出土遺物(2)・49号住居跡出土遺物(1)	1016・1019
図版364	寺東地区49号住居跡出土遺物(2)・51号住居跡出土遺物(1)	1019・1021
図版365	寺東地区51号住居跡出土遺物(2)・55号住居跡出土遺物・57号住居跡出土遺物	1021・1022
図版366	寺東地区59号住居跡出土遺物・62号住居跡出土遺物・64号住居跡出土遺物	1026
図版367	田端地区 E 区 3 号集石出土遺物(1)	1037
図版368	田端地区 E 区 3 号集石出土遺物(2)	1038
図版369	田端地区 E 区 3 号集石出土遺物(3)	1039
	寺東地区 1 号掘立柱建物跡出土遺物・22号土坑出土遺物・52号土坑出土遺物・59号土坑出土遺物	1046・1051
図版370	寺東地区53号土坑出土遺物・54号土坑出土遺物	1052・1055
図版371	田端地区 B 区39号住居跡出土遺物・97号住居跡出土遺物	1060・1063
図版372	田端地区 B 区縄文時代遺構外出土遺物(1) 土器	1065
図版373	田端地区 B 区縄文時代遺構外出土遺物(2) 土器	1066
図版374	田端地区 B 区縄文時代遺構外出土遺物(3) 土器	1067
図版375	田端地区 B 区縄文時代遺構外出土遺物(4) 石器	1068

插图目次

第 899 图	田端地区 E 区 4 号住居迹	889
第 900 图	田端地区 E 区 4 号住居迹出土遗物	890
第 901 图	田端地区 E 区 5 号住居迹	890
第 902 图	田端地区 E 区 5 号住居迹出土遗物	890
第 903 图	田端地区 E 区 6 号住居迹 (1)	891
第 904 图	田端地区 E 区 6 号住居迹·写真	892
第 905 图	田端地区 E 区 6 号住居迹 (2)	893
第 906 图	田端地区 E 区 6 号住居迹出土遗物 (1)	893
第 907 图	田端地区 E 区 6 号住居迹出土遗物 (2)	894
第 908 图	田端地区 E 区 7 号住居迹·写真	895
第 909 图	田端地区 E 区 7 号住居迹	896
第 910 图	田端地区 E 区 7 号住居迹出土遗物	897
第 911 图	田端地区 E 区 8 号住居迹	898
第 912 图	田端地区 E 区 9 号住居迹·写真	899
第 913 图	田端地区 E 区 9 号住居迹·写真	899
第 914 图	田端地区 E 区 9 号住居迹 (1)	900
第 915 图	田端地区 E 区 9 号住居迹 (2)	901
第 916 图	田端地区 E 区 9 号住居迹出土遗物 (1)	902
第 917 图	田端地区 E 区 9 号住居迹出土遗物 (2)	903
第 918 图	田端地区 E 区 9 号住居迹出土遗物 (3)	904
第 919 图	田端地区 E 区 10 号住居迹·写真	906
第 920 图	田端地区 E 区 10 号住居迹	906
第 921 图	田端地区 E 区 10 号住居迹出土遗物	907
第 922 图	田端地区 E 区 11 号住居迹	907
第 923 图	田端地区 E 区 12 号住居迹·写真	908
第 924 图	田端地区 E 区 12 号住居迹	909
第 925 图	田端地区 E 区 12 号住居迹出土遗物 (1)	910
第 926 图	田端地区 E 区 12 号住居迹出土遗物 (2)	911
第 927 图	田端地区 E 区 12 号住居迹出土遗物 (3)	912
第 928 图	田端地区 E 区 12 号住居迹出土遗物 (4)	913
第 929 图	田端地区 E 区 13 号住居迹·写真	915
第 930 图	田端地区 E 区 14 号住居迹·写真	916
第 931 图	田端地区 E 区 13 号住居迹	916
第 932 图	田端地区 E 区 14 号住居迹·写真	917
第 933 图	田端地区 E 区 14 号住居迹	917
第 934 图	田端地区 E 区 14 号住居迹出土遗物	918
第 935 图	田端地区 E 区 15 号住居迹	920
第 936 图	田端地区 E 区 16 号住居迹	920
第 937 图	田端地区 E 区 16 号住居迹出土遗物	921
第 938 图	田端地区 E 区 17 号住居迹	922
第 939 图	田端地区 E 区 18 号住居迹	922
第 940 图	田端地区 E 区 19 号住居迹 (1)·写真	923
第 941 图	田端地区 E 区 19 号住居迹 (2)·写真	923
第 942 图	田端地区 E 区 19 号住居迹	924
第 943 图	田端地区 E 区 19 号住居迹出土遗物 (1)	925
第 944 图	田端地区 E 区 19 号住居迹出土遗物 (2)	926
第 945 图	田端地区 E 区 20 号住居迹	927
第 946 图	田端地区 E 区 21 号住居迹	927
第 947 图	田端地区 E 区 22·23 号住居迹	928
第 948 图	田端地区 E 区 22 号住居迹出土遗物	929
第 949 图	田端地区 E 区 22 号住居迹·写真	930
第 950 图	田端地区 E 区 23 号住居迹出土遗物	930
第 951 图	田端地区 E 区 24 号住居迹	931
第 952 图	田端地区 E 区 26 号住居迹·写真	932
第 953 图	田端地区 E 区 26 号住居迹·写真	932

第954图	田端地区E区26号住居跡	933
第955图	田端地区E区26号住居跡出土遺物	934
第956图	田端地区E区28号住居跡	935
第957图	田端地区E区28号住居跡出土遺物	936
第958图	田端地区E区29号住居跡	937
第959图	田端地区E区29号住居跡出土遺物	937
第960图	田端地区E区30号住居跡	938
第961图	田端地区E区30号住居跡出土遺物	938
第962图	田端地区E区32号住居跡(1)・写真	939
第963图	田端地区E区32号住居跡(2)・写真	939
第964图	田端地区E区32号住居跡	940
第965图	田端地区E区32号住居跡出土遺物(1)	941
第966图	田端地区E区32号住居跡(3)・写真	942
第967图	田端地区E区32号住居跡出土遺物(2)	942
第968图	田端地区E区34号住居跡・写真	943
第969图	田端地区E区33号住居跡	943
第970图	田端地区E区35号住居跡・写真	944
第971图	田端地区E区34号住居跡	944
第972图	田端地区E区35号住居跡	945
第973图	田端地区E区35号住居跡出土遺物(1)	946
第974图	田端地区E区35号住居跡出土遺物(2)	947
第975图	田端地区E区36号住居跡	950
第976图	田端地区E区37号住居跡	950
第977图	田端地区E区37号住居跡出土遺物	950
第978图	寺東地区1a・b号住居跡(1)・写真	951
第979图	寺東地区1a・b号住居跡(2)・写真	952
第980图	寺東地区1a・b号住居跡(3)・写真	952
第981图	寺東地区1a号住居跡	953
第982图	寺東地区1b号住居跡	954
第983图	寺東地区1a号住居跡出土遺物(1)	955
第984图	寺東地区1a号住居跡出土遺物(2)	956
第985图	寺東地区1b号住居跡出土遺物	957
第986图	寺東地区4号住居跡・写真	958
第987图	寺東地区4号住居跡	958
第988图	寺東地区10号住居跡・写真	959
第989图	寺東地区4号住居跡出土遺物	959
第990图	寺東地区10号住居跡	960
第991图	寺東地区10号住居跡出土遺物	960
第992图	寺東地区13号住居跡・写真	961
第993图	寺東地区11号住居跡	961
第994图	寺東地区13号住居跡	962
第995图	寺東地区13号住居跡出土遺物	962
第996图	寺東地区14号住居跡	963
第997图	寺東地区14号住居跡出土遺物	963
第998图	寺東地区15号住居跡(1)・写真	964
第999图	寺東地区15号住居跡	964
第1000图	寺東地区15号住居跡(2)・写真	965
第1001图	寺東地区15号住居跡出土遺物	965
第1002图	寺東地区16号住居跡	966
第1003图	寺東地区16号住居跡出土遺物	966
第1004图	寺東地区18号住居跡・写真	967
第1005图	寺東地区17号住居跡	967
第1006图	寺東地区18号住居跡	968
第1007图	寺東地区18号住居跡出土遺物	968
第1008图	寺東地区19号住居跡(1)・写真	969
第1009图	寺東地区19号住居跡(2)・写真	969
第1010图	寺東地区19号住居跡	970
第1011图	寺東地区19号住居跡出土遺物	971
第1012图	寺東地区20号住居跡(1)・写真	972

第1013図	寺東地区20号住居跡（2）・写真	972
第1014図	寺東地区20号住居跡（1）	973
第1015図	寺東地区20号住居跡（2）	974
第1016図	寺東地区20号住居跡出土遺物（1）	975
第1017図	寺東地区20号住居跡出土遺物（2）	976
第1018図	寺東地区21・22号住居跡	976
第1019図	寺東地区21・22号住居跡・写真	977
第1020図	寺東地区21号住居跡出土遺物	977
第1021図	寺東地区30号住居跡・写真	978
第1022図	寺東地区30号住居跡	978
第1023図	寺東地区30号住居跡出土遺物	979
第1024図	寺東地区31号住居跡（1）・写真	980
第1025図	寺東地区31号住居跡（2）・写真	980
第1026図	寺東地区31号住居跡（1）	981
第1027図	寺東地区31号住居跡（2）	982
第1028図	寺東地区31号住居跡出土遺物（1）	983
第1029図	寺東地区31号住居跡出土遺物（2）	984
第1030図	寺東地区33号住居跡	984
第1031図	寺東地区35号住居跡・写真	985
第1032図	寺東地区33号住居跡出土遺物	985
第1033図	寺東地区35号住居跡・写真	986
第1034図	寺東地区35号住居跡	986
第1035図	寺東地区35号住居跡出土遺物（1）	987
第1036図	寺東地区35号住居跡出土遺物（2）	988
第1037図	寺東地区35号住居跡出土遺物（3）	989
第1038図	寺東地区35号住居跡出土遺物（4）	990
第1039図	寺東地区35号住居跡出土遺物（5）	991
第1040図	寺東地区35号住居跡カマド・写真	991
第1041図	寺東地区37号住居跡	993
第1042図	寺東地区39・40号住居跡・写真	994
第1043図	寺東地区37号住居跡出土遺物	994
第1044図	寺東地区39号住居跡・写真	995
第1045図	寺東地区40号住居跡・写真	995
第1046図	寺東地区39号住居跡	996
第1047図	寺東地区39号住居跡出土遺物	996
第1048図	寺東地区40号住居跡	998
第1049図	寺東地区40号住居跡出土遺物	999
第1050図	寺東地区41号住居跡	1000
第1051図	寺東地区42号住居跡・写真	1001
第1052図	寺東地区41号住居跡出土遺物	1001
第1053図	寺東地区42号住居跡（1）	1002
第1054図	寺東地区42号住居跡（2）	1003
第1055図	寺東地区43号住居跡・写真	1004
第1056図	寺東地区42号住居跡出土遺物	1004
第1057図	寺東地区43号住居跡	1005
第1058図	寺東地区43号住居跡出土遺物	1005
第1059図	寺東地区44号住居跡・写真	1006
第1060図	寺東地区44号住居跡	1007
第1061図	寺東地区44号住居跡・写真	1008
第1062図	寺東地区44号住居跡出土遺物	1008
第1063図	寺東地区45号住居跡	1009
第1064図	寺東地区45号住居跡出土遺物	1009
第1065図	寺東地区46号住居跡・写真	1010
第1066図	寺東地区46号住居跡	1010
第1067図	寺東地区46号住居跡出土遺物	1011
第1068図	寺東地区48号住居跡・写真	1012
第1069図	寺東地区47号住居跡	1012
第1070図	寺東地区47号住居跡出土遺物	1012
第1071図	寺東地区48号住居跡（1）	1013

第1072回	寺東地区48号住居跡(2)……………	1014
第1073回	寺東地区48号住居跡出土遺物(1)……………	1015
第1074回	寺東地区48号住居跡出土遺物(2)……………	1016
第1075回	寺東地区49号住居跡・写真……………	1017
第1076回	寺東地区49号住居跡……………	1018
第1077回	寺東地区49号住居跡出土遺物……………	1019
第1078回	寺東地区51号住居跡・写真……………	1020
第1079回	寺東地区51号住居跡……………	1020
第1080回	寺東地区55号住居跡・写真……………	1021
第1081回	寺東地区51号住居跡出土遺物……………	1021
第1082回	寺東地区55号住居跡……………	1022
第1083回	寺東地区55号住居跡出土遺物……………	1022
第1084回	寺東地区57・62・63・65・67号住居跡……………	1024
第1085回	寺東地区59号住居跡・写真……………	1025
第1086回	寺東地区58号住居跡……………	1025
第1087回	寺東地区59号住居跡出土遺物……………	1026
第1088回	寺東地区64号住居跡……………	1028
第1089回	田端地区B区172・173号土坑……………	1031
第1090回	田端地区B区173号土坑(1)・写真……………	1032
第1091回	田端地区B区173号土坑(2)・写真……………	1032
第1092回	田端地区B区173号土坑(3)・写真……………	1033
第1093回	田端地区E区3号集石(1)・写真……………	1034
第1094回	田端地区E区3号集石(2)・写真……………	1034
第1095回	田端地区E区3号集石(3)・写真……………	1035
第1096回	田端地区E区3号集石(4)・写真……………	1035
第1097回	田端地区E区3号集石……………	1036
第1098回	田端地区E区3号集石出土遺物(1)……………	1037
第1099回	田端地区E区3号集石出土遺物(2)……………	1038
第1100回	田端地区E区3号集石出土遺物(3)……………	1039
第1101回	田端地区E区5・6・7・8・9・10号土坑……………	1042
第1102回	田端地区E区9号土坑(1)・写真……………	1043
第1103回	田端地区E区10号土坑・写真……………	1043
第1104回	田端地区E区9号土坑(2)・写真……………	1044
第1105回	田端地区E区11・12・13・14・15号土坑……………	1044
第1106回	寺東地区1号掘立柱建物跡……………	1046
第1107回	寺東地区1号掘立柱建物跡出土遺物……………	1046
第1108回	寺東地区1号掘立柱建物跡・写真……………	1047
第1109回	寺東地区40・41号土坑・写真……………	1047
第1110回	寺東地区42号土坑・写真……………	1048
第1111回	寺東地区44号土坑・写真……………	1048
第1112回	寺東地区45号土坑・写真……………	1049
第1113回	寺東地区52号土坑・写真……………	1049
第1114回	寺東地区22・40・41・42・43・44・45・51・52・53号土坑……………	1050
第1115回	寺東地区22・29・52・59号土坑出土遺物……………	1051
第1116回	寺東地区54号土坑(1)・写真……………	1052
第1117回	寺東地区53号土坑出土遺物……………	1052
第1118回	寺東地区54号土坑(2)・写真……………	1053
第1119回	寺東地区59号土坑・写真……………	1053
第1120回	寺東地区54・55・56B・57B・59・64・65・66・68号土坑……………	1054
第1121回	寺東地区54号土坑出土遺物……………	1055
第1122回	田端地区B区39号住居跡……………	1059
第1123回	田端地区B区39号住居跡出土遺物……………	1060
第1124回	田端地区B区39号住居跡・写真……………	1061
第1125回	田端地区B区97号住居跡……………	1061
第1126回	田端地区B区97号住居跡(1)・写真……………	1062
第1127回	田端地区B区97号住居跡(2)・写真……………	1062
第1128回	田端地区B区97号住居跡出土遺物……………	1063
第1129回	田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(1)土器……………	1065
第1130回	田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(2)土器……………	1066

第1131図	田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(3)土器	1067
第1132図	田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(4)石器	1068

表 目 次

第23表	田端地区E区9号住居跡出土遺物観察表・滑石品	902・903・905
第24表	田端地区E区12号住居跡出土遺物観察表・石類	913・914
第25表	田端地区E区14号住居跡出土遺物観察表・滑石品	919
第26表	田端地区E区35号住居跡出土遺物観察表・石類	947・948
第27表	寺東地区35号住居跡出土遺物観察表・玉類	992・993
第28表	田端地区E区3号集石出土遺物観察表・白玉	1040・1041
第29表	寺東地区1号掘立柱建物跡計測値表	1045

第Ⅴ章 第7節

古墳時代の住居跡

第7節 古墳時代の住居跡

1 概 要

ここでは古墳時代に属する住居跡の概要を記す。この時期の住居を検出したのは、田端地区E区と寺東地区のみである。いずれも水田跡を形成する灰色粘質土・赤褐色（オレンジ色）粘質土の下位で検出している。カマドをいくつもった住居があり、E区の住居の掘形は礫層に達している。

田端地区E区

本分冊で報告する住居は31軒で、奈良～平安時代の住居の5倍である。掘り込み・カマドともしっかりしたものが多く、煙道を2～3本検出した住居がある。しかし、これらの煙道とセットとなるカマドが同時に使われたのではなく、設置場所を変更していると考えられる。その場合は、以前のカマドを除去している。カマド本体が遺存しているのは殆ど1カ所である。

特殊な遺物を出土した住居として10・22号からガラス玉が出土している。9号からは巻頭で示した滑石製品・未製品が出土した。14号も滑石製品を出土する。12・35号では掌大の石が床面からまとまって出土している。32号は良好な土器のセットがある。

寺東地区

本分冊では69軒のうち、41軒を報告する。6割近くの住居がこの時期に属する。本地区の古墳時代の住居跡は、中世以後の遺構による破壊にもかかわらず、比較的遺存状態は良好である。この時期から、心洞寺台地は居住地として使われていたことは、古墳時代の河川の位置を考える上で重要なポイントと考えられる。北側道で検出した水田跡はこの時期に属する可能性もある。

本線敷きで2回調査を行った1a・1b号は多量の土器を出土している。31号住居出土の滑石製紡錘車は、側面に鋸歯状に三角形が連続し、その内部に格子目文様を刻んだものである。

35号は本地区の中で最も多量の遺物を出土した住居跡である。須恵器には杯蓋・杯身、ハソウ、短頸壺、長脚二段透かしの高杯、提瓶、横瓶がある。土師器では杯、高杯、甕が出土している。そのほか、管玉を含む多量の玉類があり、すべてを掲載できなかった。35号は1号溝によって南側半分を破壊されている。以上のほか、43号からは耳環が出土している。全体に須恵器の出土が多い。

2 田端地区E区

田端E区第4号住居跡（第899・900図、図版294・334）

Oライン・71km017m付近で検出した。確認面は第10層で、水田面よりも下位にある。1号集石と一部重複している。本住居はE区の側道敷きの西端で検出したもので、全体のプランは確認できず、北西隅が調査区内にあった。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、調査区壁ではほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、南側の床面は堅く締っていた。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは上層からの攪乱によって破壊されていたが、北東隅の調査区壁直下に焼土が分布しており、ここがカマドのあったところと考えられる。床面を形成する土を剝がすと、下から礫層が現れ、その礫を掘り抜いてピット1・2が掘り込まれていた。両者とも30cmほどの深さをもっている。

遺物は覆土から土器片が、床面から楕円形の石3個が床下から土器片と鉄器が出土した。第900図1は中央ピット1内から、2は西辺南端壁際から、3は西辺寄り中央からそれぞれ出土した。

時期は8世紀代とみられる。

田端E区第5号住居跡（第901・902図、図版295）

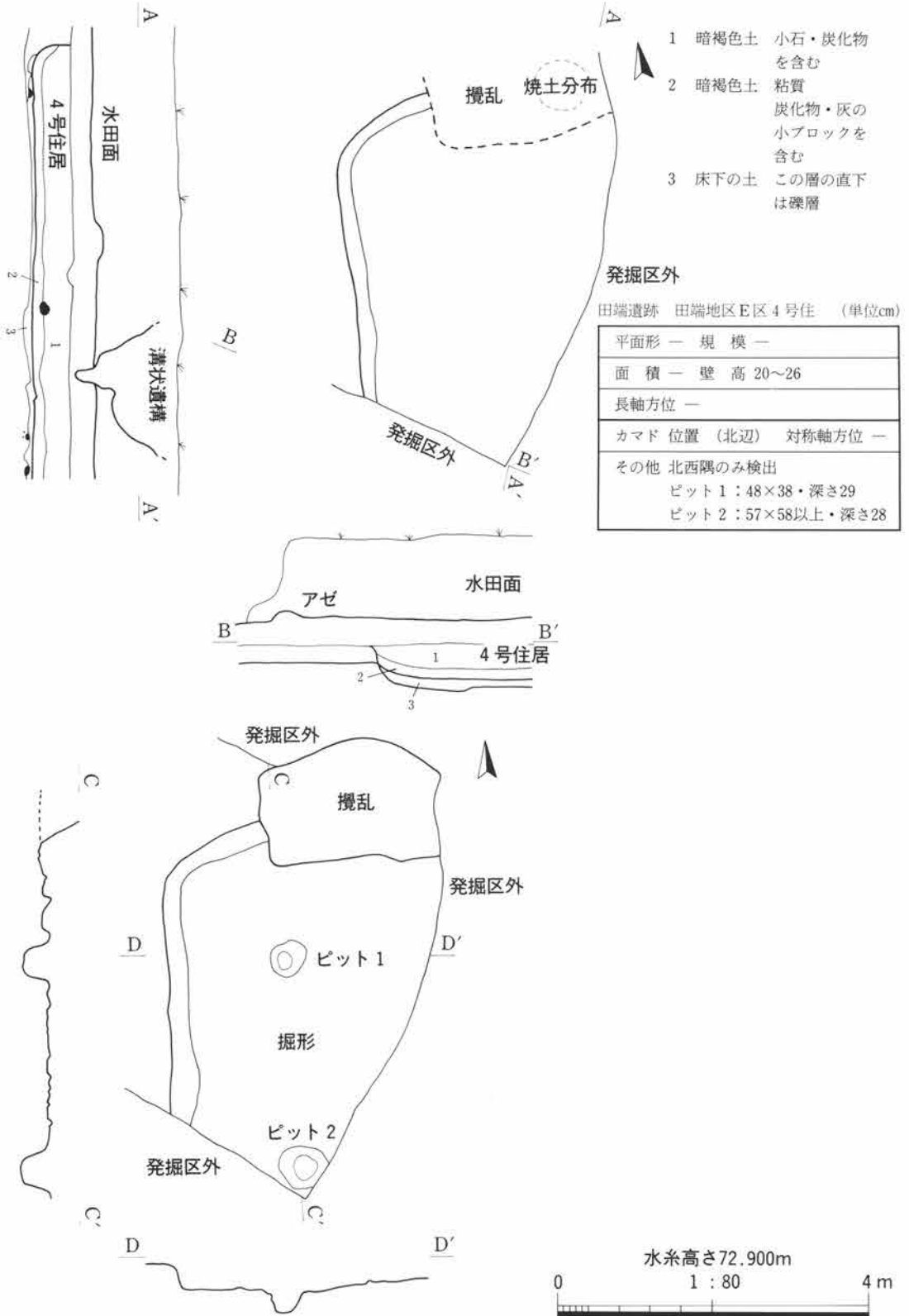
Oライン・71km032m付近で検出した。確認面は第10層である。3・5号溝と重複しており、本住居の方が古い。東半部はカマド本体も含めて5号溝によって失っている。北西隅・南西隅を検出した。北辺332cm、西辺357cm、南辺233cmが遺存していた。また、5号溝の東側には、煙道の一部を検出した。覆土は自然に堆積している。壁は25cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・貯蔵穴は検出していない。壁溝は北辺から南辺まで連続的に検出した。カマドは本体を失っているが、煙道の一部が遺存していた。長さ95cm、幅30cmほどで、先端に向かって細くなる。

遺物は南西隅付近で何点か出土したほかは、覆土出土のものである。第902図1は西辺南寄り壁溝内から、2は南西隅床直上からそれぞれ出土した。

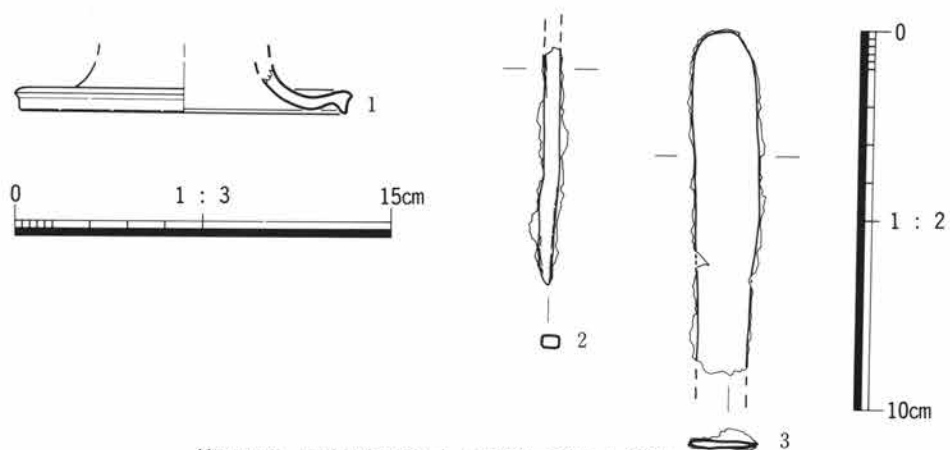
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

田端E区第6号住居跡（第903～907図、図版295・334・335）

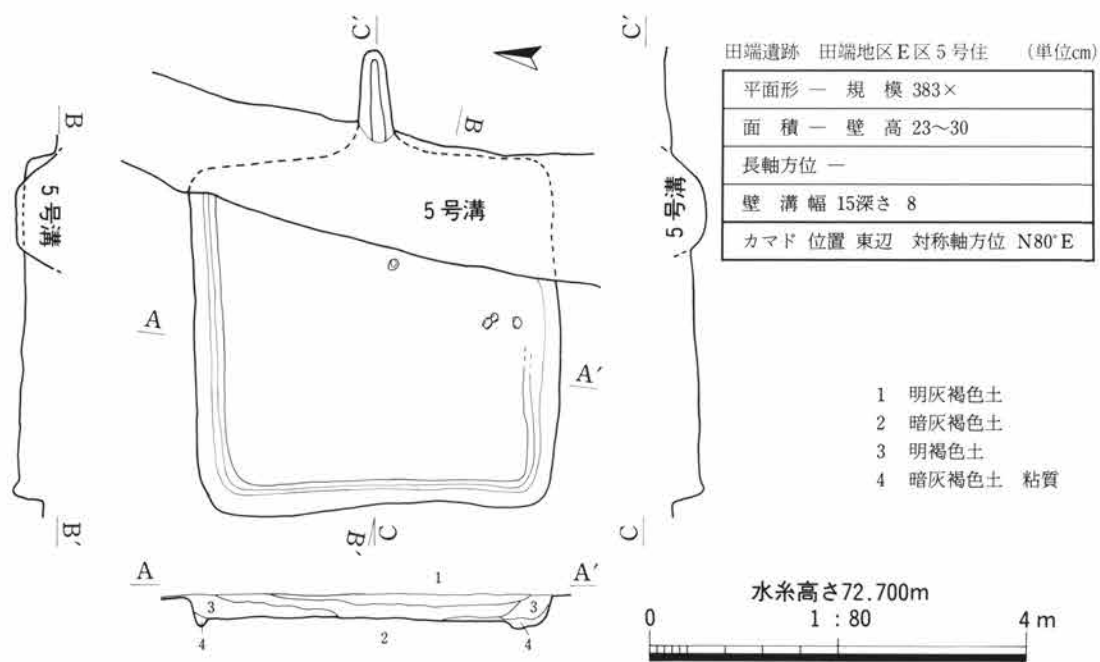
Oライン・71km035m付近で検出した。確認面は第10層である。2号住居・3号溝と重複しており、本住居の方が古い。南半部を3号溝に切られ、南辺は調査区外にあるため、北東隅・南東隅を確認したのみである。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は中央部が堅く締っており、周辺部は軟らかく、やや高くなる。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは北辺に2基検出した。東側をAカマド、西側をBカマドと呼ぶ。Bカマドは煙道のみ遺存し、長さ120cmを検出した。カマド前の焼土等は検出していない。Aカマドは袖部の床面直上の基部が遺存しており、焼土・炭化物の範囲を確認した。貯蔵穴は楕円形を呈し、北東隅に検出した。中から10～20cm大の石が10個ほど出土している。



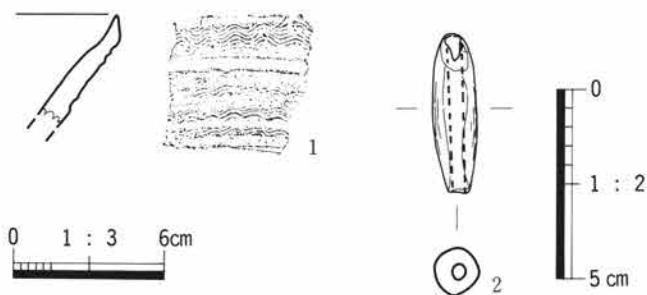
第899図 田端地区E区4号住居跡



第900図 田端地区E区4号住居跡出土遺物



第901図 田端地区E区5号住居跡

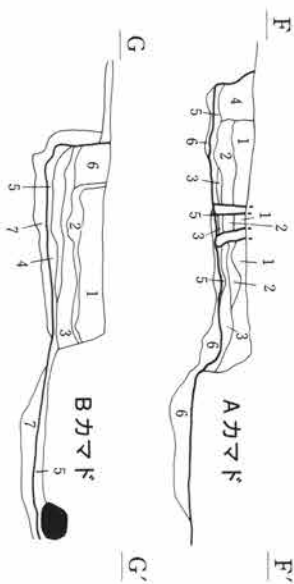
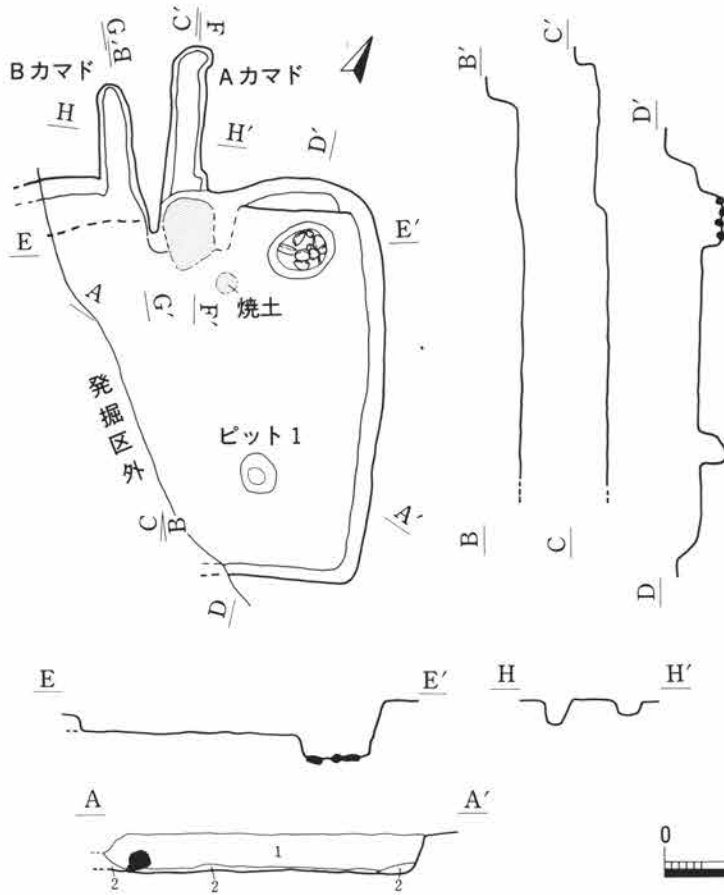


第902図 田端地区E区5号住居跡出土遺物

田端遺跡 田端地区E区6号住 (単位cm)

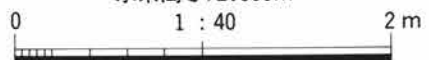
平面形	— 規模 —
面積	— 壁高 28~37
長軸方位	—
カマド 位置	東辺 対称軸方位 N153°E
A 焚口部幅	— 燃烧部 (54×58)
煙道部幅	35 長さ 161
角度	ほぼ水平
構築材	粘土
カマド 位置	東辺 対称軸方位 N146°E
B 煙道部幅	37 長さ 120
角度	ほぼ水平
貯蔵穴 位置	北東隅 平面形 楕円形
上バ	75×57 下バ 54×48
深さ	23
その他	ピット1 : 44×35・深さ31

- 1 暗茶褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む
 2 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む

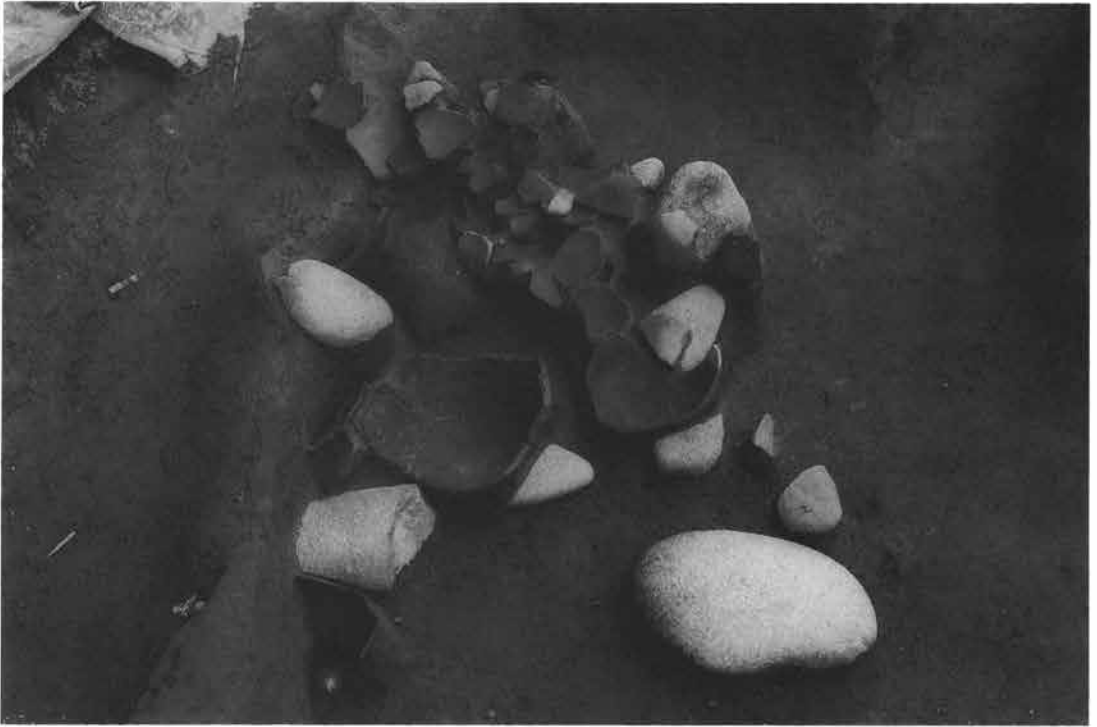


- Aカマド**
- 1 黄褐色土 砂質
 - 2 灰
 - 3 焼土 灰を含む
 - 4 焼土ブロック・黄褐色土ブロック・灰の混合
 - 5 焼土
 - 6 灰褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒・灰を含む、掘形フク土
- Bカマド**
- 1 黄褐色土 砂質
 - 2 焼土
 - 3 黄褐色土 砂質ブロック、炭化物・褐色土ブロック・焼土ブロックを含む
 - 4 焼土 灰を含む
 - 5 灰 焼土粒を含む
 - 6 黄褐色土 砂質、炭化物・焼土ブロックを含む
 - 7 褐色土 粘質、黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む、掘形フク土

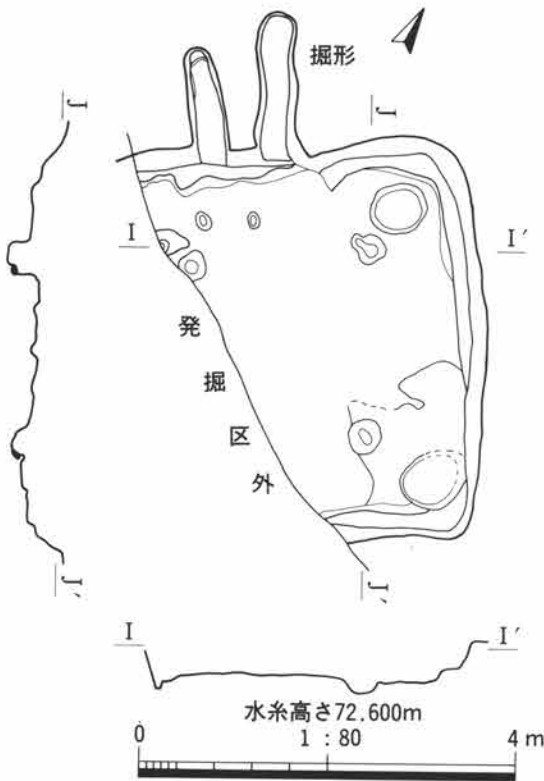
水糸高さ72.600m



第903図 田端地区E区6号住居跡 (1)



第904図 田端地区E区6号住居跡



第905図 田端地区E区6号住居跡 (2)

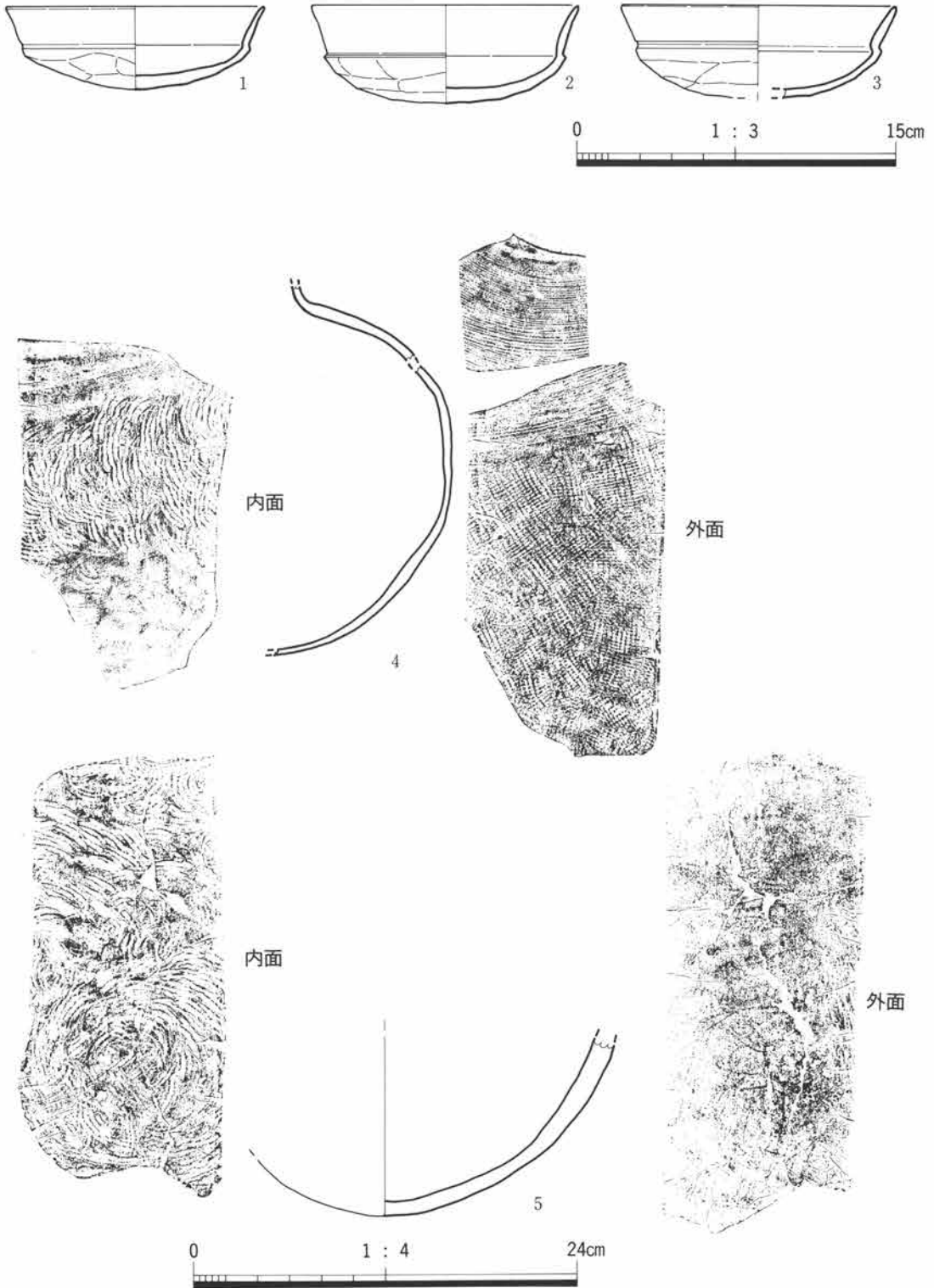
北東隅の床面をみると屈曲点があり、A・B両カマドの遺存状況を勘案すると、B→Aカマドの順に新しいと推定できる。北辺はBカマドに伴う北辺と考えられ、Aカマドの右袖基部は屈曲点の南側に連なると考えられる。以上のことから、最初にBカマドと北辺とで形成される住居が営まれ、次に比較的短い時間をおいて(拡張された可能性もある)Aカマドをもつ住居が作られたと推定する。

床面を形成する土層を剥ぐと、床下からいくつかのピットと、浅い掘り込みが現れた。小さなピットがBカマドの前にあり、また南東隅は浅く掘り込まれていた。

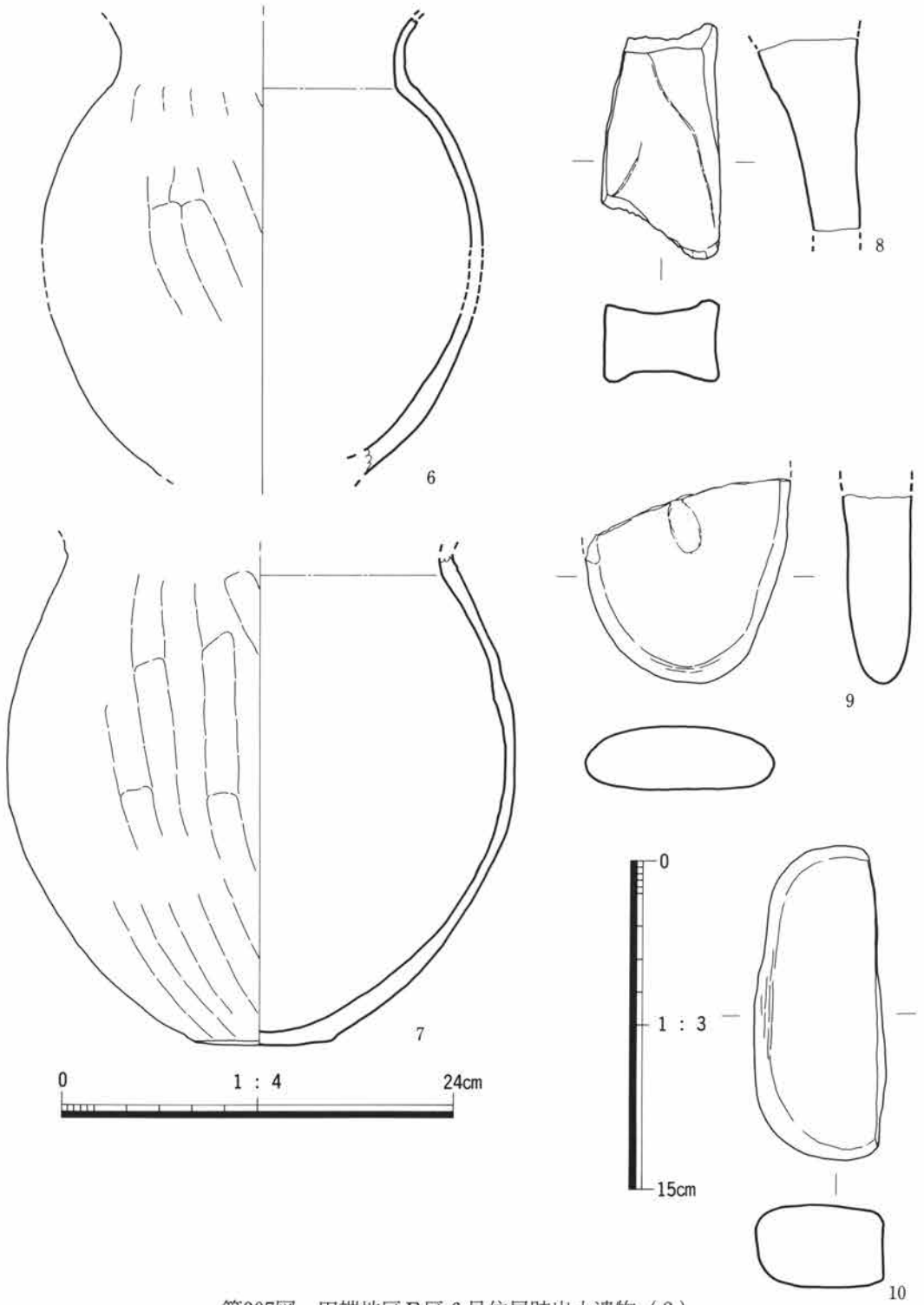
遺物はBカマド前の床面から土器片が、カマド前の床面近くから拳大～人頭大の石が多数出土した。第906図1は南辺西寄り床直上から、2は北辺壁際床面のAカマド右から、3はAカマド右脇床面から、4～7・9はBカマド前床面

から、8はBカマド前床直上から、10は東辺北寄り床面からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀ころと考えられる。



第906図 田端地区E区6号住居跡出土遺物(1)



第907図 田端地区E区6号住居跡出土遺物(2)

田端E区第7号住居跡（第908～910図、図版296・335）

Oライン・71km042m付近で検出した。確認面は第10層である。37号住居、5号土坑、1・2号溝と重複している。これらは37→7→5→1・2号の順に新しい。全形のプランを確認できた少ない例である。覆土は自然に堆積している。壁は高さ40cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、中央部がややくぼみ、堅く締っている。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝は南東隅を除き、ほぼ全周する。カマドは東辺中央に設置されていた。燃烧部が壁の内部にあるタイプである。燃烧部と煙道部との境には約10cmの段がある。右袖部には立てた状態で石が据えられたまま出土した。左袖部の前には長さ35cmの石が床面から出土した。貯蔵穴は南東隅の楕円形を呈するピットと考えられる。カマドに対向する西辺中央部で、住居長軸線に乗るピットが住居壁に半分掛かった状態で検出した。

遺物は住居中央部からの出土が多い。第910図1・7は中央床直上から、2は南西隅床面から、3はカマド左前床面から、4はカマド前床面から、5・8は中央南寄り床面から、6は中央西寄り床面から、9はカマド前中央床直上からそれぞれ出土した。ほかに、カマド内・カマド掘形・南辺中央壁際の覆土からそれぞれ1点計3点の滑石破片が出土している。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第908図 田端地区E区7号住居跡

田端E区第8号住居跡 (第911図)

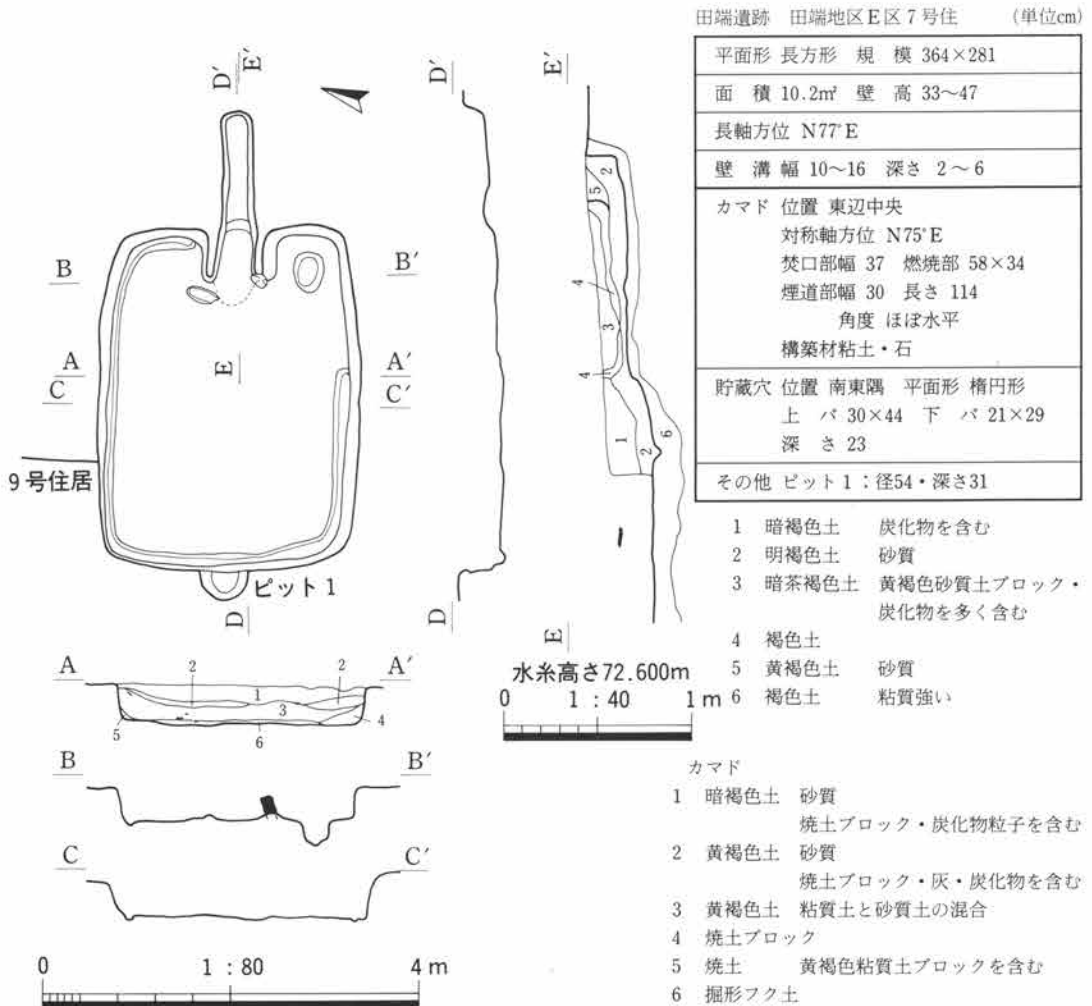
Oライン・71km037m付近で検出した。確認面は第10層である。2・7・37号住居と重複している。37号との関係は不明だが、7→8→2号住居の順に新しい。本住居はカマド燃焼部のみ検出し、東辺のラインは推定であり、詳細は不明である。

遺物は燃焼部底面から土器片が1片出土したが、図示しなかった。

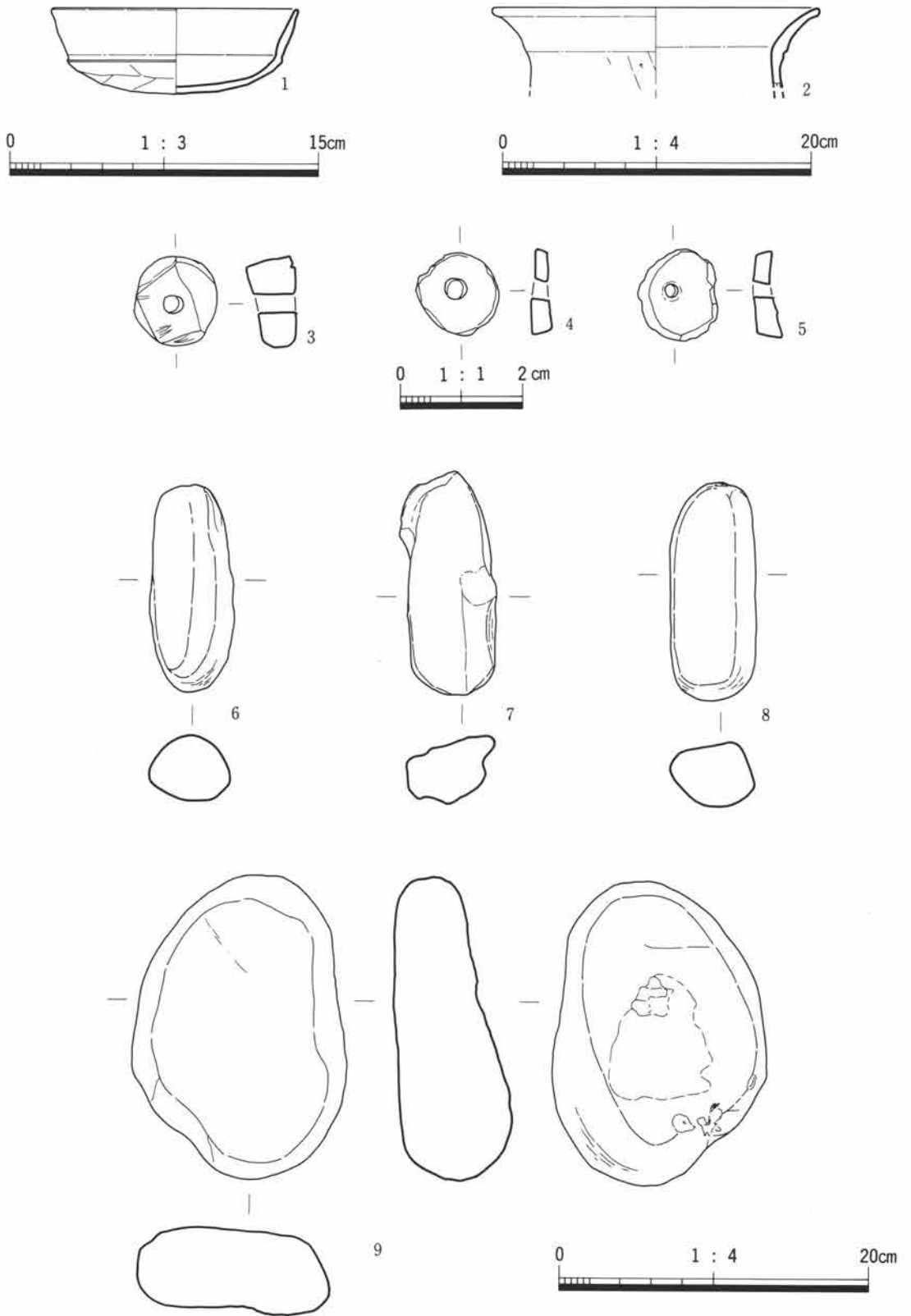
時期は古墳～奈良時代か。

田端E区第9号住居跡 (第912～918図、図版297・298・336・第23表)

Oライン・71km045m付近で検出した。確認面は第10層である。1・7号住居と重複しており、9→1→7号住居の順に新しい。南東隅は7号住居によって切られ、南西隅は調査区外にある。覆土は自然に堆積している。床面は3枚観察することができた。上の方から上位床面・中位床面・下位床面と呼ぶ。上位床面は確認面から23cmほどの位置にあり、これが最終の床面である。中位床面は上位床面の5cmほど下にあり、北辺では斜めに立ち上がり、東辺では80°前後で立ち上がる。下位床面は中位床面



第909図 田端地区E区7号住居跡



第910図 田端地区E区7号住居跡出土遺物

のさらに10cmほど下に位置し、確認面から深さ35cm前後に位置する。主柱穴とみられるピットは3本確認した。ピット1～3がそれで、計測値は表の通りである。ピット4はピット3の補助だろうか。壁溝・貯蔵穴は確認していない。

カマドは3カ所で検出した。当初3カ所にカマドをもつ1軒の住居と推定して調査を開始したが、土層を観察した結果、床面を3枚もっていたことがわかった。東辺北側をAカマド、東辺南側をBカマド、北辺をCカマドと呼ぶ。3カ所とも袖部等は遺存せず、煙道のみ検出した。Aカマドは煙道中央を7号土坑によって切られ、カマド前からほぼ完形に近い甕が出土した。Bカマドは住居壁に切られたような状態で検出した。Cカマドは壁直下にわずかの袖部が遺存しており、その内側は3～5cmほど盛り上がった平坦面であった。これらのことと土層観察から、北辺は上位床面または中位床面の住居の辺、東辺は下位床面のものと考えられる。本住居は最低2軒の住居が重複していたと推定できるが、調査の不便からそれらに所属するカマドを限定できなかった。掘形は住居壁からほぼ等距離の内側に掘り込みがみられた。

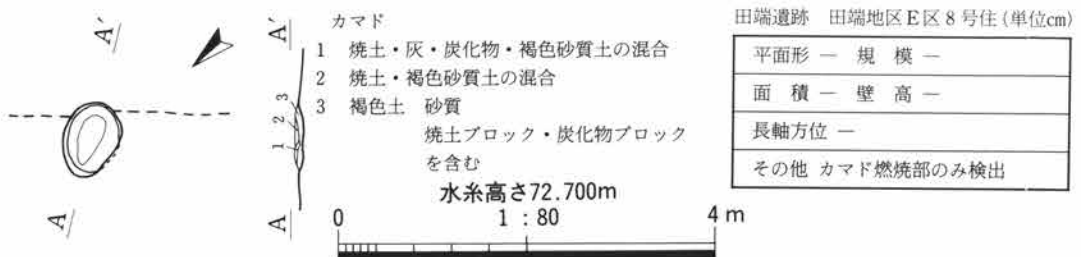
遺物はA・Bカマドの前、住居壁近くから出土している。また、北東隅の上位床面には炭化物・灰・焼土の混合が、50cm四方に分布していた。滑石製品、加工品は主として上位床面から出土している。第916図2・4はAカマド左袖から、3は北西隅の床面から、5はBカマド前右脇床面から、6はAカマド右脇の覆土からそれぞれ出土した。1は覆土出土の参考品である。

第917～918図は本住居内出土の滑石製の遺物である。7～16は白玉、17は曲玉形を呈する。18は紡錘車形の加工品、19～24は曲玉形の加工品である。25は原石とみられ、26は加工品で、曲玉形製品の素材となるものであろう。27～31は破片で、これを加工すれば白玉とすることもできる。このほか図示しなかったが、2～3cm大の剥片が5個体、1cm前後の小片が8個体出土している。これらは住居中央部北西寄り、A～Bカマド付近、北東部付近から出土している。

以上、原石とみられるものの存在、剥片や小片が出土し、加工途中の遺物も出土していることから、本住居跡は工房跡の可能性が高い。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

なお、本住居の上層に番号なしの住居を確認していたが、豪雨による水害のため流されてしまった。この住居は北にカマドをもち、北東隅を確認していたものである。



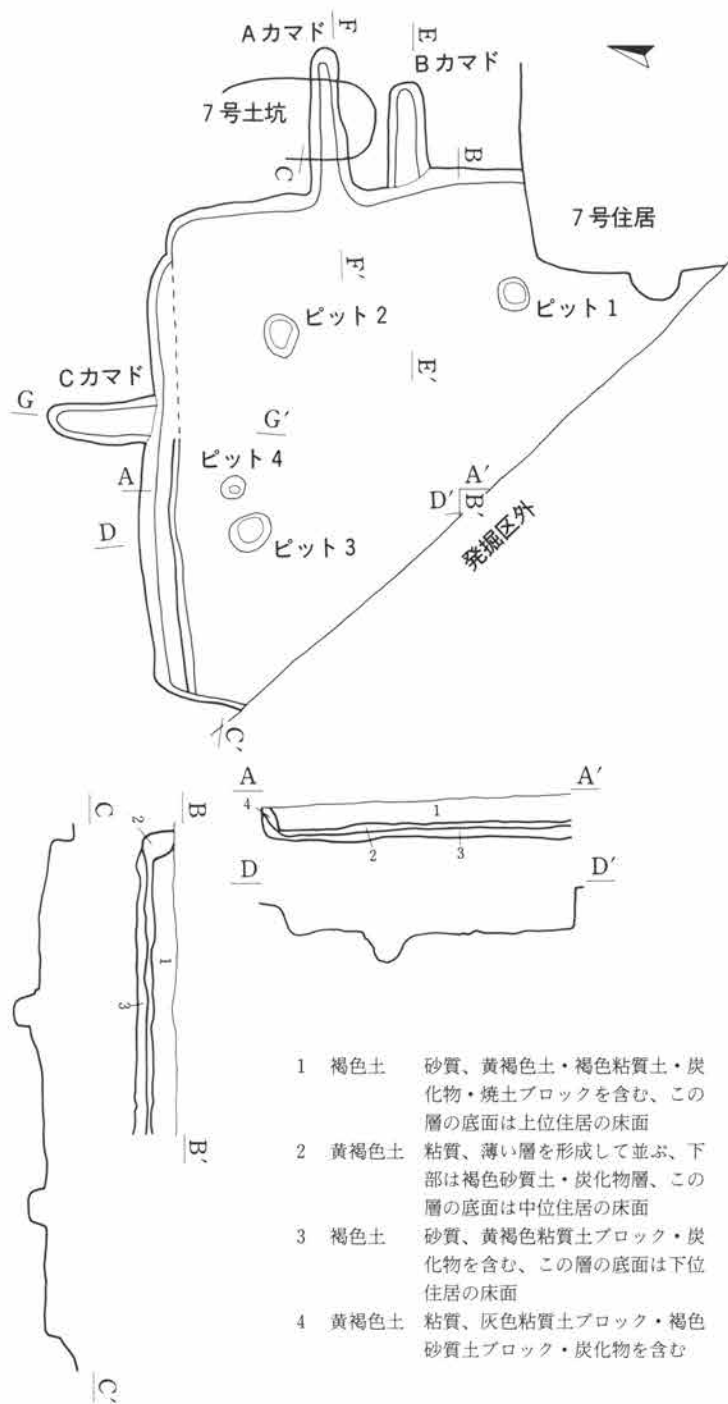
第911図 田端地区E区8号住居跡



第912図 田端地区E区9号住居跡



第913図 田端地区E区9号住居跡

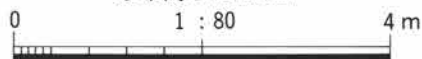


- 1 褐色土 砂質、黄褐色土・褐色粘質土・炭化物・焼土ブロックを含む、この層の底面は上位住居の床面
- 2 黄褐色土 粘質、薄い層を形成して並ぶ、下部は褐色砂質土・炭化物層、この層の底面は中位住居の床面
- 3 褐色土 砂質、黄褐色粘質土ブロック・炭化物を含む、この層の底面は下位住居の床面
- 4 黄褐色土 粘質、灰色粘質土ブロック・褐色砂質土ブロック・炭化物を含む

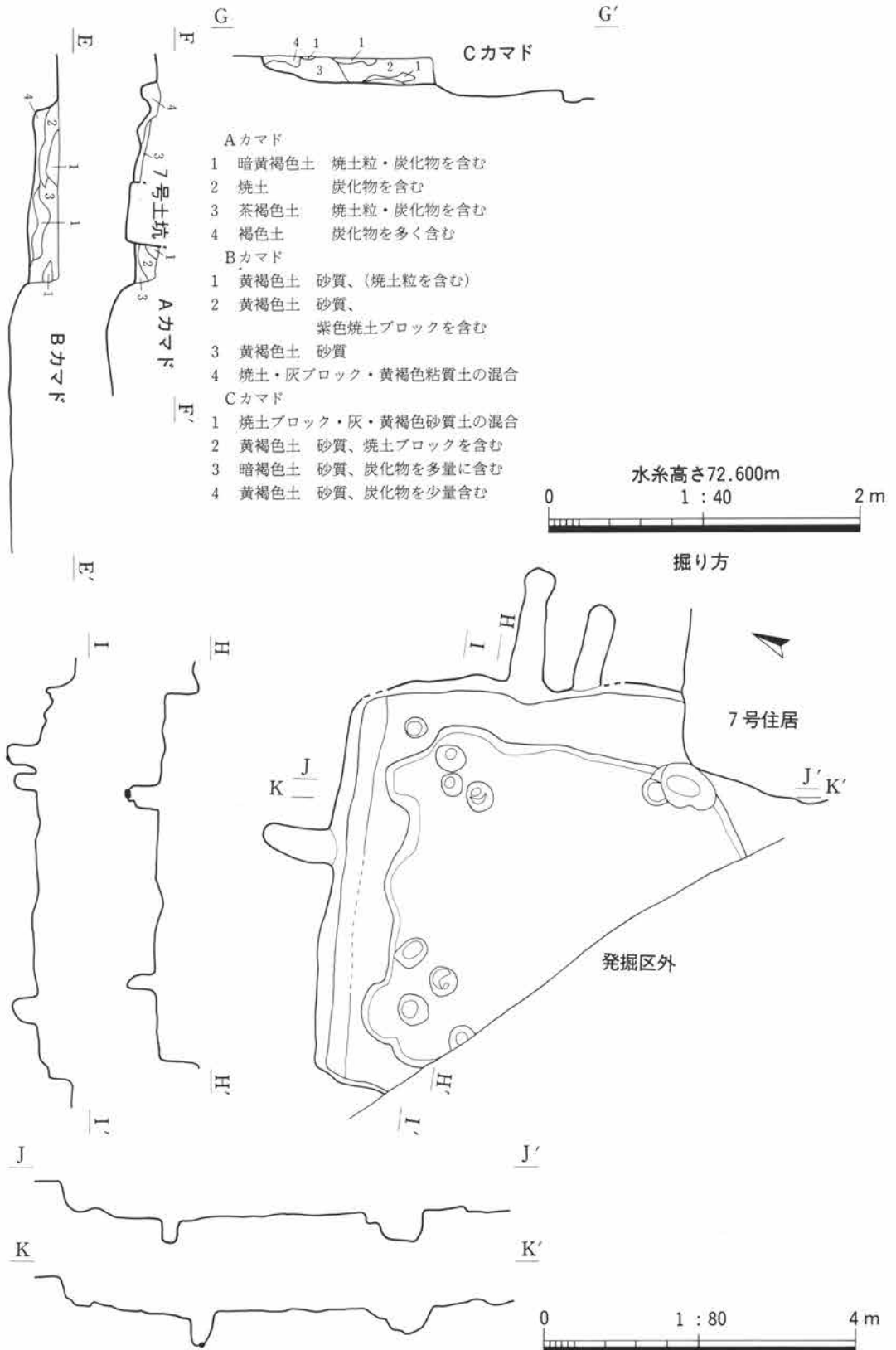
田端遺跡 田端地区E区9号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模	524×			
面積	— 壁高 23~32			
長軸方位	東西方向か			
主柱穴	1	2	3	4
上ノ径	33	46×37	48×37	
下ノ径	24	31×22	29×24	
深さ	20	19	31	
主柱穴間の距離 (中心)	1-2 257		2-3 211	
カマド 位置	東辺北側			
A	対称軸方位 N73°E 煙道部幅 29~44 長さ 164 角度 8° 構築材 粘土			
カマド 位置	東辺南側			
B	対称軸方位 N77°E 煙道部幅 35~43 長さ 107 角度 4° 構築材 粘土			
カマド 位置	北辺中央			
C	対称軸方位 N168°E 煙道部幅 35~49 長さ 111 角度 ほぼ水平 構築材 粘土			
その他	ピット4 : 径26・深さ13			

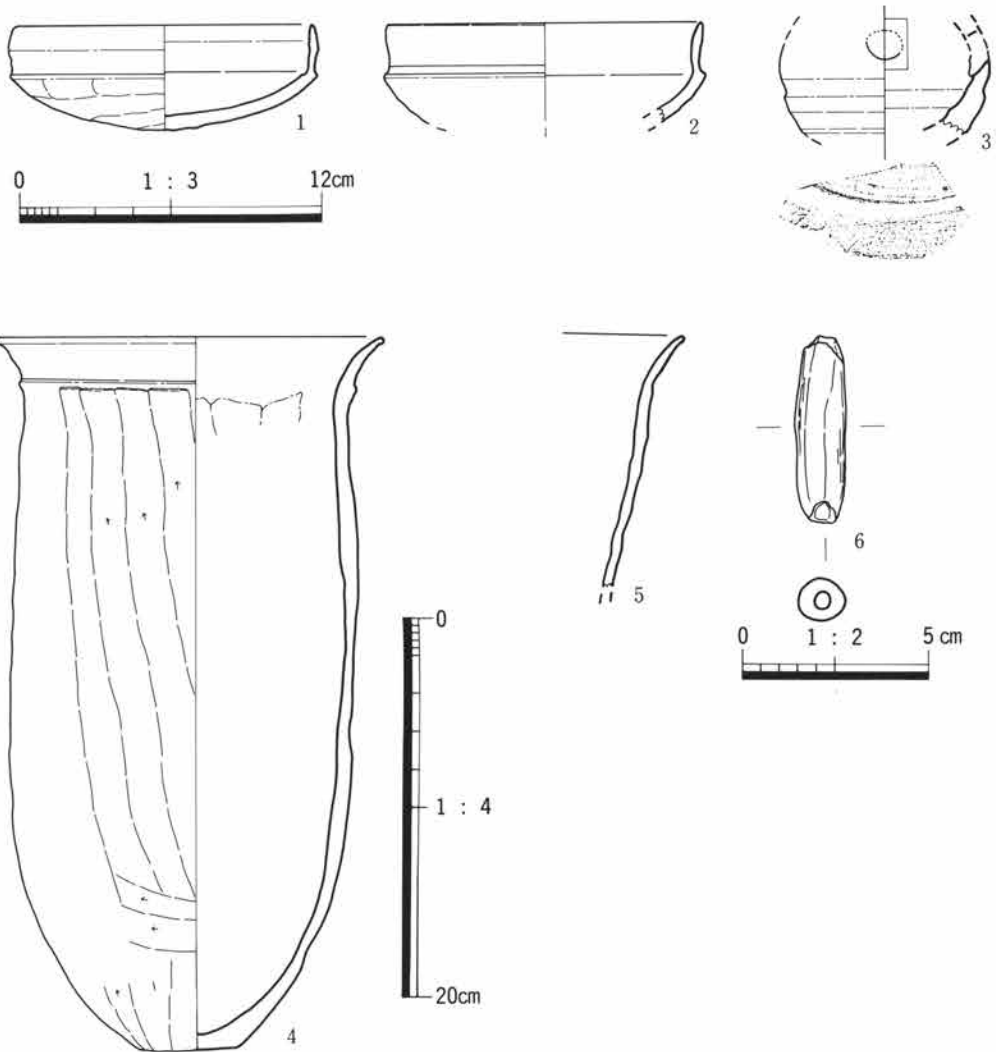
水糸高さ72.600m



第914図 田端地区E区9号住居跡 (1)



第915図 田端地区E区9号住居跡(2)

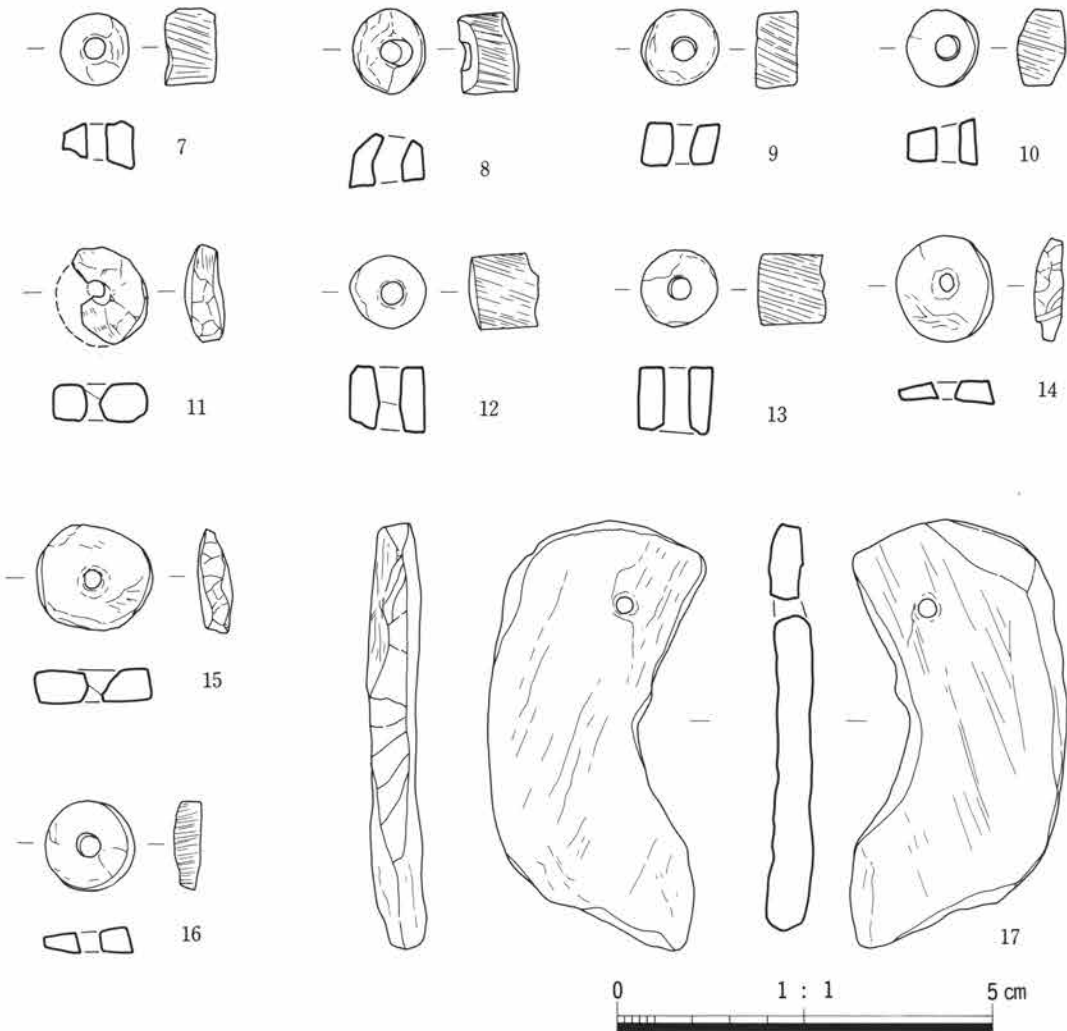


第916図 田端地区E区9号住居跡出土遺物(1)

第23表 田端地区E区9号住居跡出土遺物観察表 滑石品

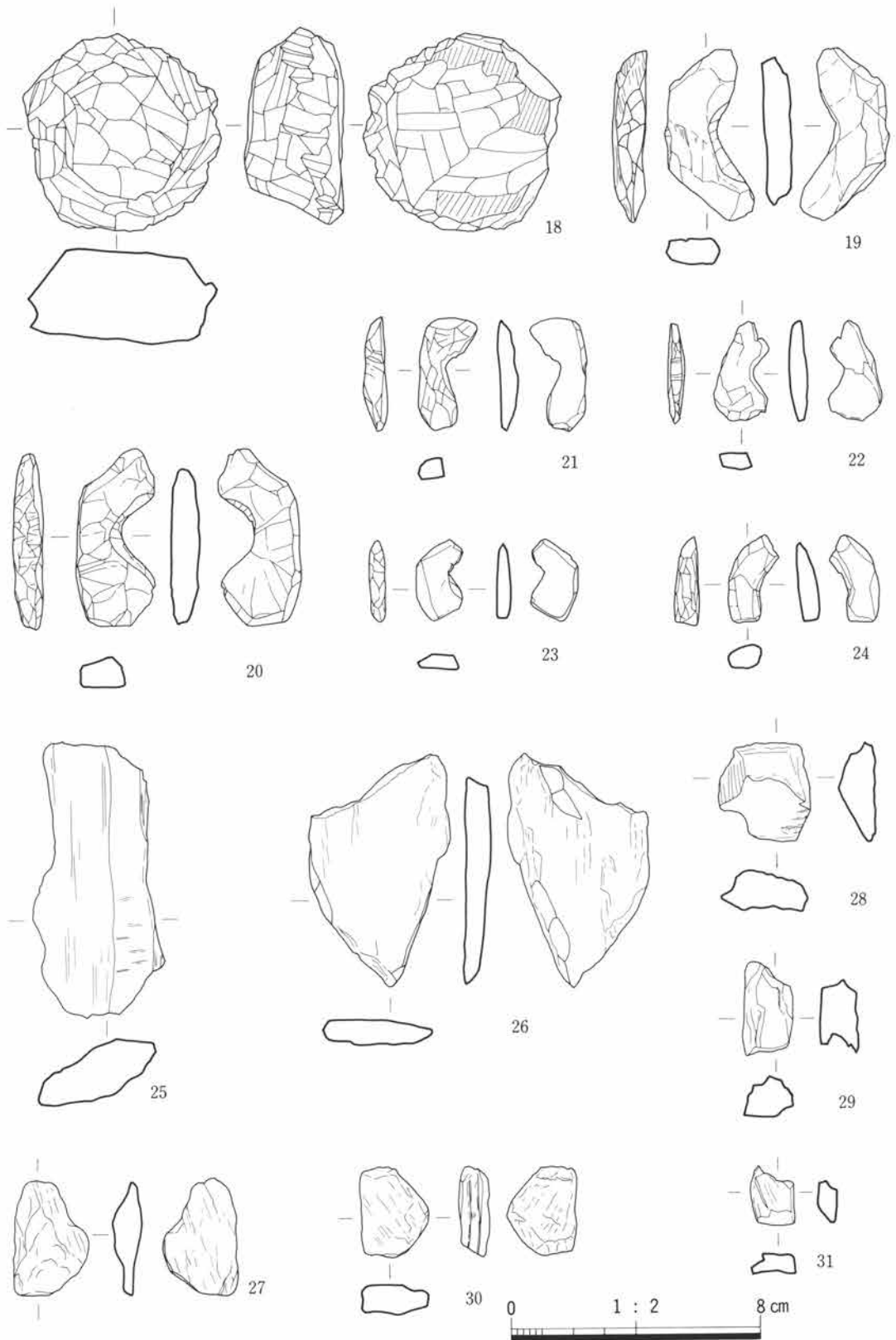
単位mm、g () 推定

番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	色 調	備 考
7	10.0	3.0	6.5	1.0	黄 灰 色	白玉：軟質、側面擦り加工、完形。④TAYE9-41
8	9.4×10.7	3.0×4.0	6.6	1.2	灰 色	白玉：軟質、側面擦り加工、完形。④TAYE9-42
9	9.7	3.3	5.8	1.0	黄灰色～灰色	白玉：軟質、側面擦り加工、完形。④TAYE9-44
10	9.7	3.0	6.5	0.8	黄 灰 色	白玉：軟質、側面擦り加工、完形。④TAYE9-47
11	12.8	2.3	5.2	0.7	黄 灰 色	白玉：軟質、側面擦り加工、½欠損。④TAYE9-33
12	9.9	3.3	8.9	1.4	灰 色	白玉：軟質、側面擦り加工、一面平滑、完形。 ④TAYE9-45



第917図 田端E区9号住居跡出土遺物(2)

番号	外径	孔径	厚さ	重さ	色調	備考
13	9.9	3.5	9.4	1.6	灰色	白玉：軟質、側面擦り加工、45と酷似、完形。 ④TAYE9-50
14	12.4×13.5	1.8~4.0	3.4	0.8	青灰色	白玉：やや硬質、側面擦り加工、裏面は剝離のまま、完形。④TAYE9-48
15	13.5×15.2	4.2	4.7	1.6	黄灰色	白玉：軟質、側面擦り加工、完形。④TAYE9-49
16	11.5	3.2	3.4	0.6	灰色	白玉：軟質、側面擦り加工、薄い、完形、裏面は剝離のまま。④TAYE9-43
17	51.0×22.9	2.6	5.7	13.6	灰色	勾玉：軟質、側面・平面削り加工、完形、緑色斑点有り。④TAYE9-46
18	63.1×65.0	—	30.4	173.8	緑灰色~青灰色	紡錘車形 やや硬質、削り加工。④TAYE9-37



第918図 田端地区E区9号住居跡出土遺物(3)

第7節 古墳時代の住居跡

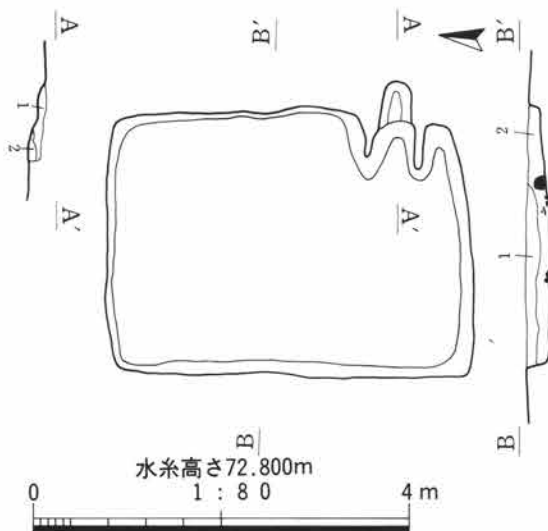
番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	色 調	備 考
19	54.4×17.5	—	9.3	16.5	灰 色	勾玉形：やや硬質、穿孔なし、側面・平面削り加工、緑色斑点あり。④TAYE9-27
20	56.1×24.7	—	9.4	17.7	灰 色	勾玉形：やや硬質、側面・平面削り加工、緑色系。④TAYE9-31
21	36.0×14.3	—	6.6	4.8	灰 色	勾玉形：軟質、穿孔なし、削り加工④TAYE9-38
22	31.6×17.2	—	5.1	3.1	灰 色	勾玉形：軟質、穿孔なし、削り加工、緑色斑点あり。④TAYE9-39
23	25.8×14.0	—	5.8	2.6	灰 色	勾玉形：やや硬質、穿孔なし、側面・平面削り加工、緑色斑点有り。④TAYE9-28
24	28.7×10.0	—	7.5	3.6	灰 色	勾玉形：軟質、穿孔なし、削り加工、緑色系、緑色斑点あり。④TAYE9-30
25	87.0×41.0	—	19.0	82.1	黄 灰 色	一次素材？原石？軟質、平滑面あり。④TAYE9-29
26	71.5×45.5	—	8.1	33.7	黄 灰 色	一次素材？軟質、緑色小斑点あり。④TAYE9-13
27	36.0×24.0	—	9.0	8.0	灰 色	3 cm大の剥片軟質。④ TAYE9-14
28	31.0×29.0	—	11.5	13.0	灰 色	3 cm大の剥片、やや硬質、平滑面あり。④TAYE9-26
29	30.0×16.0	—	11.0	7.1	灰 色	2 cm大の剥片、軟質、緑色斑点あり。④TAYE9-18
30	28.0×21.0	—	9.0	8.8	灰 色	2 cm大の剥片、軟質、やや緑色系。④TAYE9-16
31	21.0×14.0	—	6.5	2.1	灰 色	1 cm大の剥片、やや硬質、緑色系。④TAYE9-22

田端E区第10号住居跡（第919～921図、図版298・337）

Xライン・71km050m付近で検出した。確認面は第10層である。22・23号住居と重複しており、本住居は最も新しい。各隅とも確認し、全体に長方形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cm前後が遺存していた。床面は平坦で、堅く締まっていた。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。ほとんど南東隅に近いが、煙道の方角は南辺の方角に近い。袖部は破壊されて基部のみ遺存していた。燃焼部が住居内部にあり、煙道が壁外に延びるタイプである。



第919図 田端地区E区10号住居跡



第920図 田端地区E区10号住居跡

田端遺跡 田端地区E区10号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	386×273
面積	10.5㎡	壁高	13～22
長軸方位	N176°E		
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N86°E 焚口部幅 — 燃焼部 30×45 煙道部幅 32 長さ 40 角度 —		

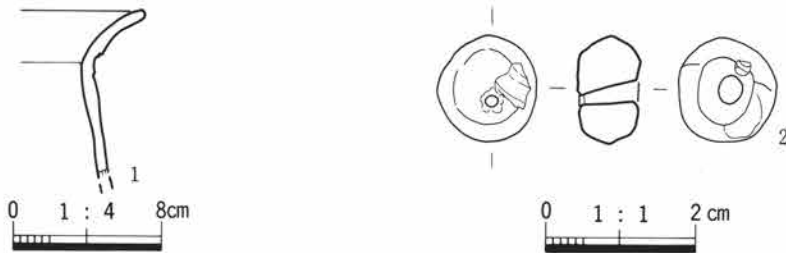
- 1 灰褐色土 炭化物を少し含む
- 2 灰褐色土 黄褐色土ブロック・灰・炭化物を含む
カマド
- 1 暗褐色土 砂質
焼土粒・炭化物ブロックを含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物粒を多く含む

遺物は住居中央部から拳大～人頭大の石がやや多く出土し、壁際からの出土は少ない。南辺中央の壁から50cmほどの床面に、径約30cmの範囲で灰が分布していた。第921図1はカマド内から、2のガラス丸玉は中央北寄りの床面からそれぞれ出土した。

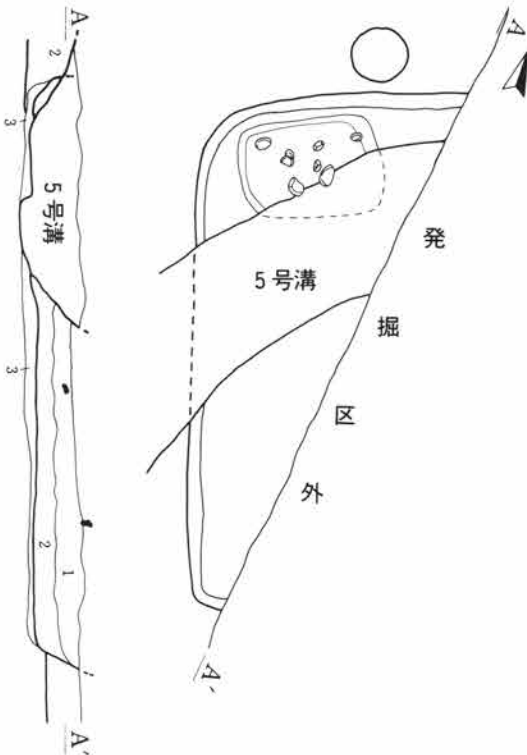
時期は6世紀後半～7世紀頃とみられる。

田端E区第11号住居跡（第922図、図版299）

V-Wライン・71km045m付近で検出した。確認面は第10層である。5号溝と重複しており、本住居の方が古い。東半部は調査区外にあり、住居中央を5号溝によって切られているため、北西隅・南西隅の一部を検出したにとどまる。覆土は自然に堆積している。壁は高さ40～50cmが遺存しており、南側



第921図 田端地区E区10号住居跡出土遺物



田端遺跡 田端地区E区11号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	8～17
長軸方位	—		
貯蔵穴	位置	北西隅	平面形 長方形
	上	バ	150×70以上
	下	バ	128×67以上
	深さ	14	

- 1 暗褐色土 砂質
炭化物粒子を少量含む
- 2 暗褐色土 明褐色砂質土ブロック・粘質土ブロック
を多く含む
- 3 灰褐色土 砂質土
褐色土ブロック・炭化物を含む
床下の土

第922図 田端地区E区11号住居跡

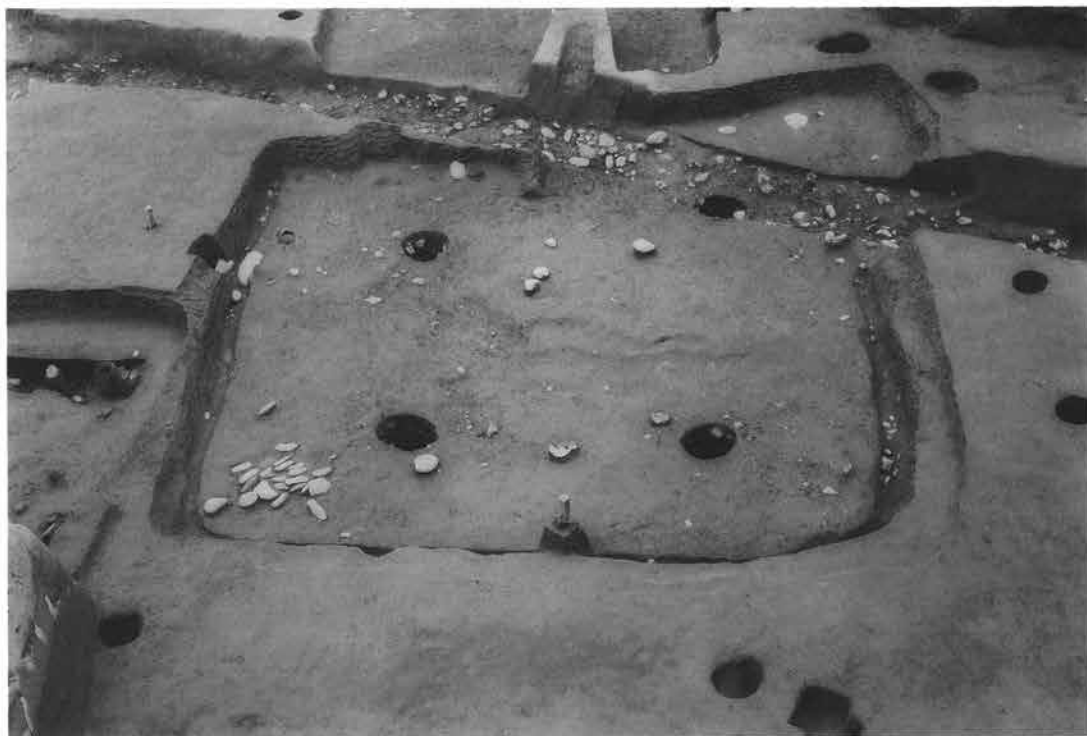
の壁は60°ほどで立ち上がる。床面は平坦で、南側の床面は堅く締まっている。支柱穴は検出していない。壁溝は北辺の一部に認められたが、西辺では検出していない。カマドは調査区外と考えられる。貯蔵穴は北西隅の掘り込みが考えられる。内部から拳大～人頭大の石が出土している。なお、南側の床面に炭化物が分布していた。

遺物は少なく小片のみで、図示できるものがない。

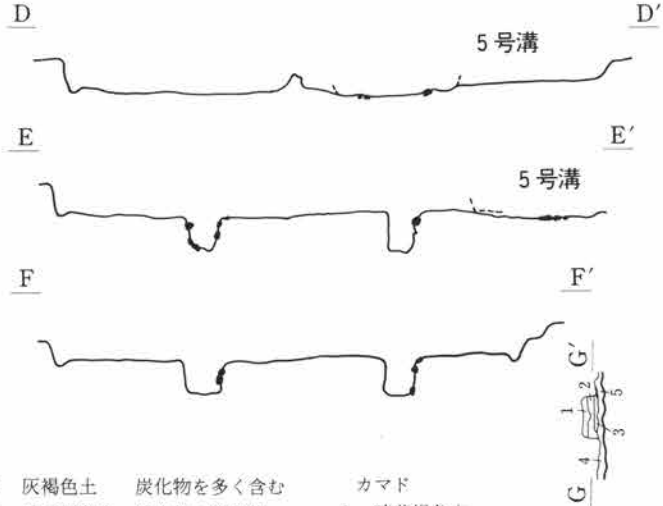
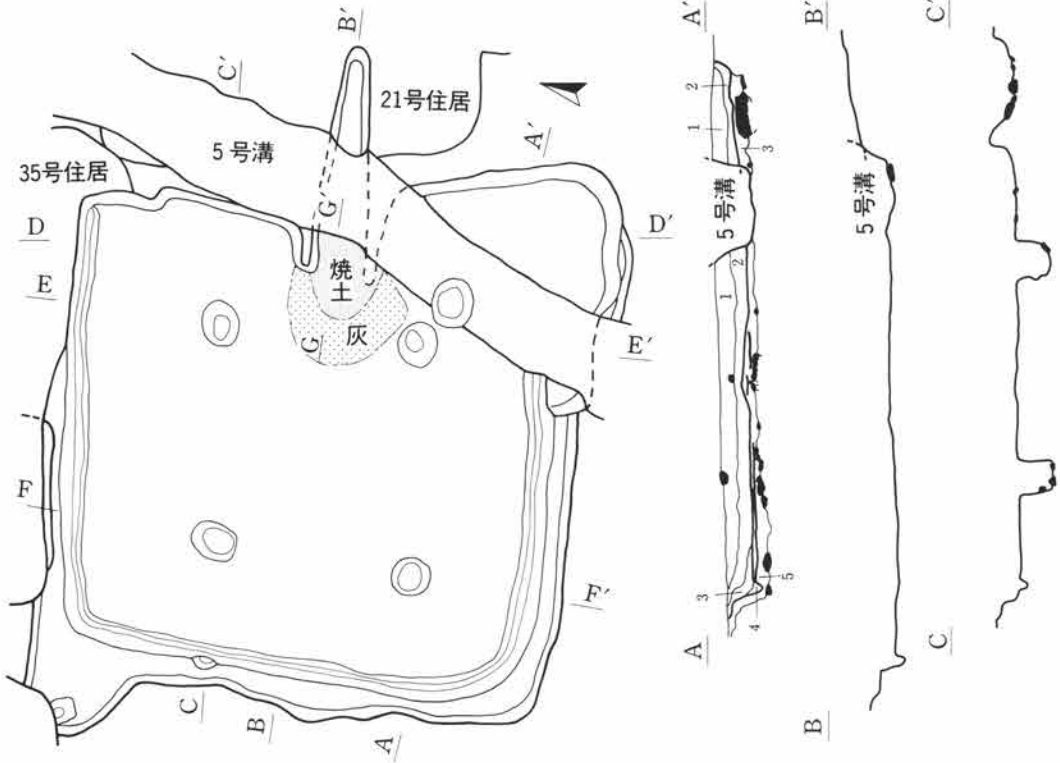
時期は検出層位から古墳時代と考えられる。

田端E区第12号住居跡（第923～928図、図版299・337・338・339・第24表）

P-Qライン・71km033m付近で検出した。確認面は第10層である。21・33・35号住居、5号溝と重複し、32号住居と接している。これらは21→12号、35→12・32号、33→12号の順に新しく、5号溝は最も新しい。本住居のプランは南東隅に200cm四方の方形を呈する張り出し部、北西隅に円形を呈する突出部をもつ。方形の張り出し部は深さ25cm前後あり、住居中央部よりもやや浅い。円形の突出部は深さ15cm前後あり、住居内部の深さの約半分である。東辺中央部から南辺東寄りにかけて5号溝が横切っており、カマド・貯蔵穴の大半は破壊されている。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良好で、30cmほどの高さがあり、75°前後で斜めに立ち上がる。床面は平坦で、カマド前～中央部の床面は周辺よりもやや高く、堅く締まっている。支柱穴とみられるピットはピット1～4の4本で、下位の礫層を掘り抜いている。それぞれの計測値は表の通りである。壁溝は東辺を除きほぼ全周する



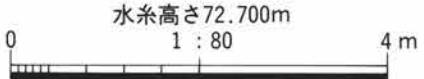
第923図 田端地区E区12号住居跡



- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰褐色土 炭化物を多く含む | カマド |
| 2 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰を含む | 1 暗黄褐色土 |
| 3 明褐色土 | 2 灰褐色土 |
| 4 暗褐色土 | 3 焼土・灰の混合 |
| 5 青灰色土・褐色土・黄褐色土・焼土・灰の混合、床下の土 | 4 青灰色土・黄褐色土・灰層の互層
床面を形成する土層 |
| | 5 黄褐色土・青灰色土・炭化物のブロック状混合 |

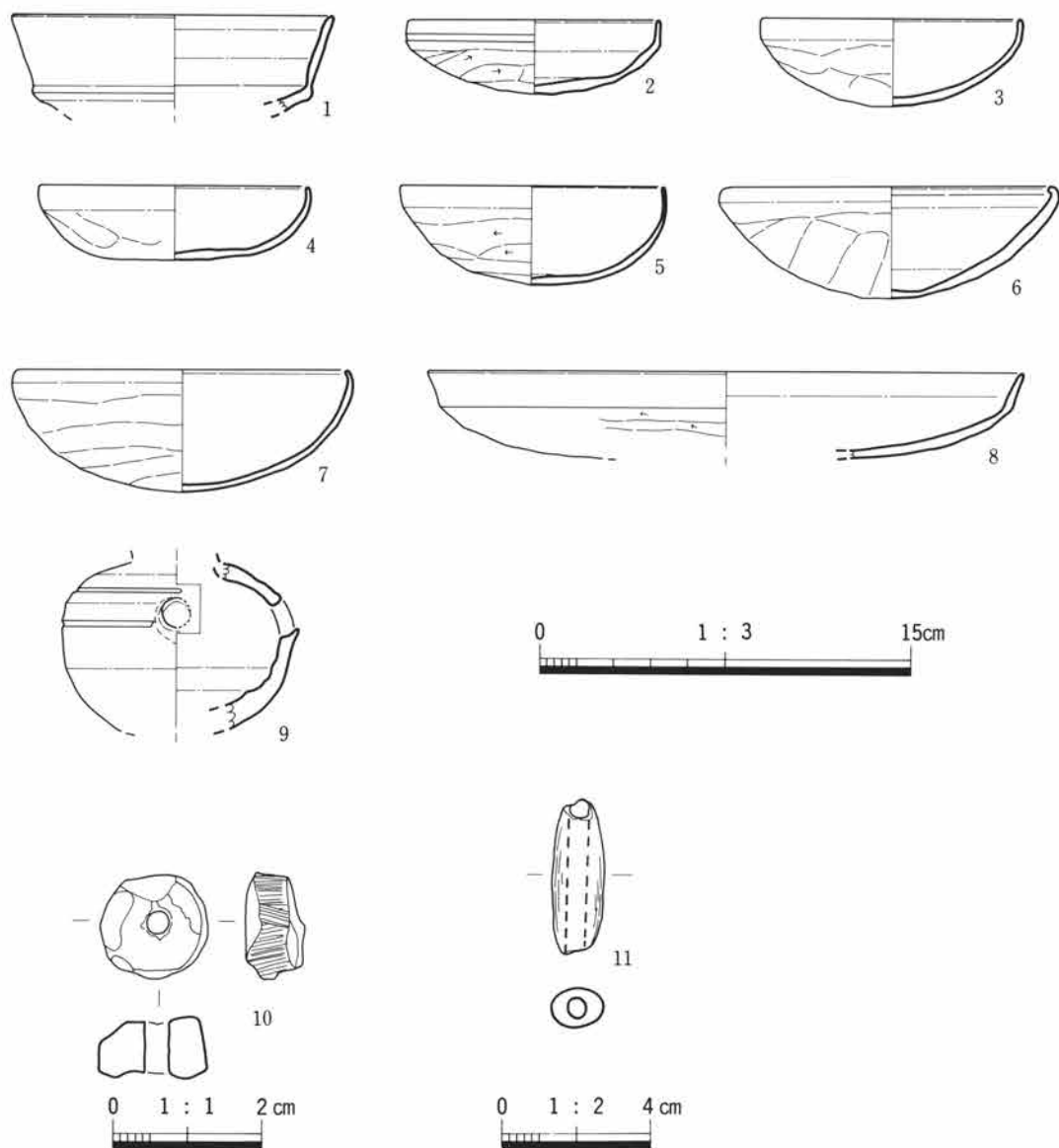
田端遺跡 田端地区E区12号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模 500×569				
面積 (28.5) m ² 壁高 26~33				
長軸方位 N175°E				
壁溝幅 20~30深さ 4~12				
主柱穴	1	2	3	4
上バ径	40×47	49×38	40	47×42
下バ径	16×25	34×26	30×24	23×18
深さ	36	34	36	45
主柱穴間の距離 (心心)				
1-2	227	2-3	210	
3-4	251	4-1	210	
カマド 位置 東辺 対称軸方位 N81°E 焚口部幅 燃焼部 (85×53) 煙道部幅 40 長さ 203 角度 10° 構築材粘土				
貯蔵穴 位置 南東部 平面形 ー				
その他 ピット5 : 径43×53・深さ22・貯蔵穴の上位部欠失				



第924図 田端地区E区12号住居跡

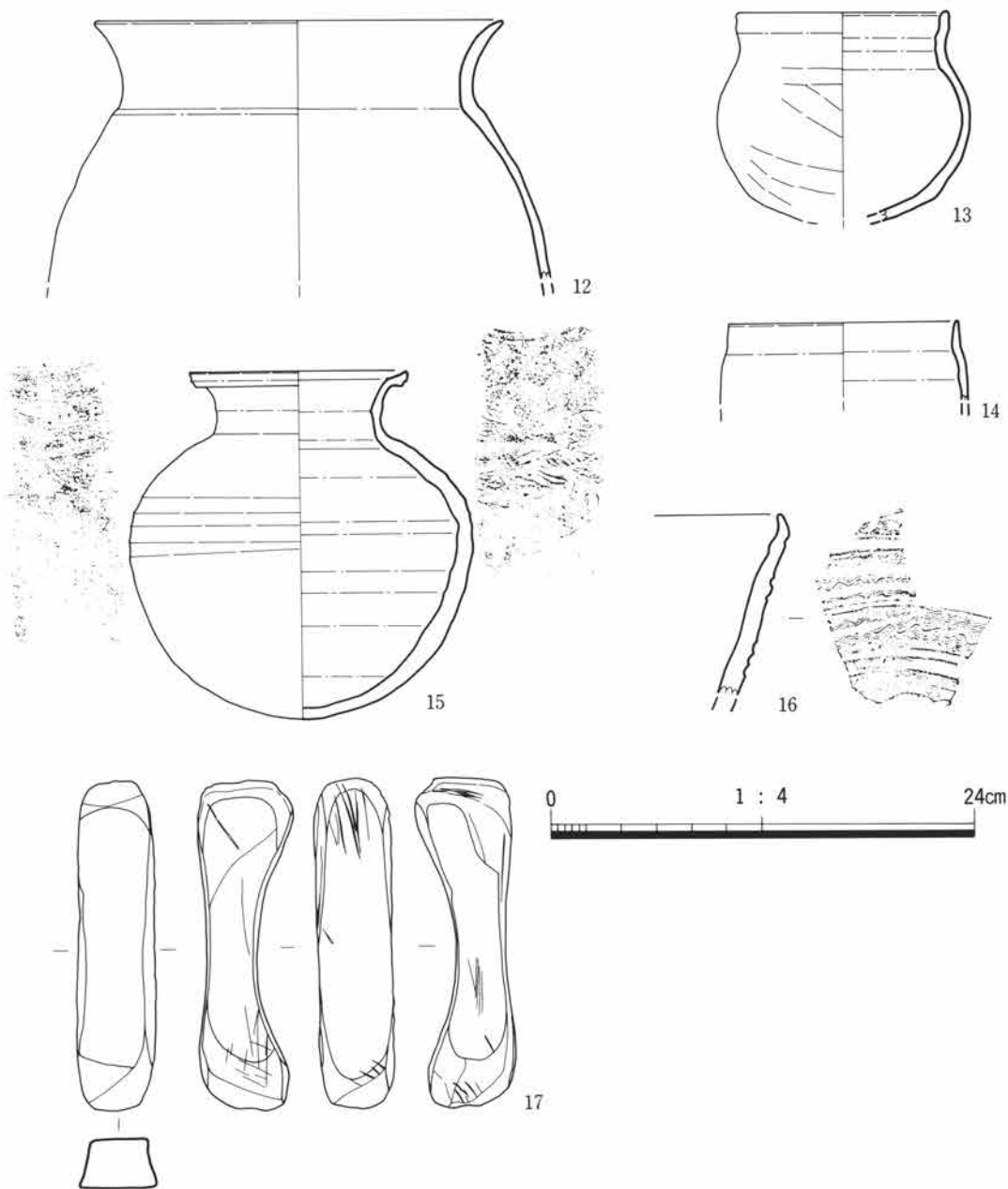
が、南東部の張り出し部は5号溝で切られているため、不明である。壁溝と壁との間には10~20cmほどの平坦部がある。カマドは東辺で検出した。燃烧部が壁の内側に設定されるタイプで、煙道と燃烧部との境は5号溝によって破壊されている。また、右袖部も同様である。燃烧部の周囲は幅20~50cmの帯状に、灰・炭化物が分布していた。貯蔵穴はカマド右脇のピット4の東側で検出したが、上層を5号溝によって破壊されているため、下部のみ遺存していた。ピット4との距離を考慮すると、貯蔵穴上端は一回り大きくなると考えられる。



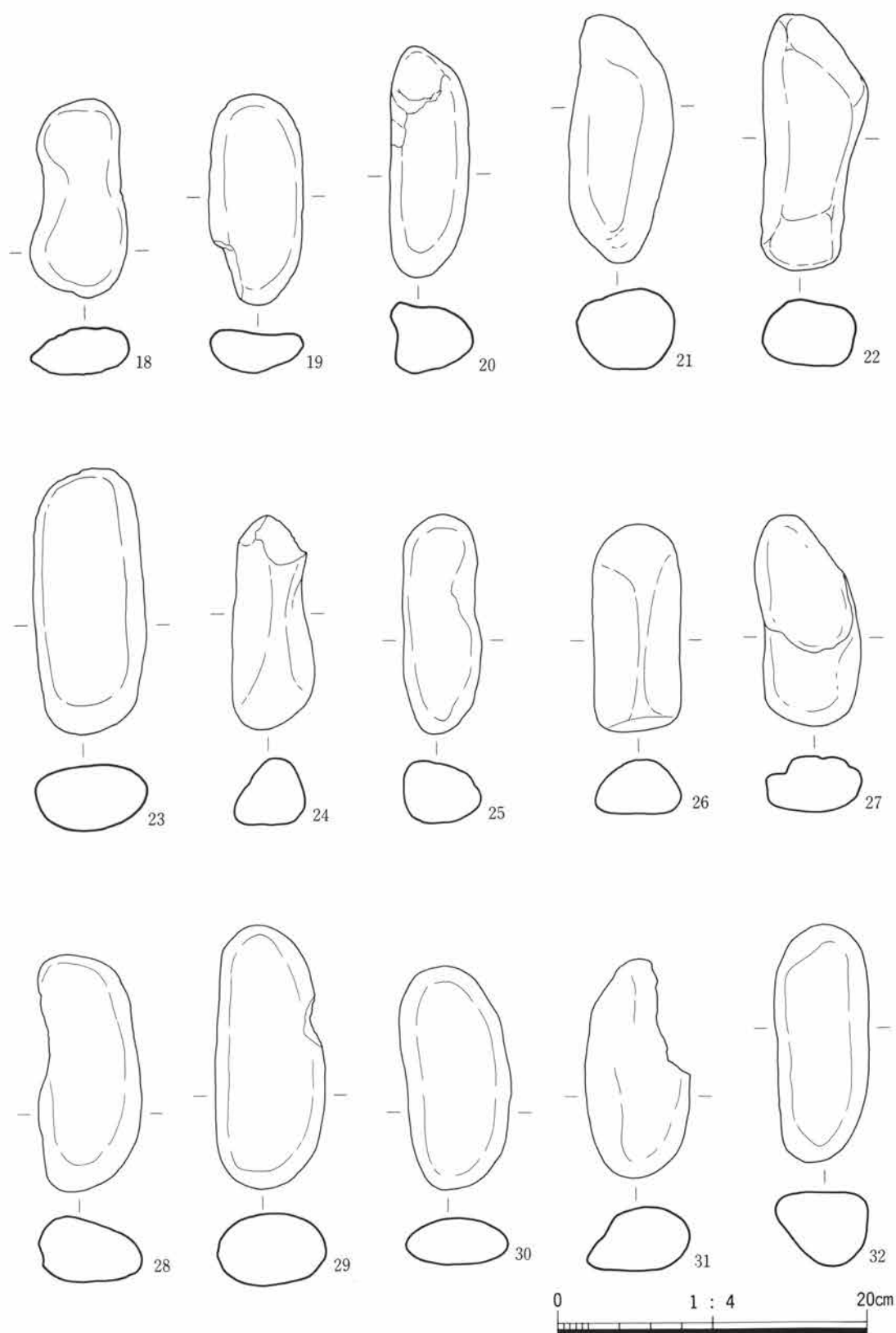
第925図 田端地区E区12号住居跡出土遺物(1)

遺物は床面全体にわたって出土した。北西隅の床面からは長さ15~20cm・径5cm前後の石が集中して出土している。第925図2・4は貯蔵穴内から、10はカマド前左脇床面から、11はカマド内から、15は北東隅壁際床面・中央西辺寄り床面からそれぞれ出土した。17~39は北西隅で集中して出土した石である。このほかの遺物は覆土出土の参考品である。ほかに図示しなかったが、滑石の剥片が2個体出土している。

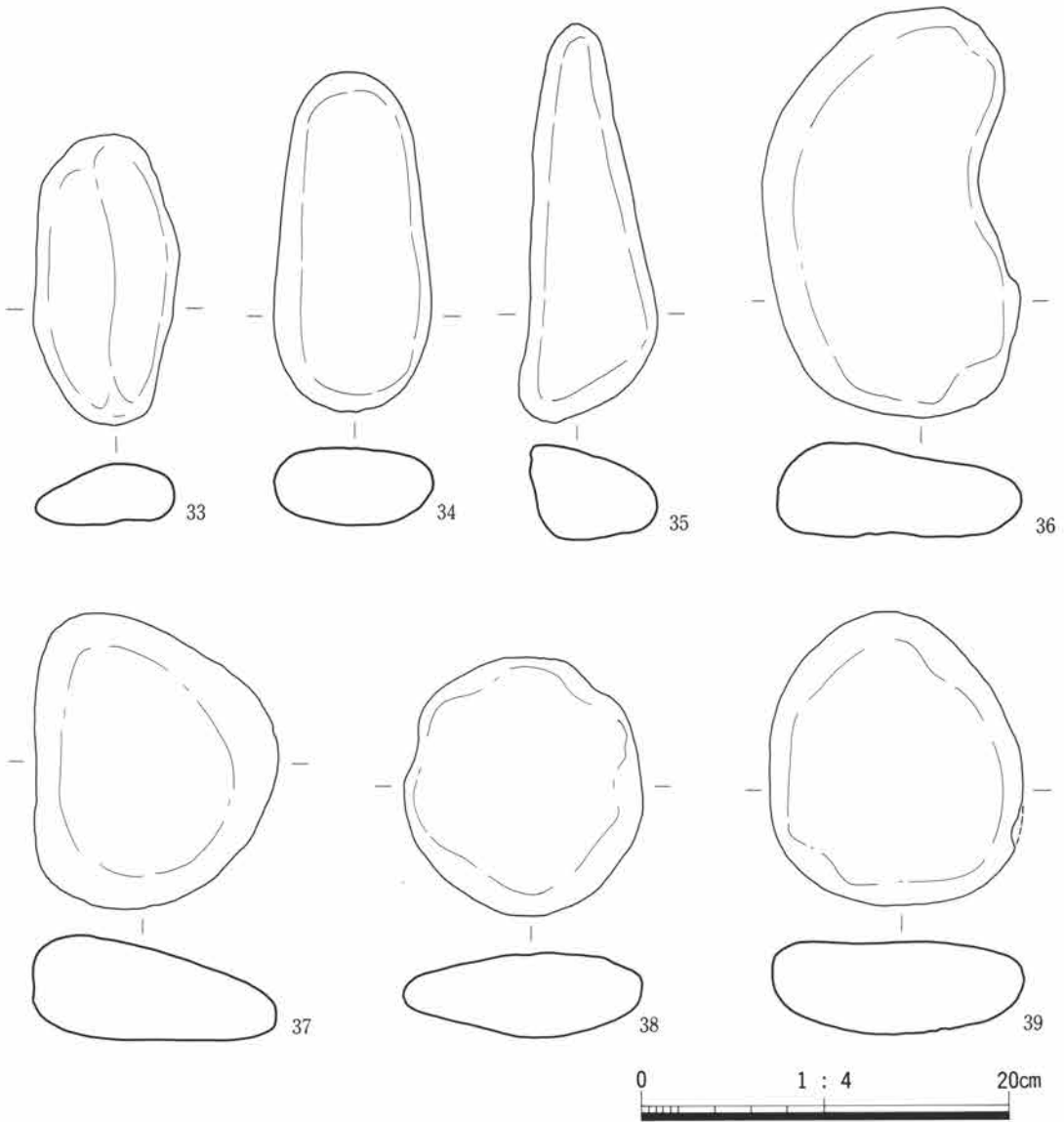
時期は7世紀代とみられる。



第926図 田端地区E区12号住居跡出土遺物(2)



第927図 田端地区E区12号住居跡出土遺物(3)



第928図 田端地区E区12号住居跡出土遺物(4)

第24表 田端地区E区12号住居跡出土遺物観察表 石類

単位cm、g

番号	種類	タテ×ヨコ	厚さ	重さ	備考
17	砥石	18.5×4.3	2.8~5.4	600	四面使用。一部に金属による痕あり。完形。石質流紋岩(砥沢?)。④TAYE12-32
18	石	12.8×6.3	3.0	334	両側面が凹む偏平な石。石質黒色片岩。④TAYE12-37
19	〃	13.6×6.2	2.5	339	一端割れ。偏平な石。両端に擦れあり。使用痕か?石質黒色片岩。④TAYE12-38
20	〃	14.8×5.4	4.3	596	石質緑色片岩。④TAYE12-39

第V章 遺構と遺物

番号	種類	タテ×ヨコ	厚さ	重さ	備考
21	石	16.0×6.3	5.0	785	両端に擦れあり。棒状。石質雲母石英片岩。④TAYE12-40
22	〃	16.5×6.9	4.2	704	横断面略長方形。表面摩滅。石質粗粒安山岩。④TAYE12-41
23	〃	17.1×7.2	4.2	825	横断面楕円形。石質粗粒安山岩。④TAYE12-42
24	〃	14.0×5.5	4.2	448	一端割れ。両端に擦れあり。石質ひん岩。④TAYE12-43
25	〃	15.1×5.0	4.0	461	横断面略三角形。両端に擦れあり。石質ひん岩。④TAYE12-44
26	〃	13.2×5.9	3.5	449	横断面略三角形。一端に擦れあり。石質変質安山岩。④TAYE12-45
27	〃	13.6×6.2	3.6	461	偏平な石。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE12-46
28	〃	15.5×6.7	4.2	626	長側面割れて凹む。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE12-47
29	〃	17.0×7.1	4.6	785	長側面にえぐりあり。両端に擦れあり。横断面楕円形。石質粗粒安山岩。④TAYE12-48
30	〃	14.4×6.8	2.9	431	偏平な石。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE12-49
31	〃	14.1×6.8	4.1	476	長側面割れ。両端に擦れあり。石質変質安山岩。④TAYE12-50
32	〃	15.3×6.0	4.6	659	横断面略三角形。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE12-51
33	〃	15.7×7.8	3.1	565	偏平な石。両端に擦れあり。長側面割れ。石質粗粒安山岩。④TAYE12-52
34	〃	18.3×8.6	4.1	1068	やや偏平な石。両端に擦れあり。石質流紋岩?④TAYE12-53
35	〃	21.5×7.0	5.0	1307	横断面台形。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE12-54
36	不明	22.1×11.7	5.1	2300	偏平な石。勾玉状を呈する。表面平滑。石質変質安山岩。④TAYE12-35
37	〃	16.1×13.3	5.5	1577	偏平な石。側面に小孔あり。使用痕か?石質粗粒安山岩。④TAYE12-33
38	〃	14.0×13.0	4.5	1162	偏平な石。中央がやや厚い。側面に古い割れ口あり。表面平滑。石質粗粒安山岩。④TAYE12-34
39	〃	15.8×13.6	5.0	1828	偏平な石。中央がやや厚い。表面平滑。石質粗粒安山岩。④TAYE12-36

田端E区第13号住居跡（第929・931図、図版300）

Rライン・71km032m付近で検出した。確認面は第10層である。北西隅は30号住居とわずかに重複し、本住居の方が古い。東半分は調査区外にあり、北西隅・南西隅を検出した。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、10cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺で検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、煙道とみられる部分が30cmほど遺存していた。袖部は確認できなかった。

遺物は住居中央部からいくつか出土しているが、すべて小片であり、図示できるものがない。北辺寄りの床面からは炭化物が集中して出土している。

時期は検出層位から、古墳時代とみられる。

田端E区第14号住居跡（第930・932～934図、図版300・339・第25表）

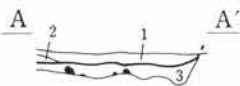
Tライン・71km037m付近で検出した。確認面は第10層である。3号集石と重複しており、本住居の方が古い。本住居は北西隅と西辺に設置されたカマドの煙道を検出したのみで、東側の大半は調査区外にある。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。北側の調査区壁での立ち上がりは、杭位置保存のため確認できなかった。また、南側の立ち上がりはカマド袖部がかかっていたが、上層から55ピットが掘り込まれており、確認できなかった。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは西辺に煙道が延びていることを確認したが、燃烧部は立ち上がりを検出したのみである。煙道中央部は上層から掘り込まれた6号土坑に切られている。



第929図 田端地区E区13号住居跡



第930図 田端地区E区14号住居跡



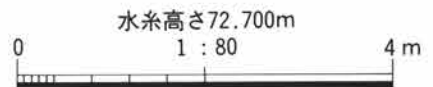
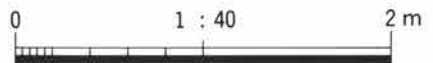
- 1 褐色土 砂質
焼土粒・炭化物粒を含む
- 2 褐色土 砂質
炭化物粒を含む
- 3 褐色土 粘質
床下の土

田端遺跡 田端地区E区13号住 (単位cm)

平面形	— 規模 249×
面積	— 壁高 9~19
長軸方位	—
カマド	位置 南西隅 対称軸方位 N161°E 焚口部幅 — 燃焼部 58×40 煙道部幅 32 長さ 28

カマド

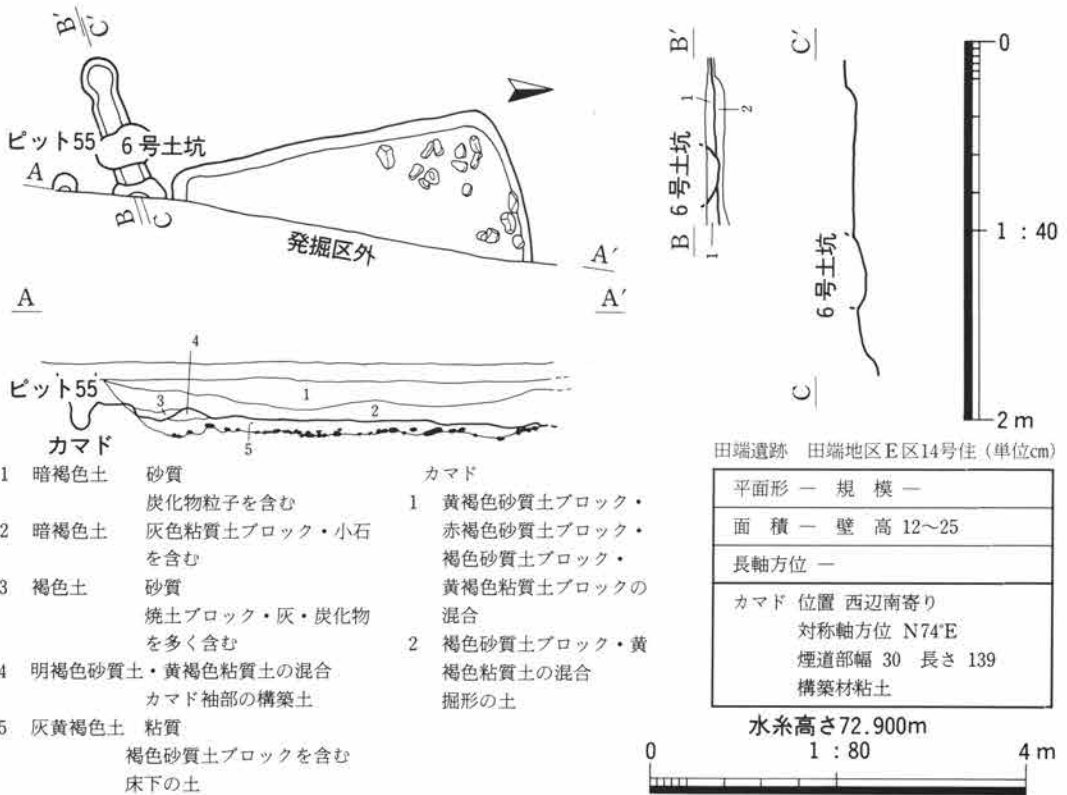
- 1 黄褐色土 砂質
黄褐色粘質土ブロック
・炭化物・焼土を含む
- 2 褐色土 砂質
焼土・灰・炭化物を含む
- 3 黄褐色土 粘質土ブロック
灰を含む
下部は灰層



第931図 田端地区E区13号住居跡



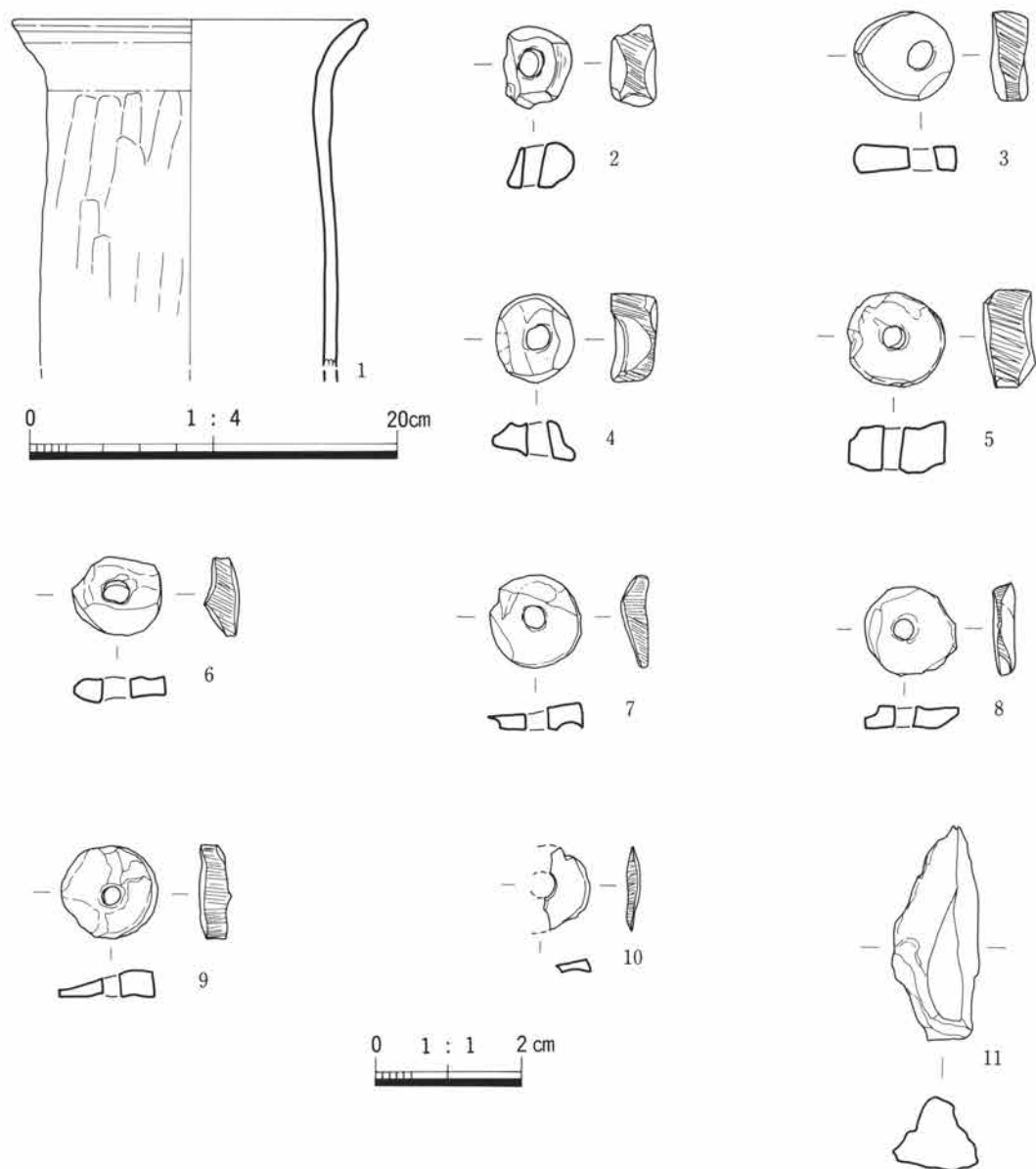
第932図 田端地区E区14号住居跡



第933図 田端地区E区14号住居跡

遺物はカマド付近、北西隅から出土している。北西隅では拳大～人頭大の石が集中して出土した。第934図1はカマド右袖脇の床面から出土した。2～10は滑石製の白玉で、2～9はカマド右袖から、10はカマド内から出土した。11はカマド右袖脇の床面から出土した剥片である。

時期は6世紀後半～7世紀ころとみられる。



第934図 田端地区E区14号住居跡出土遺物

第25表 田端地区E区14号住居跡出土遺物観察表 滑石品

単位mm、g () 推定

番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	色 調	備 考
2	10.2	3.3	5.7	0.8	浅 黄	白玉：やや軟質、側面擦り加工、 $\frac{1}{2}$ 欠損。④TAYE14-2
3	12.5	3.0	3.9	0.7	灰オリーブ	白玉：やや軟質、側面擦り加工、偏平、平坦面平滑、 $\frac{1}{2}$ 欠損。④TAYE14-4
4	11.4×13.2	3.2~3.8	5.1	1.2	灰 色	白玉：やや硬質、側面擦り加工、偏平、完形。 ④TAYE14-5
5	10.4×11.2	3.6	6.1	1.1	灰 色	白玉：やや硬質、側面擦り加工、割れ口のまま、完形。 ④TAYE14-7
6	12.3	3.2	3.0	0.7	灰オリーブ	白玉：やや硬質、側面擦り加工、偏平、割れ口のまま、完形。④TAYE14-8
7	11.6×12.6	2.7~3.2	7.4	1.8	灰 白 色	白玉：硬質、側面擦り加工、割れ口の一面に削り加工、完形。④TAYE14-3
8	11.7	3.2	4.6	0.5	灰 白 色	白玉：硬質、側面擦り加工、割れ口のまま、 $\frac{1}{2}$ 欠損。 ④TAYE14-6
9	12.3	2.8	6.2	0.9	灰 白 色	白玉：硬質、側面擦り加工、割れ口のまま、 $\frac{1}{2}$ 欠損。 ④TAYE14-9
10	(12.4)	(3.2)	1.7	0.1	灰 色	白玉：硬質、側面擦り加工、平坦面の一面は平滑、 $\frac{1}{2}$ 欠損。④TAYE14-10
11	11.6×27.3	—	9.7	3.3	灰 黄 色	剥片：三角錐状。④TAYE14-11

田端E区第15号住居跡 (第935図)

V-Wライン・71km051m付近で検出した。確認面は第10層である。16・28号住居と重複しており、28→16→15号の順に新しい。本住居はカマド焼土のみ検出し、住居本体はすべて調査区外にあるため、詳細は不明である。

遺物は土器片が2個出土しているが、図示しなかった。

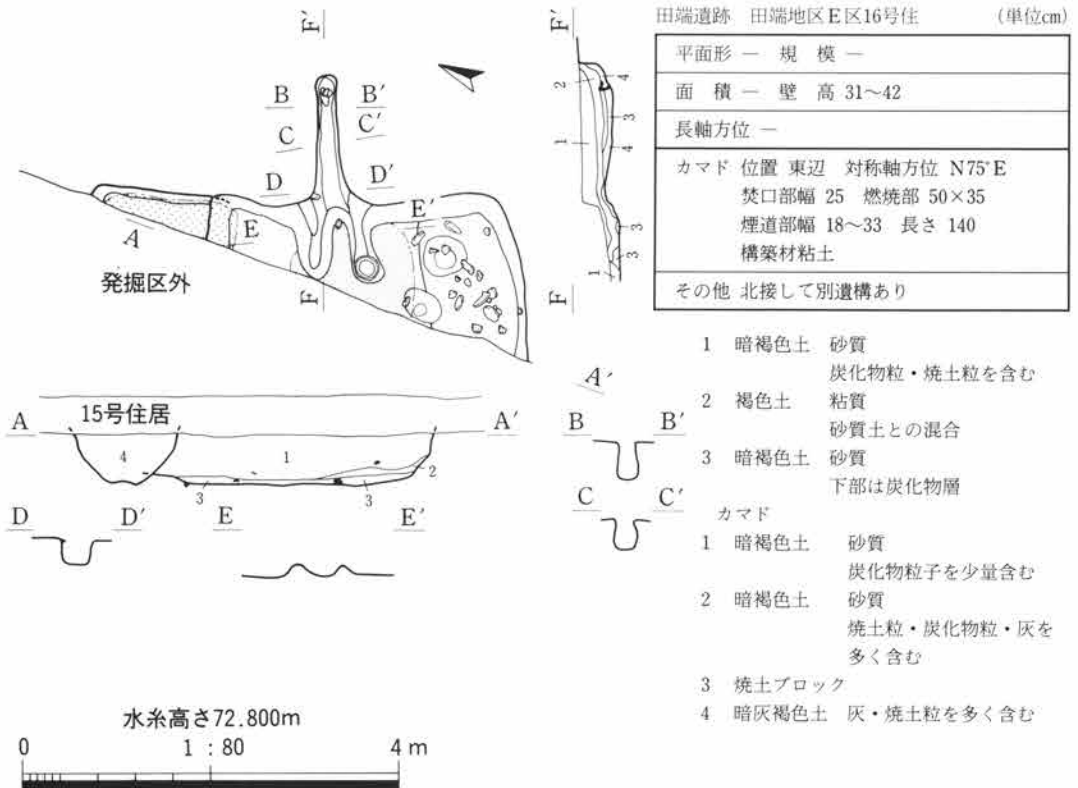
時期は検出層から、古墳時代とみられる。

田端E区第16号住居跡 (第936・937図、図版301・339)

V-Wライン・71km050m付近で検出した。確認面は第10層である。15・28・29号住居と重複し、28・29→16→15号の順に新しい。本住居は南東隅を確認したが、大半は調査区外にある。



第935図 田端地区E区15号住居跡



第936図 田端地区E区16号住居跡

北側に重複して方形の掘り込みがあり、当初本住居の一部とみたが、調査を進めて行くうちに別の遺構であることが判明した。覆土は自然に堆積している。壁は35cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面はカマド前がやや低く、両脇は一段高くなって堅く締まっている。南東隅は幅90cmほどの帯状の高まりがみられた。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺で検出した。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、煙道が壁外に140cmほど延びていた。燃烧部と煙道との境には段がある。右袖部には甕が据えられており、カマド構築材の一部と考えられる。遺物は煙道煙り出し部、右袖、南東隅から出土している。南東隅付近からは拳大の細長い石が集中して出土した。第937図1は南辺寄り床直上から、2はカマド右袖から、3はカマド煙道部煙り出しからそれぞれ出土した。時期は6世紀後半～7世紀ころと考えられる。

田端 E 区第17号住居跡 (第938図、図版301)

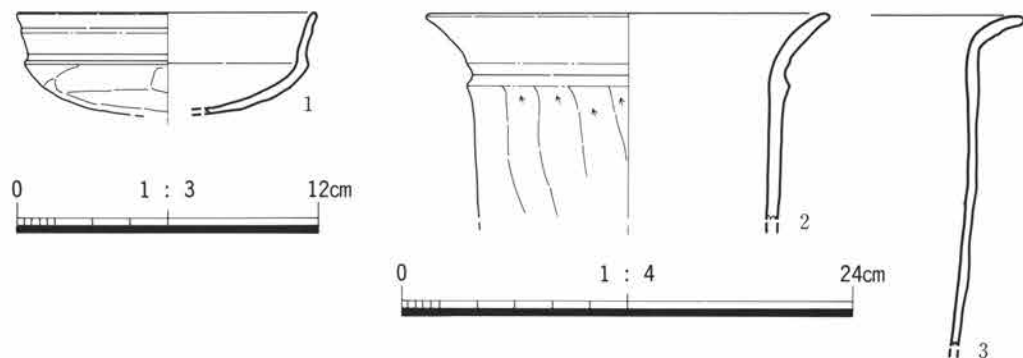
W-Xライン・71km053m付近で検出した。確認面は第10層である。28号住居と重複しており、28→17号の順に新しい。本住居はその大半が西側の調査区外にあり、南東隅を検出したのみである。覆土は自然に堆積し、灰・炭化物を多く含んでいた。壁は高さ30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

遺物は床面近くから石が出土したのみである。

時期は検出層位から、古墳時代とみられる。

田端 E 区第18号住居跡 (第939図、図版302)

R-Sライン・71km043m付近で検出した。確認面は第10層である。24・31号住居と重複している。これらは18→24→31号の順に新しい。本住居はその大半が調査区西側にあり、東辺の一部を検出したのみである。調査区壁の土層断面では、31号住居の床面直下に本住居があり、住居範囲北寄りに焼土が観察できた。また、その断面にはカマド袖部の遺存とみられる粘土があり、おそらく東辺にカマドが



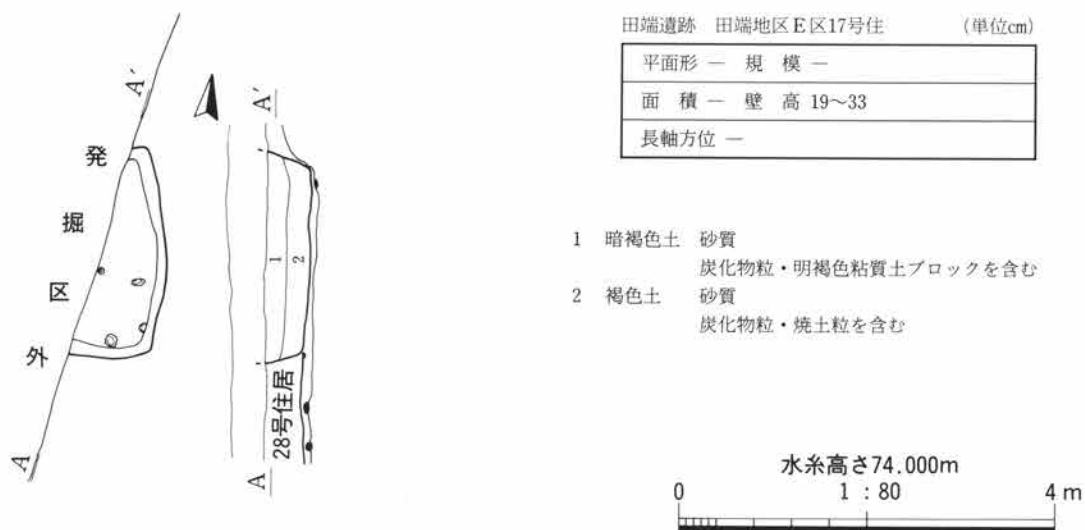
第937図 田端地区 E 区16号住居跡出土遺物

設置されていたと考えられる。壁は上層の31号住居の床面から20cmほどの高さがあり、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。

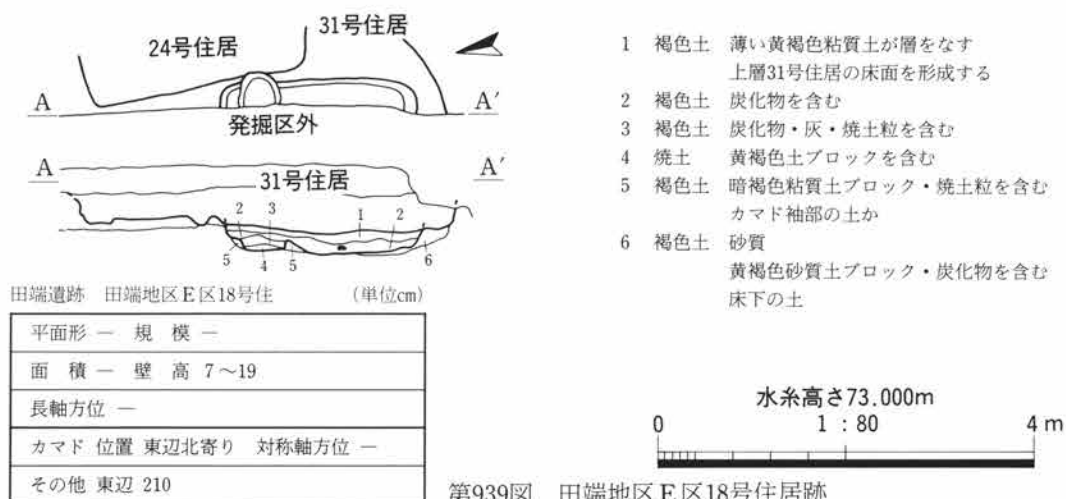
遺物の出土はなく、時期は検出層位から古墳時代とみられる。

田端E区第19号住居跡 (第940~944図、図版302・303・340)

Uライン・71km040m付近で検出した。確認面は第10層である。5号溝、3号集石と重複しており、本住居の方が古い。本住居は北東隅・北西隅・南東隅を確認したが、南西隅は5号溝によって切られ、南東隅の検出も不十分である。南東部は調査区外にある。覆土は自然に堆積している。壁は25cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は下層の礫面が露出しており、細かい凹凸がある。支柱穴とみられるピットは1~4を確認した。それぞれの計測値は表の通りである。ピット4は貯蔵穴の一部かもしれない。壁溝・貯蔵穴は検出してない。カマドは東辺で検出したが、燃烧部の東半と煙道



第938図 田端地区E区17号住居跡



第939図 田端地区E区18号住居跡



第940図 田端地区E区19号住居跡（1）

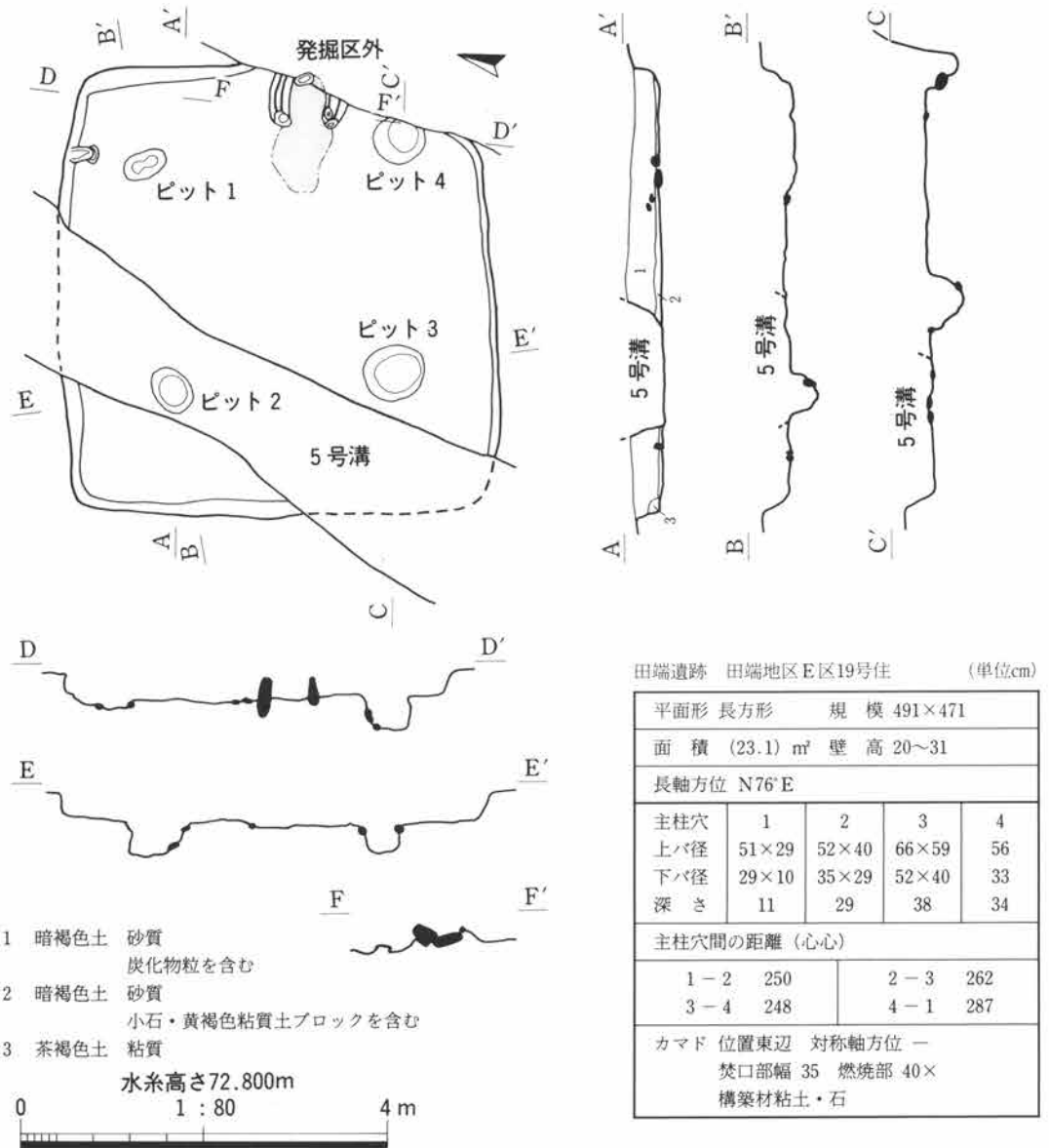


第941図 田端地区E区19号住居跡（2）

は調査区外にある。燃烧部は住居の壁の内側にあり、左右の袖部には立てた状態の石が出土した。袖部はこの石の周囲を粘土で固めて形成していた。カマド前の床面には焼土粒子と炭化物が分布していた。

遺物はカマド前に集中して出土している。北東隅近くの北辺からは壁に接する状態で長さ30cm・幅15cmの石が出土し、5号溝の西側床面からは長さ60cm・幅20cmほどの炭化物が出土している。第943・944図1・6・8はカマド内から、2は南辺中央壁際床面から、3はカマド左脇床面から、4はカマド左脇・カマド前床面から、7はカマド前右床面から、9・10はカマド前床面からそれぞれ出土した。5は覆土出土の参考品である。

時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。



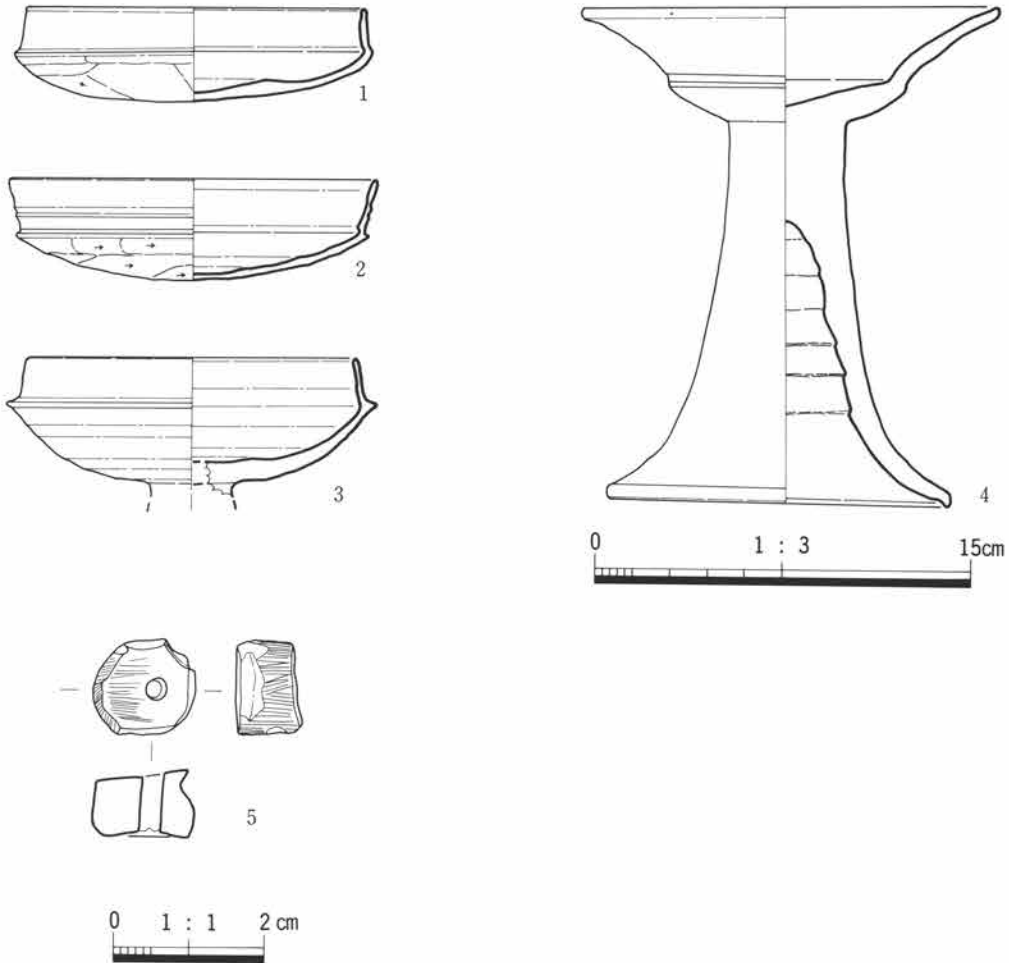
第942図 田端地区E区19号住居跡

田端 E 区第20号住居跡 (第945図、図版303)

Uライン・71km048m付近で検出した。確認面は第10層である。25号住居と重複しており、20→25号の順に新しい。本住居の大半は調査区外にあり、南東隅を確認したのみである。北東部は曲がりつつある状態だが、必ずしも北東隅であるとは限らない。覆土は自然に堆積している。壁は30cmほどが遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、堅く締っている。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは25号住居の下から検出したが、25号住居によって削平されており、袖部等は確認できなかった。燃焼部が壁の内部にあるタイプである。煙道部は25号の東辺の壁まで延び、約200cmを検出した。カマド前の床面には炭化物・焼土の粒子が散布していた。

遺物はカマド掘形から甕の口縁部片が出土しているが、小片のため図示しなかった。

時期は6世紀後半～7世紀ころとみられる。



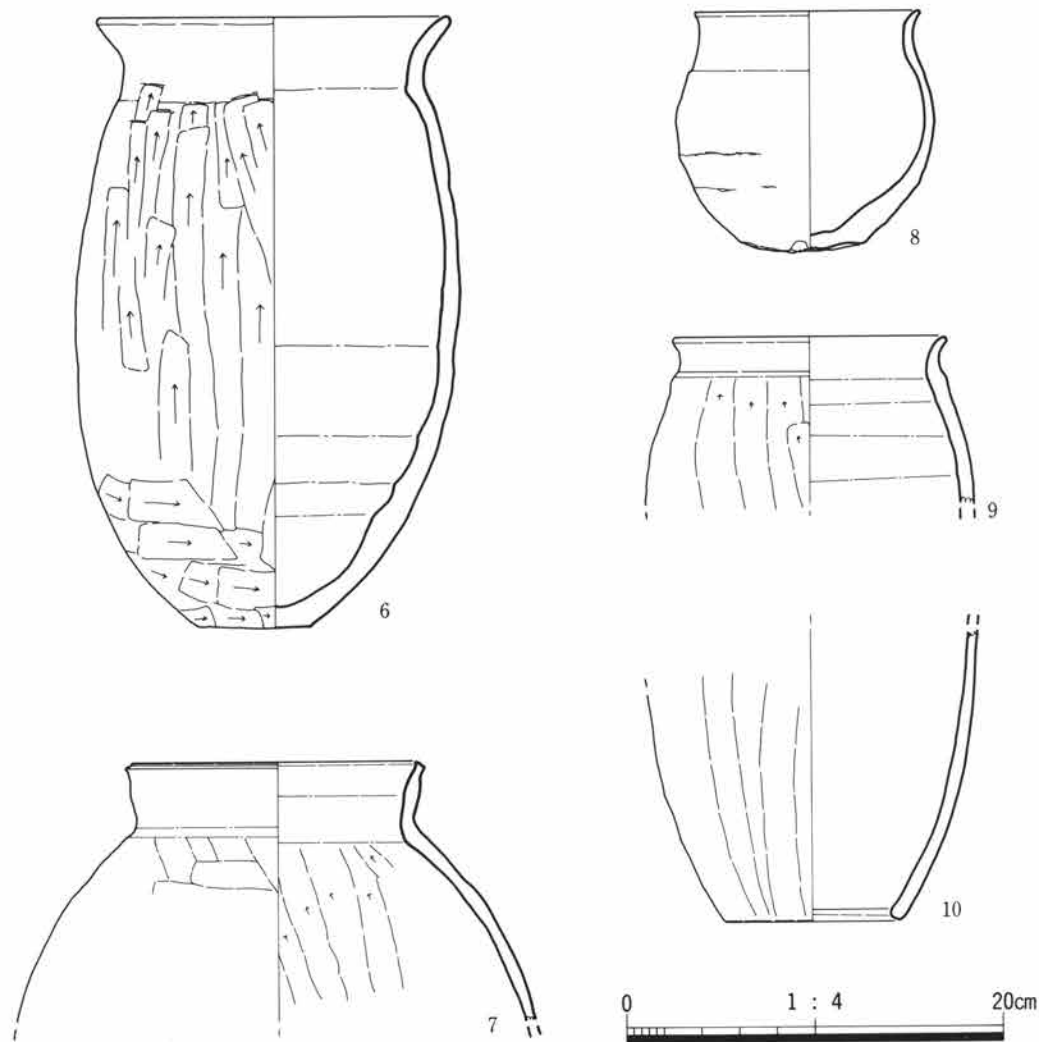
第943図 田端地区 E 区19号住居跡出土遺物 (1)

田端E区第21号住居跡（第946図、図版304）

Qライン・71km030m付近で検出した。確認面は第10層である。12号住居、5号溝と重複しており、21→12→5号の順に新しい。本住居の東半部は調査区外にあり、北西部は5号溝によって切られている。北西隅は5号溝の西岸にわずかに遺存し、西辺の大部分は5号溝によって失っている。本住居の上には12号住居のカマド煙道が残っていた。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。カマドは調査区外の東辺に設置されていたと考えられる。

遺物は掘形覆土から土師器杯の小片と須恵器甕の小片が出土したが、図示しなかった。

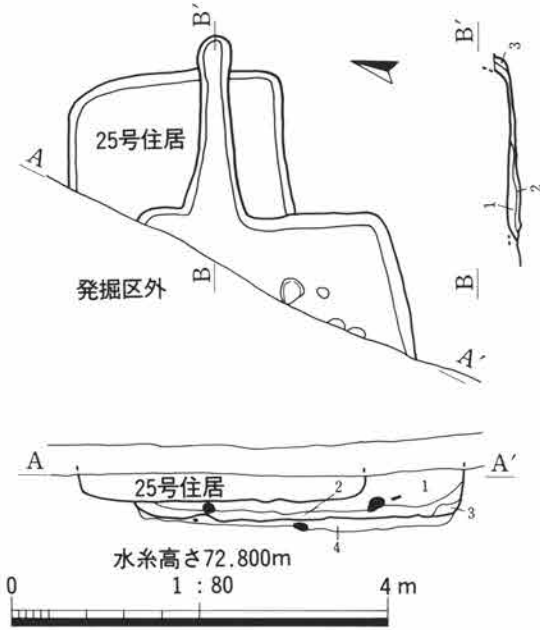
時期は6世紀後半から7世紀頃とみられる。



第944図 田端地区E区19号住居跡出土遺物（2）

田端E区第22・23号住居跡（第947～950図、図版304・341）

W-Yライン・71km 050m付近で検出した。確認面は第10層である。上層に10号住居があり、これらは22→23→10号の順に新しい。23号は南西隅を検出し、その他の隅は調査区外にある。22号は23号によって北東部を切られ、東辺は調査区外にある。両者とも全体のプランを確認することができなかった。いずれも覆土は自然に堆積している。壁は両者とも20～30cm前後あり、斜めに立ち上がる。床面は平

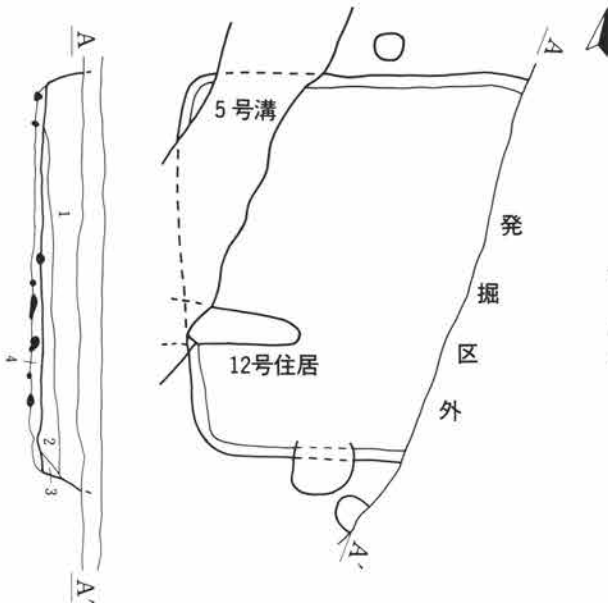


田端遺跡 田端地区E区20号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	30
長軸方位	—		
カマド位置	東辺	対称軸方位	N73°E
煙道部幅	32～65	長さ	194
		角度	10°

- 1 暗褐色土 砂質
炭化物粒を少量含む・粒子細かい
- 2 暗褐色土 砂質
炭化物粒・焼土粒子・灰を多く含む
- 3 褐色土 粘質
炭化物粒を少量含む
- 4 明褐色土 青灰色土ブロックを含む、床下の土
カマド
- 1 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒を含む
- 2 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む
- 3 暗褐色土 砂質
炭化物粒・焼土粒を少量含む

第945図 田端地区E区20号住居跡

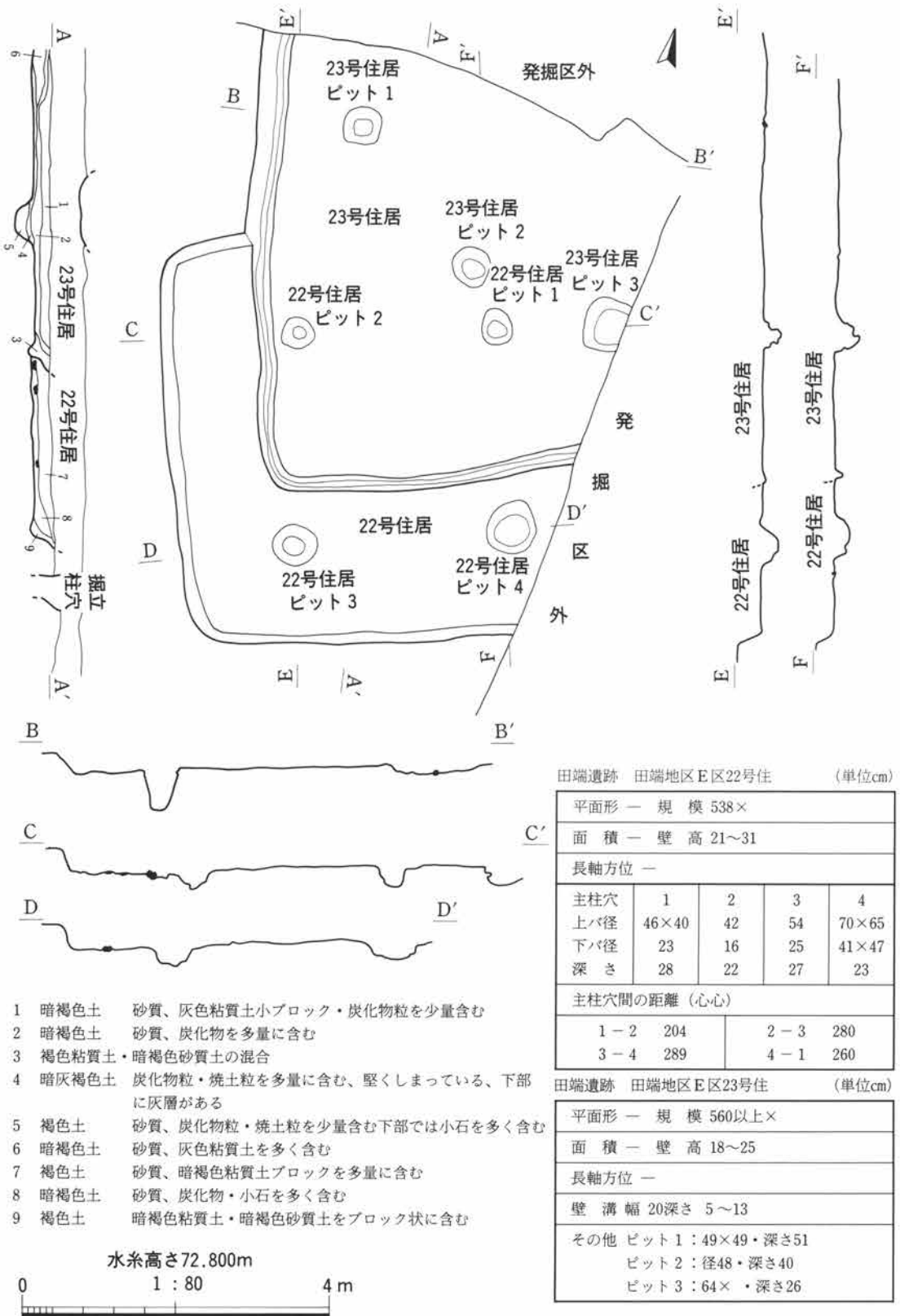


田端遺跡 田端地区E区21号住 (単位cm)

平面形	—	規模	413×356以上
面積	—	壁高	20～30
長軸方位	—		

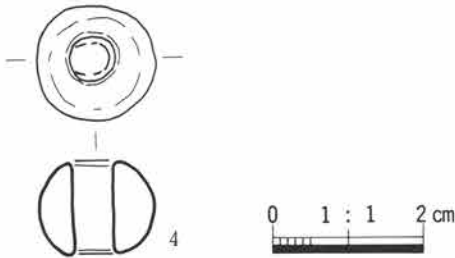
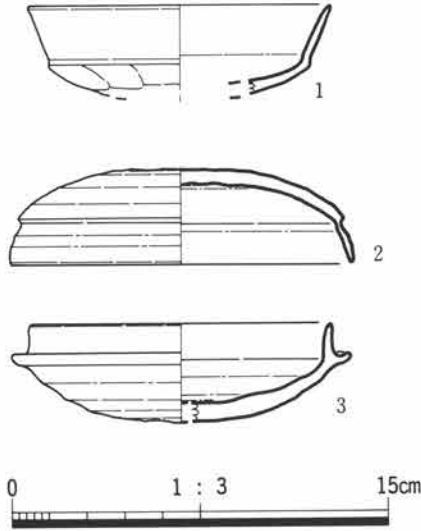
- 1 暗褐色土 砂質
黄褐色土ブロック・炭化物粒を含む
- 2 褐色土 砂質
炭化物を多く含む
- 3 黄褐色砂質土ブロック・暗褐色土ブロックの混合
- 4 褐色土 床下の土
上位は灰黄褐色土・炭化物を含む
下位は青灰色土・炭化物を含む

第946図 田端E区21号住居跡



第947図 田端地区E区22・23号住居跡

坦であるが、下層の礫が一部露出し、細かい凹凸がある。22号の床面がわずかに低い、ほとんど同じレベルである。主柱穴とみられるピットは22号で4本検出した。それぞれの計測値は表の通りである。23号のピットは1～3を検出したが、柱穴の予想位置ではない。壁溝は23号で確認プランを全周している。22号では検出していない。カマド・貯蔵穴は両者とも検出していないが東側床面に焼土粒子が散布していることから、カマドは調査区外の東辺に設置されていたと推定できる。なお、23号の貯蔵穴とみられる掘り込みを、東側調査区外壁直下で検出している。



第948図 田端地区E区22号住居跡出土遺物

遺物は22号の南辺際、23号の中央部から出土している。第948図1は西辺壁際の床面から出土した。2～4は覆土出土の参考品である。ほかに南辺中央壁際床面から体部の丸い甕の破片が出土している。

第950図1は23号出土の遺物で、1は西辺中央壁際床面から、2は中央西寄りの床面から、3は西辺中央壁際の床直上からそれぞれ出土した。

時期は22・23号とも6世紀後半～7世紀頃とみられる。

田端E区第24号住居跡

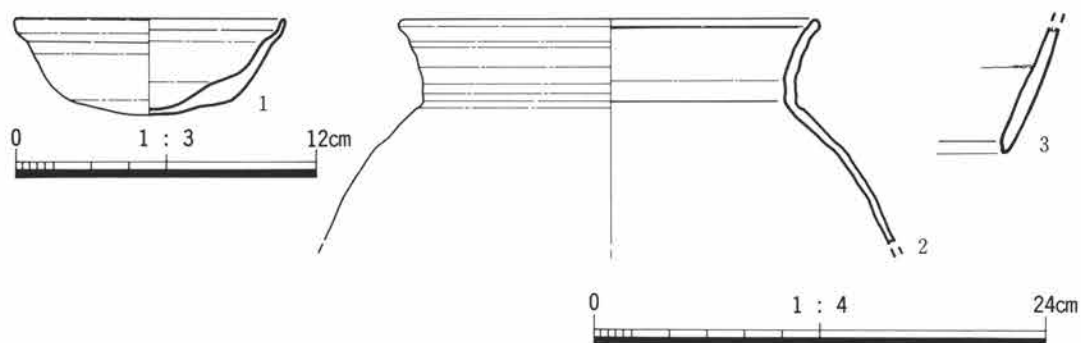
(第951図、図版305)

S-Tライン・71km042m付近で検出した。確認面は第10層である。18・31号住居と重複しており、これらは18→24→31号の順に新しい。本住居は東辺を5号溝に切れ、西側は31号と重複しているため、全体のプランを確認することができなかった。31号住居の調査後さらに掘り下げると、本住居の北西隅・南西隅を検出することができた。北東部は13号土坑が本住居を切っており、南東部は曲がりつつあるように見える。おおむね長方形のプランと考えられる。覆土は自然に堆積している。壁は北辺・南辺とも二段になっている。床面は平坦である。主柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていたと推定できる。

遺物は住居中央部から1点出土しているが、覆土出土の参考品であり、図示しなかった。
時期は検出層位から、古墳時代とみられる。



第949図 田端地区E区22号住居跡



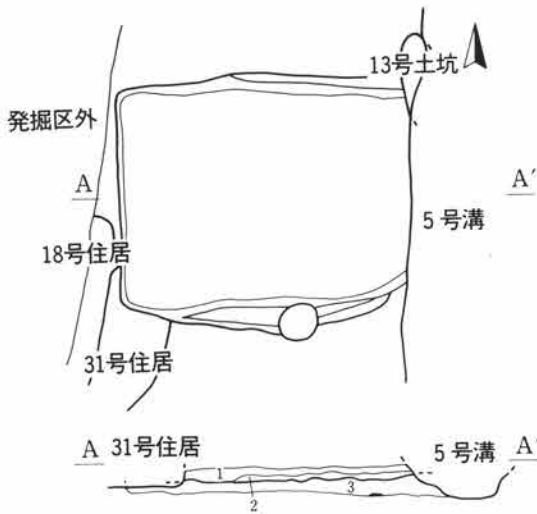
第950図 田端地区E区23号住居跡出土遺物

田端E区第26号住居跡（第952～955図、図版305・342）

Sライン・71km035m付近で検出した。確認面は第10層である。27号住居、16号土坑、5号溝と重複しており、これらは26→16→27→5号の順に新しい。さらに、27号は30号住居と重複しており、27→30→5号の順に新しい。本住居は南西隅を5号溝に切られ、南東隅は調査区外にある。また、カマド煙道部も調査区外にあってカマド全体を検出できなかったが、住居のプランはほぼ確認した。南辺の南側にはこれと平行して東西方向に走る立ち上がりがあり、本住居と重複する住居の一部または本住居の一部とも考えられる。もし、本住居に伴うものであれば、南北457cmとなり、長軸は90°回転してN165°Eとなる。北側にもこれと類似したやや浅い段がある。覆土は自然に堆積しているが、南辺側は16号土坑と27号住居の重複がある。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。北側の壁面に接して焼土・炭化物が多く出土している。床面は平坦であるが、南側がやや低く、砂利を混ぜた黄色粘質土で形成されていた。カマド前の床面には炭化物が分布していた。主柱穴とみられるピットはピット1～4を検出した。それぞれの計測値は表のとおりである。壁溝は北辺と南辺で検出した。幅10cm程度の浅いものである。カマドは東辺に設置されており、焚口天井部の石が据えた状態で出土した。焚口は袖部に立てられた石の上に鳥居状に架けられていたが、やや北側に傾いた状態であった。燃烧部と煙道部との境ははっきりせず、なだらかに煙道にいたる。燃烧部が壁の内側にあるタイプである。貯蔵穴はカマド右脇の円形のピットと考えられる。主柱穴よりもやや大きい程度である。東辺寄りのカマド北側から、円形の掘り込みを検出し、中から拳大の石が数個、底面から浮いた状態で出土した。

遺物はカマド周辺、北東隅付近、南西部から出土している。第955図1は中央南寄り床面から、2はカマド前床直上から、3はカマド右前床面から、4は南辺西寄り床直上からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



田端遺跡 田端地区E区24号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	275×311以上
面積	—	壁高	18～28
長軸方位	N87°E		

- 1 黄褐色土 砂質
青灰色粘質土ブロック・炭化物を含む
- 2 褐色土 黄褐色砂質土・炭化物を含む
- 3 褐色土・黄褐色土・暗褐色土の混合
床下の土

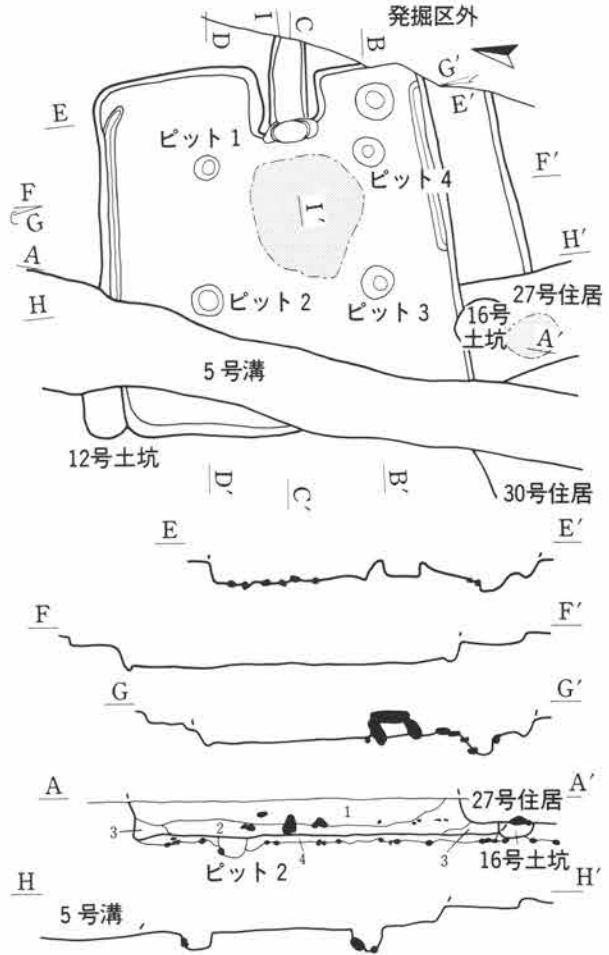
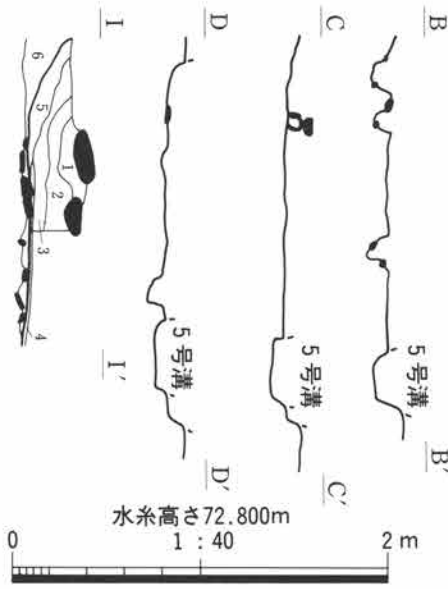
第951図 田端E区24号住居跡



第952図 田端地区E区26号住居跡



第953図 田端地区E区26号住居跡

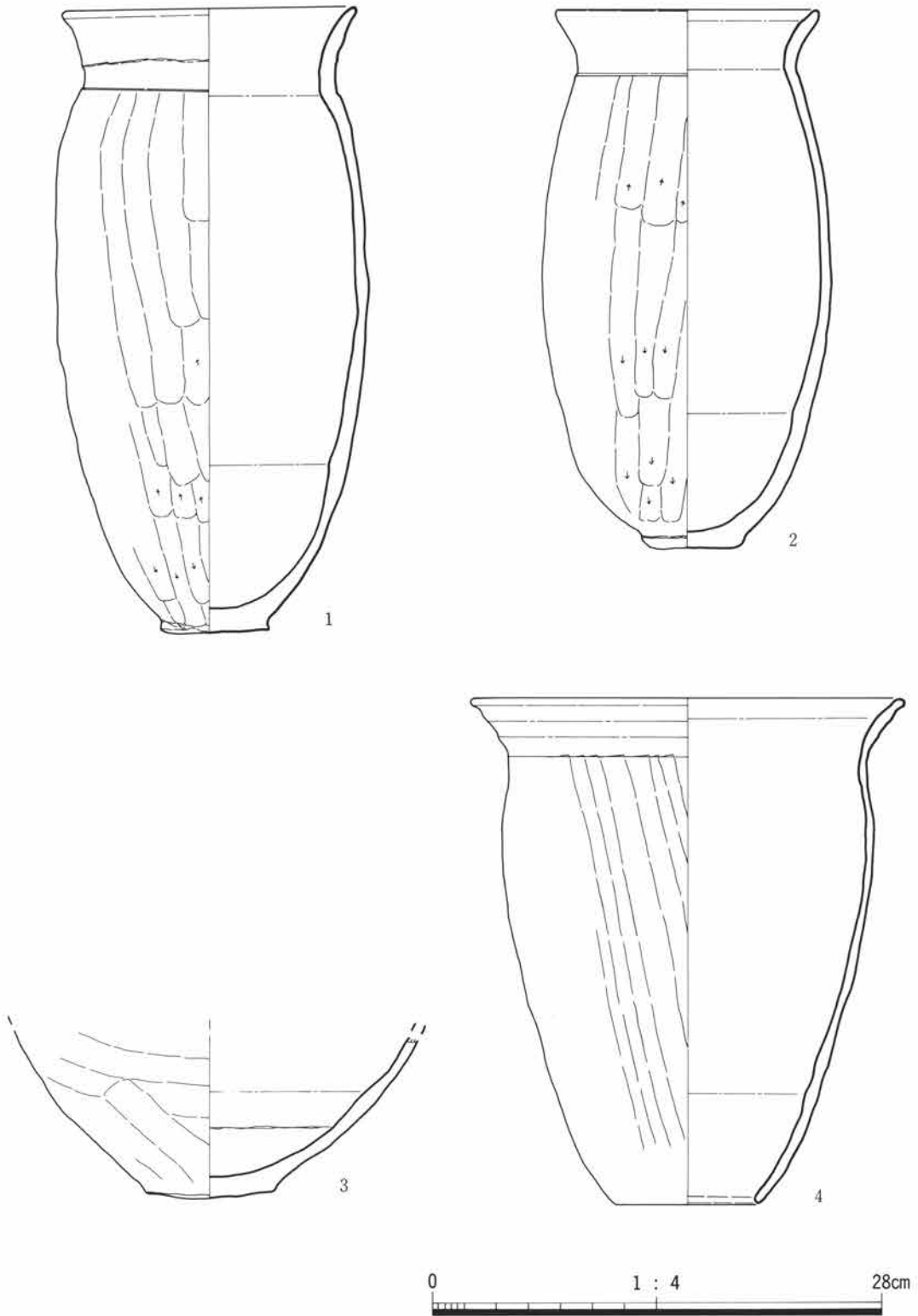


田端遺跡 田端地区E区26号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 380×394				
面積 15.0m ² 壁高 13~24				
長軸方位 N73°E				
壁溝幅 10深さ 2~6				
支柱穴	1	2	3	4
上バ径	26	34	35	32
下バ径	13	20	16	12
深さ	11	17	22	22
支柱穴間の距離 (心中心)				
1-2	141	2-3	187	
3-4	140	4-1	172	
カマド 位置 東辺 対称軸方位 N79°E				
焚口部幅 26 燃焼部 39×55				
煙道部幅 34 長さ -				
構築材粘土・石				
貯蔵穴 位置 南東隅 平面形 円形				
上バ 38×38 下バ 20×17				
深さ 16				
その他 南辺の南側に高さ10cmの南辺に平行する東西方向の立ち上がりあり。				

- 1 褐色土 黄褐色粘質土ブロックを含む
 - 2 暗褐色土 砂質、黄褐色土粒子・炭化物粒を含む
 - 3 明褐色土ブロック・暗褐色土ブロックの混合、炭化物粒を含む
 - 4 褐色土 粘質、青灰色粘質土ブロックを含む
- カマド
- 1 褐色土 明褐色砂質土ブロック・炭化物を含む
 - 2 褐色土 炭化物粒・焼土粒を含む
 - 3 褐色土 炭化物粒・焼土ブロックを多量に含む
 - 4 炭・炭化物
 - 5 明褐色土 粘質、褐色土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む
 - 6 黄褐色土 粘質、青灰色粘質土ブロックを含む

第954図 田端地区E区26号住居跡



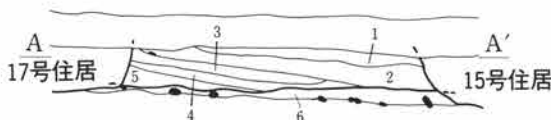
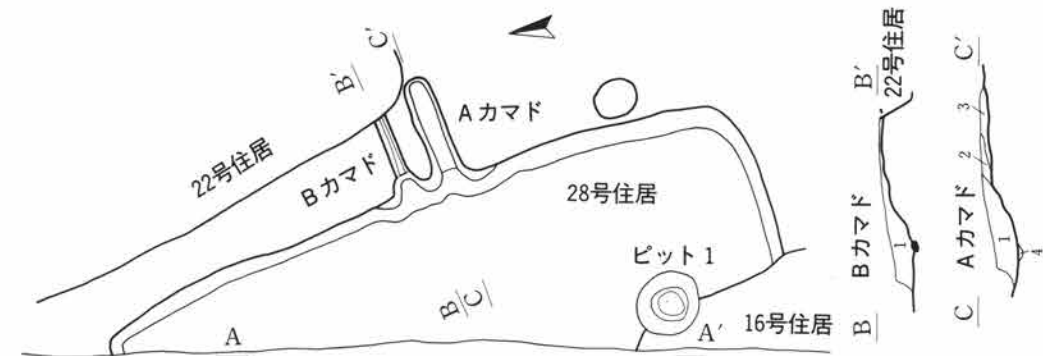
第955図 田端地区E区26号住居跡出土遺物

田端E区第28号住居跡 (第956・957図、図版306・342)

Wライン・71km050m付近で検出した。確認面は第10層である。15・16・17・22号住居と重複している。15・16・17号は本住居よりも新しい。22号住居は本住居の北側のカマド (Bカマド) を切っており、南側のカマド (Aカマド) は切られていない。従って、22号は本住居のBカマドとAカマドとの中間の時期に営まれたと考えられる。覆土は自然に堆積しているが、北側から南側に向けて流れ込んだ状態を示し、比較的短い時間の内に土砂が流れ込んだと考えられる。壁は30cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面はやや凹凸があり、カマド前の床面は堅く締まっていた。支柱穴とみられるピットは1本確認した。ピット1がそれで、内部は二段に掘り込まれている。壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺中央に2基検出した。南側をAカマド、北側をBカマドと呼ぶ。Bカマド→Aカマドの順に新しい。両者とも遺存状態が悪く、袖部等は痕跡程度である。燃烧部が壁の内部にあるタイプとみられる。

遺物はAカマド前の床面からいくつか出土している。第957図1は貯蔵穴内から、2は南カマド前床面から、3はカマド掘形から、4はBカマド左脇床面からそれぞれ出土した。

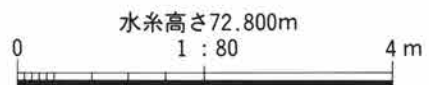
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



- 1 暗褐色土 砂質、炭化物粒・小石を少量含む
 - 2 明褐色土 砂質、明褐色粘質土ブロック・炭化物粒を含む
 - 3 褐色土 砂質、多量の炭化物を含む
 - 4 暗褐色土 砂質、炭化物を含む
 - 5 褐色土 砂質、底部に灰層
 - 6 床下の土
- カマド
- 1 暗褐色土 砂質、明褐色粘質土ブロック・炭化物粒を含む
 - 2 暗褐色土 炭化物粒を含む
 - 3 焼土 下部に灰層あり

田端遺跡 田端地区E区28号住 (単位cm)

平面形	— 規模 703×			
面積	— 壁高 25~33			
長軸方位	—			
支柱穴	1	2	3	4
上バ径	77×66			
下バ径	27			
深さ	44			
カマド位置	東辺 対称軸方位 N79°E			
A	煙道部幅 32 長さ 103 角度 8°			
カマド位置	東辺 対称軸方位 N79°E			
B	煙道部幅 15 長さ 65 角度 5°			



第956図 田端地区E区28号住居跡

田端 E 区第29号住居跡 (第958・959図、図版306・343)

V-Wライン・71km048m付近で検出した。確認面は第10層である。16号住居、14号土坑と重複しており、いずれも本住居を切っている。北東隅は16号住居によって失っているが、ほぼ全形を確認することができた。南東隅は14号土坑が重複しており、これに本住居の古いカマドの痕跡がからんで、土層はやや複雑な様相をしめしている。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦だが、やや軟質である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。図示したカマドのほかにも、南東隅にはこれよりも古いカマドが確認でき、床面近くに炭化物・焼土粒子が分布していた。新しいカマドはこの上に粘土を貼って袖部を形成している。新カマドの煙道部からは炭化物・焼土粒子が検出されていない。

遺物は土器片と小石が数点出土している。第959図1～3はカマド内から出土した。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

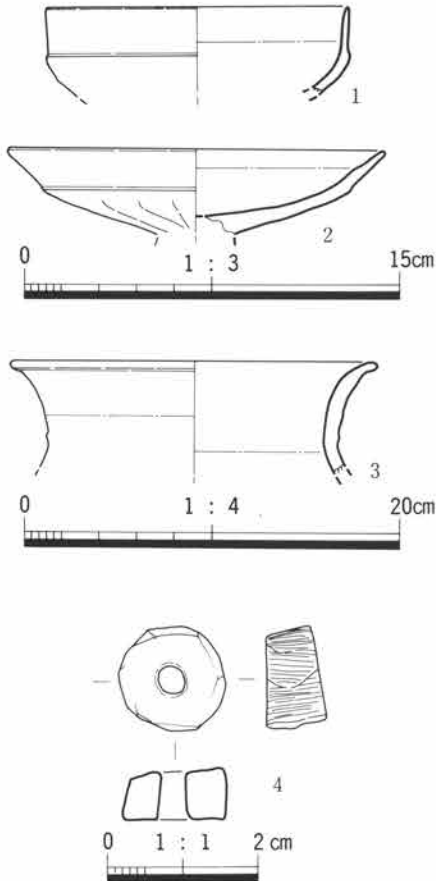
田端 E 区第30号住居跡 (第960・961図、図版307・343)

Rライン・71km036m付近で検出した。確認面は第10層である。27・35号住居、5号溝と重複している。これらは27→30→5号、35→30→5号の順に新しい。本住居は東半部を5号溝によって切られている

ため、北東隅は検出できなかったが、ほぼ全形を確認することができた。南東隅は27号住居の一部を切っている。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは西辺中央に設置されていた。燃焼部が壁の内側にあるタイプで、煙道部との境に段をもつ。煙道は126cmを検出した。

遺物は小片のみである。第961図1～4はすべて覆土出土の参考品で、2～4の土錘はいずれも割れている。

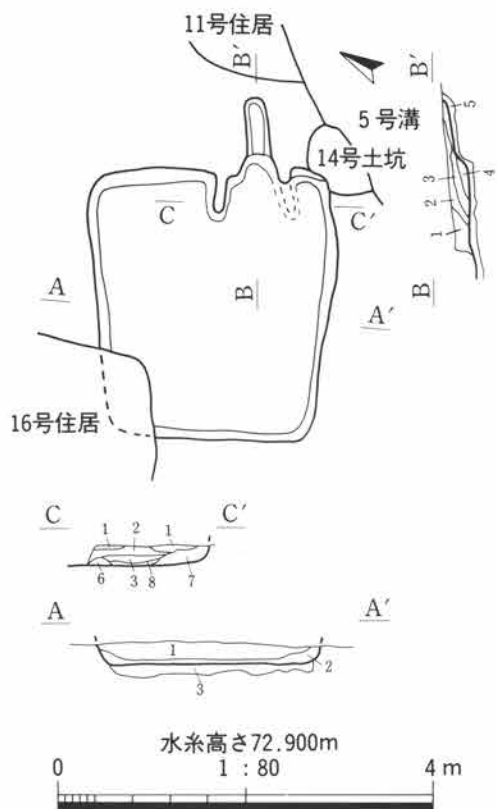
時期は7世紀代か。



第957図 田端地区 E 区28号住居跡出土遺物

田端E区第32号住居跡 (第962~967図、図版308・343・344)

Qライン・71km038m付近で検出した。確認面は第10層である。3・33・35・36号住居と重複している。これらは33・35・36→32→3号の順に新しい。33・35・36号相互の重複関係は不明である。本住居は東半部を検出したのみで、西半分は調査区外にある。南北方向の最大計測値は580cmを超えており、大形の住居とみられる。覆土は自然に堆積している。床下には35号住居があるため、本住居の床面以下の土層は乱れている。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。支柱穴とみられるピットは1本検出した。ピット1がそれである。これに対応する北側のピットは確認できなかった。壁溝は北辺からカマド右脇まで検出した。カマドは東辺中央に設置されている。

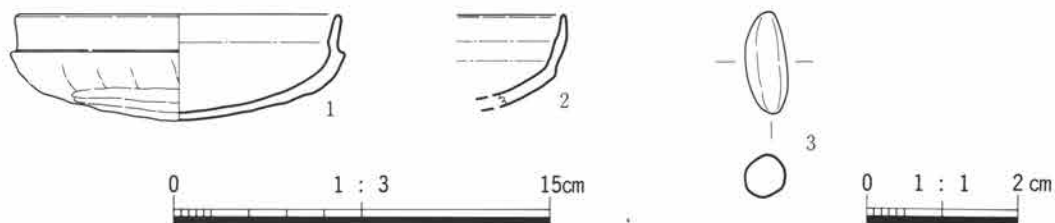


田端遺跡 田端地区E区29号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	285×251
面積	7.2㎡	壁高	14~24
長軸方位	N65°E		
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N64°E 焚口部幅 — 燃焼部 50×70 煙道部幅 25 長さ 60 角度 10° 構築材粘土		

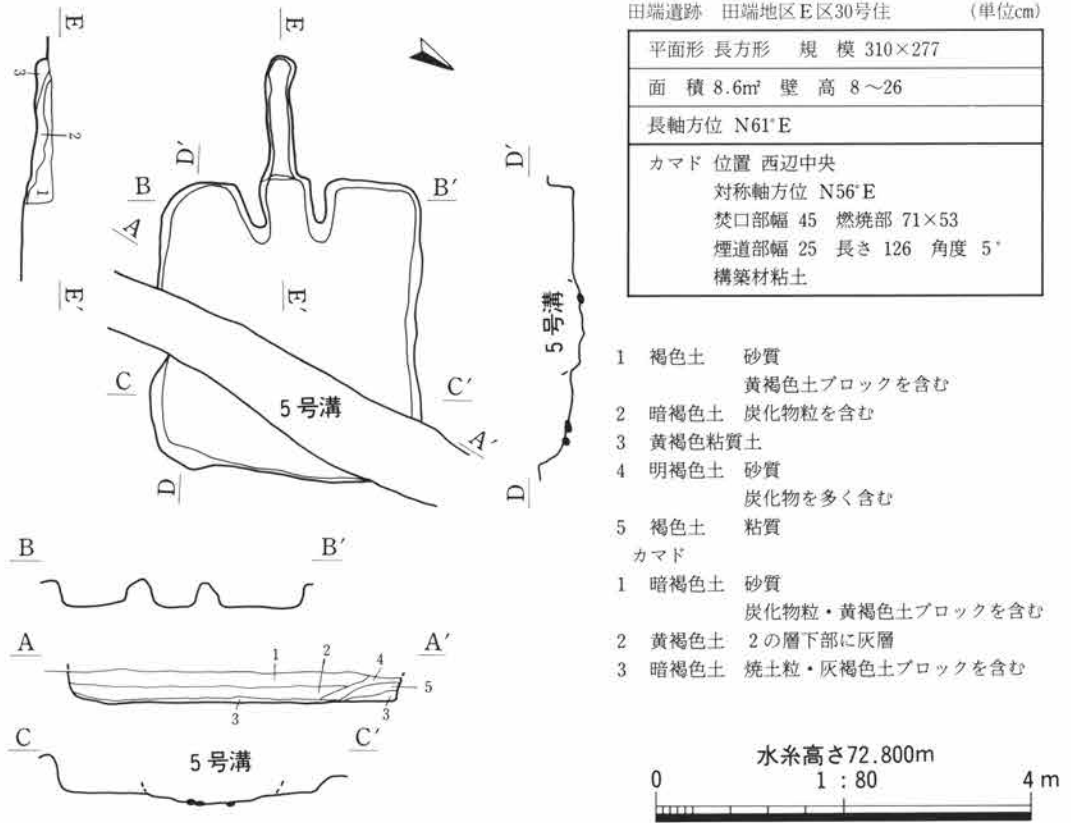
- 1 暗褐色土 砂質、炭化物粒・焼土粒を含む
 - 2 褐色土 明褐色粘質土ブロックを多く含む
 - 3 灰褐色土 粘質、床下の土
- カマド
- 1 褐色土 砂質、明褐色土を多く含む
 - 2 暗褐色土 砂質、焼土粒・炭化物粒を多量に含む
 - 3 暗褐色土 砂質で焼土粒・炭化物粒を含まない層と砂質で焼土粒・炭化物粒を多く含む層との互層
- カマド前
- 4 暗褐色土
 - 5 灰褐色土 掘形の土
 - 6 褐色土 砂質、袖の土
 - 7 褐色土 黄褐色粘質土ブロックを多く含む
 - 8 暗褐色土 炭化物・灰を多量に含む

第958図 田端地区E区29号住居跡

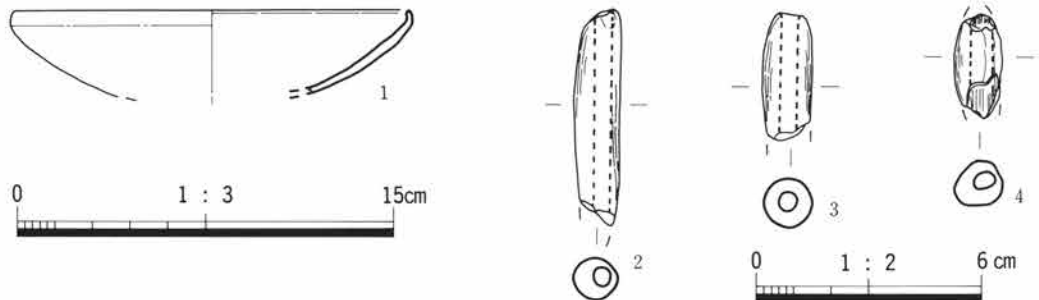


第959図 田端地区E区29号住居跡出土遺物

た。燃焼部が壁の内外の中間にかかるタイプで、煙道は約100cm検出した。煙道の方向は東辺に対して直角ではなく、やや北に傾いている。煙道の延びるカマドの南に接して、右袖部の付け根に相当する位置から焼土を検出しており、カマドの痕跡と考えられる。このカマドは本住居の古いカマドであることも考えられるが、重複する36号住居のカマドであった可能性もある。どちらかに確定する根拠はない。貯蔵穴はカマド右脇の南東隅で検出した。楕円形を呈し、底部は礫面まで掘り込まれている。



第960図 田端地区E区30号住居跡



第961図 田端地区E区30号住居跡出土遺物



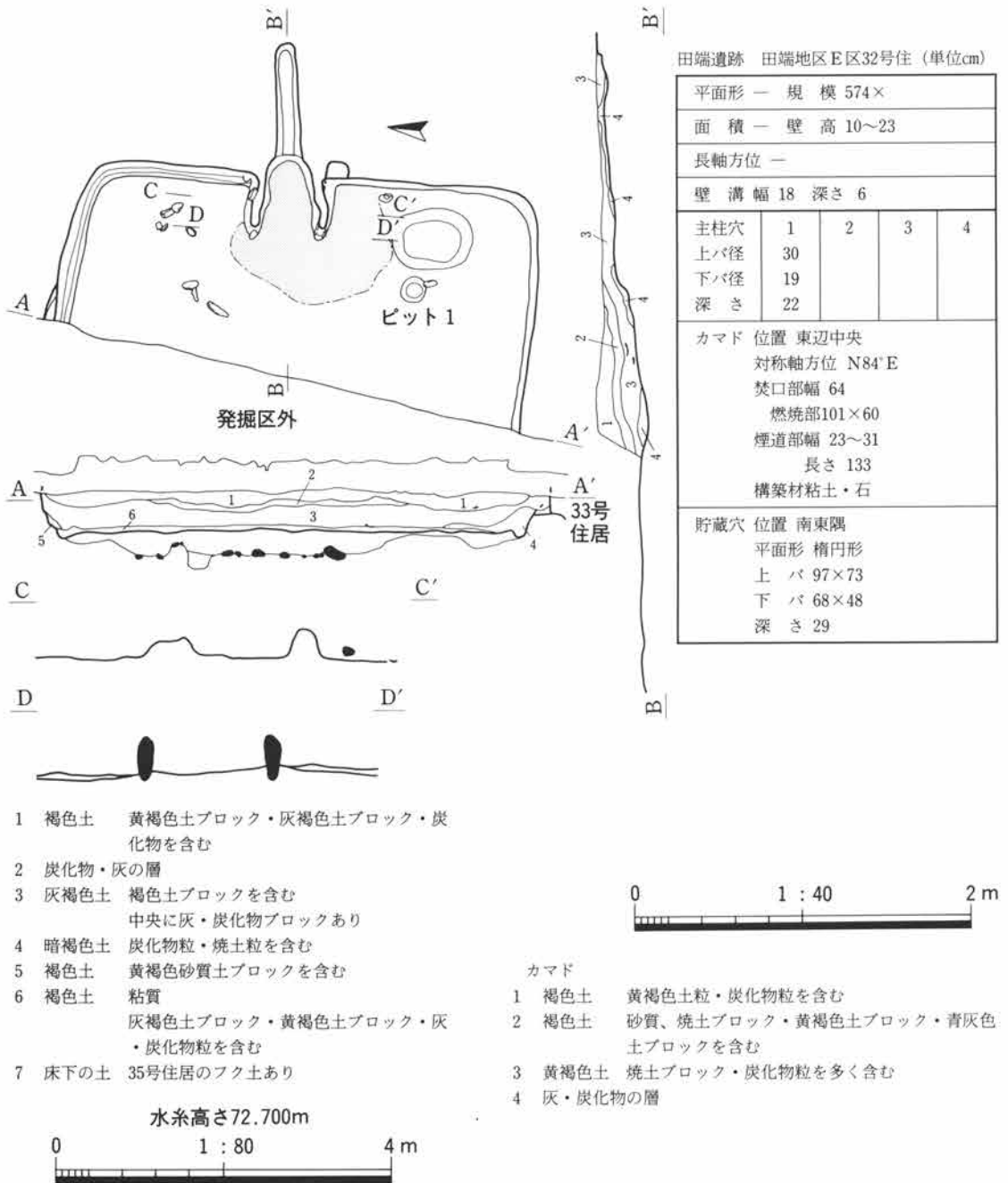
第962図 田端地区E区32号住居跡（1）



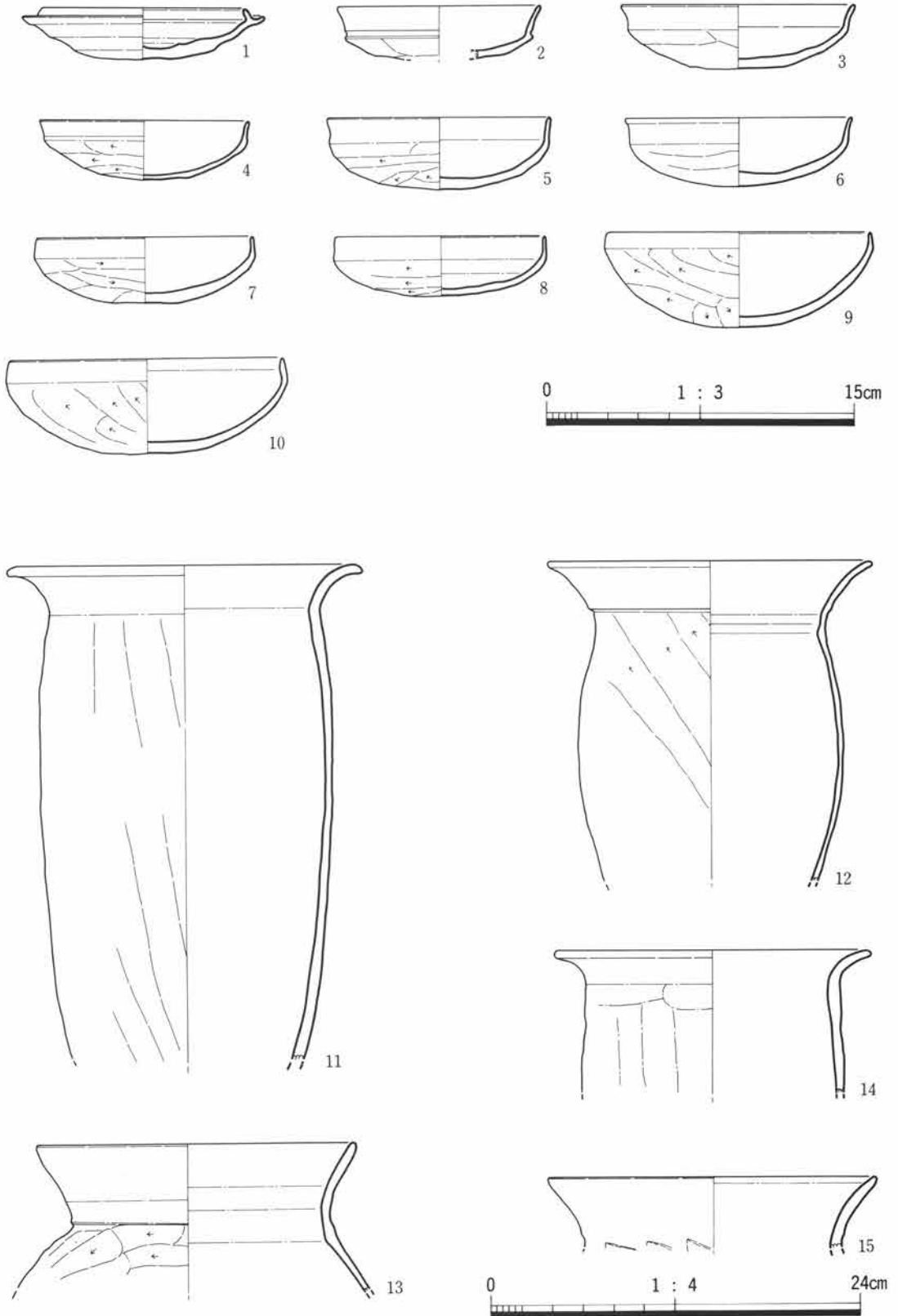
第963図 田端地区E区32号住居跡（2）

遺物はカマド周辺から出土している。また、20cm大の細長い石が床面に散乱していた。第965・967
 図1は南辺東寄りの床面から、2・18は左袖内から、3～6・14はカマド右脇床面から、7はカマド
 右袖脇床面から、8は北東隅床面から、9・10は南辺中央壁際床面から、11はカマド底面から、12・
 15・17はカマド前床面から、13は南東隅床面・貯蔵穴が接合、16は貯蔵穴西床面からそれぞれ出土し
 た。

時期は7世紀後半～8世紀と考えられる。



第964図 田端地区E区32号住居跡



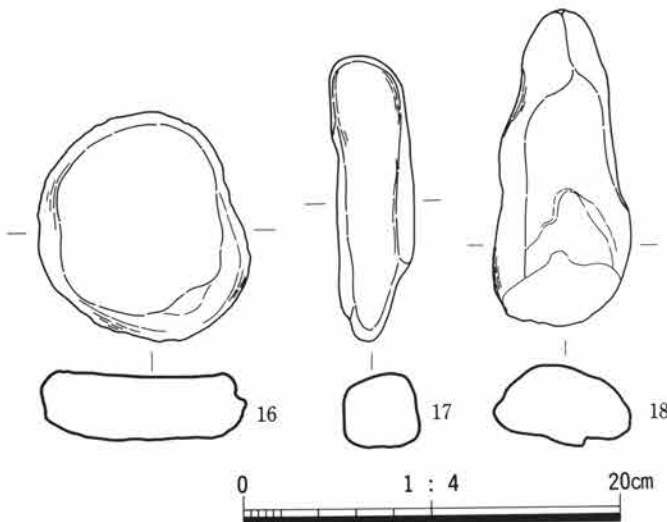
第965図 田端地区E区32号住居跡出土遺物(1)

田端E区第33号住居跡（第969図）

Pライン・71km038m付近で検出した。確認面は第10層である。12・32号住居と重複しているが前後関係は不明である。本住居は調査区への出入り口で発見したもので、カマドの痕跡として焼土粒子・灰・炭化物を含んだ土層と、これに伴うと推定する壁溝を検出したのみである。住居のプランは不明で、カマドは西辺に設置されていたと考えられる。床面はカマド痕跡の前で100cm四方程度の痕跡を検出し



第966図 田端地区E区32号住居跡（3）



第967図 田端地区E区32号住居跡出土遺物（2）

たが、掘形によるプラン追究は削平されて検出できなかった。

遺物はなく、時期は検出層位から古墳～奈良時代とみられる。

田端E区第34号住居跡

（第968・971図、図版309）

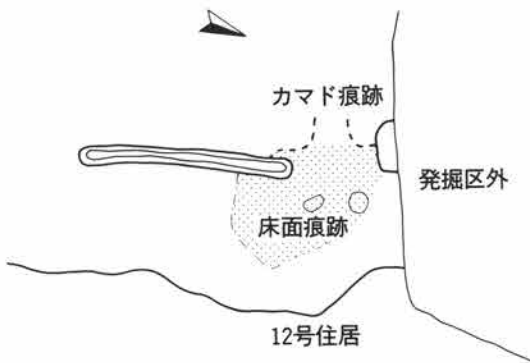
Vライン・71km046m付近で検出した。確認面は第10層である。10号土坑、5号溝と重複しており、34→10→5号の順に新しい。南東部は10号土坑と5号溝に切られて失っている。覆土は炭化物を多く含み、自然

に堆積している。壁は浅く、10cm前後が遺存している。床面は平坦である。北辺寄り中央部は径100cmほどの範囲で、床面に炭化物が分布していた。炭化物の下は堅く締まった床面となる。支柱穴とみられるピット・カマド・貯蔵穴は検出していない。壁溝は北辺のみ確認した。本住居はE区の他の住居に比較して小さく、カマド・貯蔵穴等も検出していないことから、住居跡ではないことも考えられるが、ここでは調査当時の性格付けのままとしておく。

遺物は土器の小片が数点出土したのみで、図示しなかった。時期は検出層位から古墳時代とみられる。

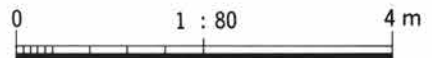


第968図 田端地区E区34号住居跡



田端遺跡 田端地区E区33号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	—
長軸方位	—		
壁溝幅	20	深さ	5
カマド位置	西辺	対称軸方位	—



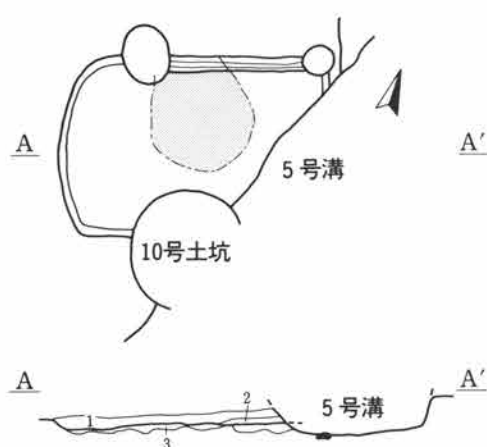
第969図 田端地区E区33号住居跡

田端E区第35号住居跡 (第970・972～974図、図版309・345・第26表)

Q-Rライン・71km038m付近で検出した。確認面は第10層である。12・30・32・33・36号住居と重複している。33号との関係は不明だが、12・30・32号は本住居を切っており、本住居は36号住居を切っている。北西隅は調査区外にある。南東部に長方形を呈する張出部があり、12号住居によって西半分を失っている。西辺は32号住居の床下で検出したものである。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、20cm前後が遺存している。床面は中央部がやや低く、壁際が高い。中央部は強く締まっており、上下



第970図 田端地区E区35号住居跡

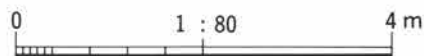


田端遺跡 田端地区E区34号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	170×274
面積	(4.7) m ²	壁高	4～13
長軸方位	N68°E		
壁溝幅	17深さ	2～8	

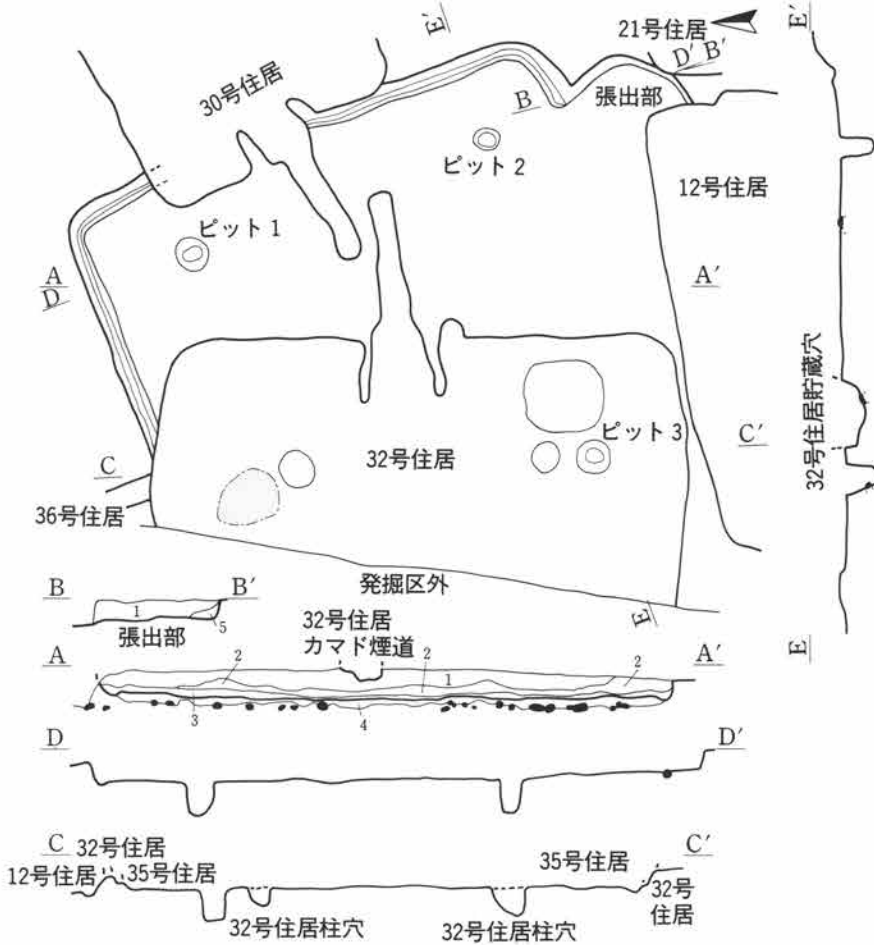
- 1 暗褐色土 砂質
青灰色土ブロックを多く含む
- 2 暗褐色土 炭化物を多く含む
- 3 明褐色土 粘質
褐色土ブロックを混合

水糸高さ72.900m

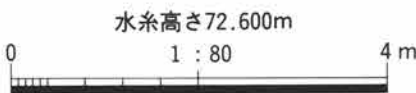


第971図 田端地区E区34号住居跡

2枚の床面を確認した。主柱穴とみられるピットはピット1～3で、それぞれの計測値は表の通りである。壁溝は西辺・南辺を除き、巡っている。カマドは検出していない。北西部の壁際床面には灰・炭化物が分布していたが、焼土は粒子が散布している程度であり、カマド袖部等も検出できなかった。30・32号住居を作る際に破壊されたのかもしれない。貯蔵穴は検出していない。



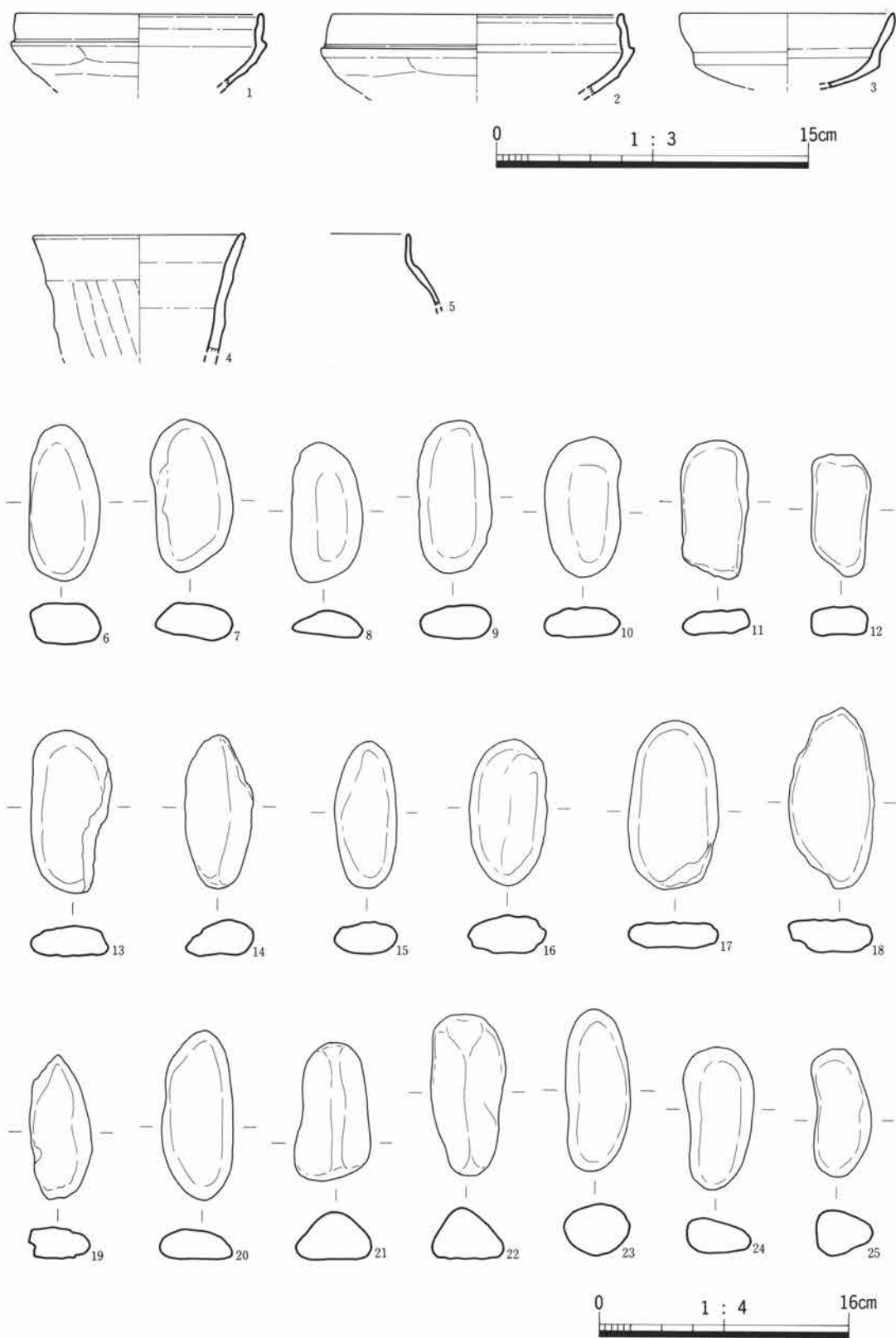
- 1 褐色土 青灰色粘質土ブロック・灰褐色土ブロック・炭化物粒を含む
- 2 灰褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む
- 3 褐色砂質土・青灰色粘質土・黄褐色粘質土のブロック状混合
- 4 青灰色粘質土・褐色粘質土の混合、床下の土
- 5 黄褐色土 砂質



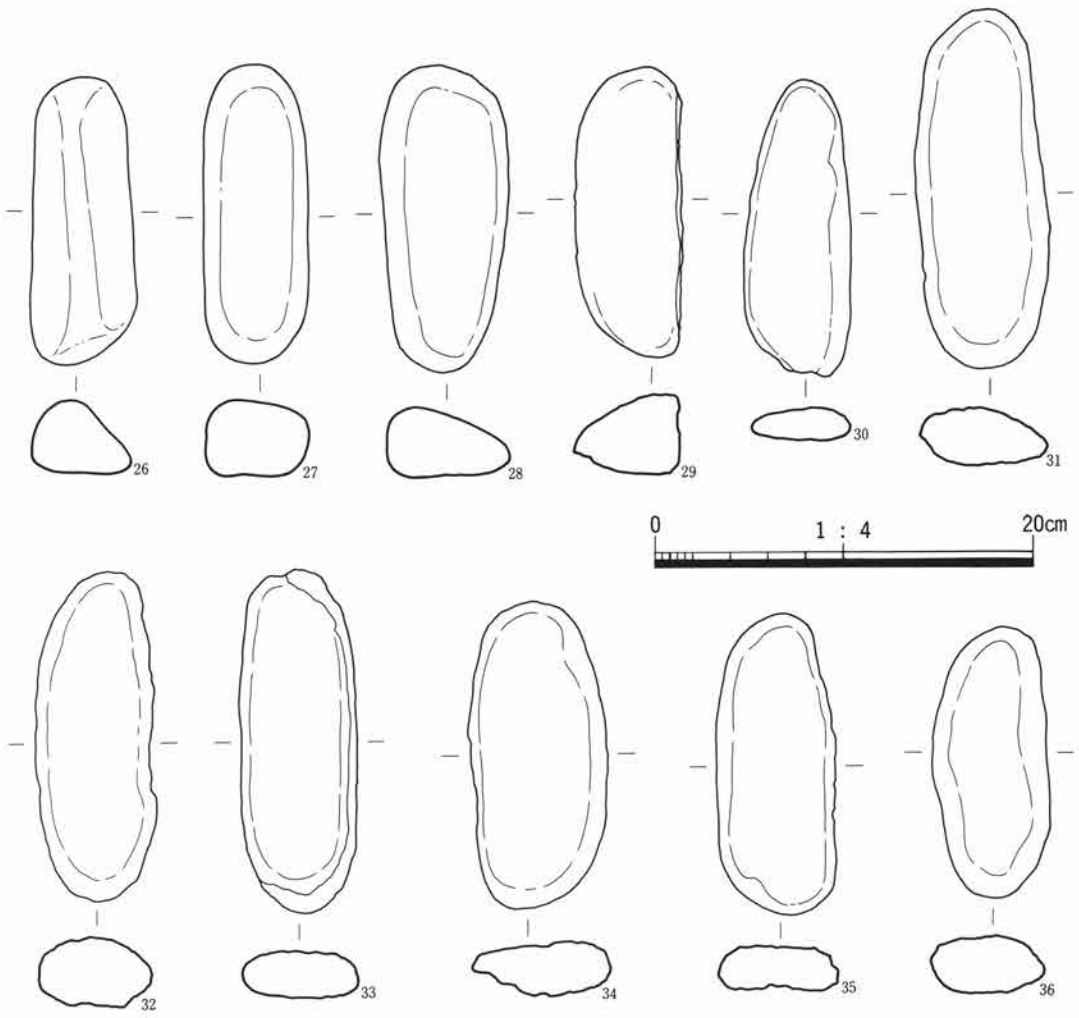
田端遺跡 田端地区E区35号住 (単位cm)

平面形	方形	規模	553×547		
面積	(30.2) m ²	壁高	15～21		
長軸方位	N161°E				
壁溝幅	18	深さ	2～5		
主柱穴	1	2	3	4	
上バ径	35	27	36		
下バ径	15×20	16	16×20		
深さ	31	36	33		
主柱穴間の距離 (心心)					
	1-2	335	2-3	354	

第972図 田端地区E区35号住居跡



第973図 田端地区E区35号住居跡出土遺物(1)



第974図 田端地区E区35号住居跡出土遺物（2）

第26表 田端地区E区35号住居跡出土遺物観察表 石類

単位cm, g

番号	種類	タテ×ヨコ	厚さ	重さ	備考
6	石	9.9×4.5	2.6	212	横断面略長方形。偏平な石。石質緑色片岩。④TAYE35-1
7	〃	9.7×5.0	2.1	182	偏平な石。石質緑色片岩。④TAYE35-2
8	〃	8.8×4.5	1.6	100	偏平な石。一端割れ。石質黒色片岩。④TAYE35-3
9	〃	9.6×4.5	2.2	169	偏平な石。石質緑色片岩。④TAYE35-4
10	〃	8.8×4.7	1.9	146	偏平な石。石質緑色変岩。④TAYE35-5

第V章 遺構と遺物

番号	種類	タテ×ヨコ	厚さ	重さ	備考
11	石	8.7×4.3	1.5	110	一端に異質の石。石質雲母石英片岩。④TAYE35-6
12	〃	7.7×3.6	1.8	97	偏平な石。最小。石質黒色片岩。④TAYE35-7
13	〃	10.4×4.9	1.9	154	偏平な石。両端に擦れあり。長側面に割れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-8
14	〃	9.8×4.4	2.2	138	やや偏平な石。両端に擦れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-9
15	〃	9.4×4.0	2.0	117	偏平な石。両端に擦れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-10
16	〃	9.2×4.9	2.4	182	偏平な石。両端に擦れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-11
17	〃	10.7×5.8	1.6	171	偏平な石。両端に擦れあり。一端割れ。石質黒色片岩。④TAYE35-12
18	〃	11.4×5.5	2.0	181	偏平な石。一端割れ。石質雲母石英片岩。④TAYE35-13
19	〃	9.2×3.8	1.9	98	偏平な石。長側面割れ。石質黒色片岩。④TAYE35-14
20	〃	10.7×4.5	1.8	158	偏平な石。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE35-15
21	〃	8.7×4.9	3.1	192	横断面略三角形。中央部ややくびれる。石質粗粒安山岩。④TAYE35-16
22	〃	10.4×4.5	3.3	235	横断面略三角形。石質粗粒安山岩。④TAYE35-17
23	〃	10.3×4.2	3.3	200	横断面略楕円形。一端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE35-18
24	〃	9.0×4.2	2.2	130	やや偏平な石。表面摩滅。石質変質デイサイト。④TAYE35-19
25	〃	8.2×3.5	2.9	137	横断面略三角形。両端擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE35-20
26	〃	15.0×5.7	3.8	574	横断面略三角形。両端に擦れあり。石質粗粒安山岩。④TAYE35-21
27	〃	15.8×5.6	3.9	689	横断面略長方形。両端に擦れあり。石質変質安山岩。④TAYE35-22
28	〃	16.2×6.5	3.8	596	偏平な石。横断面略三角形。両端に擦れあり。石質変質安山岩。④TAYE35-23
29	〃	15.3×5.8	4.2	558	横断面略三角形。両端に擦れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-24
30	〃	15.6×5.7	1.8	248	偏平な石。両端割れ。石質雲母石英片岩。④TAYE35-25
31	〃	18.9×6.7	3.0	577	偏平な石。両端に擦れあり。石質緑色片岩。④TAYE35-26
32	〃	17.3×6.1	3.6	585	偏平な石。両端に擦れあり。石質緑色片岩。④TAYE35-27
33	〃	18.1×6.1	2.4	492	偏平な石。一端擦れ。一端割れ。石質黒色片岩。④TAYE35-28
34	〃	16.2×7.4	2.8	518	偏平な石。両端に擦れあり。長側面中央割れ。石質黒色片岩。④TAYE35-29
35	〃	15.8×6.2	2.3	428	偏平な石。両端に擦れあり。長側面割れ。石質雲母石英片岩。④TAYE35-30
36	〃	14.2×6.1	3.0	415	偏平な石。両端に擦れあり。石質黒色片岩。④TAYE35-31

遺物は南東部で10～20cm大の石が集中して出土し、ほかに南西部からも出土している。灰の分布していた北東部からは、長さ35cm・幅13cmほどの石が出土している。また、覆土から滑石の小片が出土した。第972図1は南西隅の床面から、2は中央南寄り床面から、3は北辺西寄り床面から、4は中央東寄り床面から、5は中央西寄り床面から出土した。6～36はサイズの揃った石で、6～25は10cm大、26～36は20cm大のものである。これらの石は南東隅の床面からまとめて出土した。石の機能・用途は不明である。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

田端E区第36号住居跡（第975図）

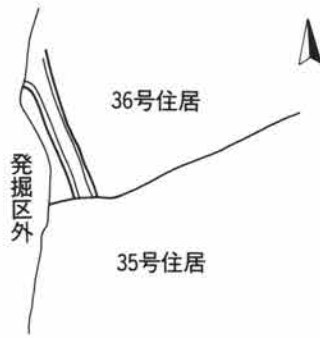
Q-Rライン・71km040m付近で検出した。確認面は第10層である。32・35号住居と重複しており、36→32号の順に新しい。本住居はカマド煙道の一部または壁溝の一部とみられる細い溝を検出したのみである。南側に接して32号住居があり、その壁の内側床面に灰・炭化物が分布していたことから、32号住居カマド煙道の一部とも考えられる。また西側の調査区外に住居本体のある住居のカマド煙道の一部である可能性がある。さらにカマド煙道ではなく、壁溝に焼土粒子が流れ込んだ場合も考えられ、これらを限定する積極的な根拠がない。従って、ここでは調査当時付けた番号をそのまま生かし、住居の一部であるとの推定にとどめたい。

遺物の出土はなく、時期は不明である。

田端E区第37号住居跡（第976・977図、図版345）

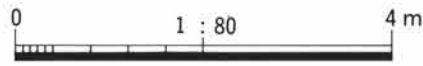
Oライン・71km040m付近で検出した。確認面は第10層である。7・8号住居と重複しており、37→7号の順に新しい。8号との関係は不明である。本住居はカマドの痕跡を発見したことから、周辺を精査したところ掘形の痕跡も検出することができた。しかし、掘形はそのまま生活面での住居の立ち上がりを示すものではないので、計測値表の数値は参考程度である。カマドは西辺に設置されており、燃烧部の半分が壁外に突出するタイプと考えられる。北部中央から土器片が出土している。第977図1は床下から出土した甕の口縁部片で、ほかに接合しないが同一個体とみられる破片が床下から出土している。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

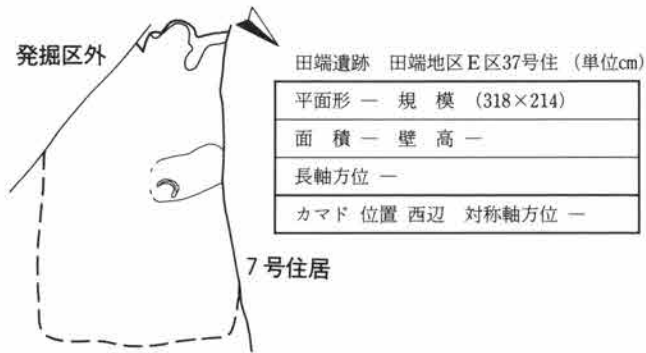


田端遺跡 田端地区E区36号住居
(単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	—
長軸方位	—		



第975図 田端地区E区36号住居跡

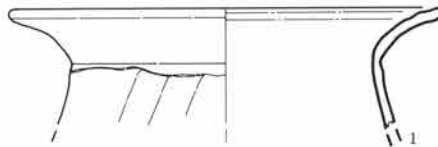


田端遺跡 田端地区E区37号住居 (単位cm)

平面形	—	規模	(318×214)
面積	—	壁高	—
長軸方位	—		
カマド位置	西辺 対称軸方位 —		



第976図 田端地区E区37号住居跡



第977図 田端地区E区37号住居跡出土遺物

3 寺東地区

寺東地区第1 a・1 b号住居跡（第978～985図、図版313・346・347・348）

J-Mライン・70km938m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第1次調査と第3次調査で検出したものである。1・4号溝と重複し、1 b→1 a→1・4号溝の順に新しい。1 a住居は1 b住居を切っており、1 bよりも床面が深い。東側は調査区外にあり、西側は1号溝によって失っている。

1 a住居跡 覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、中央部がややくぼむ。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドはA・B・Cの3カ所に検出したが、1 a住居に属するのはA・Cカマドである（Bカマドは1 b住居に属することが、1 a住居の調査終了後Aカマド周辺を掘り下げて判明した）。

Aカマドは第3次調査で検出したもので、南辺に設置され、煙道の向きをやや西寄りに振っている。燃烧部が壁の内側にあるタイプである。左袖部の先端部からは何も出土しなかったが、焚口に倒れて出土している甕の口縁部スタンプとみられる痕跡を検出した。右袖部の先端に据えられた石が同じく、向かって右側に傾いていることと合わせると、西方向に向かう力が働いたと考えられる。右袖部の基部には袖に平行な方向で甕が据えられており、その周囲に粘土を貼って袖部を形成していた。カマド右脇からは10～20cmの石が12個出土している。



第978図 寺東地区1 a・b号住居跡（1）



第979図 寺東地区1 a・b号住居跡(2)



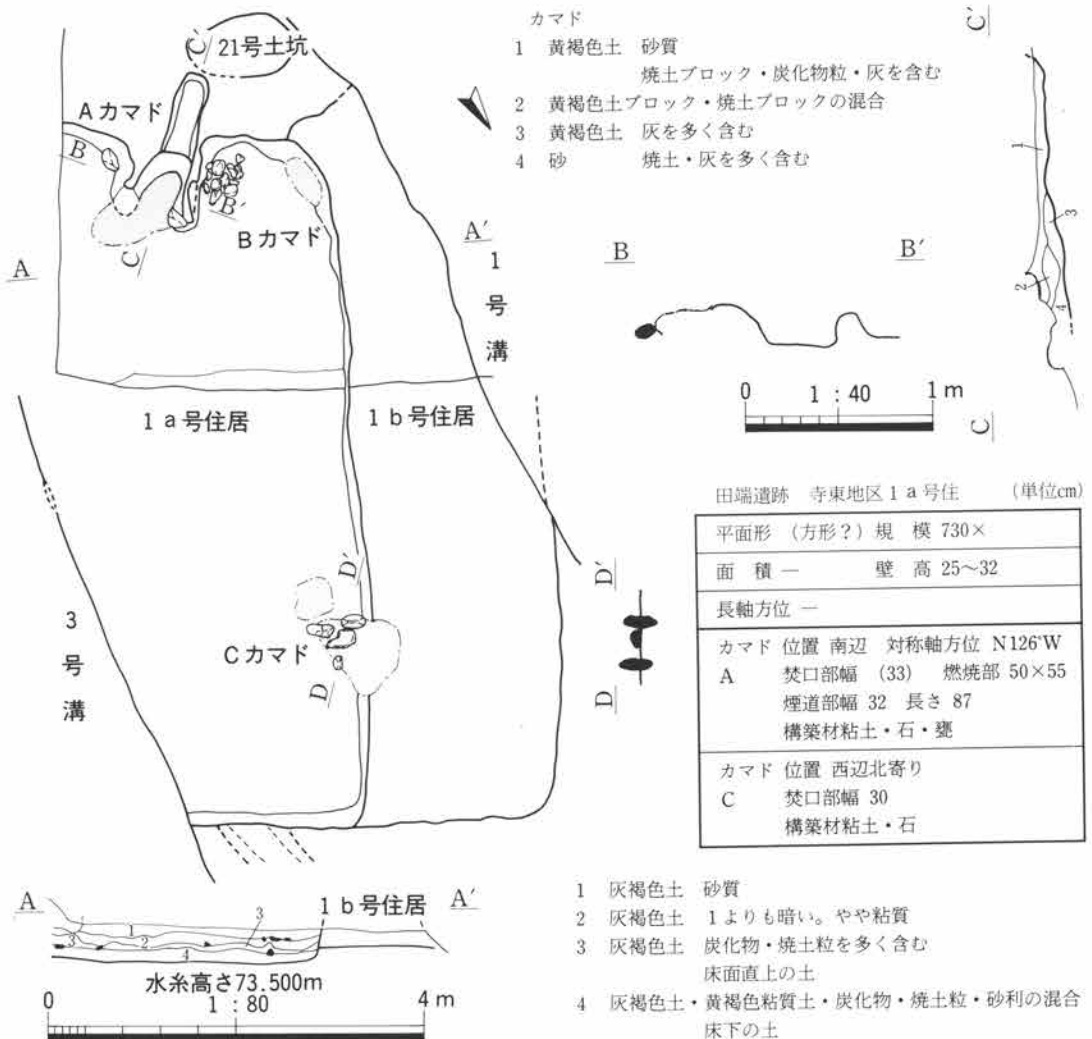
第980図 寺東地区1 a・b号住居跡(3)

Cカマドは第1次調査で検出したもので、西辺北寄りに設置されていた。左右の袖の基部に立てた状態の石が出土し、その周辺には焼土・炭化物・灰が散布していた。立石の中央からは長さ50cmほどの石が割れて出土している。焚口天井部に架けたものかもしれない。Cカマドの周囲からは多量の土器が出土した。

なお、本住居は調査中に、覆土から多量の石が出土している。

遺物はCカマド周辺、Aカマド周辺から出土した。第983・984図1・2・4・6・8・13・17は西辺北寄り壁際床面（Cカマド前）から、3・7・9は西辺中央壁際床面から、5・12は西辺北寄り床面から、10は北西隅床直上から、11はAカマド燃焼部から、14・16・20はAカマド前床面から、15はAカマド左脇床面から、18はAカマド右脇床面から、19は西辺南寄り壁際床面から、21は中央南寄り床面からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀ころとみられる。本住居は2軒の可能性がある。

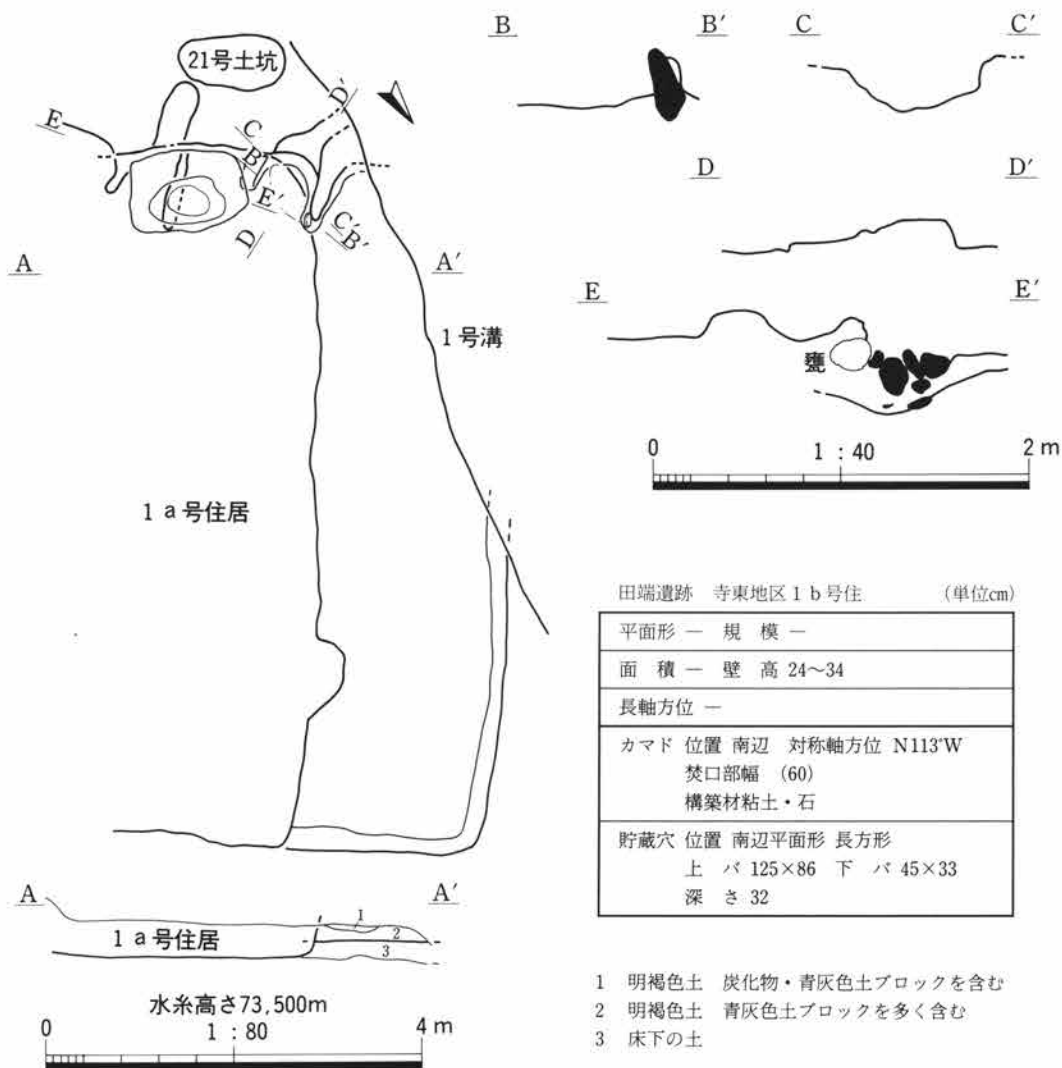


第981図 寺東地区1 a号住居跡

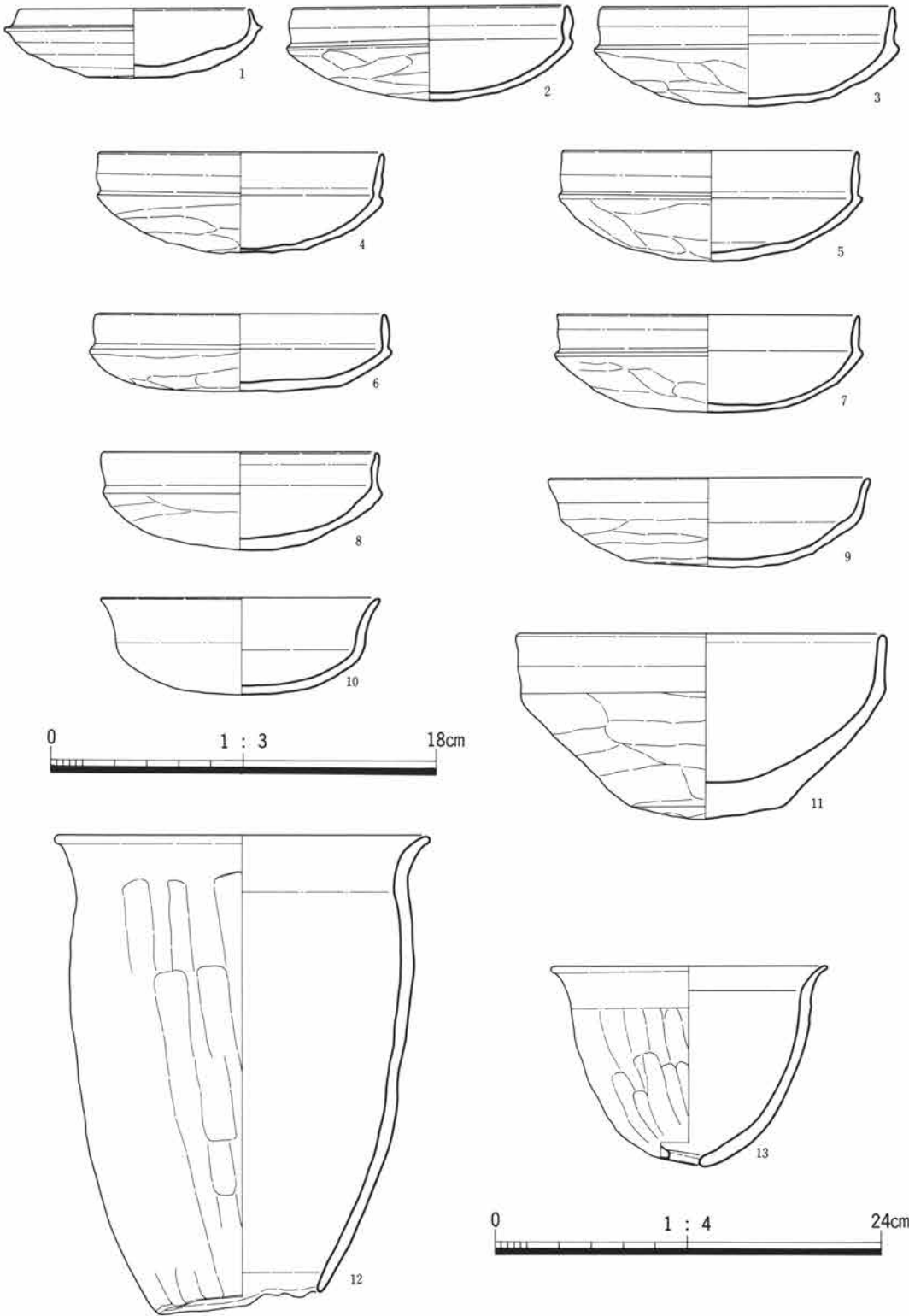
1 b 住居跡 本住居は1 a 住居の西側で検出したもので、1 a 住居と同じく2回に別けて調査された。1 a 住居と1号溝によってその大半を失っており、北西隅を検出したのみである。北辺は1 a 住居とほぼ重なっている。カマドは調査当時Bカマドと呼んだもので、1 a 住居の南西隅に位置している。左袖部は1 a 住居によって破壊されていた。カマドの対称軸は予想される南辺の方向に対して直角ではなく、やや西に振れている。右袖部先端からは立てた状態の石が出土した。焚口の基部と考えられる。貯蔵穴は1 a 住居Aカマドの燃焼部・右袖部の下から検出した。略長方形を呈し、最深部は南寄りであって、内部は二段に掘り込まれていた。壁溝・支柱穴とみられるピットは検出していない。

遺物は北西部で出土している。第985図1は北西隅床直上から、2は北辺壁際床面から、3は貯蔵穴内からそれぞれ出土した。

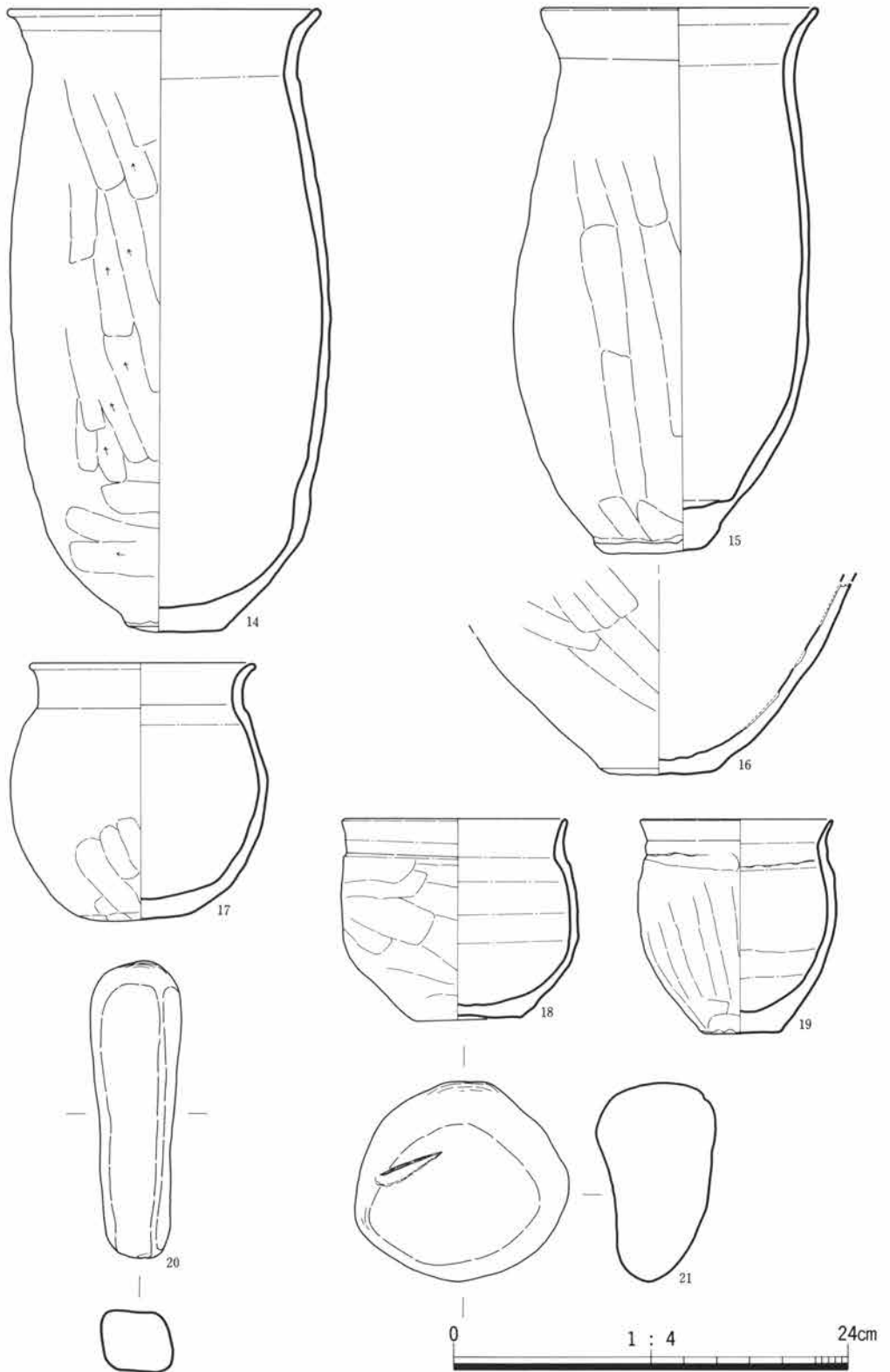
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第982図 寺東地区 1 b 号住居跡



第983図 寺東地区1a号住居跡出土遺物(1)



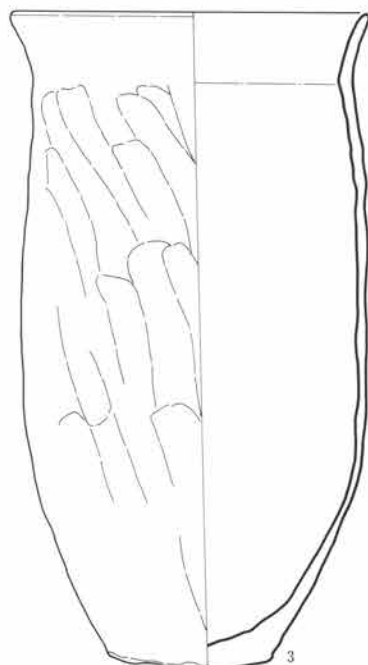
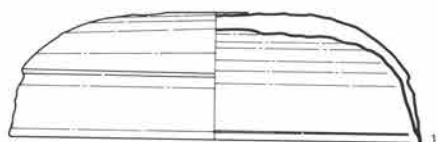
第984図 寺東地区1a号住居跡出土遺物(2)

寺東地区第4号住居跡（第986・987・989図、図版314・348）

Nライン・70km943m付近で検出した。確認面は第7層である。本住居は南西隅と南東隅を検出したのみで、北半部はトレンチ調査時に削平してしまったため、全体のプランは不明である。東辺の北寄りには調査時に掘り過ぎてしまい、カマド北半分を失っている。壁は浅く、12cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面はカマド前でのみ検出し、他の部分では確認できなかった。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に検出したが、前述のとおり南半分の調査しかできなかった。右袖部に18cmほどの高さの石を据えていた。カマド前の床面は堅くしまっている。

遺物はカマド周辺からいくつか出土している。第989図1はカマド右脇床直上から、2はカマド前床面から、3は北西寄り床直上からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



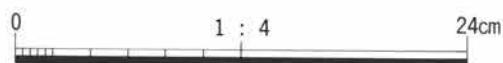
寺東地区第10号住居跡

（第988・990・991図、図版314・315・349）

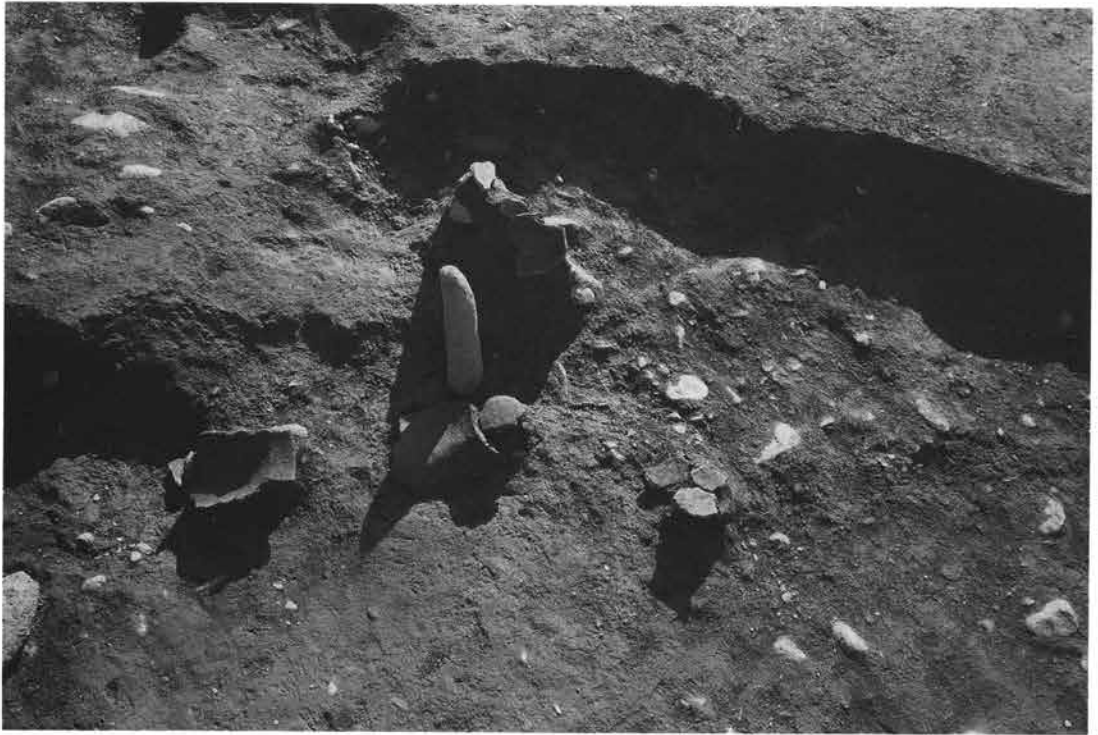
Kライン・70km932m付近で検出した。確認面は第7層である。6号住居と重複しており、10→6号住居の順に新しい。本住居は1次調査と2次調査とに分けて発掘され、北半は1次調査、南半は2次調査の範囲に相当する。西側は3号溝によって切られている。1号住居との重複関係は確認できなかった。全体に略方形ないし長方形を呈している。覆土は自然に堆積している。壁は斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、煙道は約100cm遺存していた。煙道の燃烧部寄りには焼けて、堅く締まっていた。

遺物は住居中央部、南辺近くから出土している。第991図1は南辺中央壁際床直上から、3は中央床面からそれぞれ出土した。2は覆土出土の参考品である。

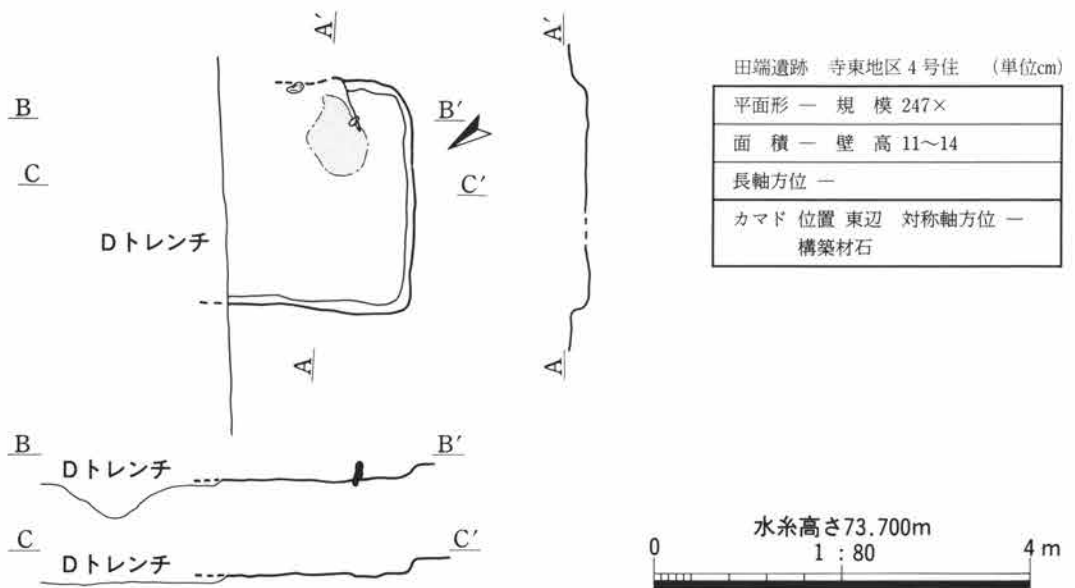
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第985図 寺東地区1b号住居跡出土遺物



第986図 寺東地区4号住居跡



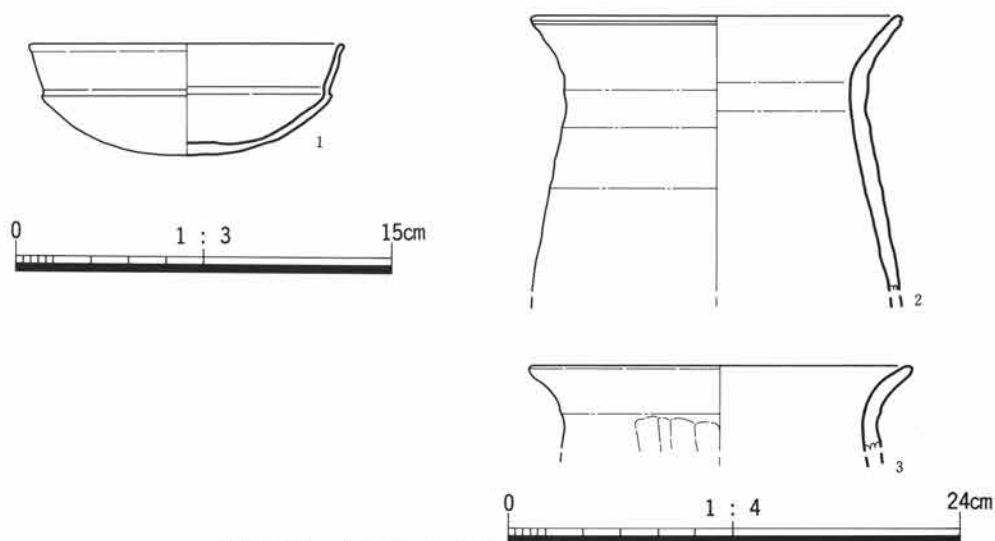
第987図 寺東地区4号住居跡

寺東地区第11号住居跡（第993図、図版315）

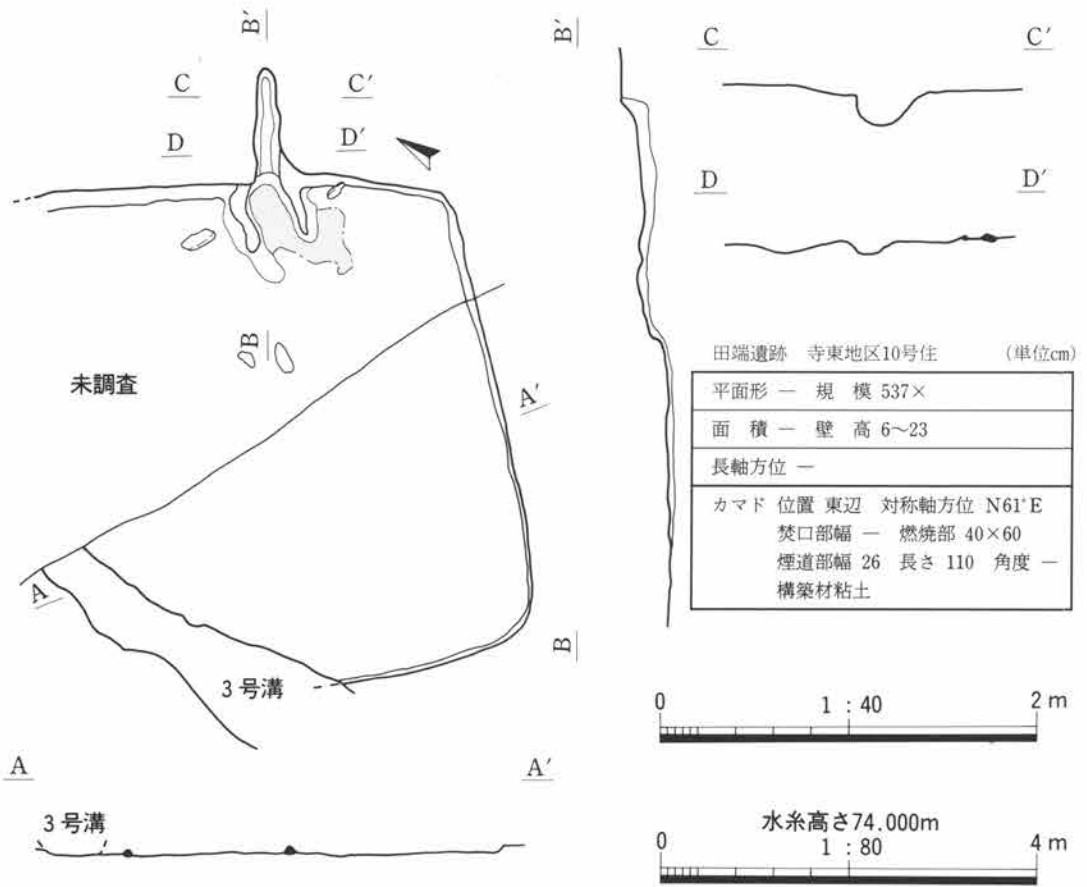
Mライン・70km934m付近で検出した。確認面は第7層である。本住居は北半部を欠き、南西隅は調査当時使用中の農道下にあったため、確認できなかった。西辺と東辺の間隔は北に向かって狭くなり、南東部はやや張り出す。遺存状態からみて、南北方向に長軸をもった台形を呈するプランであったと考えられる。覆土は自然に堆積している。壁は西辺の農道寄りでも最も高く、その他のところでは10cm前後で、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、東辺近くはやや低くなる。支柱穴とみられるピット・壁



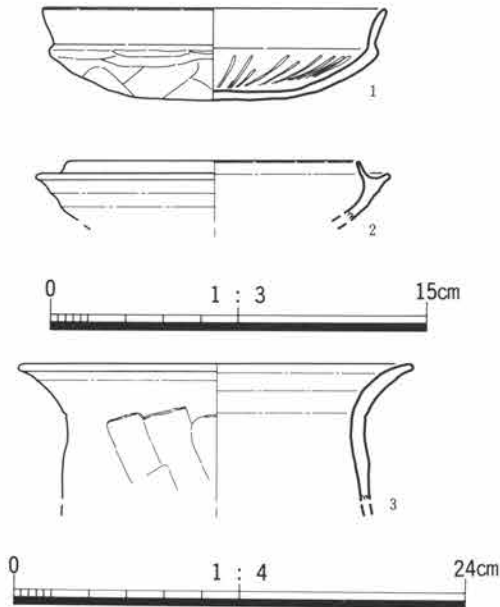
第988図 寺東地区10号住居跡



第989図 寺東地区4号住居跡出土遺物



第990図 寺東地区10号住居跡

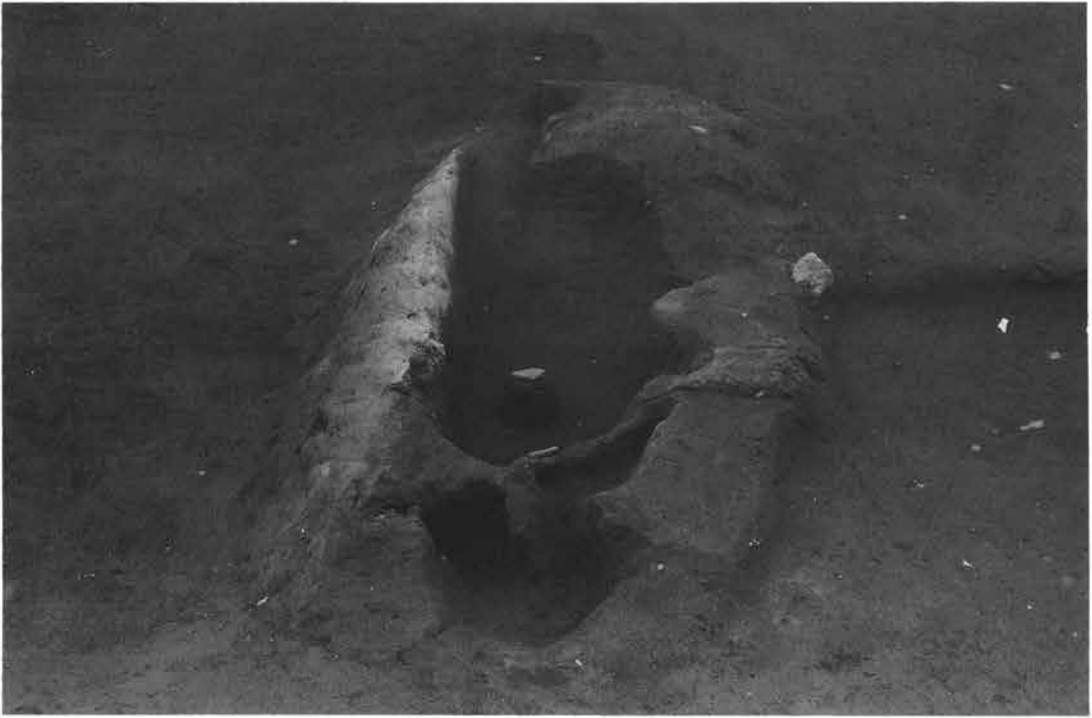


第991図 寺東地区10号住居跡出土遺物

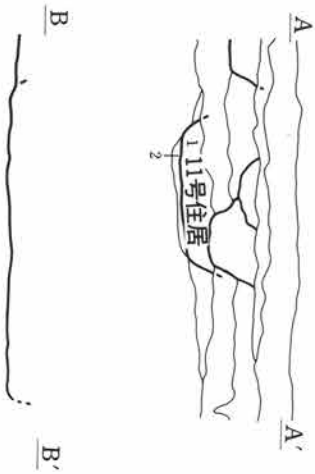
溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは発見できなかったが、東辺に10~20cm大の石が出土し、その周辺の床面には焼土・灰・炭化物が分布していた。

遺物は東辺寄りからいくつか出土しているが、すべて覆土出土の小片であり、図示しなかった。

時期は6~7世紀代か。



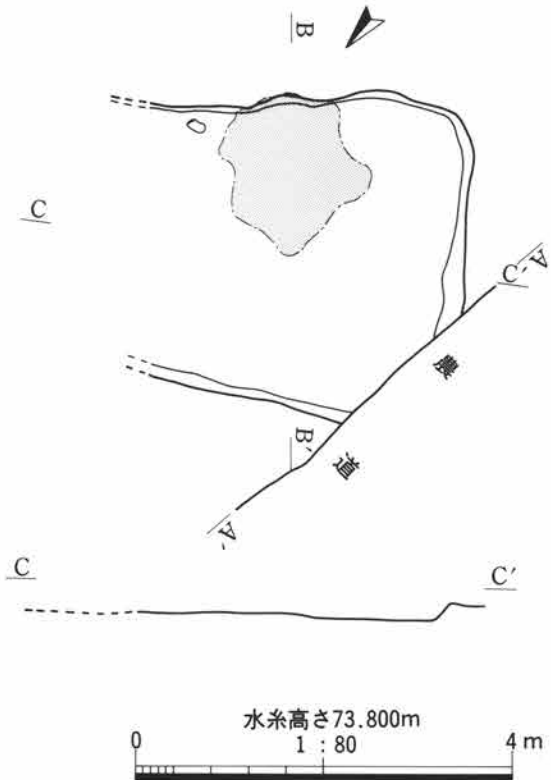
第992図 寺東地区13号住居跡



田端遺跡 寺東地区11号住 (単位cm)

平面形	— 規模 323×347以上
面積	— 壁高 5~33
長軸方位	N53°E

- 1 明褐色土 粘質
小石を多く含む
- 2 灰褐色土 粘質
小石を含む



第993図 寺東地区11号住居跡

寺東地区第13号住居跡 (第992・994・995図、図版316・349)

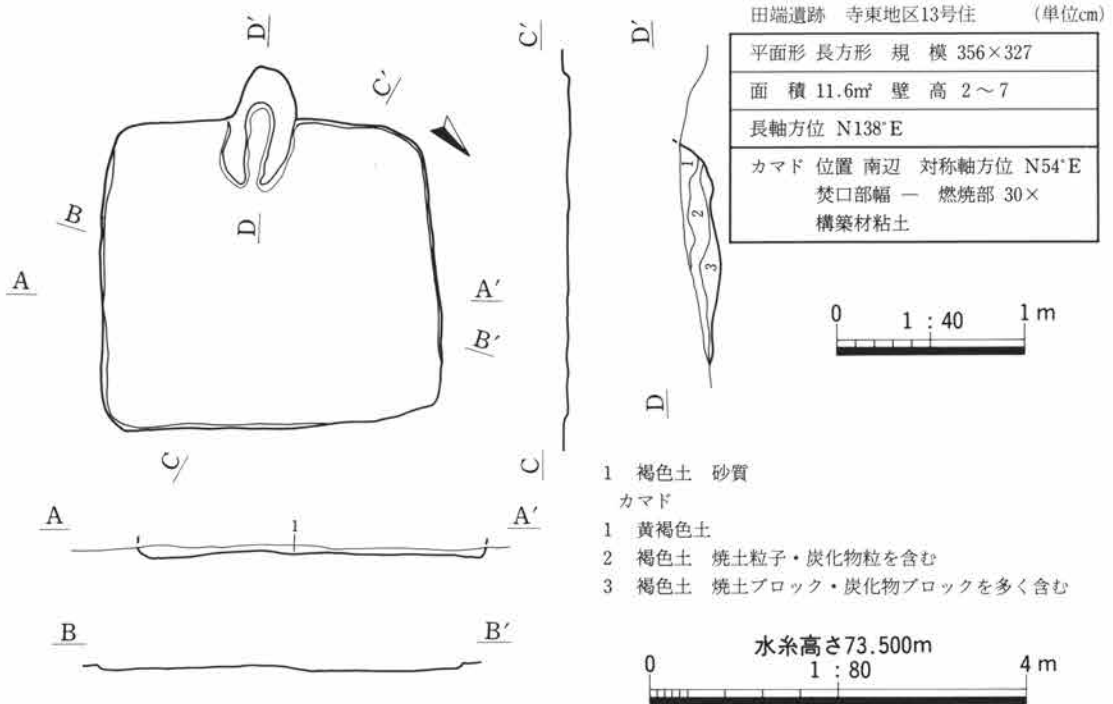
Jライン・70km928m付近で検出した。確認面は第7層である。本住居は第2次調査で検出したもので、ほぼ全形を確認することができた。全体に長方形を呈し、西辺は東辺に比べてやや短い。壁は浅く5cm前後である。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは南辺に設置されていた。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプである。

遺物は少なく、第995図1は東辺壁際覆土出土の参考品である。

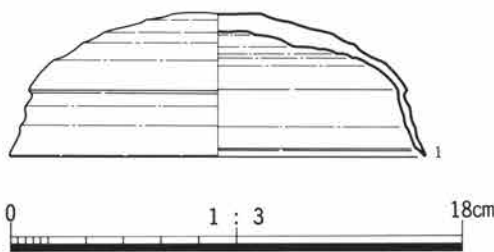
時期は6世紀後半頃か。

寺東地区第14号住居跡 (第996・997図、図版316・349)

J-Kライン・70km923m付近で検出した。確認面は第7層である。8・16号住居と重複しており、14→8、14→16号の順に新しい。本住居は第2次調査で検出したもので、大半は北側の第1次調査区内にあるが、第1次調査では検出してない。プランは南東隅を検出したのみである。覆土は自然に堆



第994図 寺東地区13号住居跡



第995図 寺東地区13号住居跡出土遺物

積している。壁は浅く、10cm前後が遺存していた。床面は細かい凹凸があり、一部では小石が露出していた。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。カマドは南辺に設置されていた。左右の袖部に石を据えており、焚口天井部に架けられてたとと思われる長さ55cmの石が落ちていた。燃焼部は

壁外に突出するタイプである。燃焼部から煙道部にかけて上層から土坑が掘り込まれており、その境界付近に立てた状態の石が出土した。支脚の可能性はある。

遺物は土器片がいくつか出土しているが、図示できるのは第997図1のみである。1は東辺寄りの床面から出土した。

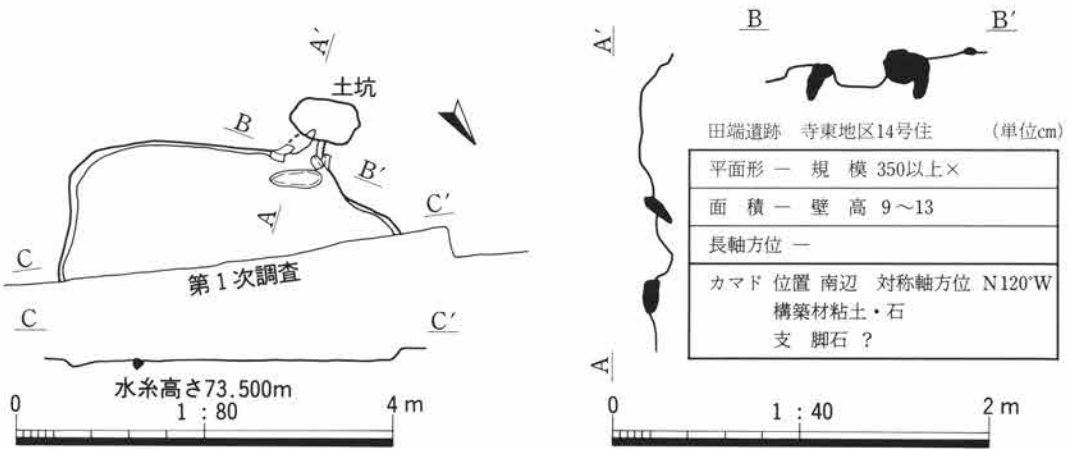
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第15号住居跡（第998～1001図、図版317・349）

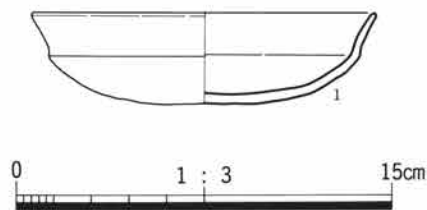
I-Jライン・70km922m付近で検出した。確認面は第7層である。本住居は第2次調査で検出したもので、住居の大半は南側の調査区外にある。カマドの調査記録から、本住居の北東隅と北西隅とは、さらに北側に位置することが判明した。甕が伏せた状態でカマド袖基部に据えられていることから、少なくともこの位置までが住居壁の内部にあったと考えられる。覆土は自然に堆積している。壁は比較的深く、20cm前後が遺存していた。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺のほぼ中央に設置されていた。燃焼部が壁外に突出するタイプである。

遺物はカマド内、カマド周辺から多く出土している。第1001図1はカマド右脇床面から、2は北東隅床面から、3はカマド内底面から、5はカマド内左奥から、6はカマド内からそれぞれ出土した。4は覆土出土の参考品で、内外面は黒色を呈し、研磨を施さないものである。

時期は6世紀後半～7世紀ころとみられる。



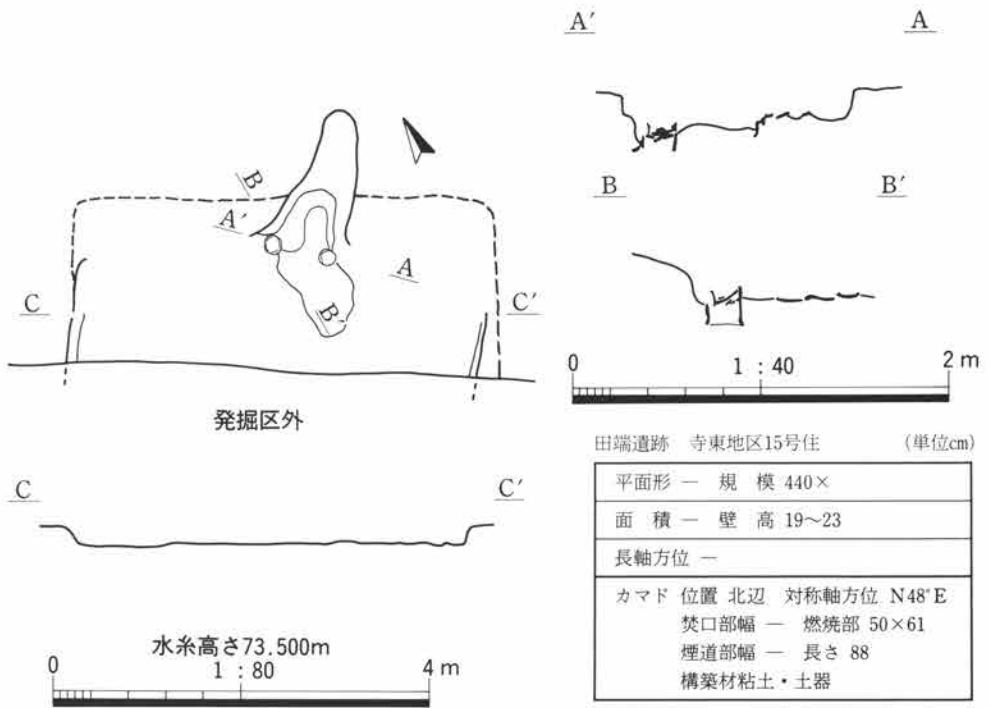
第996図 寺東地区14号住居跡



第997図 寺東地区14号住居跡出土遺物



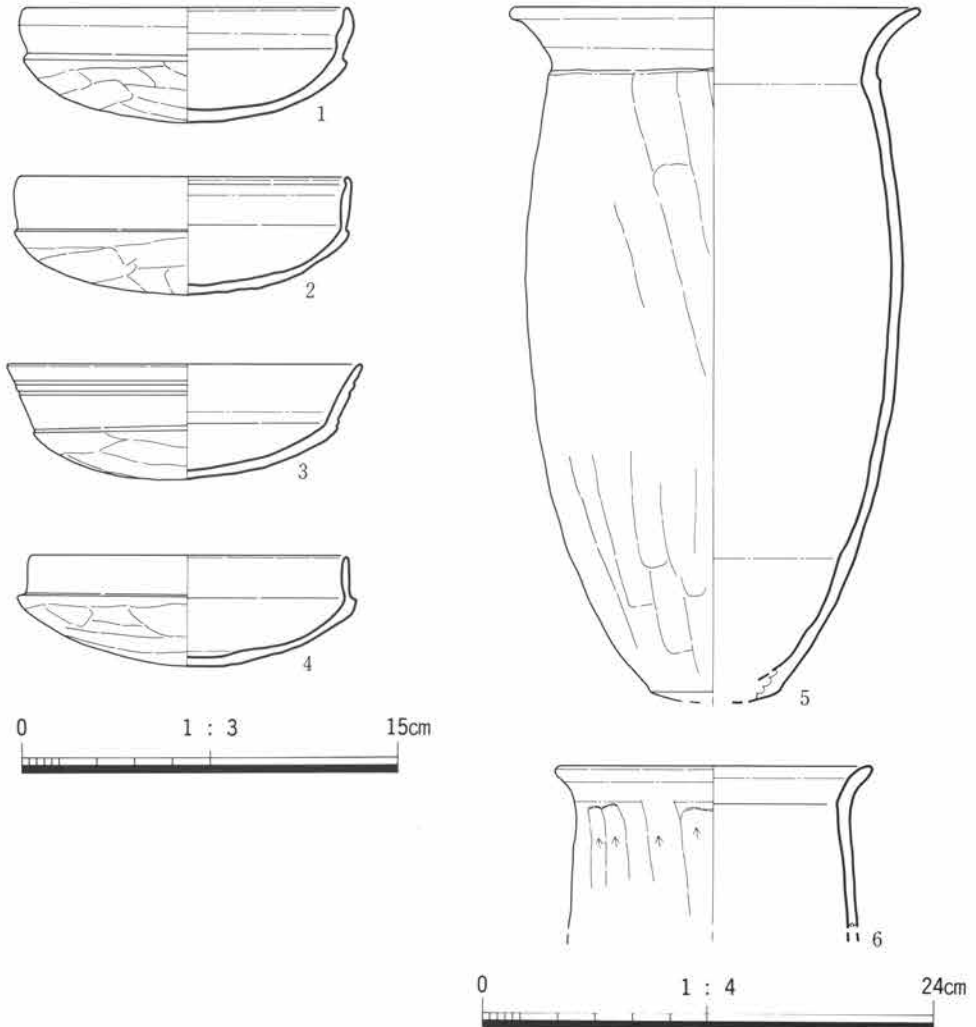
第998図 寺東地区15号住居跡（1）



第999図 寺東地区15号住居跡



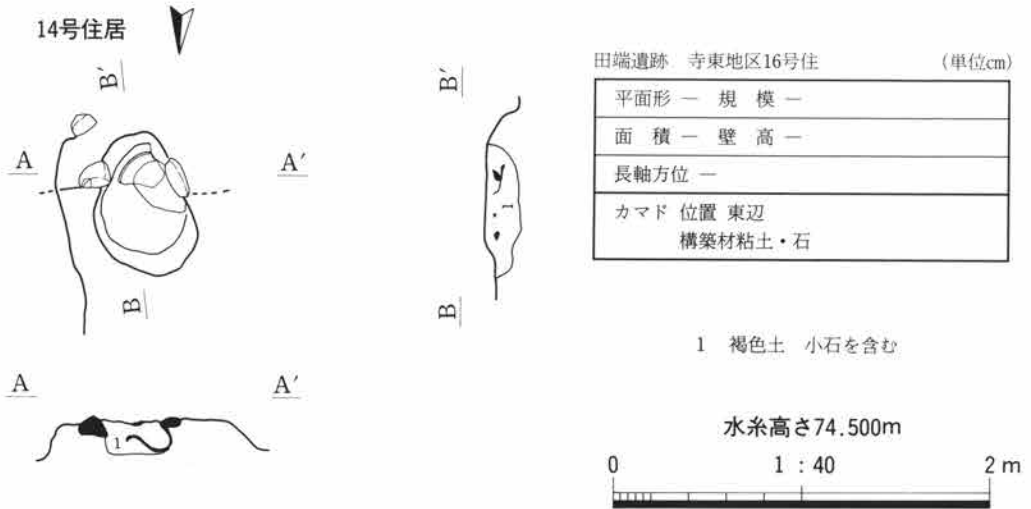
第1000図 寺東地区15号住居跡（2）



第1001図 寺東地区15号住居跡出土遺物

寺東地区第16号住居跡 (第1002・1003図、図版318・350)

J-Kライン・70km925m付近で検出した。確認面は第7層である。14号住居と重複しており、14→16号の順に新しい。本住居は第2次調査で検出したが、カマド痕跡のみであり、住居のプランをつかむことができなかった。カマド燃焼部とみられる掘り込みからは、ごく少量の焼土を検出した。袖部と



第1002図 寺東地区16号住居跡

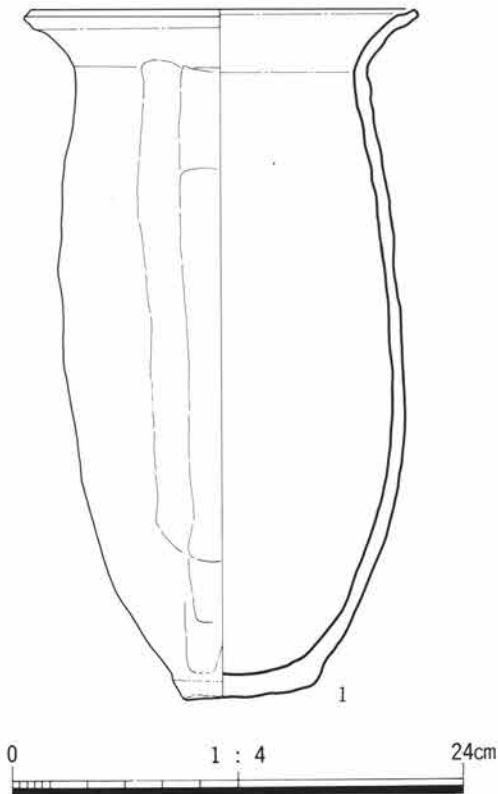
みられる部分に石が出土し、その中央西側寄りに略完形の甕が出土している。石の位置等から、住居本体は北側にあったものと推定できる。本住居は南側にカマドをもった住居であろう。

遺物は上記の甕のみで、第1003図に示した。時期は6世紀後半～7世紀ころとみられる。

寺東地区第17号住居跡

(第1005図、図版318)

Iライン・70km948m付近で検出した。確認面は第10層である。19号住居と重複しており、19→17号住居の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、住居の大半は南側の調査区外にある。調査で検出したのは北西隅とカマド煙道の一部である。煙道は長さ約125cmを検出したが、さらに住居内側に延びると推定できる。カマドは検出状況からみると、燃焼部が壁の内側にあるタイプと考えられる。壁は18cmが遺存し、斜めに立ち上がる。その他の詳細は不明である。



第1003図 寺東地区16号住居跡出土遺物

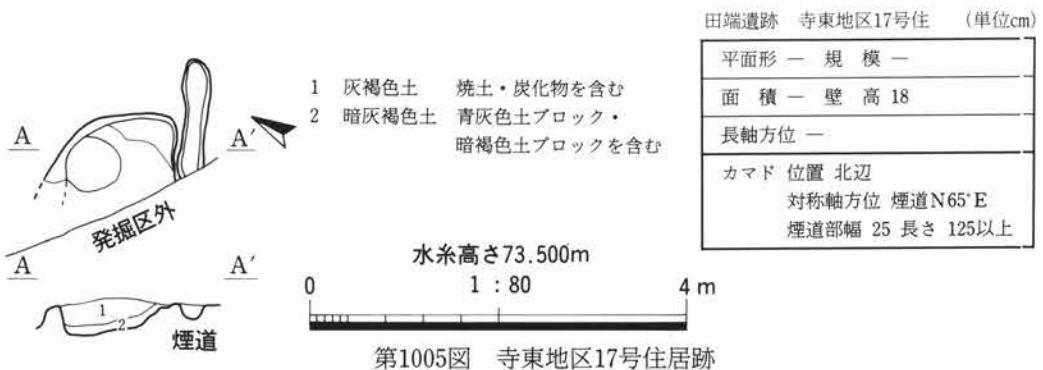
遺物は覆土出土の小片のみで、図示できるものがない。
 時期は不明である。

寺東地区第18号住居跡（第1004・1006・1007図、図版319・350）

J-Kライン・70km950m付近で検出した。確認面は第10層である。19・20号住居、15号溝と重複しており、19・20→18号住居→15号溝の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北東部は15号溝によって失っている。覆土は自然に堆積している。壁は10cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。



第1004図 寺東地区18号住居跡



第1005図 寺東地区17号住居跡

遺物は中央部から石がいくつか出土し、土器片がその間に散布していた。土錘が出土している。第1007図1は中央北東寄りの床面から、2は中央北西寄りの床面からそれぞれ出土した。ほかに甕の口縁部小片が中央床直上から出土しているが、図示しなかった。

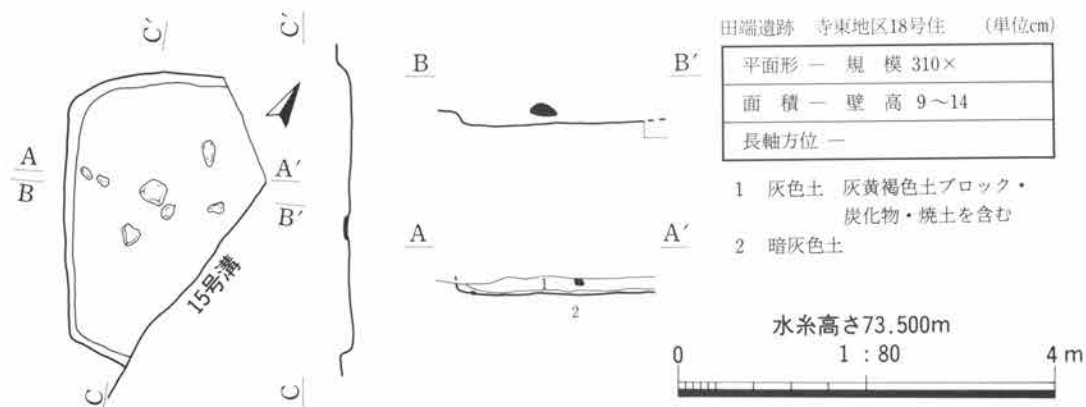
時期は6世紀後半～7世紀と見られる。

寺東地区第19号住居跡 (第1008～1011図、図版319・350・351)

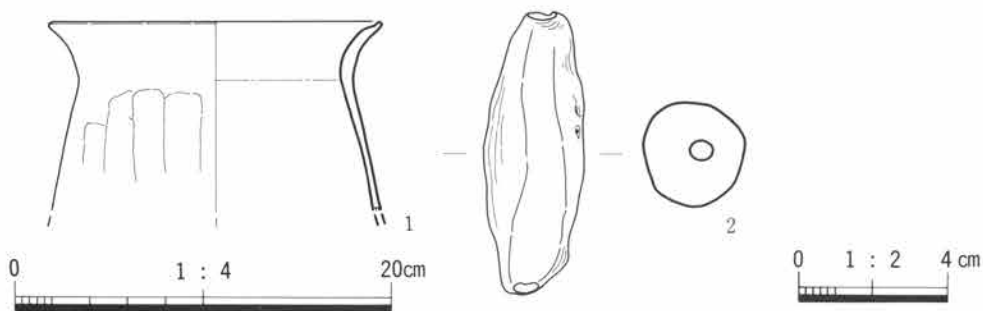
I-Jライン・70km948m付近で検出した。確認面は第10層である。17・18号住居、15号溝と重複している。これらは19→17・18→15号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、東部は溝によって失っている。北西隅を検出したのみで、南西隅は調査区外にある。東西500cm以上、南北450cm前後を測る。覆土は自然に堆積している。壁は15cmほど遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

遺物は全面に散布し、とくに東側の床面からは、壁際と住居中央部から甕の破片が出土している。第1011図1・4・6は中央南寄り床面から、2は中央北寄り床面から、3は北西隅の床面から、5は南辺壁際床面からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。



第1006図 寺東地区18号住居跡



第1007図 寺東地区18号住居跡出土遺物



第1008図 寺東地区19号住居跡（1）

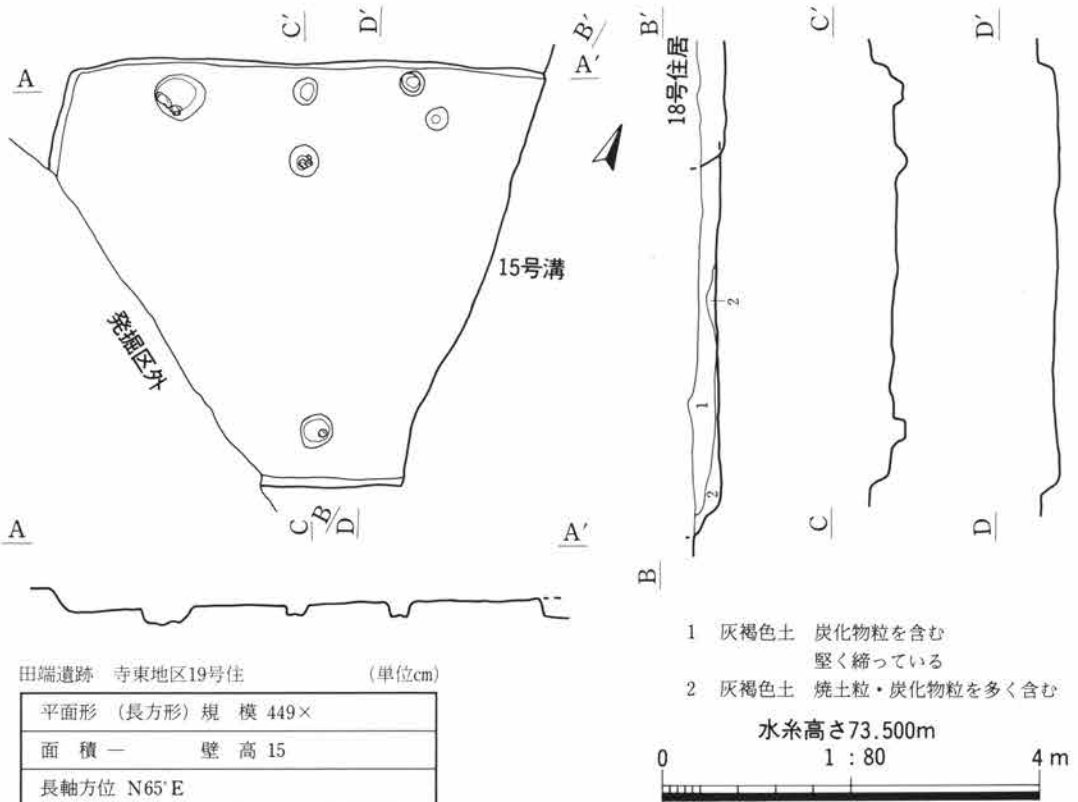


第1009図 寺東地区19号住居跡（2）

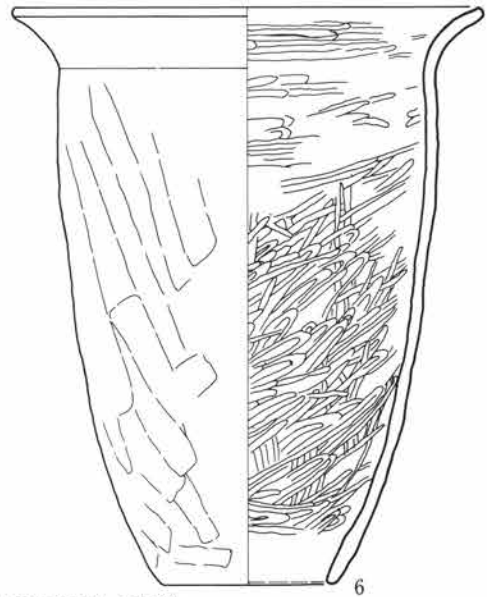
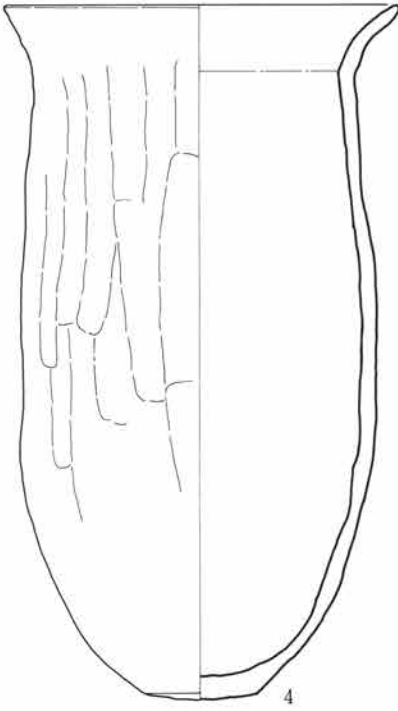
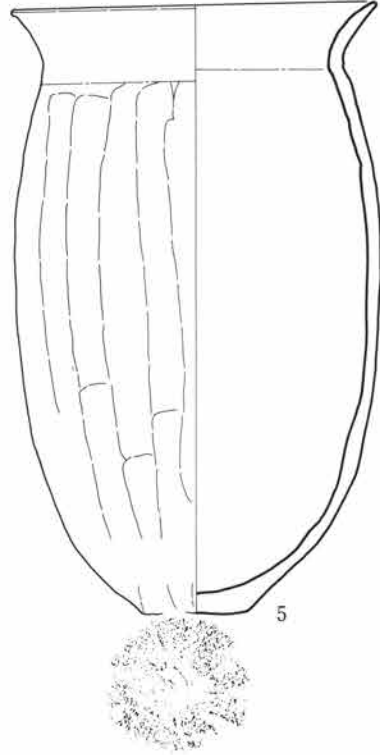
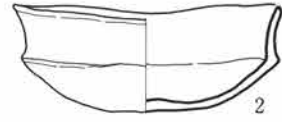
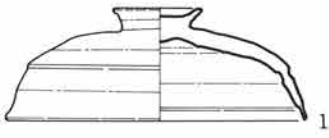
寺東地区第20号住居跡 (第1012～1017図、図版320・351・352)

I-Kライン・70km954m付近で検出した。確認面は第10層である。17・18・21・46号住居と重複している。本住居はこれらのうちで最も古く、第3次調査で検出したものである。調査手順の都合で2回に別けて調査したため、北東隅は検出できなかった。南西隅は調査区外にある。南東隅は18号住居によって切られ、やや不整形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットは4本検出した。ピット1～4がそれで、計測値は表の通りである。壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは3カ所で検出した。Aカマドは北辺東寄りに設置され、袖部が遺存していた。燃烧部が壁の内側にあるタイプである。煙道は約140cmほど検出したが、煙り出し部は調査区外にあるため全長は不明である。BカマドはAカマドの西側に設置され、煙道部のみ遺存していた。袖部・燃烧部は検出していない。Bカマド→Aカマドの順に新しい。Cカマドは西辺南寄りに設置されていた。袖部の一部、燃烧部の一部を検出したが、煙道部は調査区外にあるため、調査できなかった。

遺物は全面から出土しているが、とくにAカマドの周辺から多く出土している。第1016・1017図1はBカマド前の床面から、2は南辺壁際床直上から、3は南辺西寄り壁際床直上から、4はAカマド前の床直上から、5は中央南東寄りの床面から、6はAカマド前の床面から、7は南辺寄りの床直上から、8は中央北西寄りの床面から、9は西辺南寄り壁際から、10はBカマド前から、11はBカマド前の床面から、12は南東部床面とBカマド前床面出土の破片が接合、13はAカマド前の床直上から、



第1010図 寺東地区19号住居跡



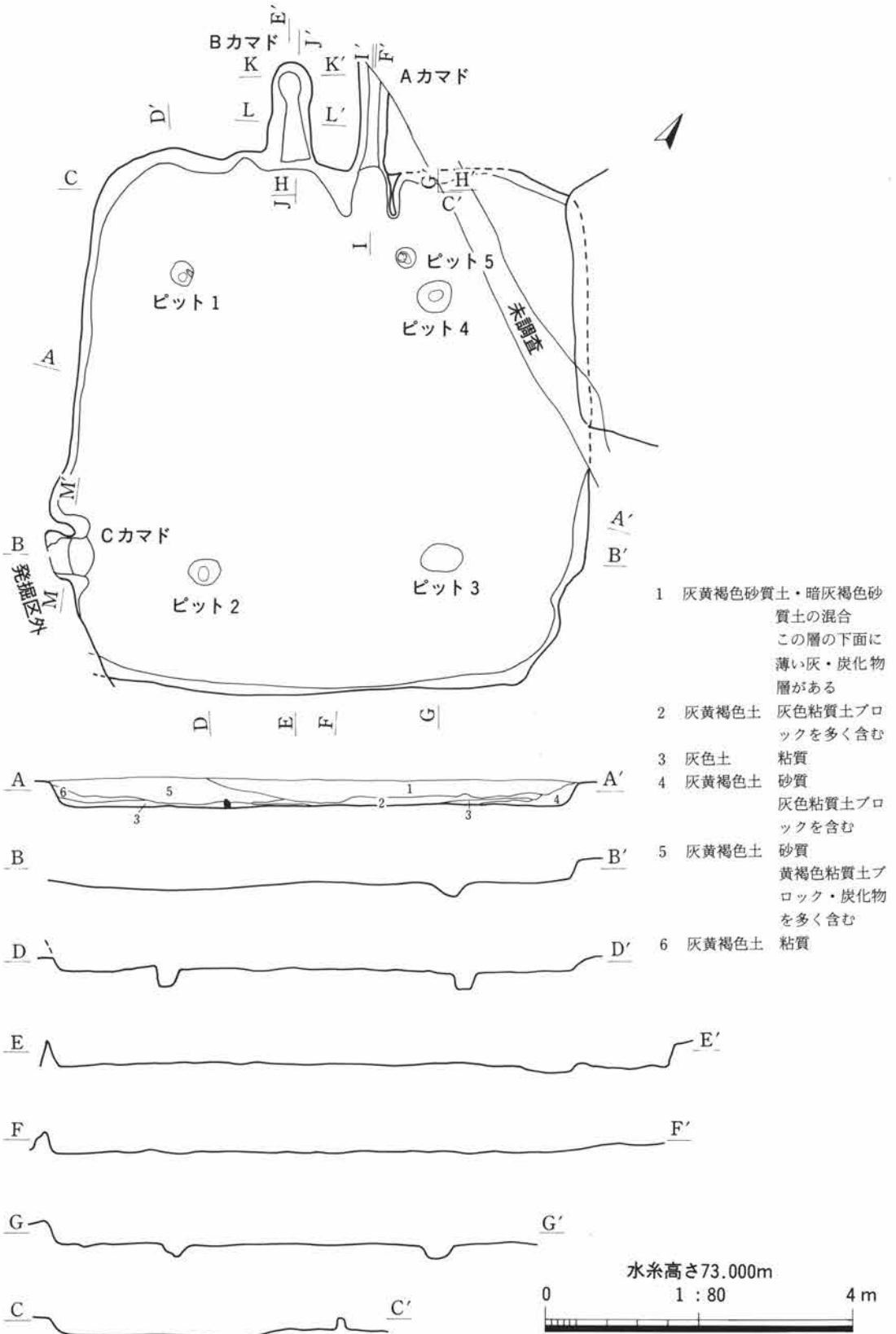
第1011図 寺東地区19号住居跡出土遺物



第1012図 寺東地区20号住居跡（1）



第1013図 寺東地区20号住居跡（2）



第1014図 寺東地区20号住居跡 (1)

14はAカマド前の床直上から、15はAカマド右脇の床面から、16は中央床直上からそれぞれ出土した。10は覆土出土の参考品である。

時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。

寺東地区第21・22号住居跡（第1018～1020図、図版320・352）

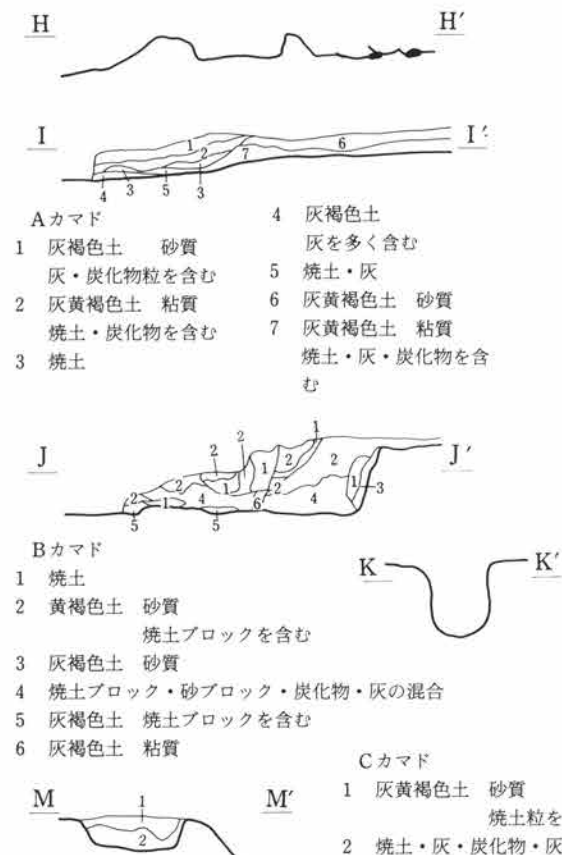
Iライン・70km958m付近で検出した。確認面は第10層である。22号のカマド煙道は20号住居にかかり、20→22号の順に新しく、また21・22号は重複しており、22→21号住居の順に新しい。従って、20→22→21号の順に新しいことになる。

21号住居は北東隅のみ検出し、大半は調査区外にある。22号住居はカマド煙道のみ検出した。両者の床面はわずかに22号の方が高く、21号がやや深い。21号の壁は30cm前後が遺存し、ほぼ直立する。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。Bカマドは煙道部のみ遺存し、長さ約80cmを検出した。

22号のAカマドは長さ約110cmの煙道を検出したが、住居本体も含めて調査区外にある。詳細は不明である。

田端遺跡 寺東地区20号住 (単位cm)

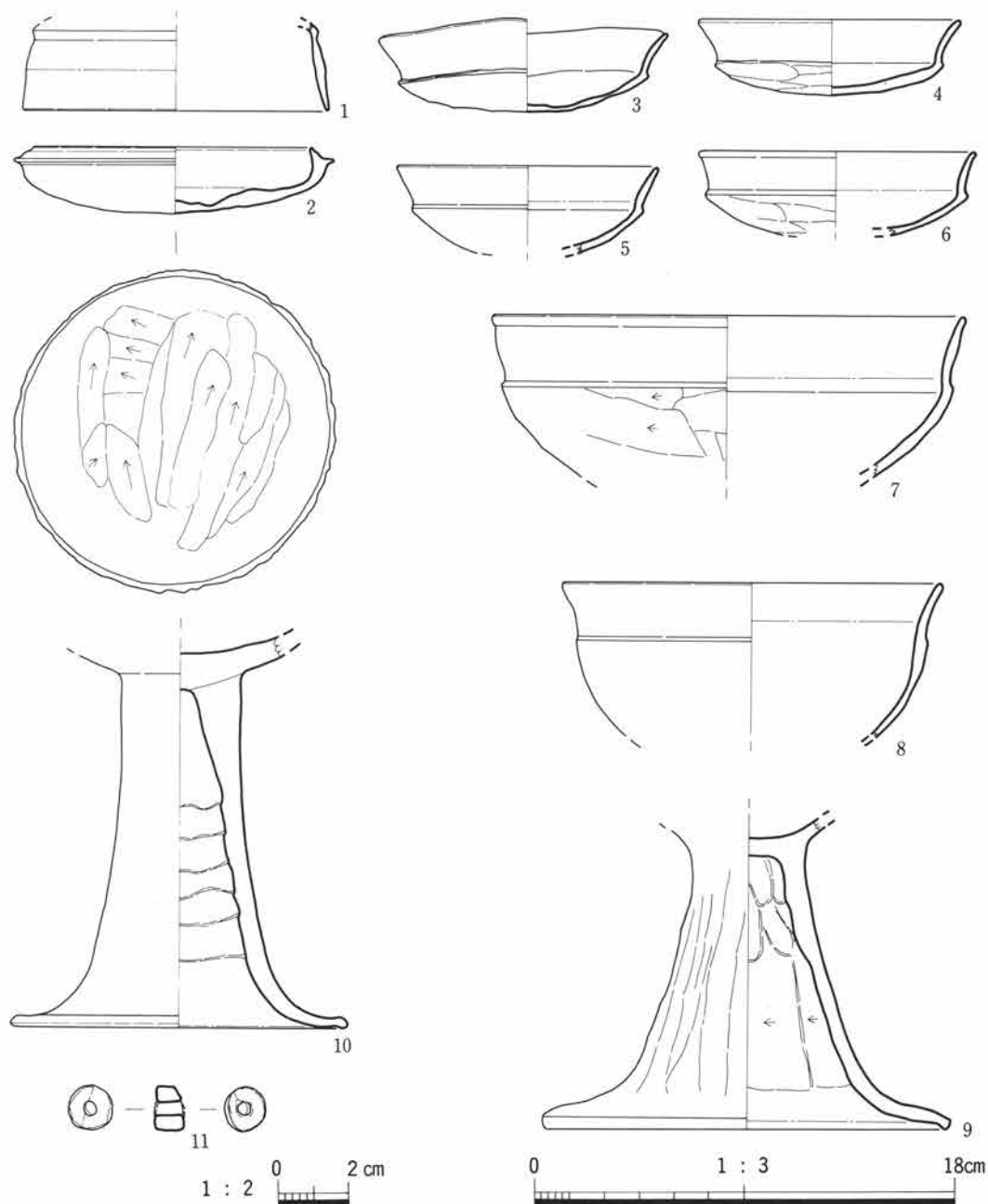
平面形	方形	規模	680×(676)	
面積	(46.0) m ²	壁高	26～31	
長軸方位	—			
支柱穴	1	2	3	4
上バ径	29	38	40×55	50×38
下バ径	11	16	—	13×20
深さ	16	23	18	18
支柱穴間の距離(心心)				
	1-2	383	2-3	310
	3-4	341	4-1	332
カマド位置	西辺北寄り			
A	対称軸方位 N29°W 焚口部幅 50 燃焼部 43× 煙道部幅 35 長さ 140 構築材粘土			
カマド位置	西辺南寄り			
B	対称軸方位 N32°W 煙道部幅 53 長さ 128			
カマド位置	南辺東寄り			
C	対称軸方位 (N119°W) 焚口部幅 53 燃焼部 — 構築材粘土			
その他	ピット5: 径25、深さ6			



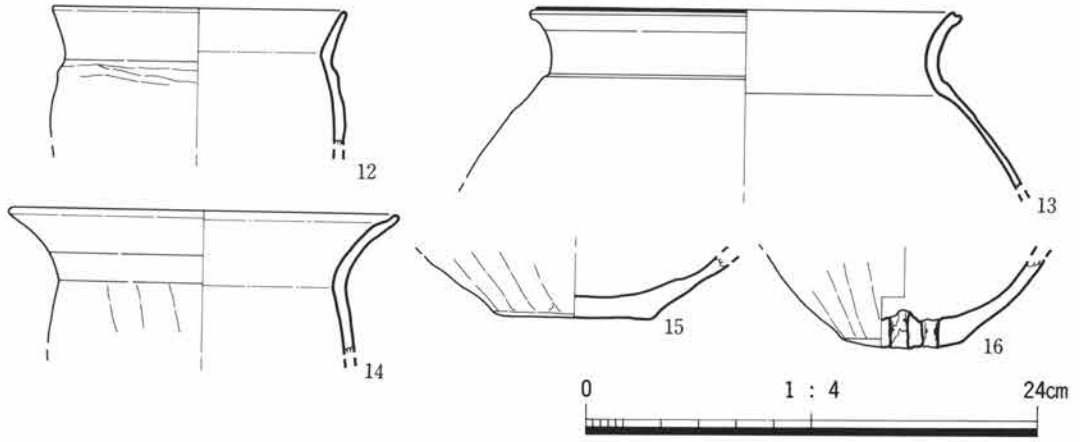
第1015図 寺東地区20号住居跡(2)

遺物は21号住居のBカマド前、北東隅で出土した。第1020図1は西辺壁際床面から、2はカマド前床直上からそれぞれ出土した。3・4は西辺壁際覆土出土の参考品である。4の刀子は茎の目釘が遺存している。

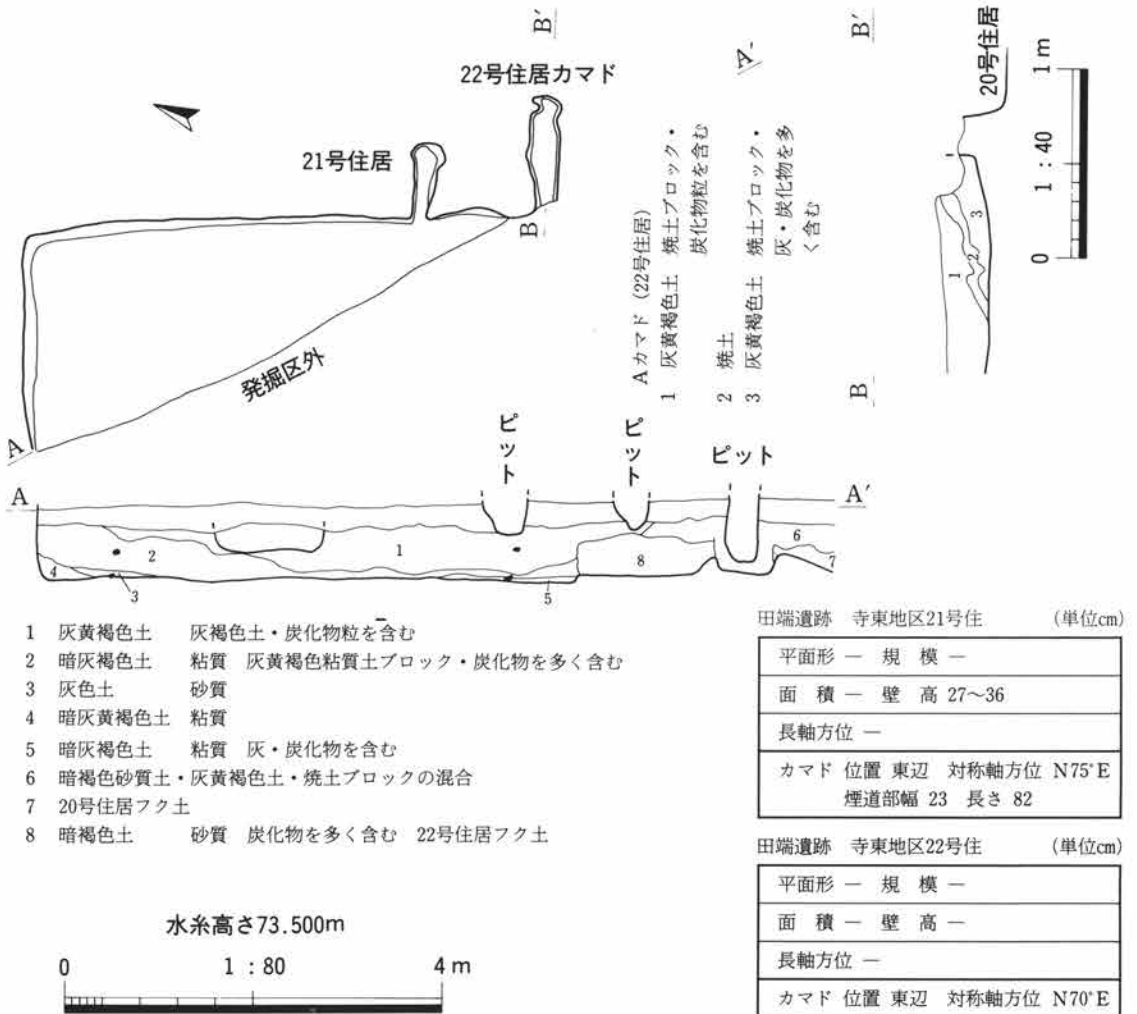
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第1016図 寺東地区20号住居跡出土遺物（1）



第1017図 寺東地区20号住居跡出土遺物 (2)



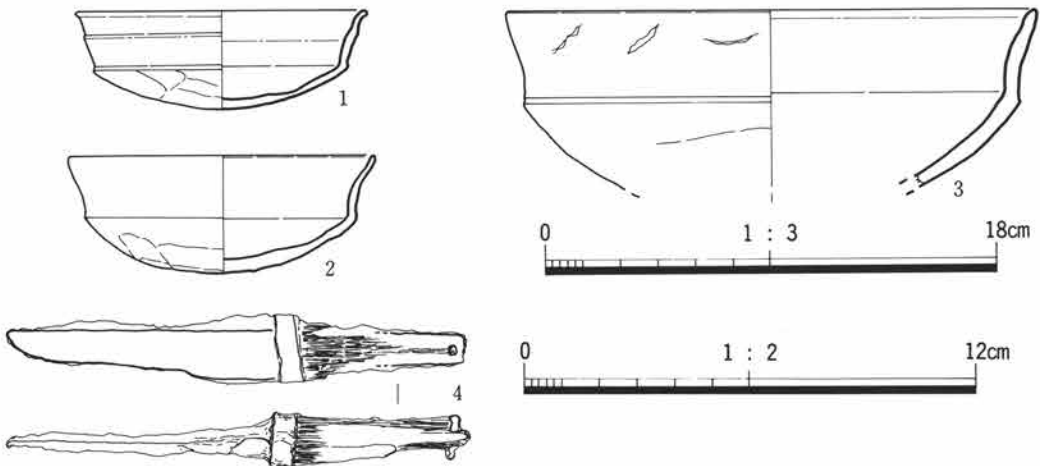
第1018図 寺東地区21・22号住居跡

寺東地区第30号住居跡（第1021～1023図、図版321・353）

P-Qライン・70km994m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第3次調査で検出したもので、北半部は調査区外にある。北西隅と南西隅を検出したが、両隅とも丸みをもつ。覆土は自然に堆積しており、15～20cm大の石が多く出土した。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸をもつが、概ね平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。南西隅ではテラス状を呈する段を2カ所で検出した。南西隅を挟むような配置で、高さ15cm前後・長さ160cmほどの細長い段が向かい合う。



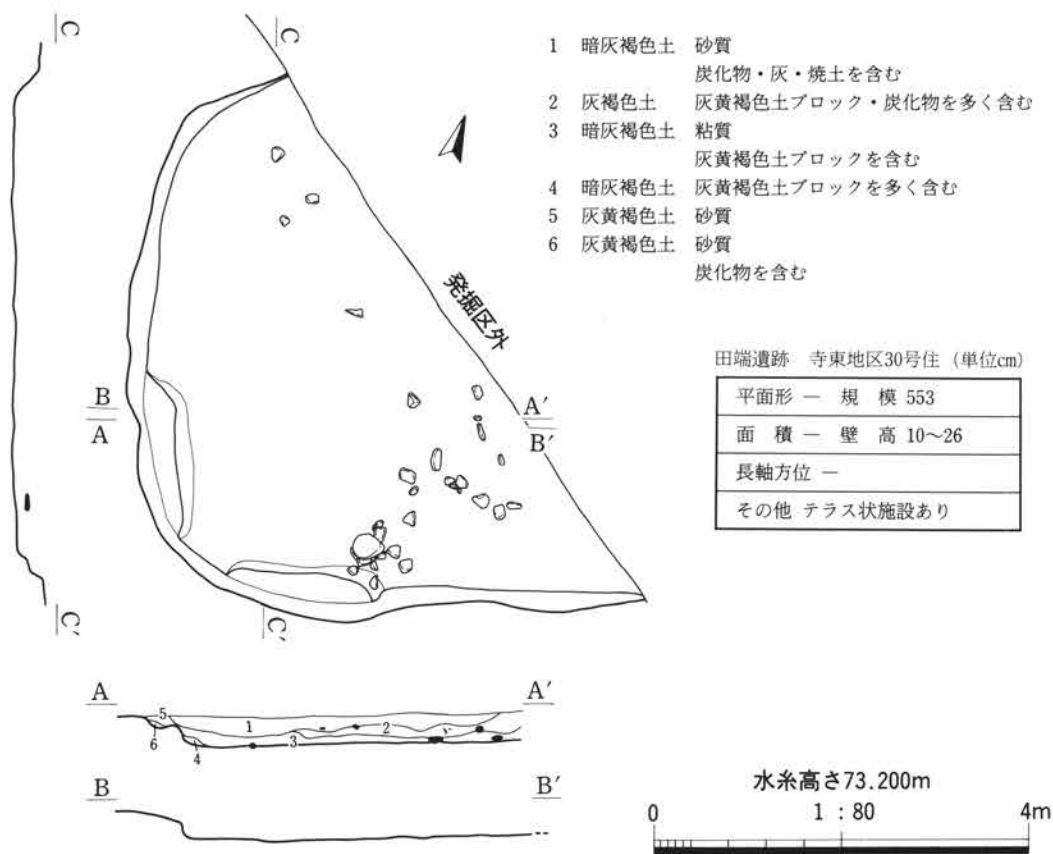
第1019図 寺東地区21・22号住居跡



第1020図 寺東地区21号住居跡出土遺物



第1021図 寺東地区30号住居跡



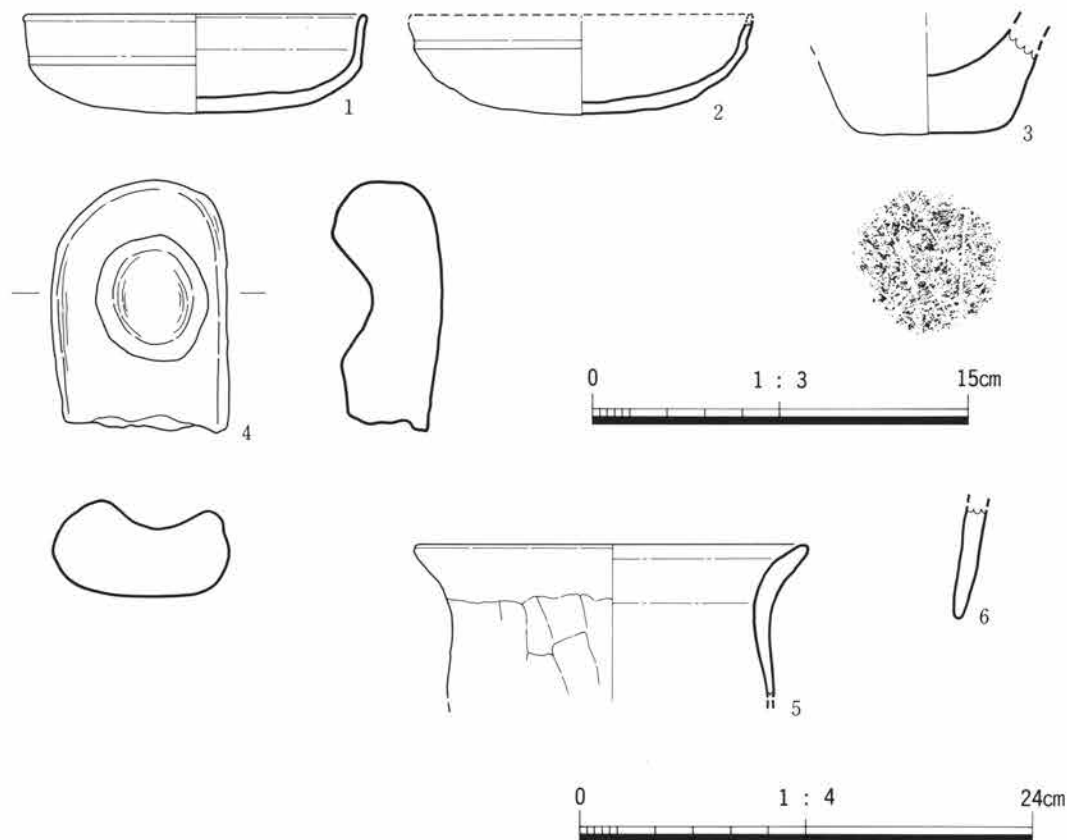
第1022図 寺東地区30号住居跡

遺物は北西近くからいくつか出土している。第1023図1は北西隅の床面から、2は中央部西寄りの床面から、3は中央部床面から出土した。4・5・6は覆土出土の参考品である。3は同時期の類例不明であり、4は凹石で本来縄文時代の遺物である。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第31号住居跡（第1024～1029図、図版321・353・354）

Oライン・71km000m付近で検出した。確認面は第10層である。33号住居と重複しており、33→31号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、南半部は1号溝によって失っている。また、西辺はかつての調査時のトレンチによって失っており、北東隅・北西隅を検出したのみである。北東部からは覆土に多くの石が含まれていた。壁は浅く、20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1～4で、それぞれの計測値は表の通りである。壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは北辺で2基検出した。東側をAカマド、南側をBカマドと呼んだ。Aカマドは袖部の遺存がなく、煙道のみ検出した。BカマドはAカマドと煙道の方がほぼ同じで、燃烧部が壁の内側にあるタイプである。袖部は拳大の石と粘土とで形成していた。右袖部には人頭大の石を据えている。



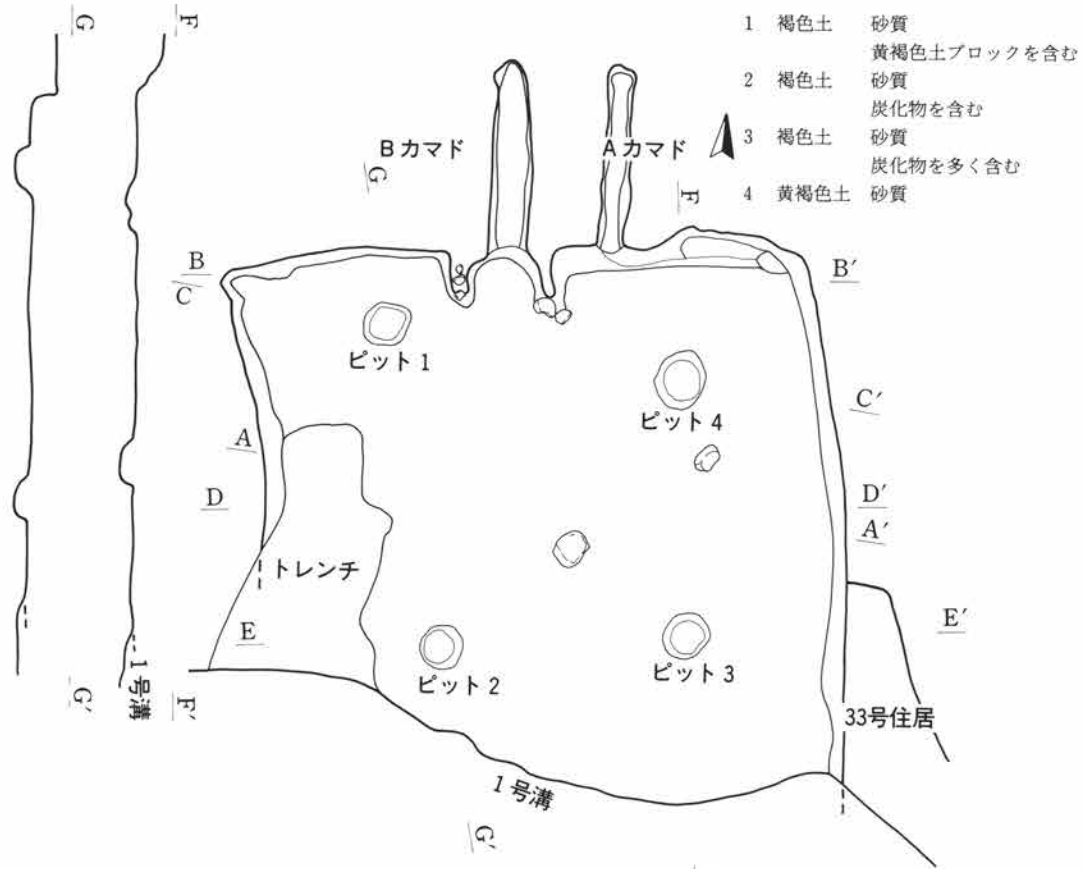
第1023図 寺東地区30号住居跡出土遺物



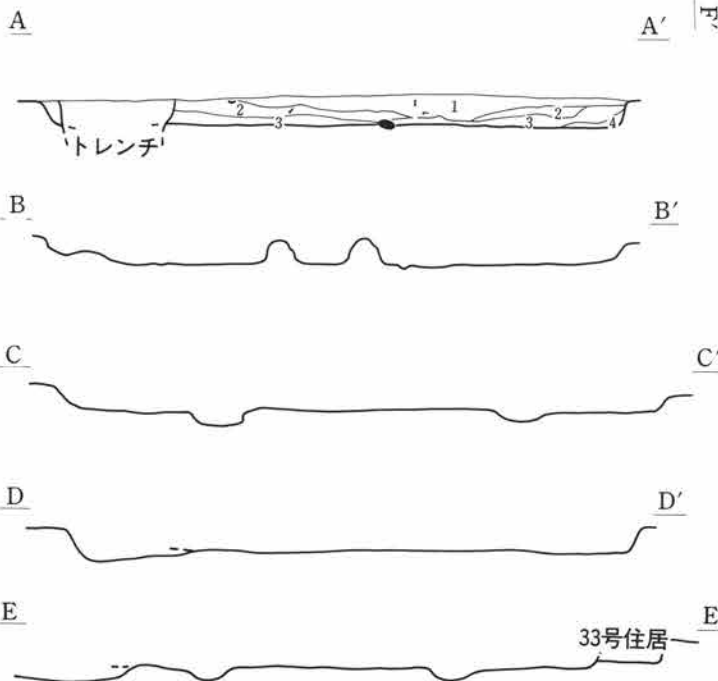
第1024図 寺東地区31号住居跡（1）



第1025図 寺東地区31号住居跡（2）

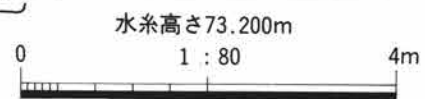


- 1 褐色土 砂質
黄褐色土ブロックを含む
- 2 褐色土 砂質
炭化物を含む
- 3 褐色土 砂質
炭化物を多く含む
- 4 黄褐色土 砂質



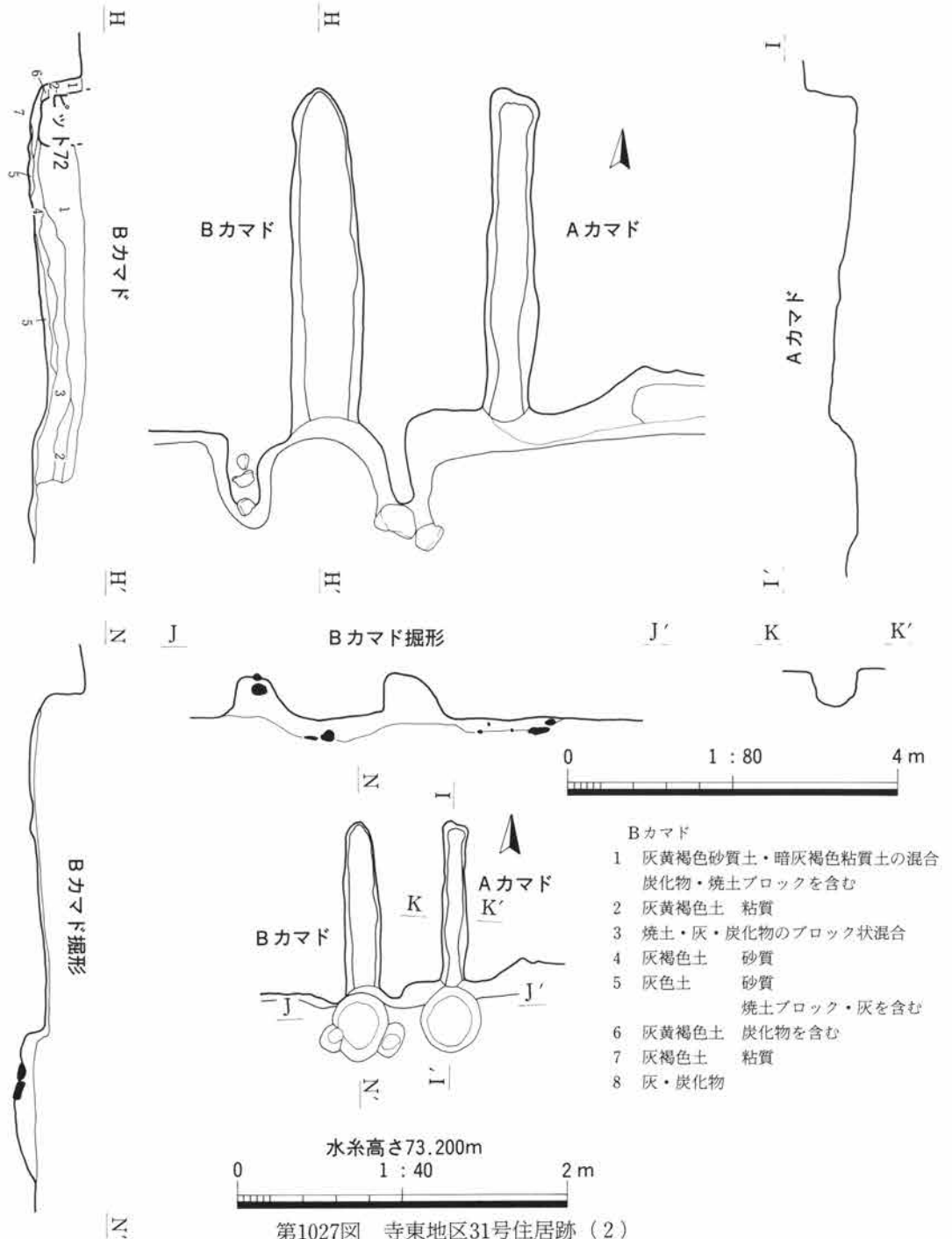
田端遺跡 寺東地区31号住 (単位cm)

平面形	— 規模 620×590以上			
面積	— 壁高 15~23			
長軸方位	—			
支柱穴	1	2	3	4
上バ径	47	44	48	62×50
下バ径	33	32	35	42×37
深さ	17	15	12	11
支柱穴間の距離 (心心)	1-2 348		2-3 269	
	3-4 269		4-1 319	
カマド 位置	北辺東寄り			
A	対称軸方位 N176°E			
	煙道部幅 29 長さ 199			
	構築材粘土・石・瓦			
カマド 位置	北辺西寄り			
B	対称軸方位 N174°E			
	煙道部幅 43 長さ 198			
	構築材粘土・石			



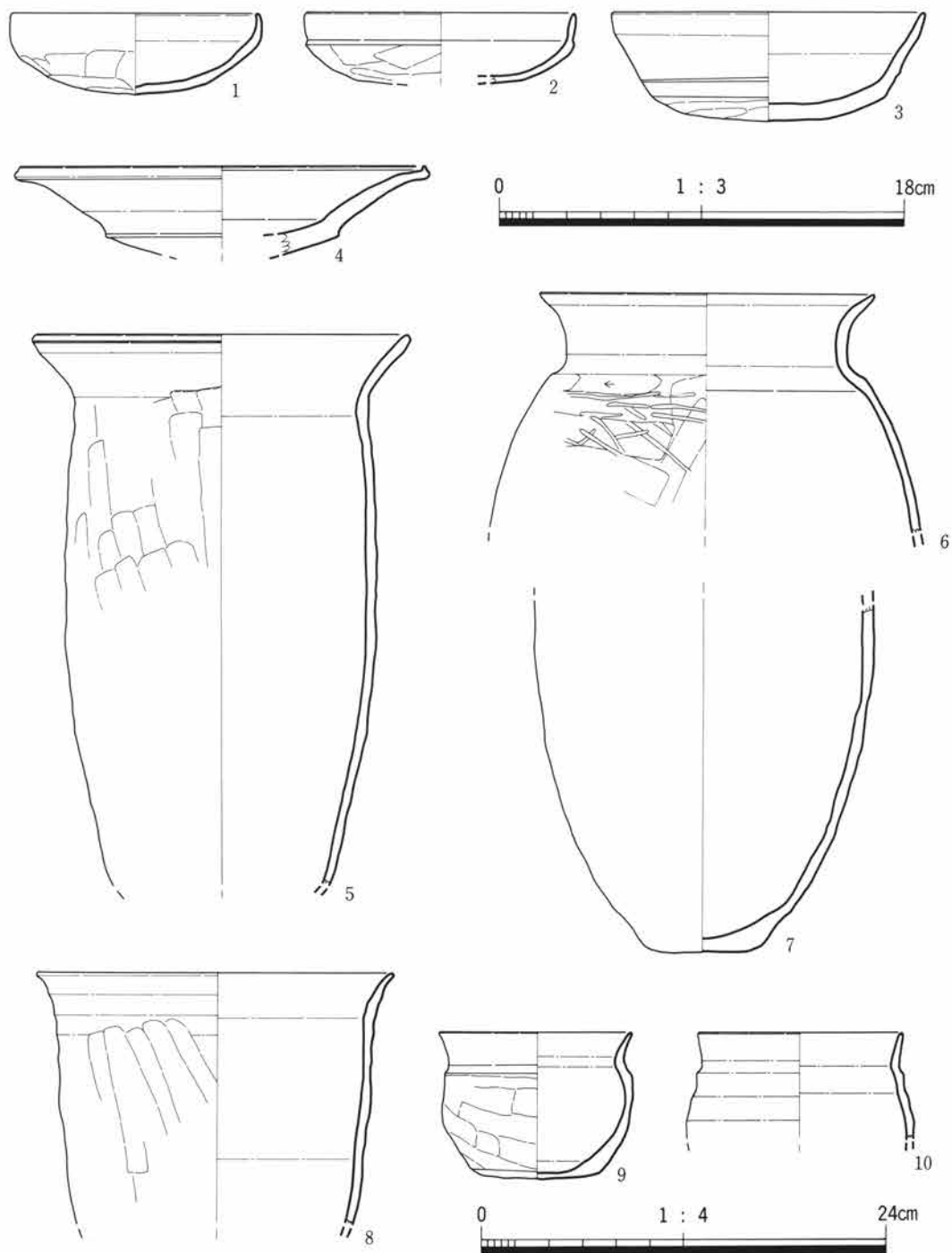
第1026図 寺東地区31号住居跡 (1)

遺物は北東部から多く出土している。第1028・1029図1・8はカマド前床面から、2は北東隅床面から、3はBカマド前床直上から、4・6はAカマド前床面から、5はBカマド左袖の掘形から、7は中央床直上から、Bカマド前床面から、10は中央床面から、11はBカマドの床下から、12はAカマド前の床下から、13はBカマド右袖の東側からそれぞれ出土した。ほかに、滑石製の紡錘車の破片一点、小片一点が床下から、中央南東寄りの床下から鉄器3個体が錆着して出土した。この鉄器は刀



子状のもの、鉄鏝状のもの、クサビ状のものがあるが、製品として判別できない。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



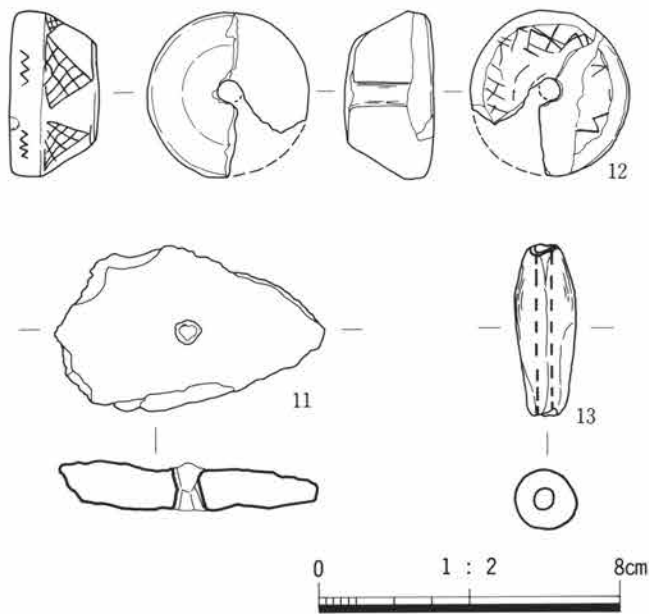
第1028図 寺東地区31号住居跡出土遺物（1）

寺東地区第33号住居跡 (第1030・1032図、図版322・355)

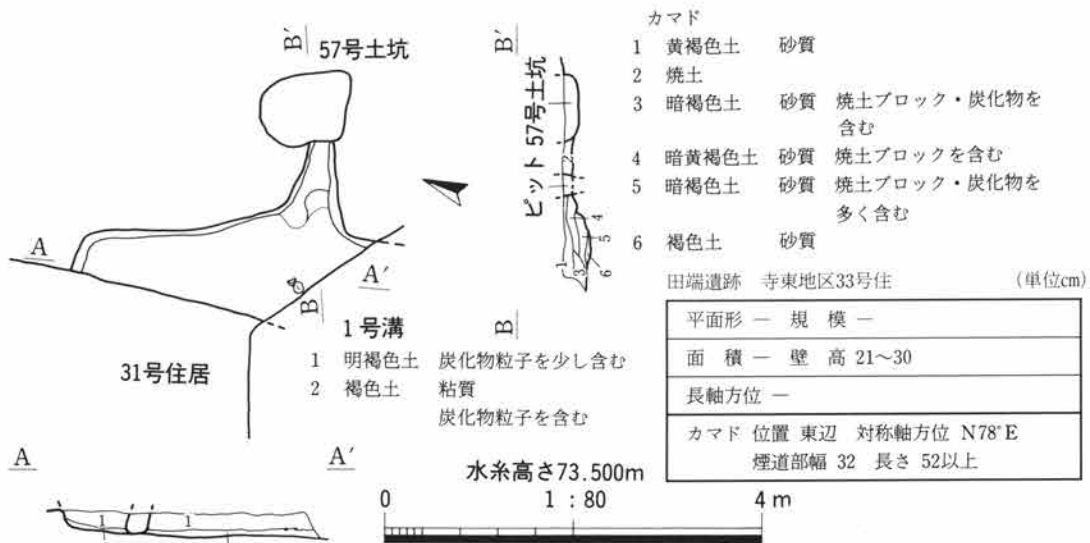
O-Pライン・70km995m付近で検出した。確認面は第10層である。31号住居、57号土坑と重複しており、33→31・57号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、南半部は1号溝によって、西半部は31号住居によって失っている。プランは北東隅を確認したのみである。壁は25cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。煙道部を約50cm検出したが、煙り出し部分は57号土坑によって失っている。燃焼部が壁の内側に作るタイプと考えられる。

遺物は北西隅で出土している。第1032図1は北西隅床面から出土した壺である。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第1029図 寺東地区31号住居跡出土遺物 (2)



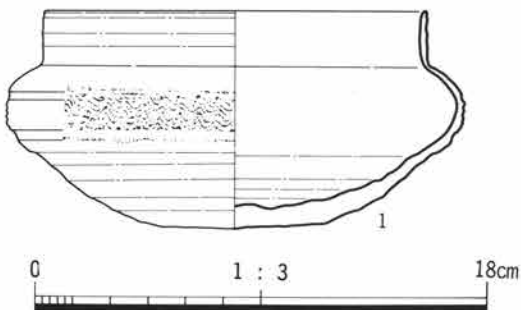
第1030図 寺東地区33号住居跡

寺東地区第35号住居跡（第1031・1033～1040図、図版322・355～357・第27表）

M-Oライン・71km003m付近で検出した。確認面は第10層である。34号住居、1号溝と重複しており、35→34→1号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、南半部は1号溝、西半部は34号住居によって失っている。プランは北東隅を検出したのみである。覆土自然に堆積し、多量の石が出土している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは北辺に設置されていた。燃焼部の半分が壁の外側に突出するタイプで、燃焼部は重複する34号住居のカマド煙道部によって破壊されていた。袖部には立てた状態の石が据えられており、カマド前の床面からは割れた凝灰岩（直方体に加工され、焼けている）が出土した。焚口天井部の石と考えられる。貯蔵穴はカマド右脇の北辺に接して検出した。内部は20cm大と50cm大の石によって壁を形成していた。



第1031図 寺東地区35号住居跡

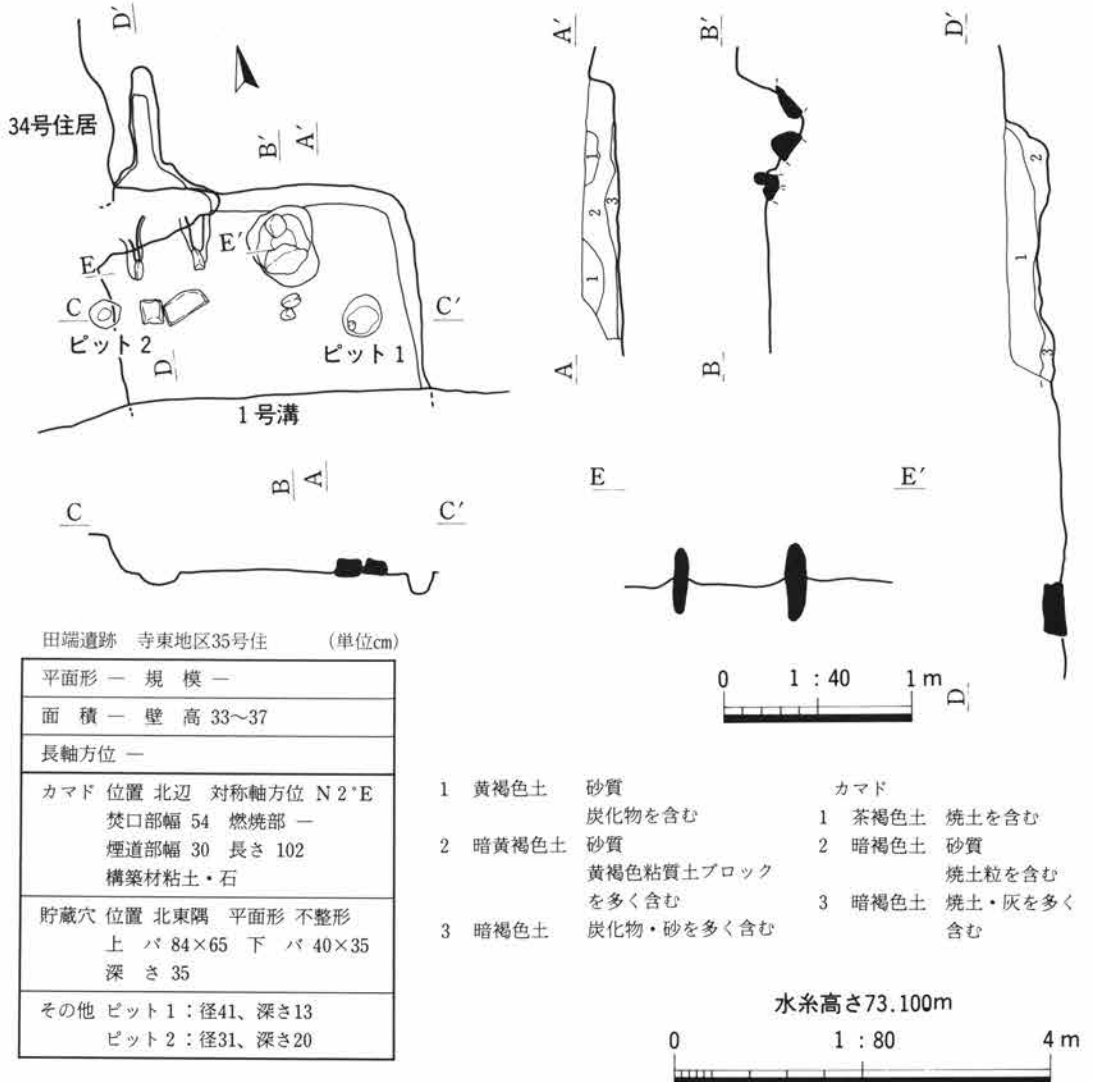


第1032図 寺東地区33号住居跡出土遺物

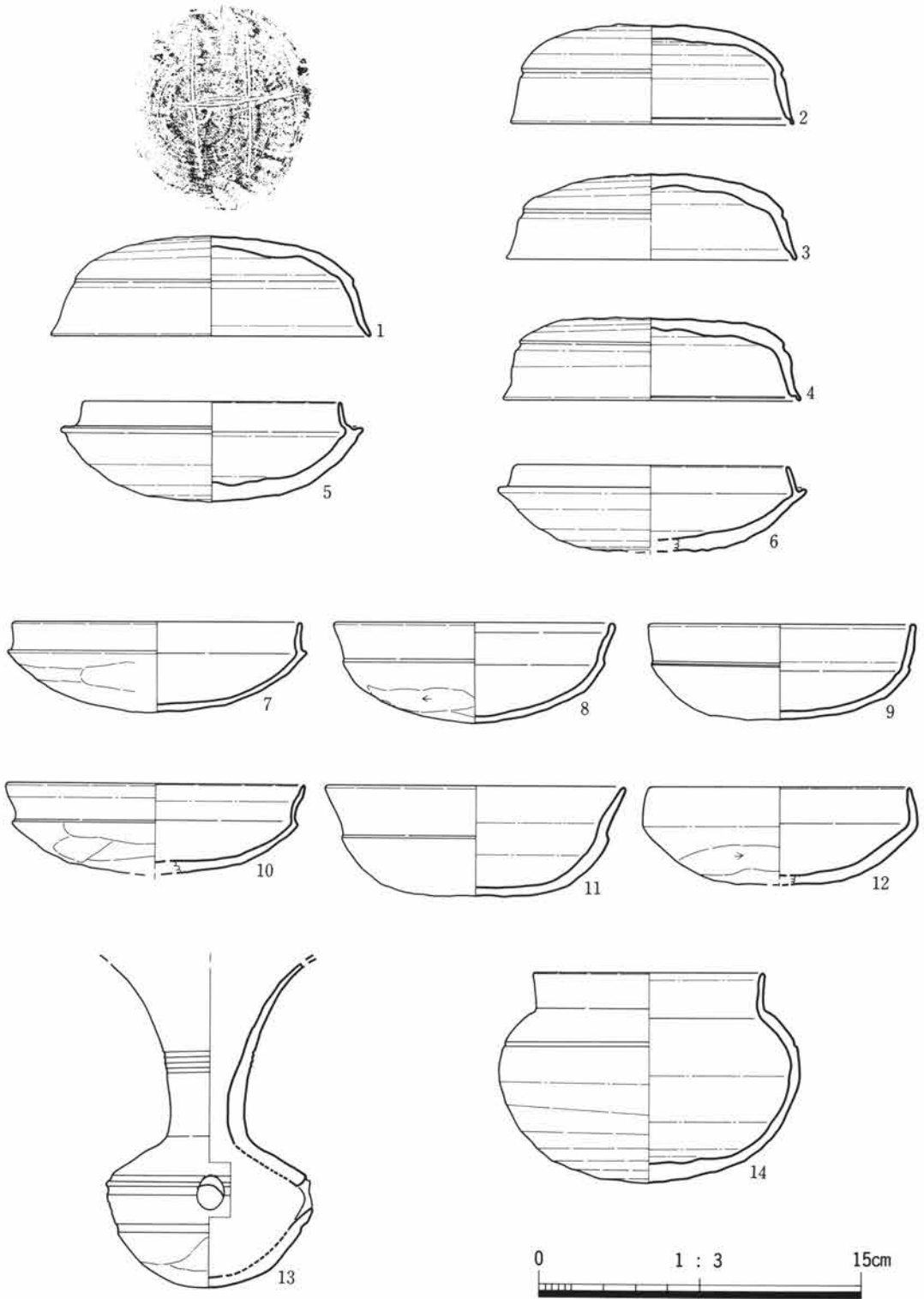
遺物は多量に出土した。とくに須恵器・玉類が多い。第1035～1039図1は貯蔵穴内から、2・3・21は中央東寄り床直上から、4～6・15は貯蔵穴上方の覆土から、7・23は中央床面から、8はカマド左袖西側の床直上から、9・16はカマド左袖前の床面から、10は貯蔵穴覆土から、11は北辺東寄り壁際の覆土から、12・17・18は中央東寄り床面から、13はカマド前床面から、



第1033図
寺東地区35号住居跡



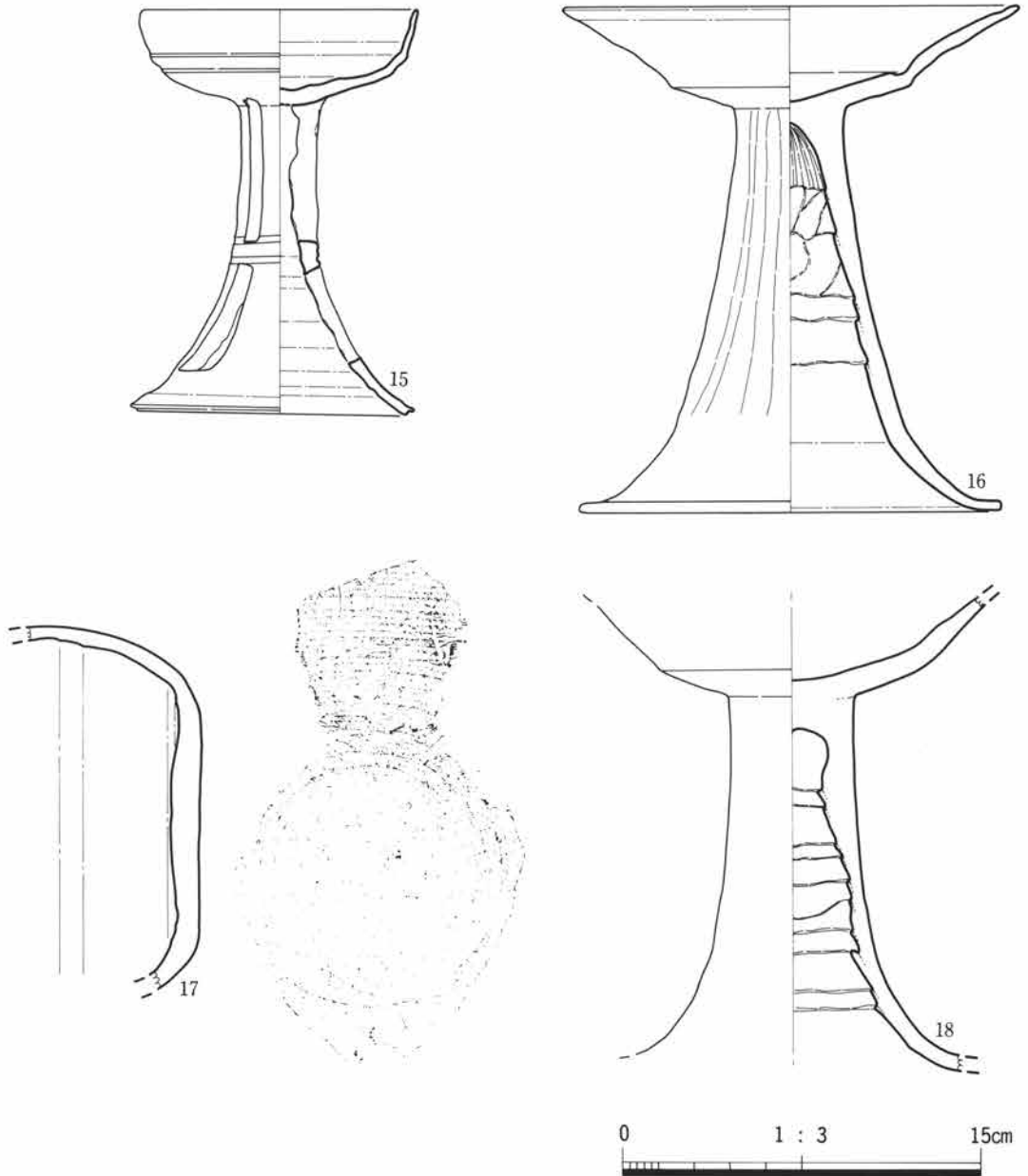
第1034図 寺東地区35号住居跡



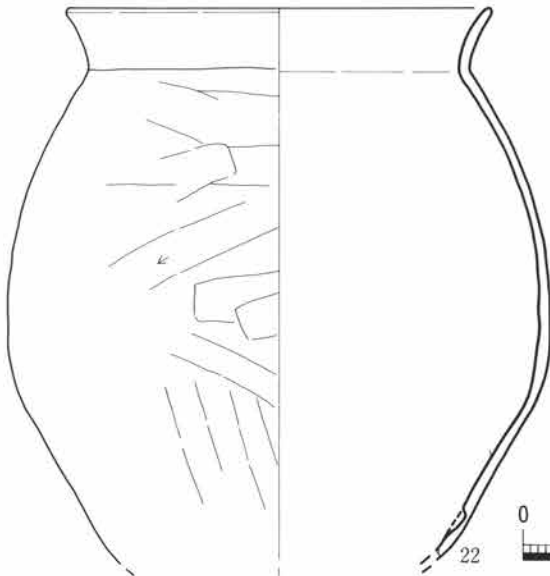
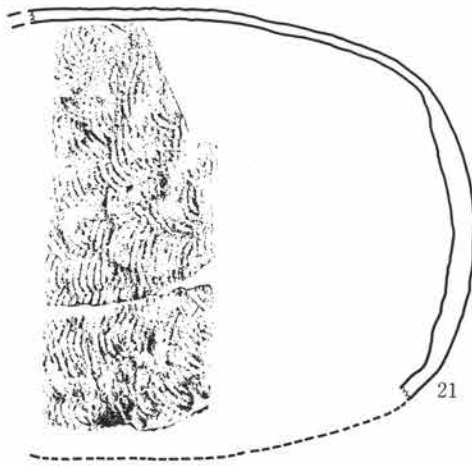
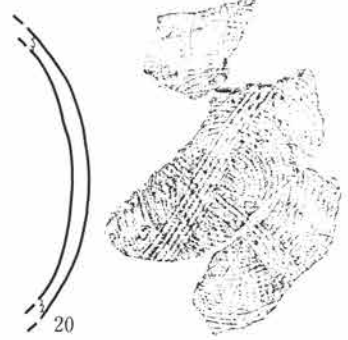
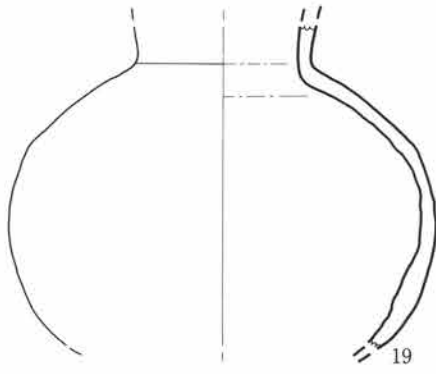
第1035図 寺東地区35号住居跡出土遺物（1）

14はカマド左袖部から、19は中央北東寄りの床面からそれぞれ出土した。20・22は覆土出土の参考品である。24～57は玉類で、32・33は北東部床面の土器の中から一緒に、38・39はカマド左袖西の床面から一緒に、48～50は中央東寄り床面から一緒に、51～57は北辺東寄り壁際覆土出土の土器の上から一緒にそれぞれ出土した。57は小片のため図示できない。24の丸玉は覆土出土、40の管玉は中央北東寄り床面から出土している。

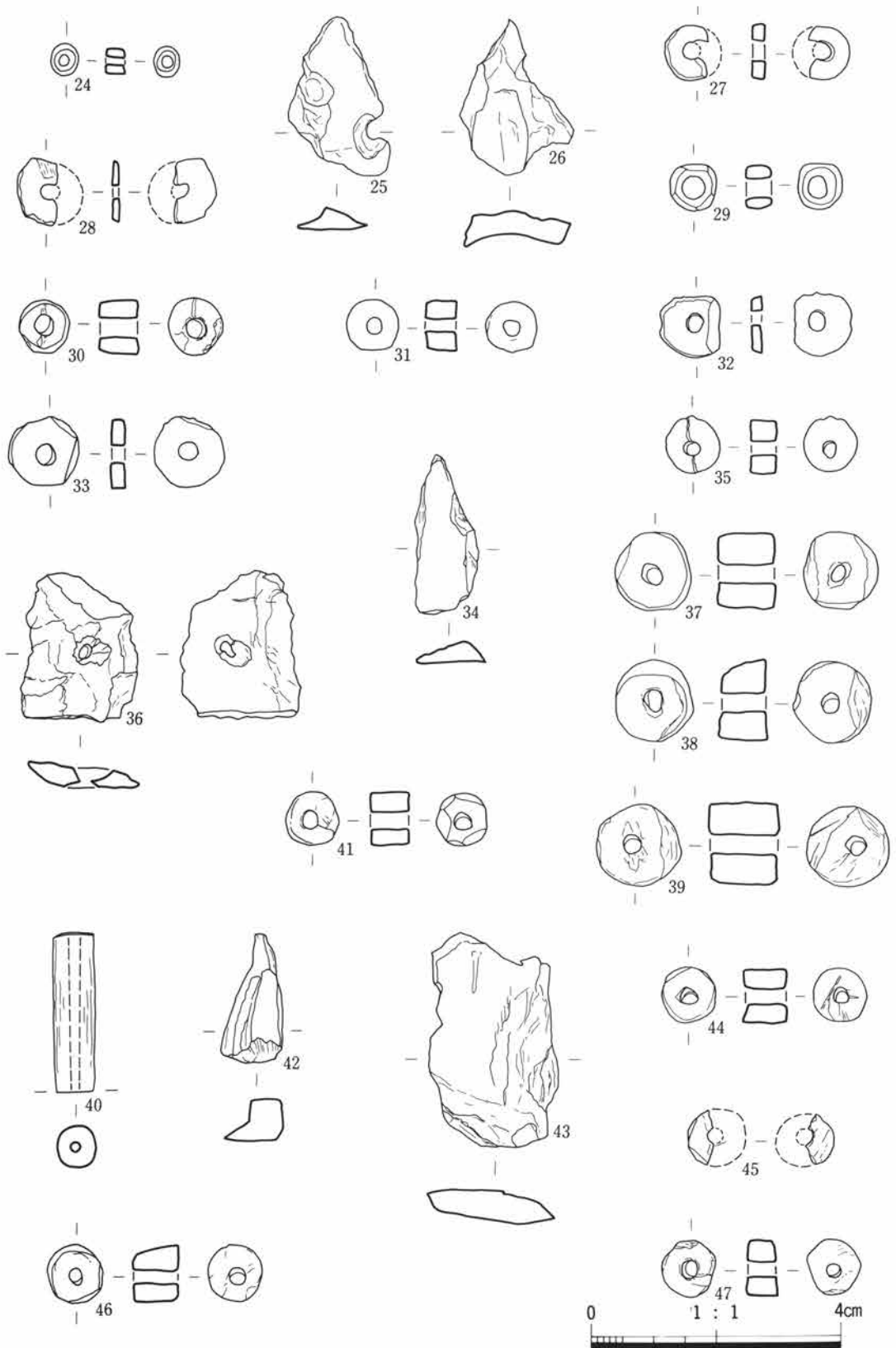
時期は6世紀後半～7世紀ころと考えられる。



第1036図 寺東地区35号住居跡出土遺物（2）



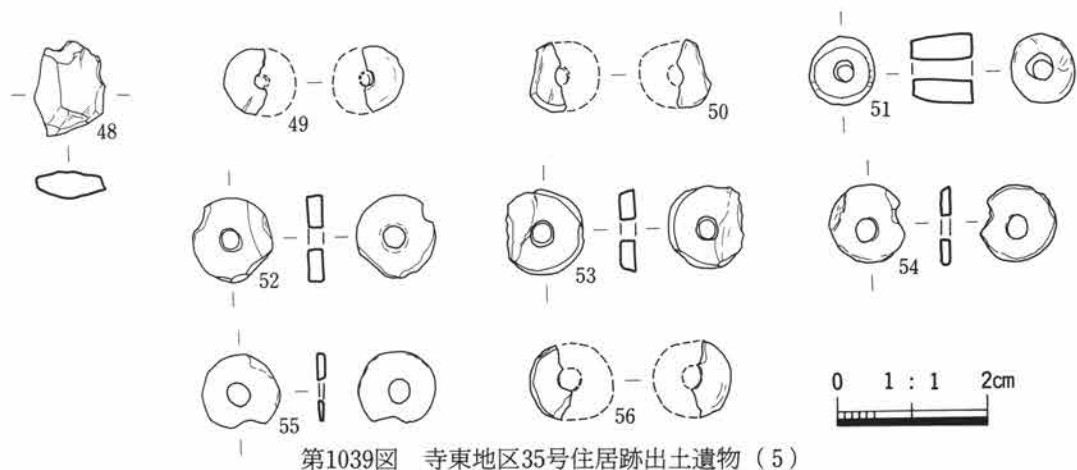
第1037図 寺東地区35号住居跡出土遺物（3）



第1038図 寺東地区35号住居跡出土遺物（4）

寺東地区第37号住居跡（第1041・1043図、図版323・357）

K-Lライン・71km000m付近で検出した。確認面は第10層である。25号住居と重複しており、37→25号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、ほぼ全形を確認した。プランは東半分がややねじれており、北東隅付近は二段の掘り込みを呈している。この部分の土層は地山の土に近く、砂質の土層であることを勘案すると、一度掘り込んだ後埋め戻したことが考えられる。他の部分は自然

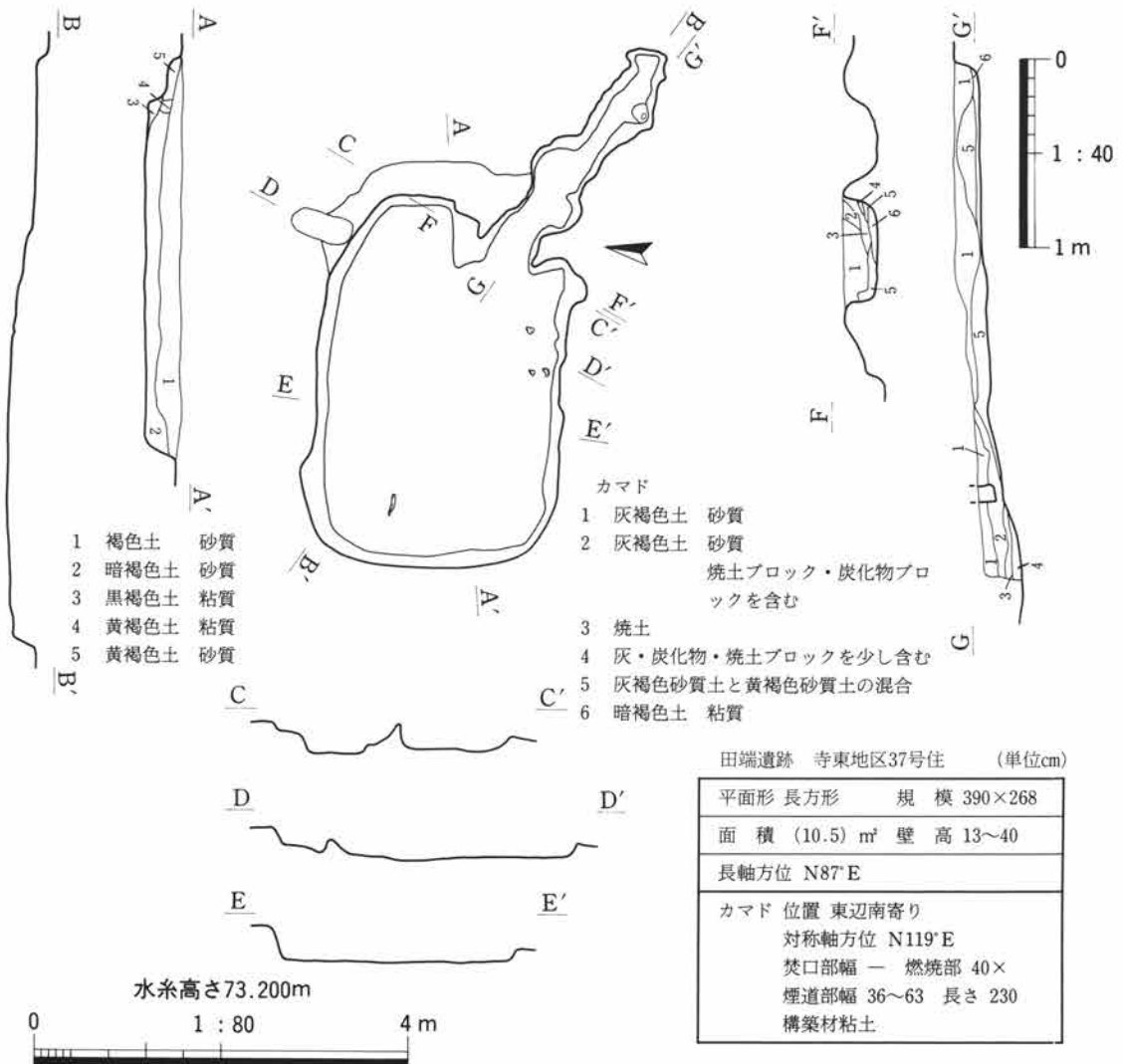


第27表 寺東地区35号住居跡出土遺物観察表 玉類

単位mm、g () 推定

番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	色 調	備 考
24	4.5×4.9	1.5	2.7	計測不能	緑 色	不明、丸玉、完形、楕円に近い
25	25.2×14.0	2.3×2.7	4.0	1.40	灰 色	滑石、加工品
26	24.2×17.2	—	5.6	1.73	灰 色	滑石、剥片
27	8.5	3.2	1.9	0.14	灰 色	滑石、白玉欠
28	10.3	3.0	1.2	0.10	灰 色	滑石、白玉欠
29	7.4	3.3	3.8	0.28	灰 白 色	滑石、白玉、完形
30	8.5×8.0	3.3	5.9	0.58	灰 色	滑石、白玉、完形
31	9.0×8.5	2.8	5.4	0.67	灰 色	滑石、白玉、完形
32	10.5	3.0	1.5	0.17	灰 色	滑石、白玉欠
33	11.0	2.8	2.1	0.32	オリブ灰	滑石、白玉、完形
34	25.0×9.1	—	2.8	0.91	灰 白 色	滑石、加工品?
35	(8.5)	(2.4)	4.1	0.43	灰 色	滑石、白玉、完形
36	23.1×19.1	2.4	4.8	2.95	黄 灰 色	滑石、加工品
37	12.4×11.7	3.3	8.0	2.02	鈍い黄橙色	滑石、白玉、完形
38	12.9×12.0	3.2	8.7	1.98	明オリブ灰	滑石、白玉、完形
39	12.6	3.3	9.4	2.51	浅黄橙色	滑石、白玉、完形
40	(幅) 6.5	1.0—2.9	(長) 25.0	1.93	暗 緑 色	不明、管玉、完形
41	8.4	2.8	5.3	0.60	灰 白 色	滑石、白玉、完形
42	20.7×8.7	—	7.7	1.30	灰オリブ	滑石、剥片
43	34.5×19.5	—	6.3	6.57	明オリブ灰	滑石、剥片
44	8.7	2.9	6.5	0.74	灰 白 色	滑石、白玉、完形
45	(8.5)	(3.0)	2.9	0.13	オリブ灰	滑石、白玉欠
46	8.9	2.8	6.4	0.93	灰 色	滑石、白玉、完形
47	8.6	2.5	4.8	0.56	灰 色	滑石、白玉、完形
48	12.1×8.8	—	3.2	0.56	灰 色	滑石、剥片
49	8.5	3.0	3.0	0.19	灰 白 色	滑石、白玉欠
50	8.4	2.8	3.1	0.13	灰 色	滑石、白玉欠

番号	外径	孔径	厚さ	重さ	色調	備考
51	8.5	3.5	7.5	0.93	灰白色	滑石、白玉、完形
52	10.5	3.0	2.1	0.30	灰色	滑石、白玉、完形
53	10.8	2.5	2.1	0.29	灰色	滑石、白玉、完形
54	10.2	2.8	1.6	0.18	灰色	滑石、白玉 $\frac{1}{8}$ 欠
55	10.3	2.9	1.3	0.13	灰色	滑石、白玉 $\frac{1}{8}$ 欠
56	(10.5)	(3.5)	1.0	0.06	灰色	滑石、白玉 $\frac{1}{8}$ 欠
57	(11.0)	—	1.0	0.03	灰色	滑石、白玉 $\frac{1}{8}$ 欠



第1041図 寺東地区37号住居跡

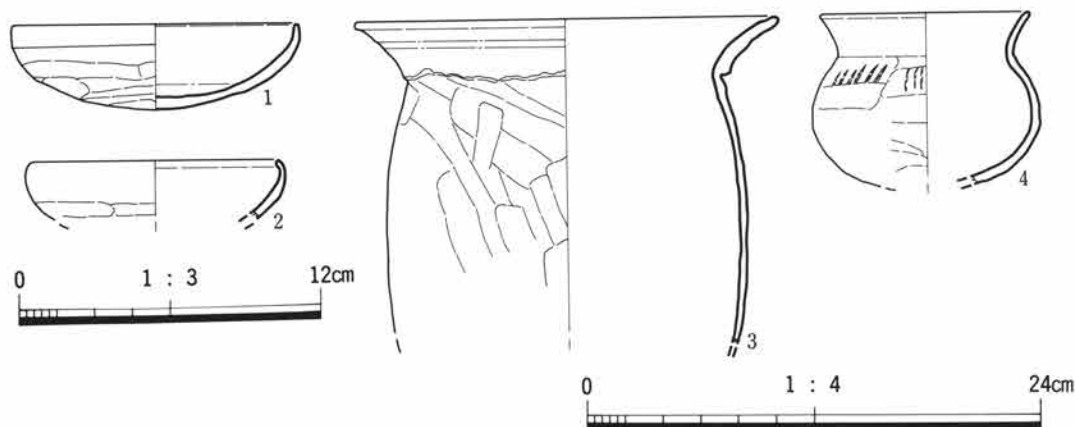
の堆積を示している。北東隅の掘り込みを含めてプランをみると、東半部のねじれが少なくなる。壁は1号溝側の北辺が深く30~40cm遺存しており、南辺側では15cm前後である。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。東辺に対して直角ではなく、対角線の方に向けて煙道が延びている。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、奥壁は角形を呈する。煙道部との境には段をもつ。煙道部は不整形を呈し、底面は比較的平坦である。

遺物は少なく、カマド煙道部、南辺中央付近で小片が出土している。第1043図1は南辺壁際床面から、2はカマド内から、3はカマド煙道部底面から、4は北西隅壁際床面からそれぞれ出土した。

時期は7世紀後半頃とみられる。



第1042図 寺東地区39・40号住居跡



第1043図 寺東地区37号住居跡出土遺物



第1044図 寺東地区39号住居跡



第1045図 寺東地区40号住居跡

寺東地区第39号住居跡 (第1042・1044・1046・1047図、図版323・358)

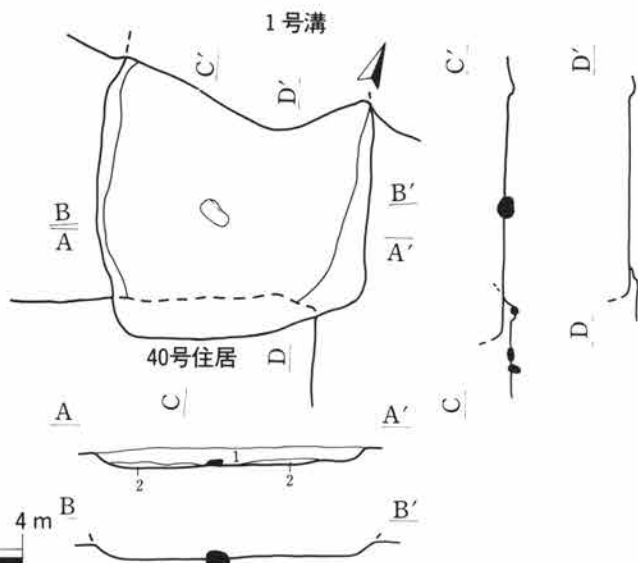
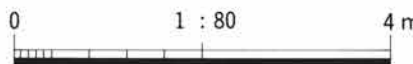
M-Nライン・70km992m付近で検出した。確認面は第10層である。26・40号住居、1号溝と重複しており、26・39→40号の順に新しい。1号溝は本住居を切っている。本住居は第3次調査で検出したもので、40号住居と同時に着手したため、40号との切り合いをなす南辺は検出できなかったが、土層断面において確認している。北半部は1号溝によって失っている。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cm前後が依存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、検出面中央部に長さ35cm・幅15~20cmの石が据えられていた。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

田端遺跡 寺東地区39号住 (単位cm)

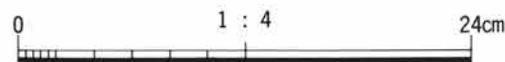
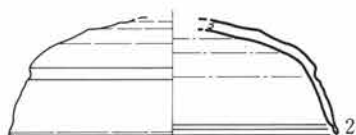
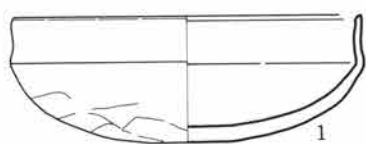
平面形	— 規模 290×
面積	— 壁高 10~18
長軸方位	—

- 1 褐色土 砂質
炭化物を含む
- 2 灰色土 砂質

水糸高さ73.200m



第1046図 寺東地区39号住居跡



第1047図 寺東地区39号住居跡出土遺物

遺物は少なく、小片のみである。第1047図1は西辺北端寄りの床面から、5は南東隅の床面から出土した。2～4は覆土出土の参考品である。時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第40号住居跡（第1042・1045・1048・1049図、図版323・358・359）

Lライン・70km989m付近で検出した。確認面は第10層である。26・39号住居と重複しており、40→26・39号の順に新しい。26号と39号との前後関係は不明である。本住居は第3次調査で検出したもので、北辺の一部は39号によって失い、南西隅は調査区外にある。北東隅からは集中して拳大～人頭大の石が出土し、これらの石は南西に向かって流れ込んだような状態を示す。また、北西隅近くも同大の石が集中して出土している。これらの石の多くは床面から浮いており、人為的な投げ込みの可能性はある。壁は20～25cmが遺存しており、39号と重複する部分は10cm前後である。他の住居に比べて遺存は良好である。床面は平坦で、南西隅近くでは床面直上から炭化物が出土している。支柱穴とみられるピットはピット1～4で、計測値は表の通りである。壁溝は北辺のみで検出した。溝底には下層の礫が露出している。カマドは東辺やや南寄りに設置されていた。燃焼部が壁の内側にあるタイプで、左右の袖部は粘土で形成している。煙道部との境はトンネル状を呈し、壁外へ向かった穴は30cmほどで確認面に現れる。上方へ向かう煙り出しと考えられる。貯蔵穴はカマド右脇の南東隅で検出した。内部の壁面は礫が露出している。掘形の調査ではカマド前の床面中央部でピットを二つ検出した。北側は長軸90cmの楕円形を呈し、内部から拳大の石が12個と土器片が出土した。南側も楕円形を呈し、長軸は60cmである。ここからは35×20cmの扁平な石が露出していた。

遺物は中央部、カマド周辺からの出土が多い。第1049図1は中央西寄りの床面から、2・6・7は中央部床面から、4はカマド前の中央床直上から、5は南辺中央壁際の床面から、8・11は中央床直上から、10は中央南寄りの床面から、12は北東隅壁際の床面からそれぞれ出土した。3・9は覆土出土の参考品である。

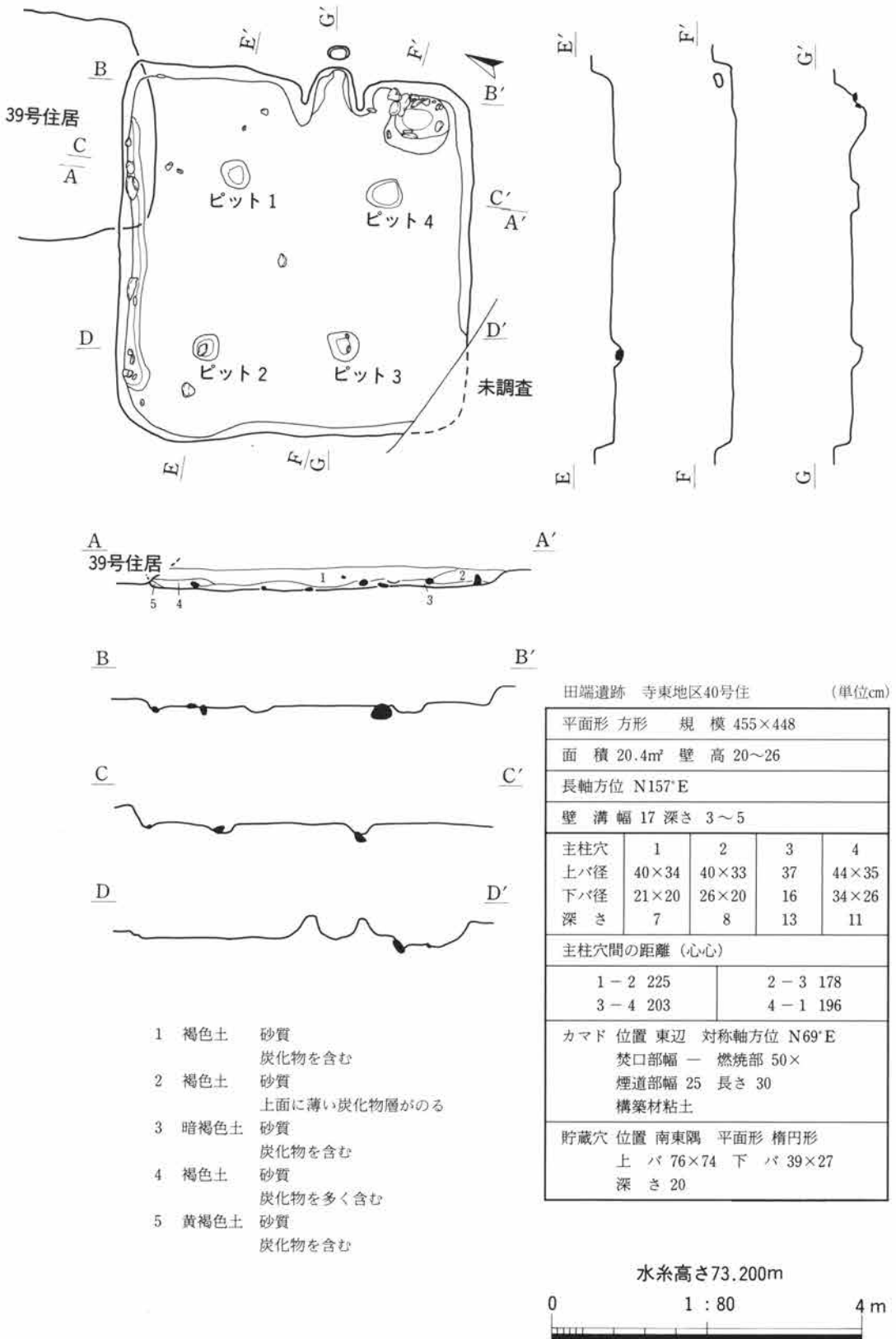
時期は6世紀後半とみられる。

寺東地区第41号住居跡（第1050・1052図、図版324・359）

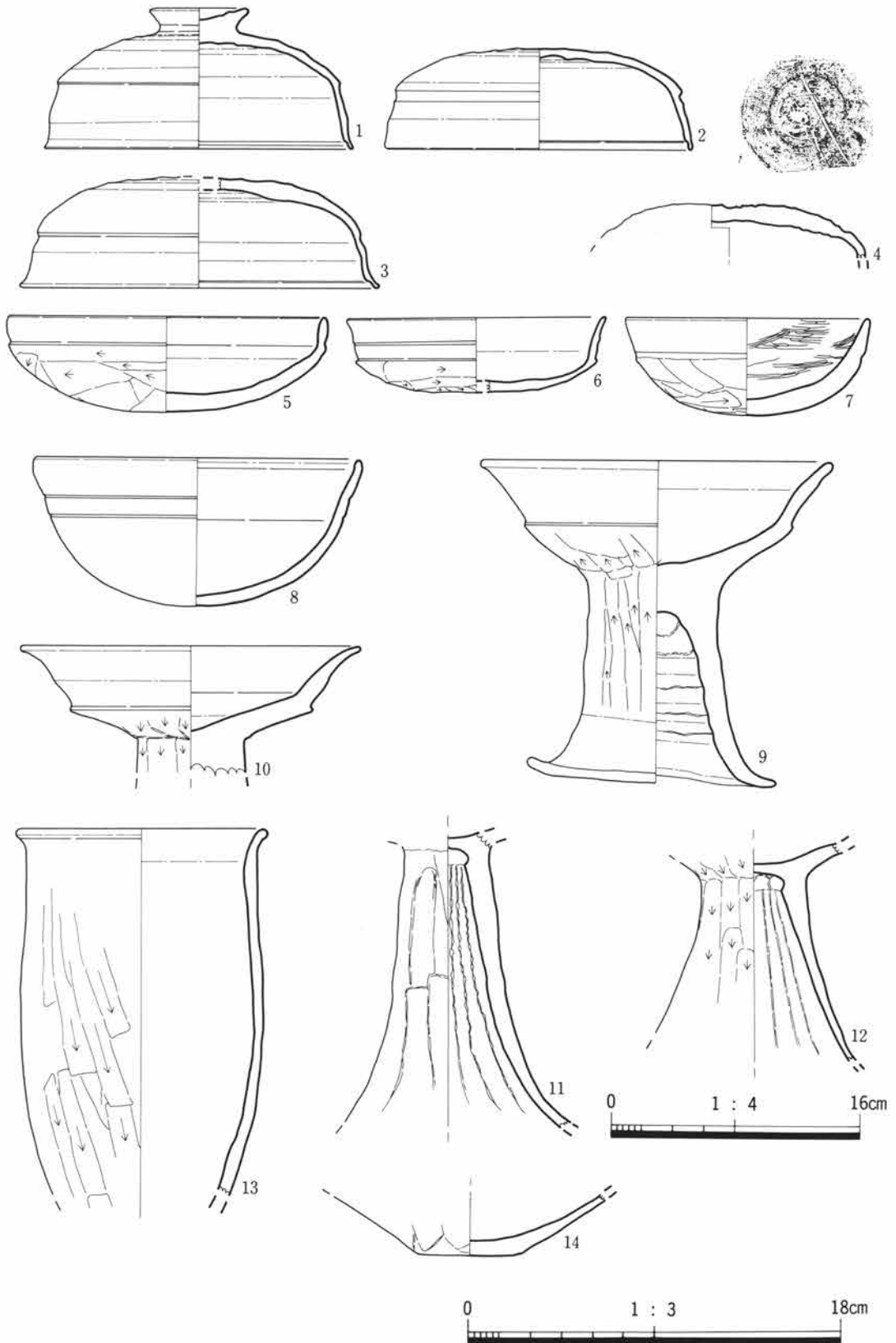
N-Oライン・70km975m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第3次調査で検出したもので、他の住居との重複がない単独住居である。東西に長い長方形のプランをもつ。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cmほど遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは西辺に設置されていた。本遺跡のなかではカマド位置は特殊である。燃焼部が壁の内側にあり、中央部から支脚に使われたとみられる長さ22cm・径4cmの石が出土している。燃焼部と煙道との境には高さ5cmほどの段がある。貯蔵穴はカマド左脇の南西隅で検出した。南壁は住居の壁につながってしまう。その他、本住居の周囲には径20～40cm・深さ20～30cmのピットが集中しており、これらのうちのいくつかは本住居の柱穴であった可能性がある。

遺物は住居中央部からいくつか出土している。第1052図1は中央部東寄りの床面から、2は同じく北寄りの床面直上から出土している。

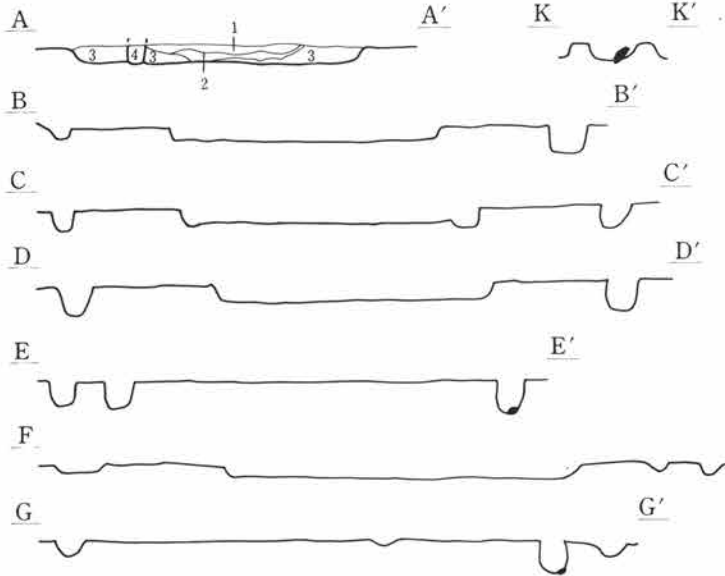
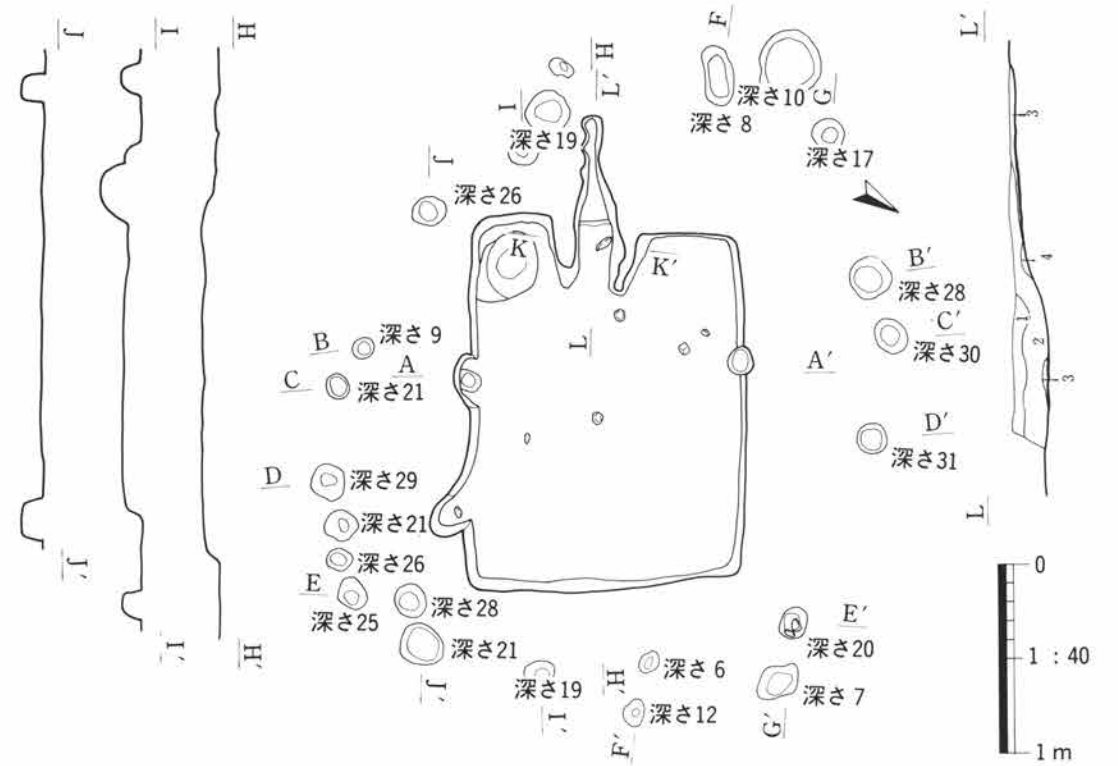
時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第1048図 寺東地区40号住居跡



第1049図 寺東地区40号住居跡出土遺物



田端遺跡 寺東地区41号住 (単位cm)

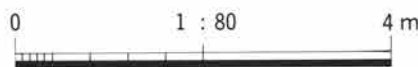
平面形	長方形	規模	391×300
面積	11.7㎡	壁高	12~18
長軸方位	N59°E		
カマド	位置	西辺	対称軸方位 N57°E
	焚口部幅	40	燃焼部 36×70
	煙道部幅	20	長さ 111
	構築材	粘土・石	
	支	脚石	
貯蔵穴	位置	南西隅	平面形 楕円形
	上バ	72×55	下バ 32×31
	深さ	32	

カマド

- 1 灰褐色土 砂質
灰・炭化物・焼土
粒を含む
- 2 灰褐色粘質土ブロック・焼土
ブロック・灰・炭化物
ブロックの混合
- 3 灰黄褐色土 粘質
灰・炭化物含む
- 4 灰・炭化物

- 1 褐色土 砂質
- 2 暗褐色土 砂質
炭化物・焼土ブロッ
クを含む
- 3 明褐色土 砂質
焼土ブロックを含む
- 4 上層からのピット掘り込み

水系高さ73.300m



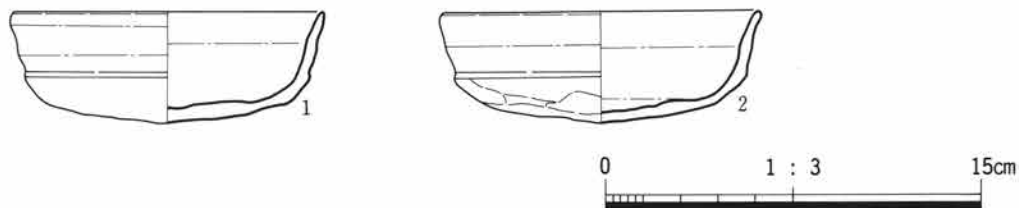
第1050図 寺東地区41号住居跡

寺東地区第42号住居跡（第1051・1053・1054・1056図、図版324・327・359）

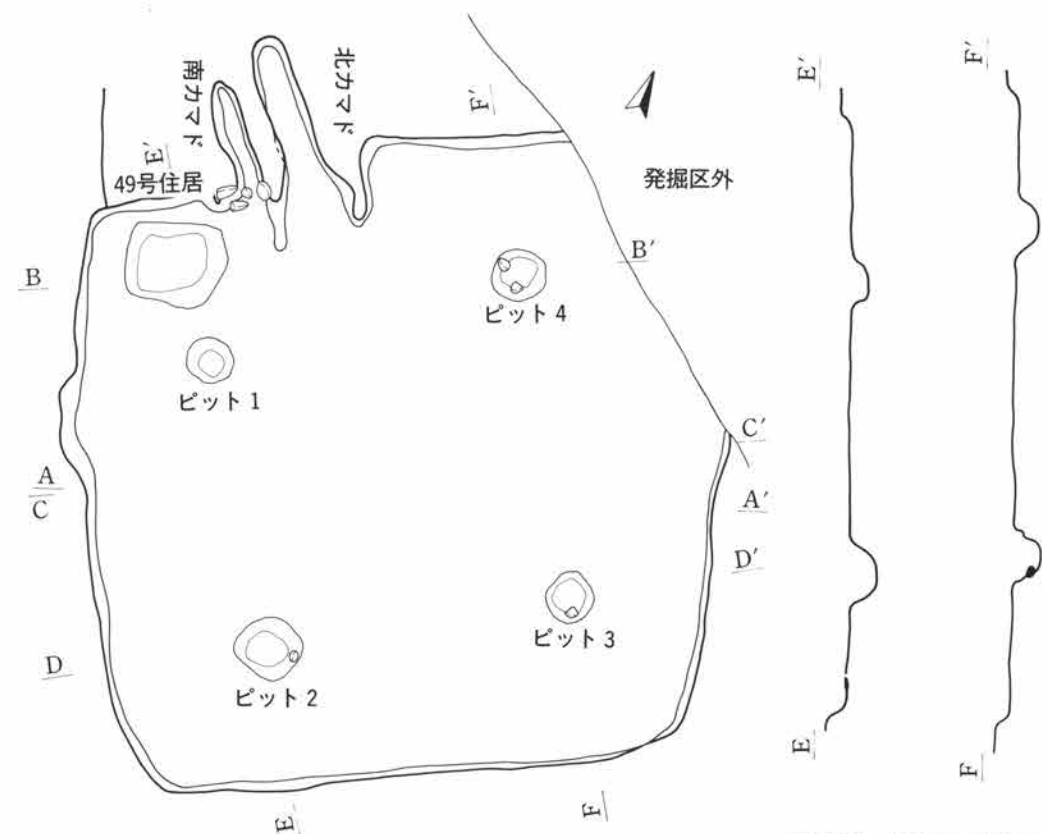
Pライン・70km968m付近で検出した。確認面は第10層である。27・42号住居と重複しており、49→42→27号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北東隅は調査区外にある。プランは東西にわずかに長い方形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1～4で、それぞれの計測値は表の通りである。壁溝は検出していない。カマドは北辺西寄りに設置されていた。煙道を2本検出し、北側のカマドのほうが新しい。北カマドは燃烧部が壁の内側にあり、燃烧部奥は滑らかに煙道部に至る。貯蔵穴は北西隅で検出した。略長方形を呈し、深さ20cmほどある。



第1051図 寺東地区42号住居跡



第1052図 寺東地区41号住居跡出土遺物



田端遺跡 寺東地区42号住 (単位cm)

平面形 (方形)	規模 684×672			
面積	(46.0)m ² 壁高 9~18			
長軸方位	N58°E			
主柱穴	1	2	3	4
上バ径	48	63	52	55
下バ径	28	35	33	31
深さ	18	29	29	23
主柱穴間の距離 (心心)	1-2 307		2-3 327	
	3-4 346		4-1 340	
北カマド 位置	北辺西寄り			
対称軸方位	N138°E			
焚口部幅	— 燃焼部 60×			
煙道部幅	43 長さ 155			
構築材	粘土・石			
南カマド 位置	北辺西寄り			
対称軸方位	N137°E			
煙道部幅	27 長さ 118			
構築材	粘土・石			
貯蔵穴 位置	北西隅			
平面形	長方形			
上バ	108×85			
下バ	73×58			
深さ	22			

- 1 褐色土 砂質
黄褐色粘質土ブロック・焼土ブロックを含む
- 2 明褐色土 砂質
- 3 明褐色土 褐色粘質土ブロック・砂利を含む

水系高さ73.300m



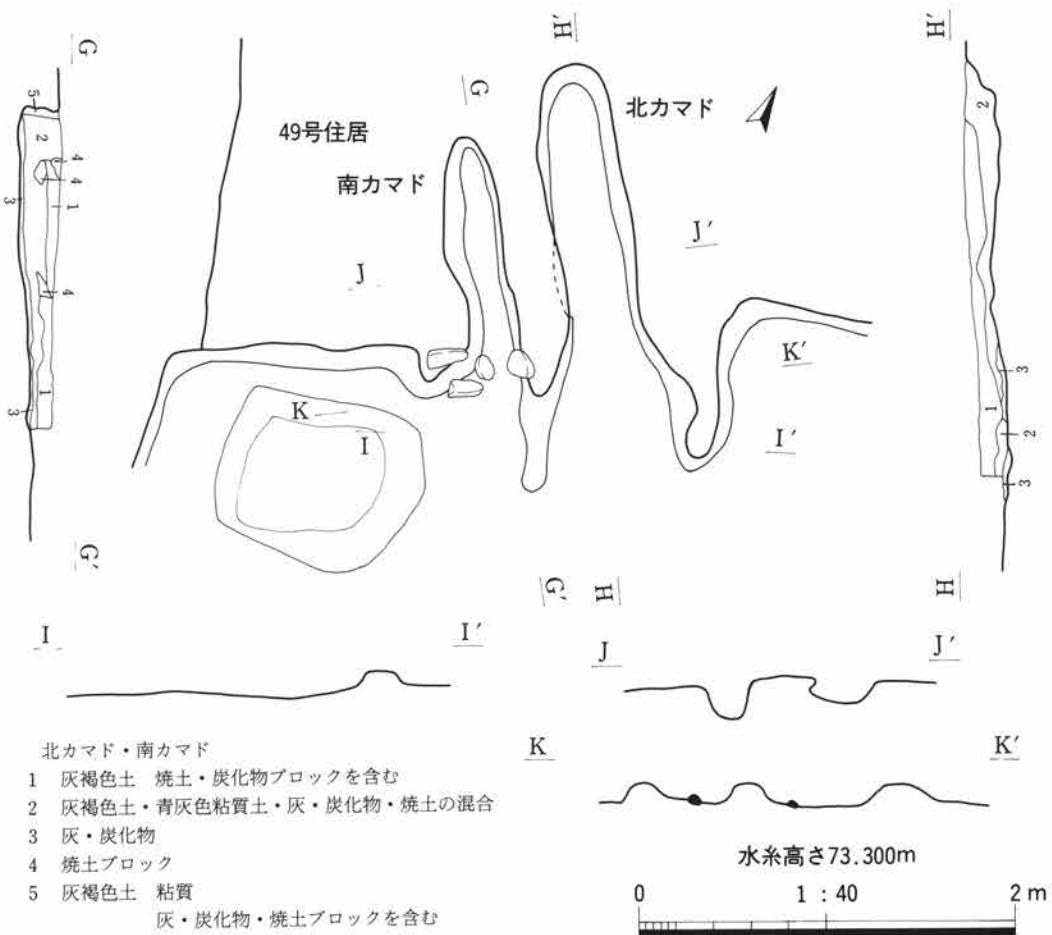
第1053図 寺東地区42号住居跡 (1)

遺物はカマド周辺、東辺近くからの出土が多い。第1056図1・6・7はカマド前から、2は中央東辺寄りの床面から、3はカマド右脇の壁際から、4は北西隅床面から、5は貯蔵穴脇の覆土から、8は中央北東寄りの床面からそれぞれ出土した。6の底面には木の葉の圧痕が残り、その周縁はヘラケズリを施している。

時期は6世紀後半から7世紀にかけて営まれたと考えられる。

寺東地区第43号住居跡 (第1055・1057・1058図、図版325・360)

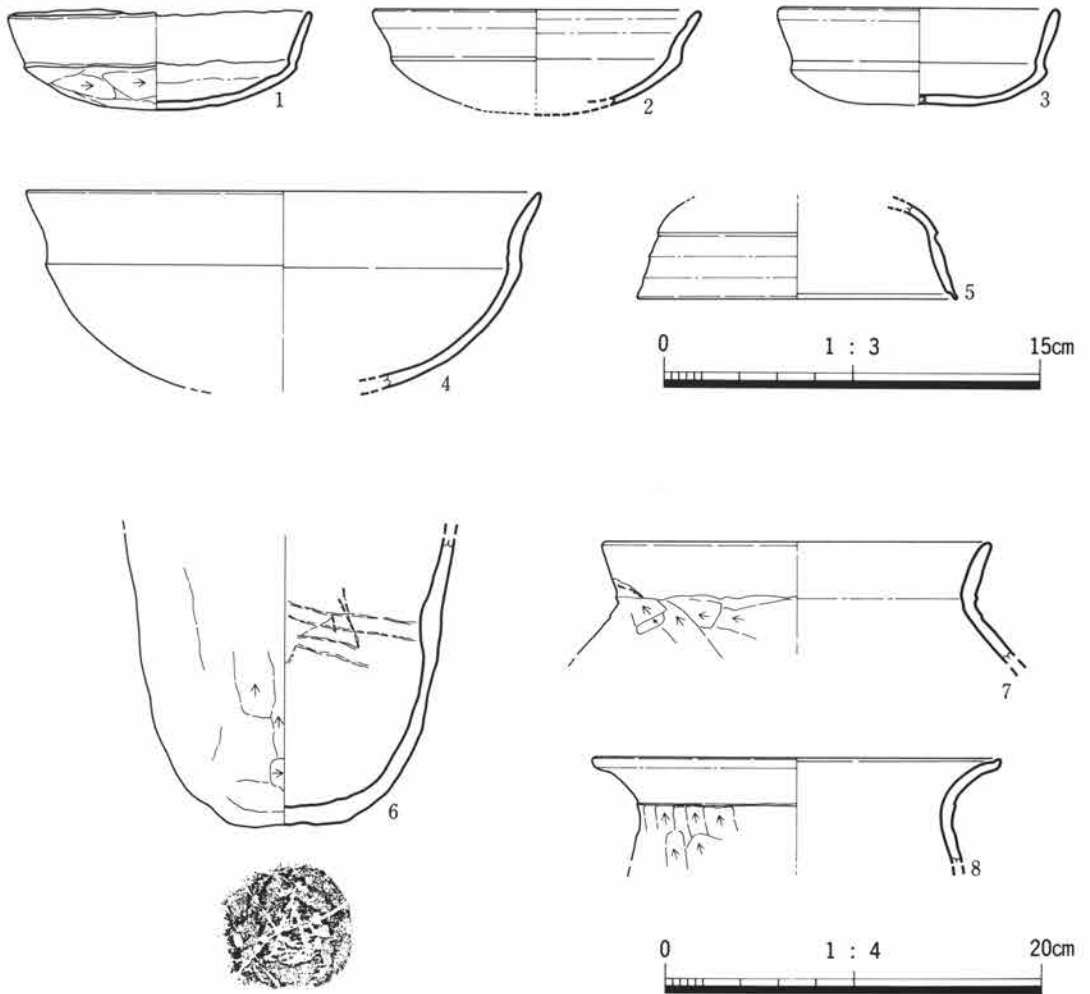
M-Nライン・70km967m付近で検出した。確認面は第10層である。48号住居と重複しており、48→43号住居の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、ほぼ全形を調査することができた。南東隅はやや丸く張り出し、北東隅・北西隅はやや幅が狭くなる。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。北東隅から北西隅、東辺北側にかけて多量の炭化物が出土している。これらの炭化物は床面からやや浮いた状態で、壁から斜めに中央の床面に向かって分布していた。



第1054図 寺東地区42号住居跡 (2)

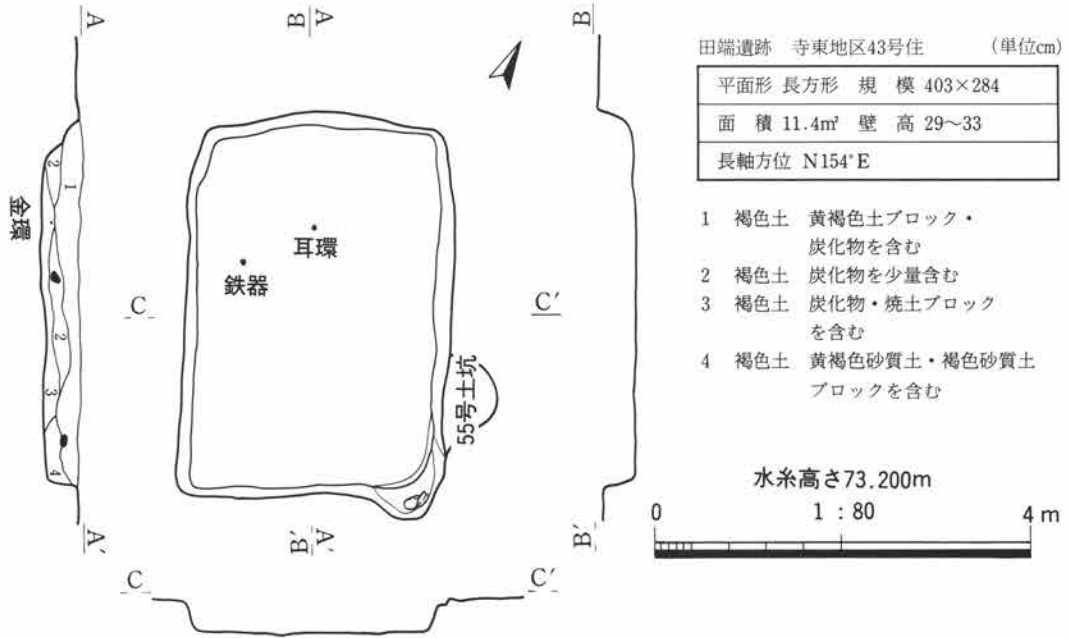


第1055図 寺東地区43号住居跡

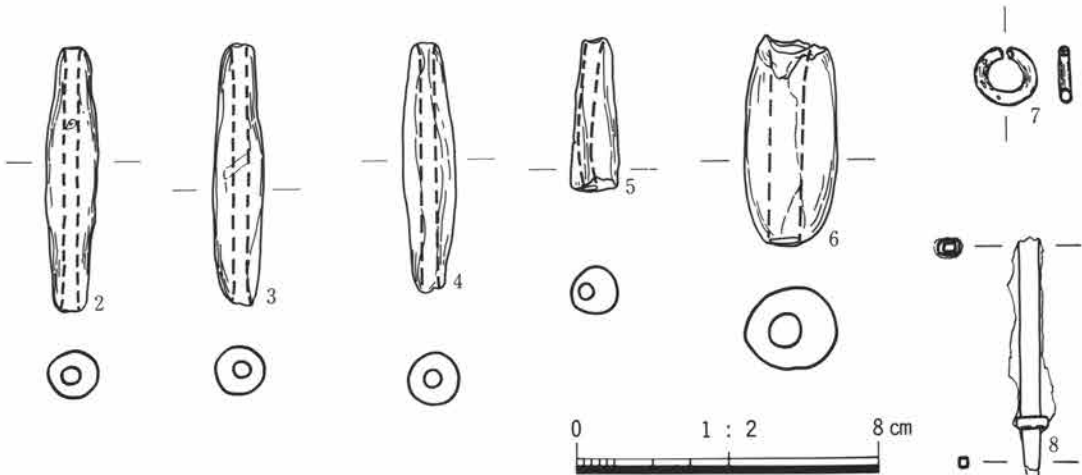


第1056図 寺東地区42号住居跡出土遺物

遺物は土器片がいくつか出土し、銀環・鉄製品が出土している。第1058図1は南西隅の壁際から、2は東辺中央床面から出土した。3～8は覆土出土の参考品である。
 時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第1057図 寺東地区43号住居跡



第1058図 寺東地区43号住居跡出土遺物

寺東地区第44号住居跡（第1059～1062図、図版325・360）

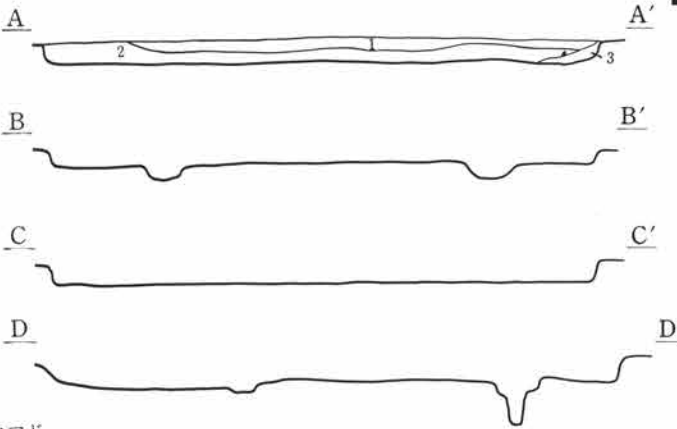
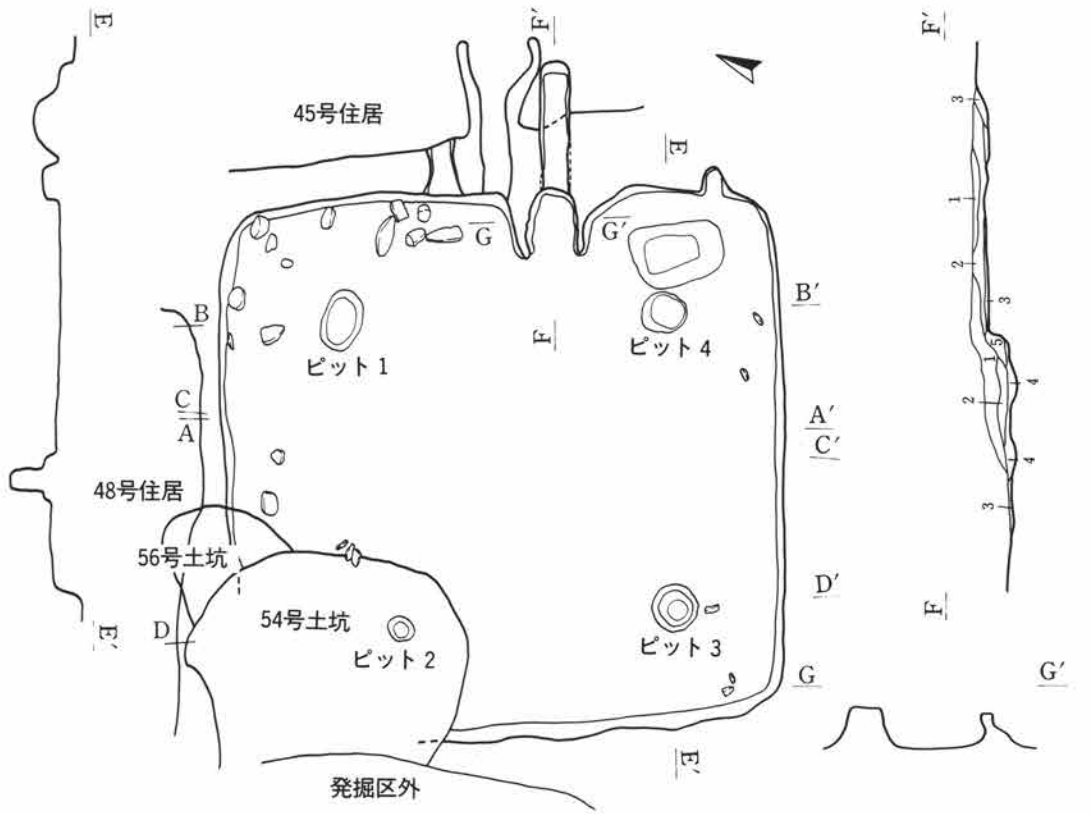
K-Nライン・70km959m付近で検出した。確認面は第10層である。28・29・45号住居、54・56号土坑と重複している。これらは45→44→28・29号、44→56→54号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北西隅を54・56号土坑によって失っている。東辺は45号住居のカマド煙道部を切っている。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。主柱穴とみられるピットはピット1～4で、それらの計測値は表の通りである。ピット2は54号土坑の底面で検出したもので、他の主柱穴とみられるピットの配置からみると、ややずれている。壁溝は検出していない。カマドは東辺やや南寄りに設置されていた。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、煙道部が約130cm遺存していた。貯蔵穴は東南隅で検出した。北辺がやや長い台形を呈する。

遺物はカマド周辺からいくつか出土している。第1062図1はカマド左袖部の床面から、2は中央南西部の床面から、3はカマド煙道部から、4は南西隅から出土した。4の鉄製品は形状が不明のため、鎌または鋤先の可能性がある。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



第1059図 寺東地区44号住居跡



カマド

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色土 砂質
焼土粒を含む | 1 灰黄褐色土 砂質
炭化物粒子を多く含む |
| 2 灰褐色土 粘質
焼土ブロックを含む | 2 灰褐色土 砂質
灰褐色粘質土ブロックを含む |
| 3 灰・炭化物 | 3 褐色土 砂質 |
| 4 灰黄褐色土 灰・炭化物を含む | 炭化物を多く含む |
| 5 焼土 | |



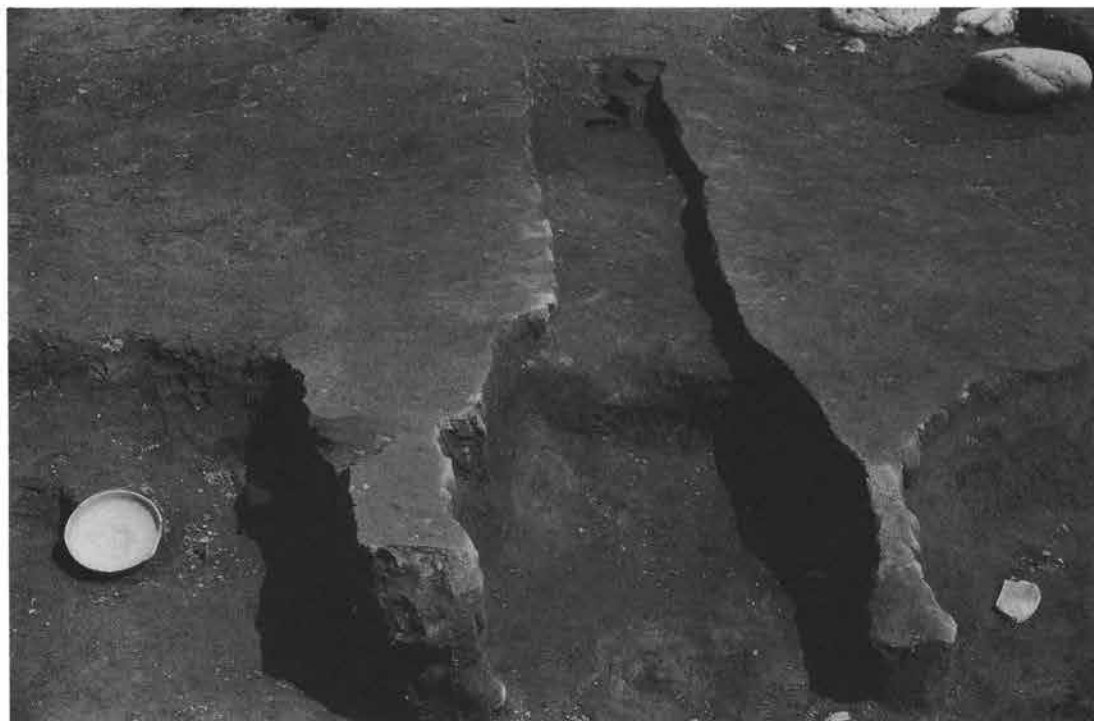
田端遺跡 寺東地区44号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 594×577				
面積 34.3㎡ 壁高 12~30				
長軸方位 N150°E				
主柱穴	1	2	3	4
上バ径	62×42	28	50	47
下バ径	48×31	17	12	36
深さ	14	8	43	17
主柱穴間の距離 (心心)				
1-2 334		2-3 295		
3-4 318		4-1 345		
カマド 位置 東辺 対称軸方位 N66°E 焚口部幅 40 燃烧部 70×50 煙道部幅 30 長さ 134 構築材粘土				
貯蔵穴 位置 南東隅 平面形 台形				
上バ 98×66				
下バ 58×36				
深さ 24				

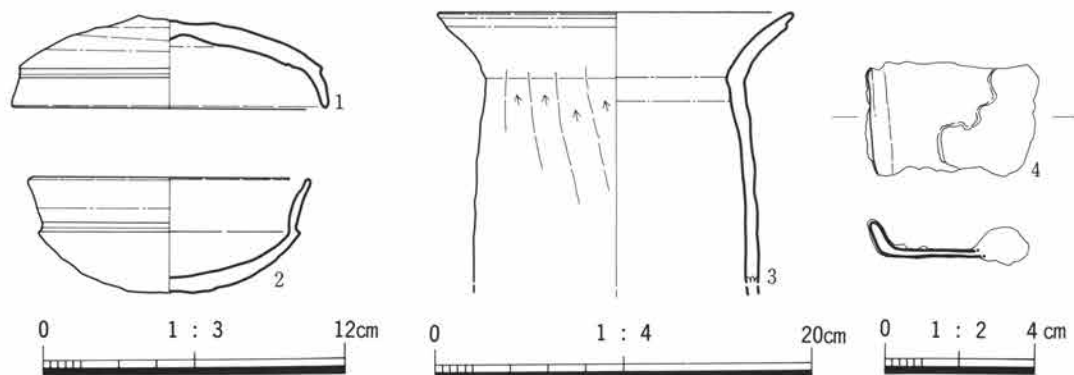
第1060図 寺東地区44号住居跡

寺東地区第45号住居跡（第1063・1064図、図版325）

Nライン・70km958m付近で検出した。確認面は第10層である。29・44号住居と重複しており、45→44→29号住居の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、東半部分は新幹線構造物がすでに存在していたため調査できなかった。北西隅・南西隅を検出したのみである。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。カマドは西辺南寄りに設置されていた。燃焼部が壁の内側にあるタイプである。煙道は壁の内側から延びており、約100cmを検出した。煙道先端部は44号住居によって失っている。



第1061図 寺東地区44号住居跡



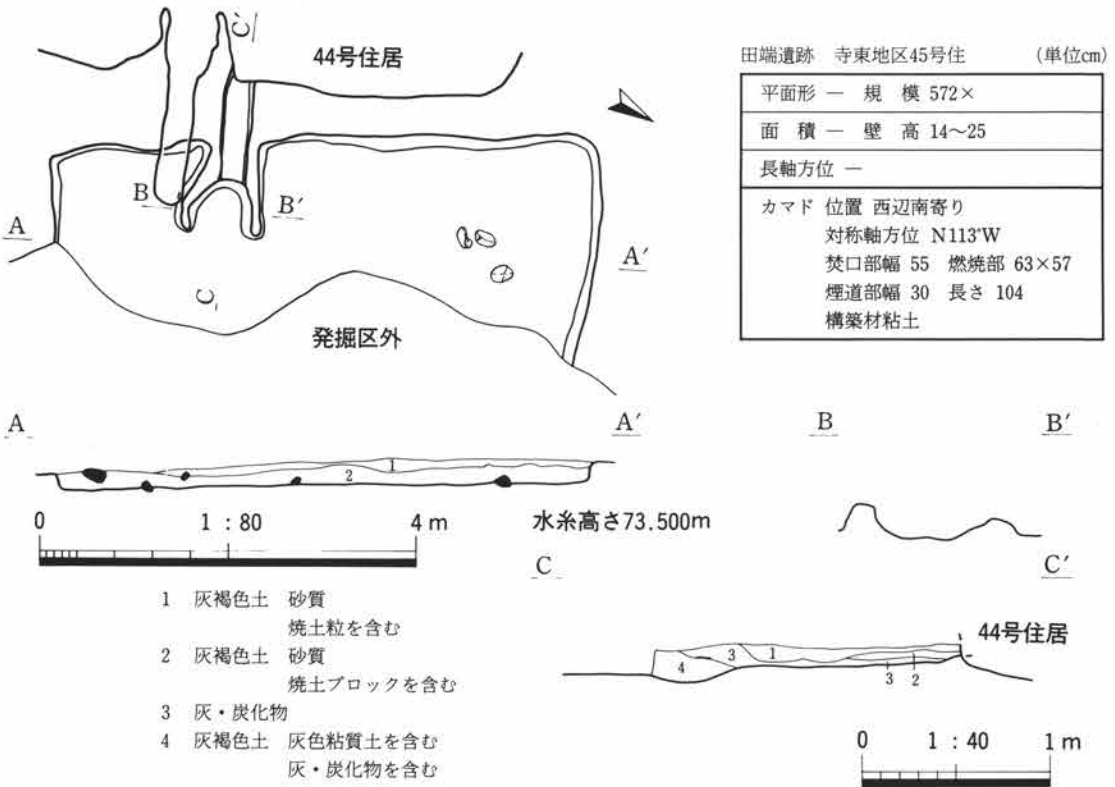
第1062図 寺東地区44号住居跡出土遺物

遺物はカマド周辺から数片出土している。第1064図1は西辺北寄りの床面から出土した。2は覆土出土の参考品である。

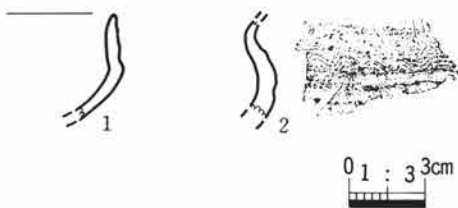
時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。

寺東地区第46号住居跡（第1065～1067図、図版326・361）

Lライン・70km952m付近で検出した。確認面は第10層である。20・47号住居と重複しており、20→46→47号の順に新しい。本住居の南西隅は調査手順の都合により検出できなかった。東辺は47号住居と溝によって失っている。覆土は自然に堆積している。壁は15cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。南辺は二段に掘り込まれている。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは南東隅に設置されていた。燃烧部は浅く掘り込んだもので、袖部・煙道部は検出していない。



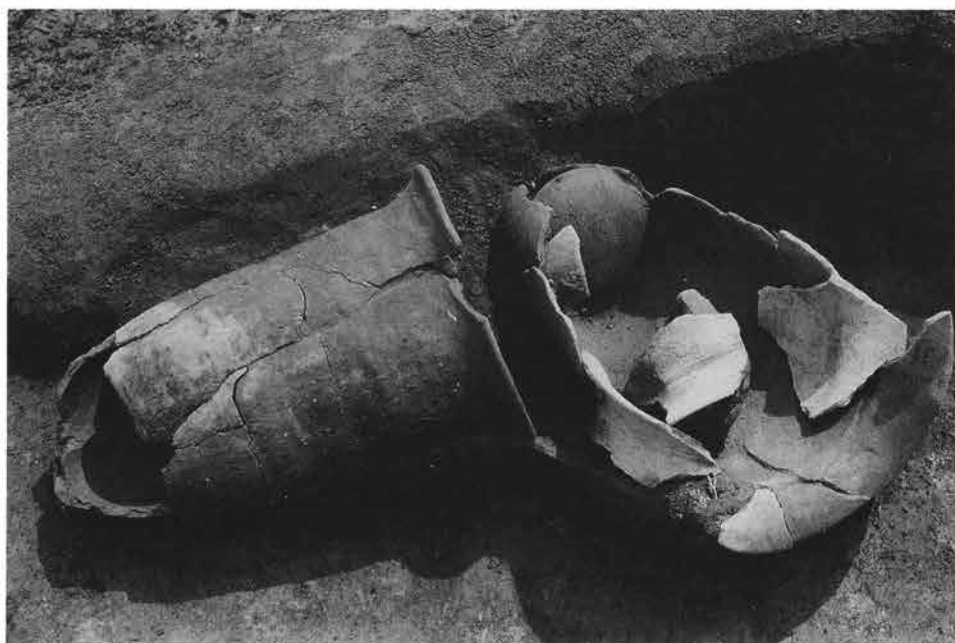
第1063図 寺東地区45号住居跡



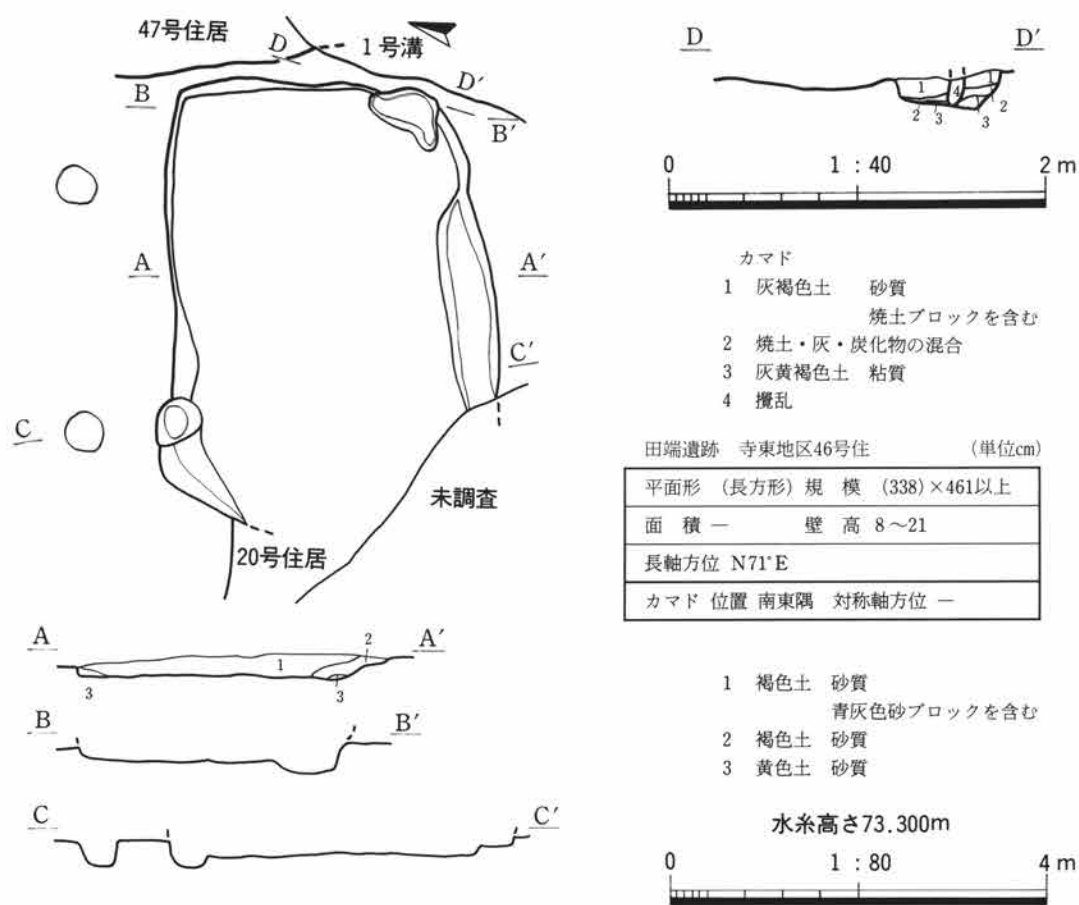
遺物はカマド前に甕が2个体出土している。第1067図1はカマド前の床面から、2は南西寄りの床直上から、3・4はカマド前床面からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

第1064図 寺東地区45号住居跡出土遺物



第1065図 寺東地区46号住居跡



第1066図 寺東地区46号住居跡

寺東地区第47号住居跡（第1069・1070図、図版326・361）

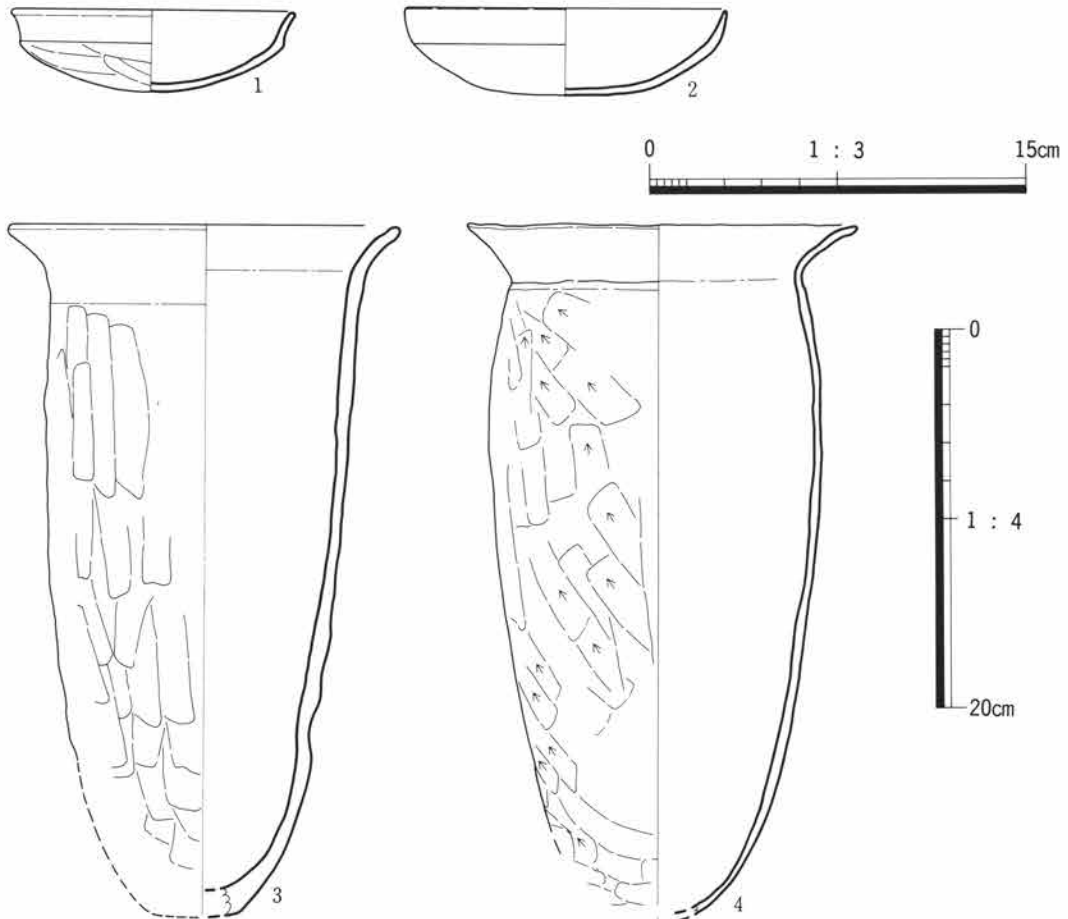
Mライン・70km952m付近で検出した。確認面は第10層である。1号溝と重複しており、本住居は切られている。第3次調査で検出したもので、北西隅のみ遺存し、大半は1号溝によって失っている。壁は15cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

遺物は北辺寄りでいくつか出土した。第1070図1・2は北辺壁際床面から、3は北西隅壁際からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第48号住居跡（第1068・1071～1074図、図版327・362・363）

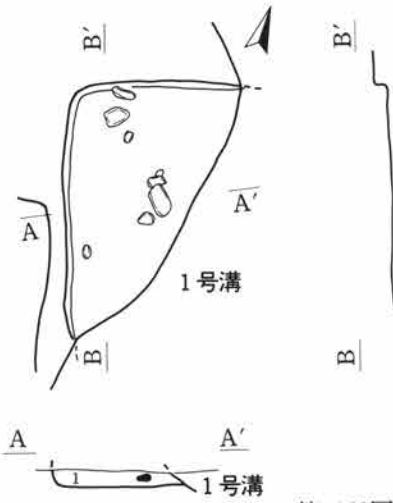
M-Nライン・70km964m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第3次調査で検出したもので、28・43号住居、54・55・56号土坑と重複しており、本住居は最も古い。北西隅は43号住居によって失っている。覆土からは多量の石が出土しており、これらの石は床面直上の薄い土層の上に位置し



第1067図 寺東地区46号住居跡出土遺物



第1068図 寺東地区48号住居跡

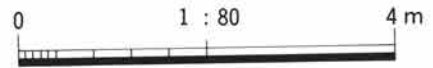


- 1 褐色土 砂質
斑点状の赤褐色土を含む

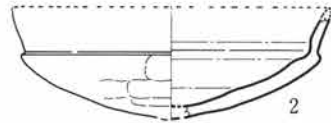
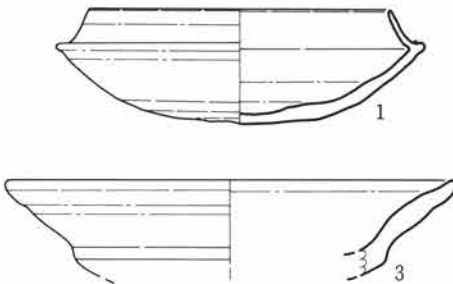
田端遺跡 寺東地区47号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	13~18
長軸方位	—		

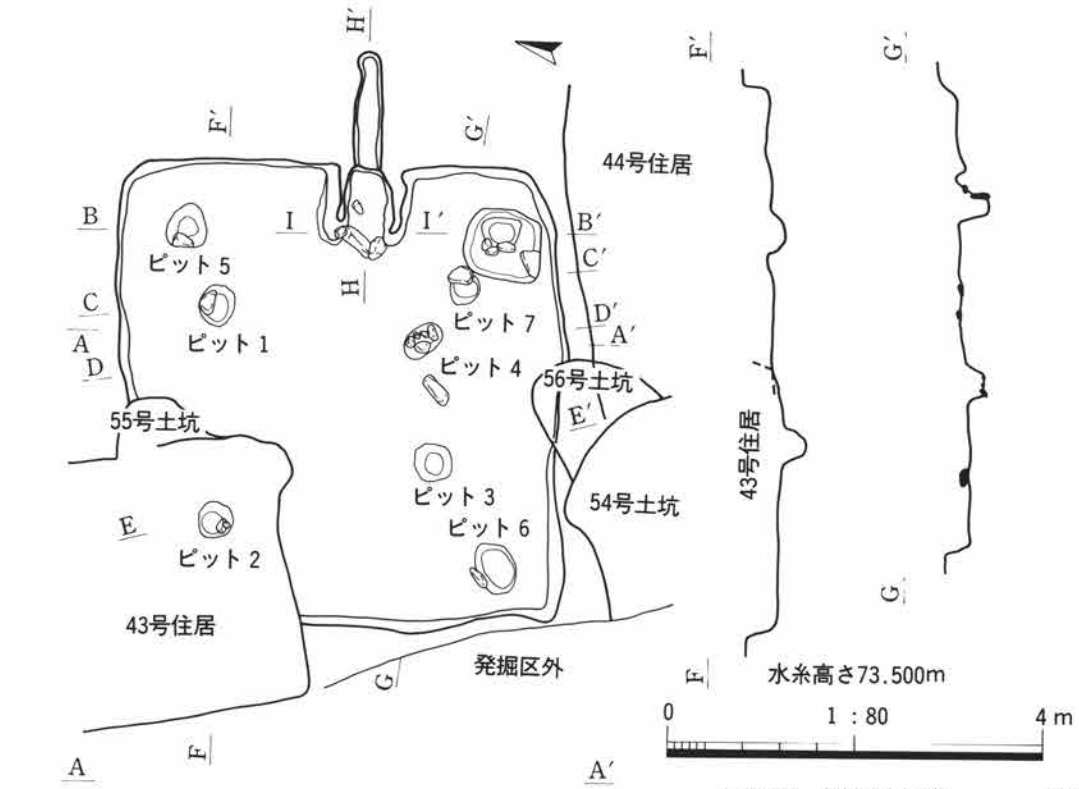
水糸高さ73.000m



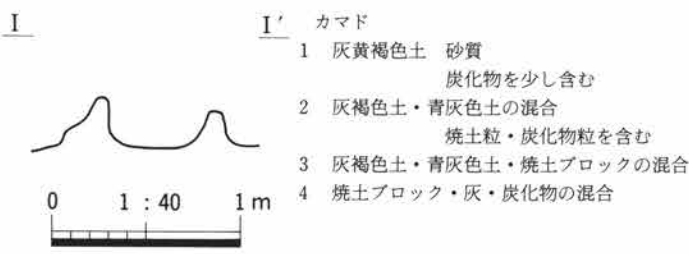
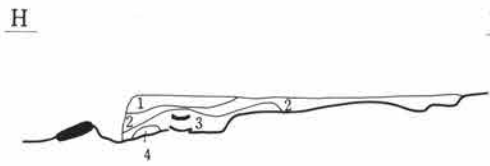
第1069図 寺東地区47号住居跡



第1070図 寺東地区47号住居跡出土遺物



- 1 褐色土 砂質
黄褐色土ブロック・青灰色土ブロックを含む
- 2 褐色土 砂質
- 3 黒褐色土 粘質
炭化物を含む
- 4 黄褐色土 砂質



田端遺跡 寺東地区48号住 (単位cm)

平面形 長方形 規 模 486×(457)				
面 積 22.2㎡ 壁 高 20~24				
長軸方位 N70°E				
主柱穴	1	2	3	4
上バ径	38	37	40	44×29
下バ径	29×21	23	20	27×17
深 さ	18	30	17	15
主柱穴間の距離 (心々)				
1-2 229		2-3 244		
3-4 132		4-1 222		
カマド	位置 東辺 対称軸方位 N74°E			
	焚口部幅 40 燃焼部 75×45			
	煙道部幅 27 長さ 123			
	構築材粘土・石			
	支 脚石			
貯蔵穴	位置 南東隅 平面形 方形			
	上 バ 80×74 下 バ 25×20			
	深 さ 32			
その他	ピット 5 : 41×46、深さ25			
	ピット 6 : 55×40、深さ19			
	ピット 7 : 32、深さ30			
	5-7 : 302- 3-6 : 129			
	6-7 : 296 4-7 : 70			
	1-5 : 90			

第1071図 寺東地区48号住居跡 (1)

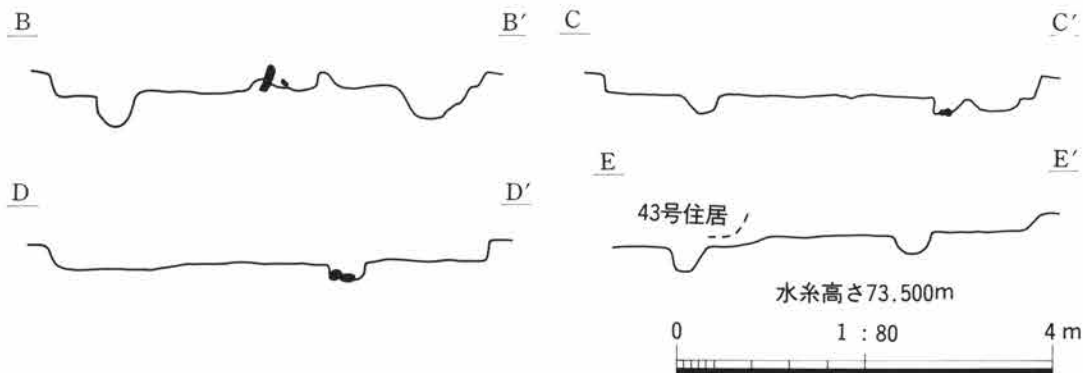
ている。投げ込まれた可能性がある。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1～4で、それらの計測値は表の通りである。また、ピット5～7はピット1～4の外側にあり、対角線上の方向に並んでいる。これらのピットは密接な関係にあったと考えられる。なお、ピット2の外側に位置するピットは精査したが検出できなかった。壁溝は検出していない。カマドは東辺やや南寄りに設置されていた。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、左右の袖部に石が据えられていた。左袖石は直立状態で検出している。両袖石の間には長さ40cm・厚さ5cm前後の扁平な石が落ち込んでいた。焚口の天井石と考えられる。また、燃烧部中央部では長さ20cm・径6cmほどの石が斜めに傾いた状態で出土した。支脚に使用したと考えられる。貯蔵穴は南東隅のカマド右脇で検出した。上面は略方形を呈するが、内部は二段に掘り込まれており、底面は東側に寄っている。中から石が4個出土している。

遺物は比較的多く、カマド前、貯蔵穴周辺からの出土が多い。第1073・1074図1は南辺中央床面から、2は貯蔵穴内から、3は中央南寄り床面から、4・5・8は南東隅床面から、6は中央床面と南東隅床面が接合、7は北東隅床面から、9はカマド前床面から出土した。10は砥石とみられ、中央床面で発見した。11～18は滑石製の白玉で、カマド右脇・南東隅・カマド左脇から出土したものである。19は南東隅出土の不明製品の破片、20はカマド左脇出土の剥片である。ほかに図示しなかったが、白玉の破片がカマド左脇から1点出土している。

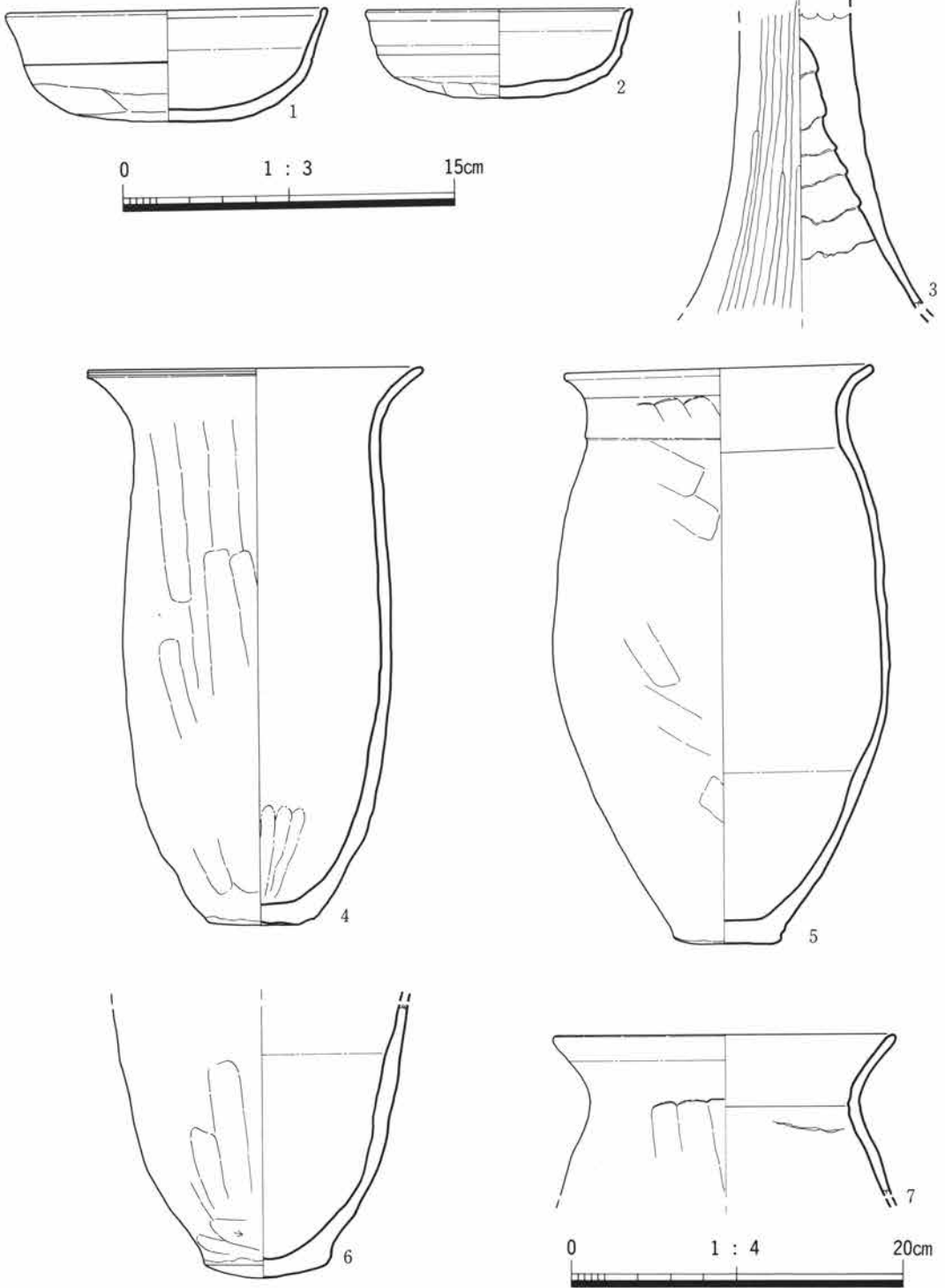
時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。

寺東地区第49号住居跡（第1075～1077図、図版327・328・363・364）

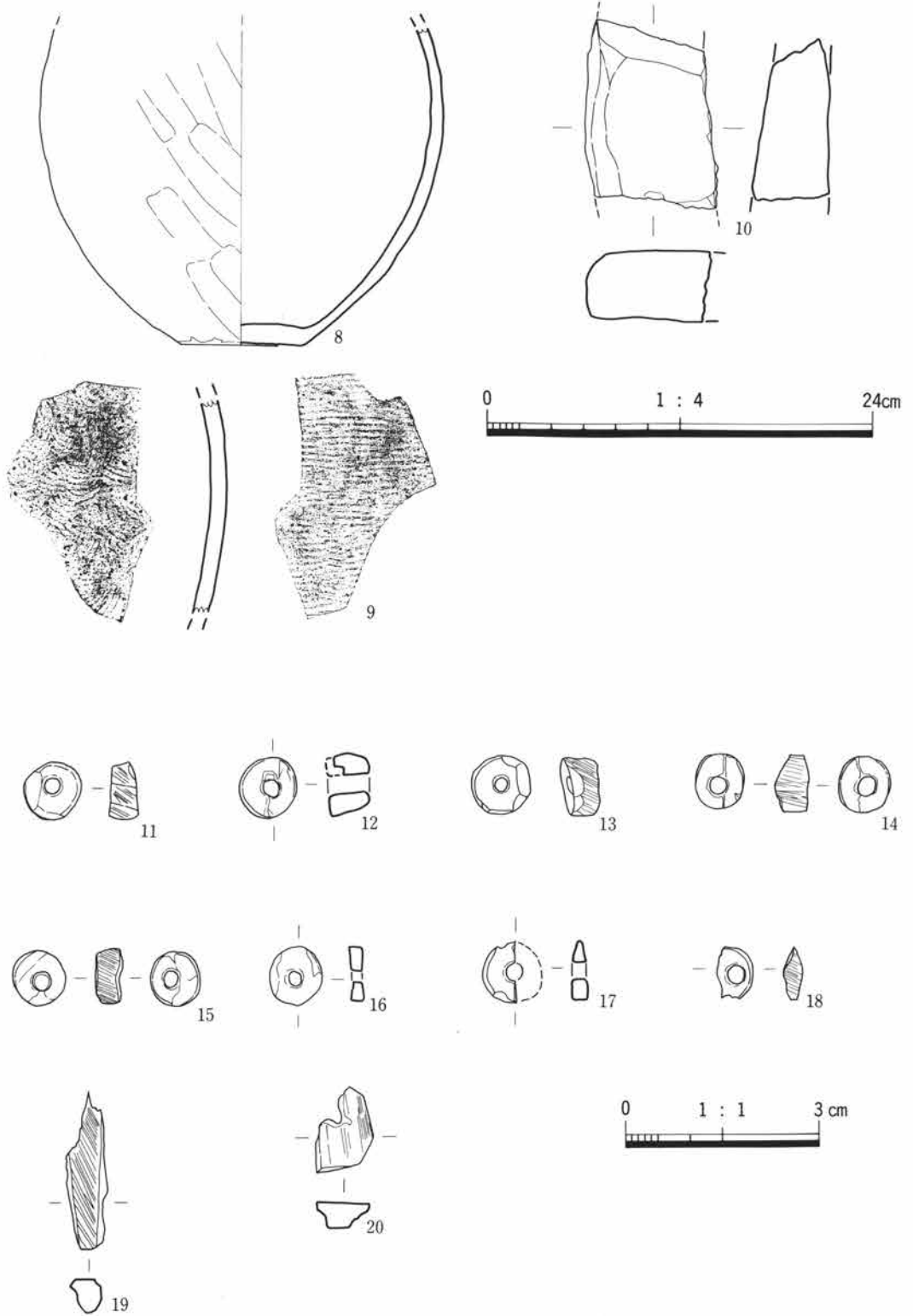
Pライン・70km974m付近で検出した。確認面は第10層である。27・42号住居と重複しており、49→42→27号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、南辺は42号住居によって失っている。また、北半部は調査区外にある。従って、確認したのは北西隅のみである。南北430cm以上、東西480cm以上を測る。覆土からは拳大～人頭大の石が多量に出土した。壁は浅く、10cm前後が遺存していた。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1を検出しているが、他の対応するピットが検出していないので、保留しておきたい。壁溝は検出していない。カマドは北辺に設置されていた。調査区壁の直下にあたり、左右の袖基部に石を据えていた。燃烧部は壁の内側にあるタイプである。燃



第1072図 寺東地区48号住居跡（2）



第1073図 寺東地区48号住居跡出土遺物（1）



第1074図 寺東地区48号住居跡出土遺物（2）

焼部中央から長さ22cm・径7cmの石が出土しており、支脚としたものと考えられる。貯蔵穴はカマド左脇の北西隅で検出した。礫層を掘り込んで作られており、貯蔵穴壁は石が露出している。

遺物はカマド周辺、貯蔵穴近くから出土している。第1077図1・2・13はカマド前床面から、3・7は貯蔵穴内から、4・8・11・12はカマド左脇床面から、5はカマド左前床面から、6は西辺北寄り壁際から、9は西辺北寄り壁際床面からそれぞれ出土した。10は西辺中央覆土出土の参考品である。時期は6世紀後半頃と考えられる。

寺東地区第51号住居跡（第1078・1079・1081図、図版328・364・365）

Qライン・70km922m付近で検出した。確認面は第10層である。35号溝と接しているが重複していることは確認できなかった。本住居は第4次調査で検出したもので、北半部は調査区外にある。また、調査区壁で土層の確認をするためにトレンチを入れたためカマドに相当する部分は削平してしまった。覆土は自然に堆積している。覆土中に拳大～人頭大の石が多量に含まれていた。これらの石は床面から浮いており、下層の礫の露出ではない。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、全体に炭化物が分布していた。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。



第1075図 寺東地区49号住居跡

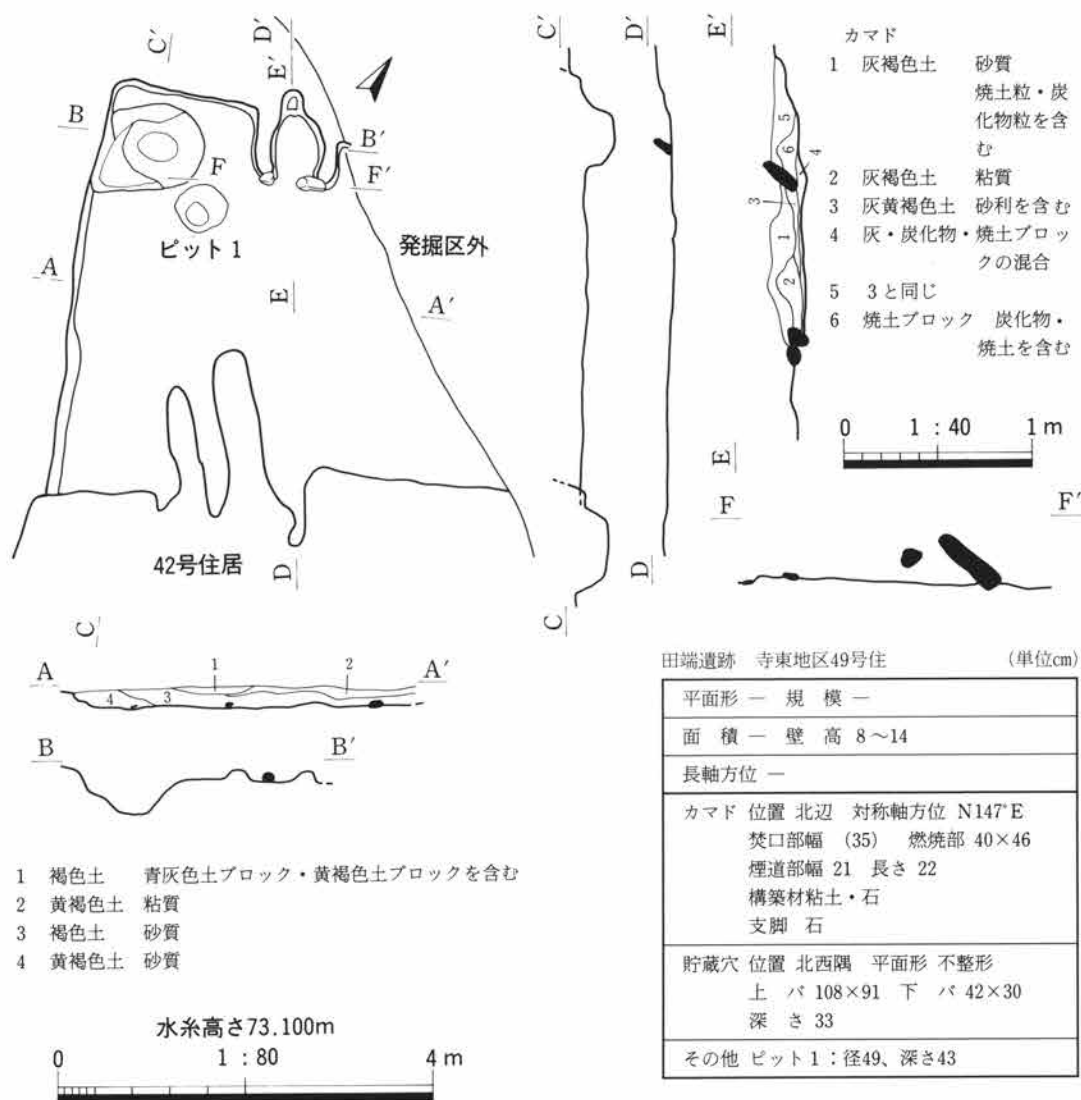
カマドは東辺の北寄りて一部を発見したが、トレンチ調査で消滅した。調査区壁にはカマドの痕跡として少量の焼土が堆積している。

遺物は小片が出土したのみである。第1081図5は南辺中央壁際床面から、7は中央南寄り床面からそれぞれ出土した。その他の遺物は覆土出土の参考品である。

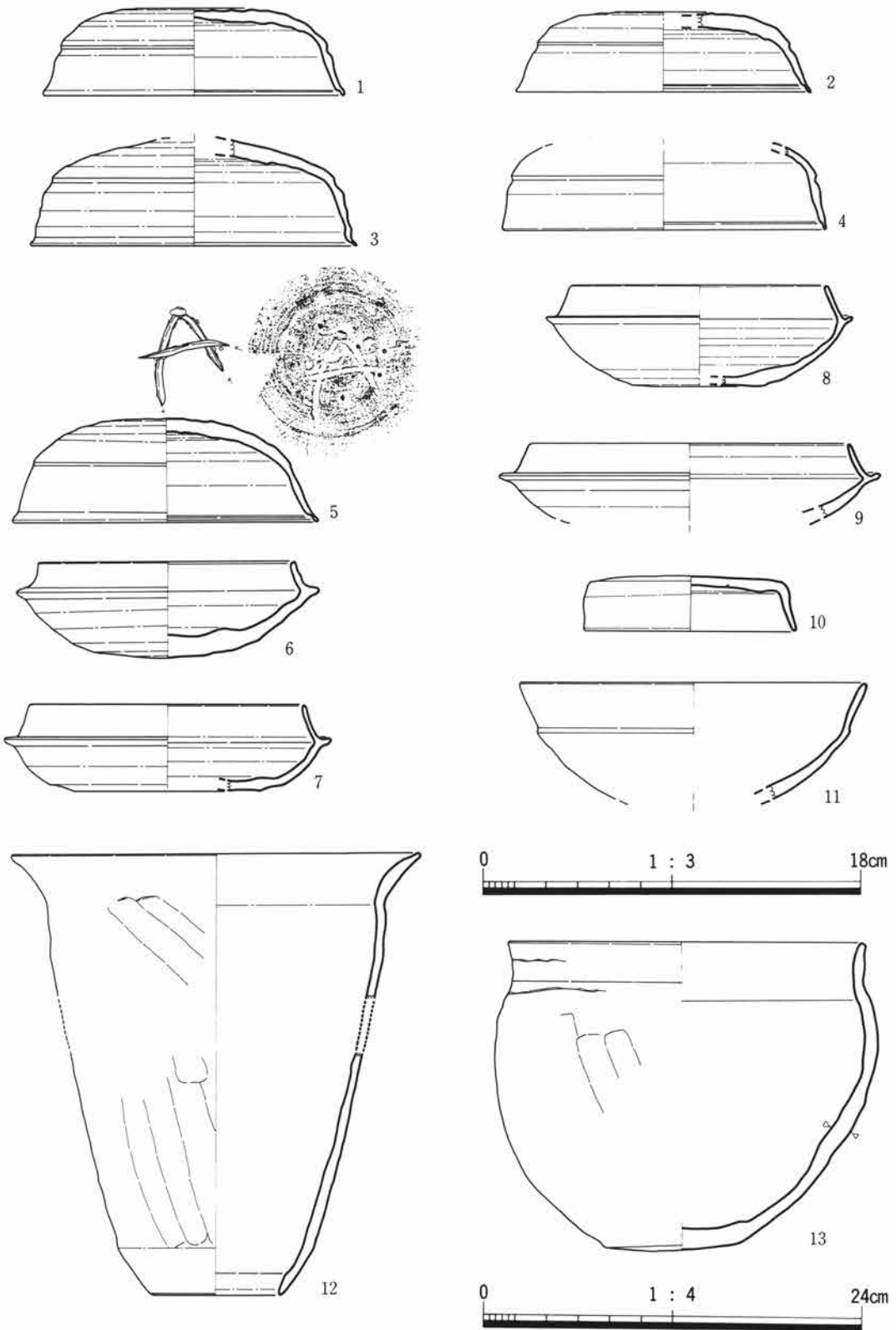
時期は7世紀頃とみられる。

寺東地区第55号住居跡 (第1080・1082・1083図、図版365)

Pライン・70km948m付近で検出した。確認面は第10層である。59号土坑と重複しており、55→59号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので、西半部は充分な調査をしていないが、位置関係から第3次調査で検出した1号溝屈曲部によって切られていると考えられる。また、南部は調査着手時にすでに側溝が作られており、調査できなかった。全体に不整形のプランで、北東隅を検出したの



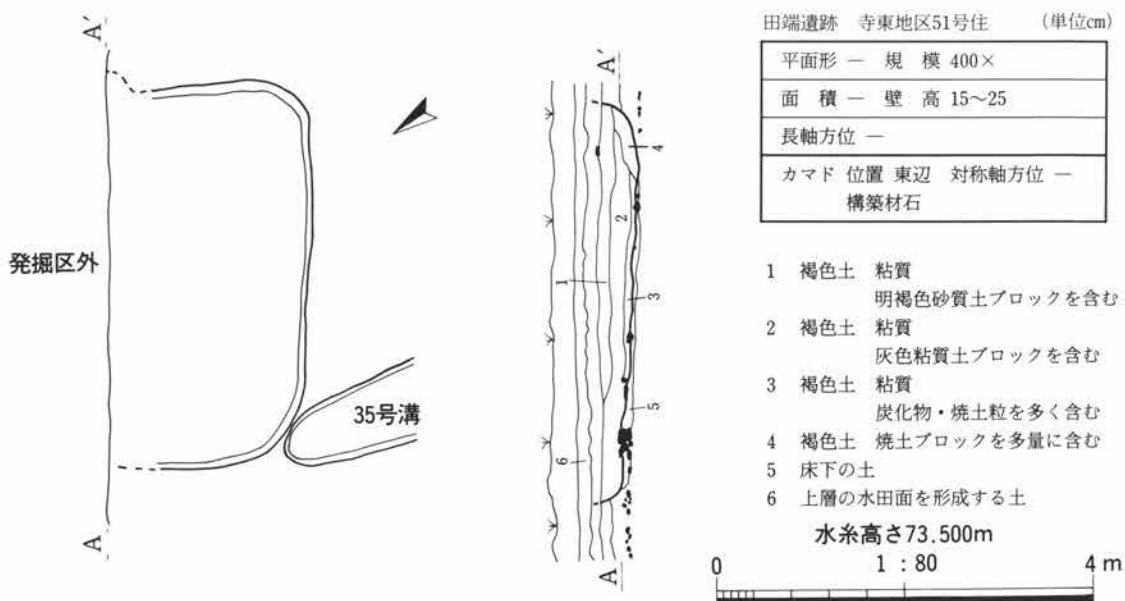
第1076図 寺東地区49号住居跡



第1077図 寺東地区49号住居跡出土遺物



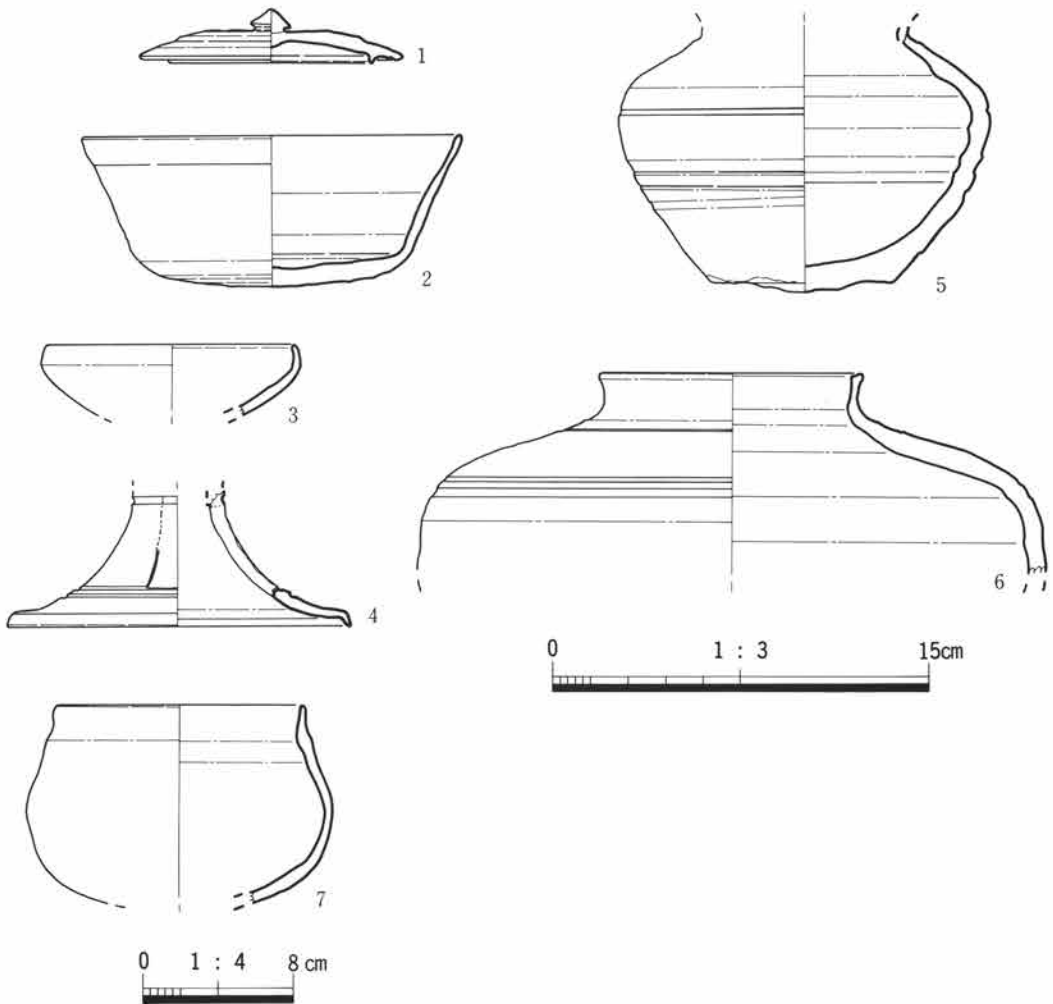
第1078図 寺東地区51号住居跡



第1079図 寺東地区51号住居跡



第1080図 寺東地区55号住居跡

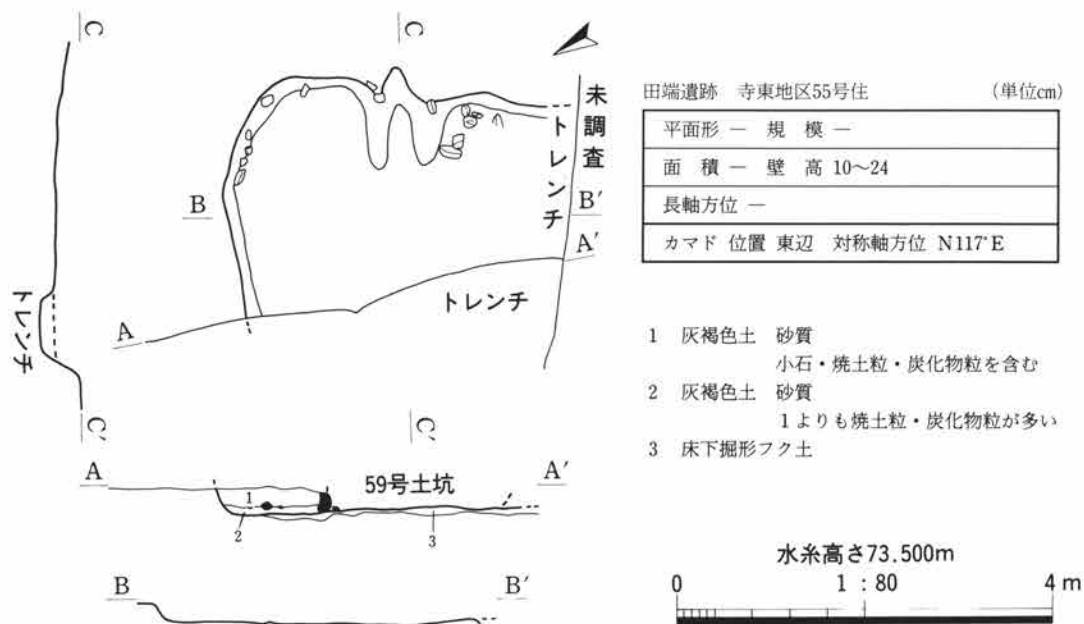


第1081図 寺東地区51号住居跡出土遺物

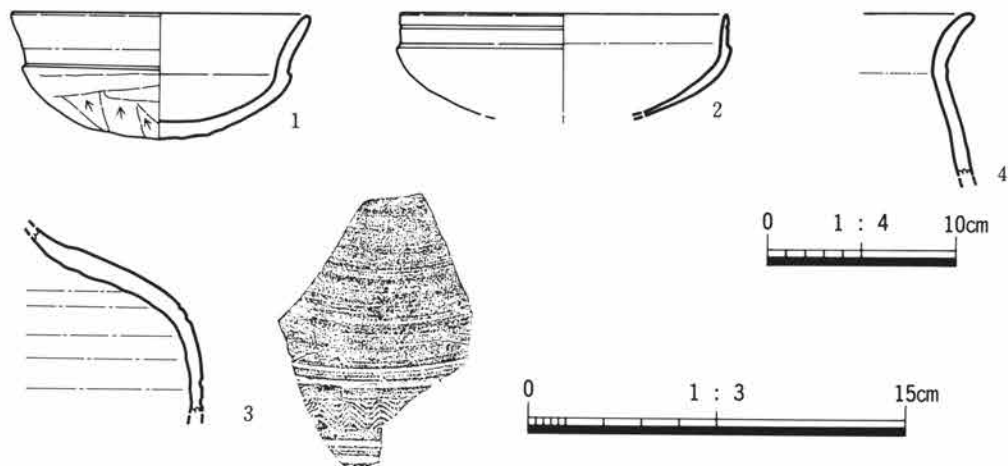
みである。西側・南側には土層観察用のトレンチを設定している。覆土には多量の石が含まれていた。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面はカマド前の灰分布面で検出したもので、下層の礫面が露出しており、細かい凹凸があるが堅く締っている。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていたが遺存状態は不良で、袖部と煙道部の一部を検出したのみである。

遺物はカマド右で出土している。第1083図1・3はカマド右脇床面から、2・4はカマド前の床面からそれぞれ出土した。

時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。



第1082図 寺東地区55号住居跡



第1083図 寺東地区55号住居跡出土遺物

寺東地区第57号住居跡（第1084図、図版365）

Jライン・70km981m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第4次調査で検出したもので、南側道に位置する。プランは南東隅・北西隅を検出したが、北東隅は未調査であり、南西隅は調査区外にある。62・63・64・67号住居と重複しており、63・64・67号と本住居との前後関係は64→63→57→67号の順に新しい。

62号との前後関係は調査時の所見では62号の方が新しいと推定していた。しかし、南側の調査区壁の土層断面と、カマドの土層断面との両者を合わせて整合するように考えると、57号住居の方が新しい。第1084図左上の土層断面は調査区南側壁の土層で、調査時の所見を生かして示したものである。この図で62号住居1とした土層は57号の床面を示す線とよく一致している。またこの図で57号と示した部分の土層は、調査区北側で確認した57号の覆土とよく似ている。さらに、カマド付近の土層観察では一部に57号の床面を検出しており、この床面は62号の確認面よりも数センチメートル上方にある。以上のことから、ここでは62→57号の順に新しいと考えておきたい。その場合、62号の東辺壁際で出土している、カマドに使われたとみられる2個の石は、ほぼ同じ位置に設置されていた62号カマドの痕跡とみることができる。写真において、このカマドの燃焼部が62号に属するように見えるのは、カマド土層で示すように掘り過ぎである。

壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1・3で、計測値は表の通りである。壁溝は検出していない。貯蔵穴は南東隅で検出したが、62号の方が新しいという認定で調査を進めたため一部失っている。

遺物は中央部でいくつか出土している。第751図2は中央部北寄りの床面直上から出土した須恵器高杯である。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第58号住居跡（第1086図）

Iライン・70km973m付近で検出した。確認面は第10層である。59号住居と重複しており、58→59号の順に新しい。本住居は第4次調査の南側道で検出したもので、北東隅のみ検出し、南半部は調査区外にある。東側は59号住居と重複し、突出部分が切られている。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、直上に灰・炭化物が薄く堆積しており、堅く締っていた。住居内部の諸施設は検出していない。

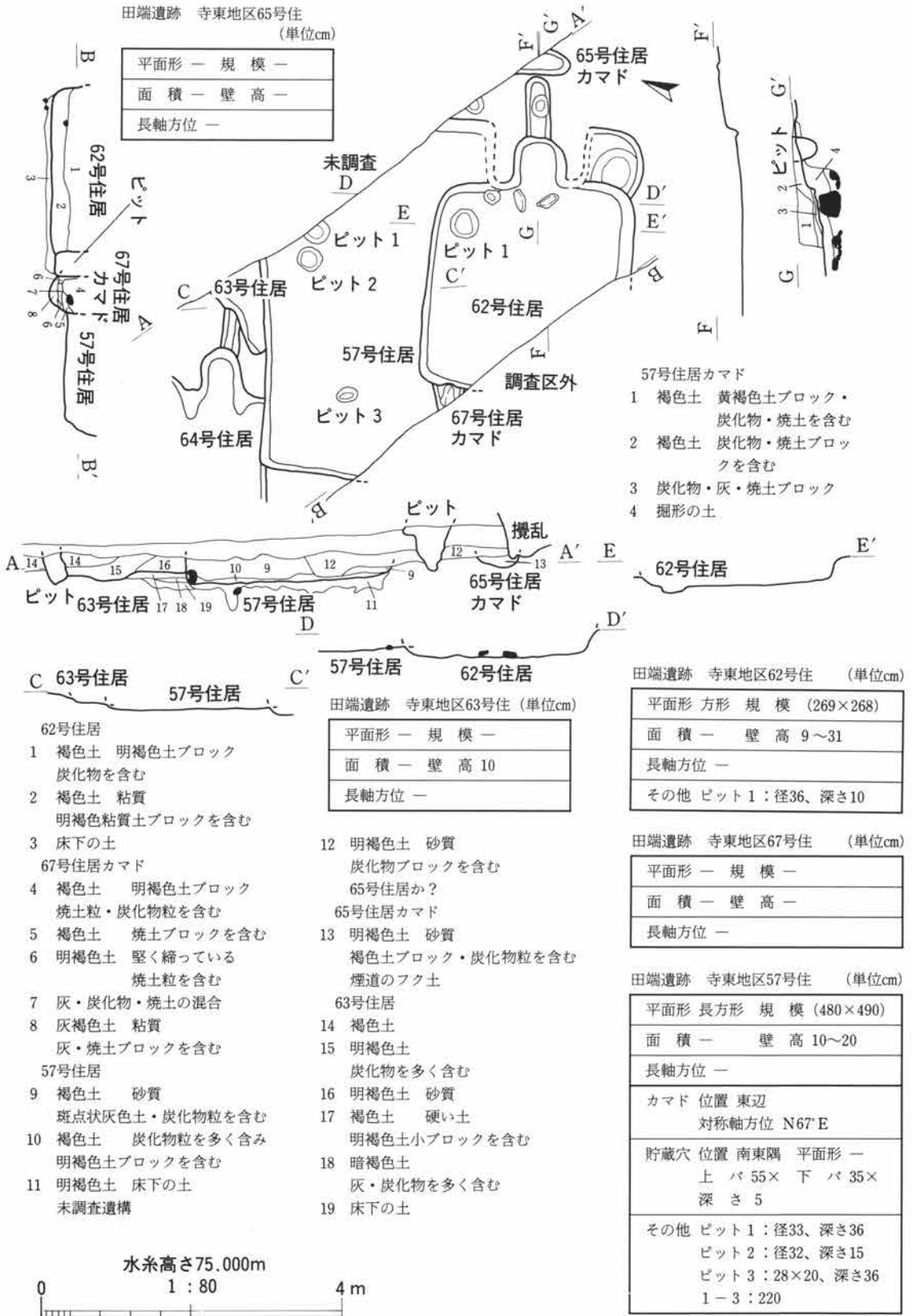
遺物は小片のみで図示できるものはない。

時期は6～7世紀代か。

寺東地区第59号住居跡（第1085・1087図、図版329・366）

Jライン・70km968m付近で検出した。確認面は第10層である。58・60・66号住居と重複している。これらは58→59号、60→59→66号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので、北東隅は未調査、南西隅は調査区外にある。覆土は自然に堆積している。壁は30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸があり、下層の石が露出している。中央部は堅く締っていた。支柱穴と

第V章 遺構と遺物



第1084図 寺東地区57・62・63・65・67号住居跡

みられるピットはピット1～4で、それらの計測値は表の通りである。ピット2は他のピットに比べてやや浅く、形状もしっかりしていない。壁溝は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプで、煙道は未調査区内にある。左右の袖基部には石が据えられていた。左袖部では立てた状態で、右袖部は南東隅に傾いた状態で発見した。貯蔵穴は南東隅で検出した。楕円形を呈し、内部の壁には石が露出していた。



第1085図 寺東地区59号住居跡

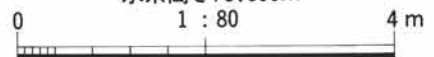


田端遺跡 寺東地区58号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	27~33
長軸方位	—		

- 1 褐色土 炭化物粒を少し含む
明褐色砂質土ブロック
を多く含む
- 2 暗褐色土 灰を多く含む
- 3 明褐色土 床下の土

水糸高さ75.000m

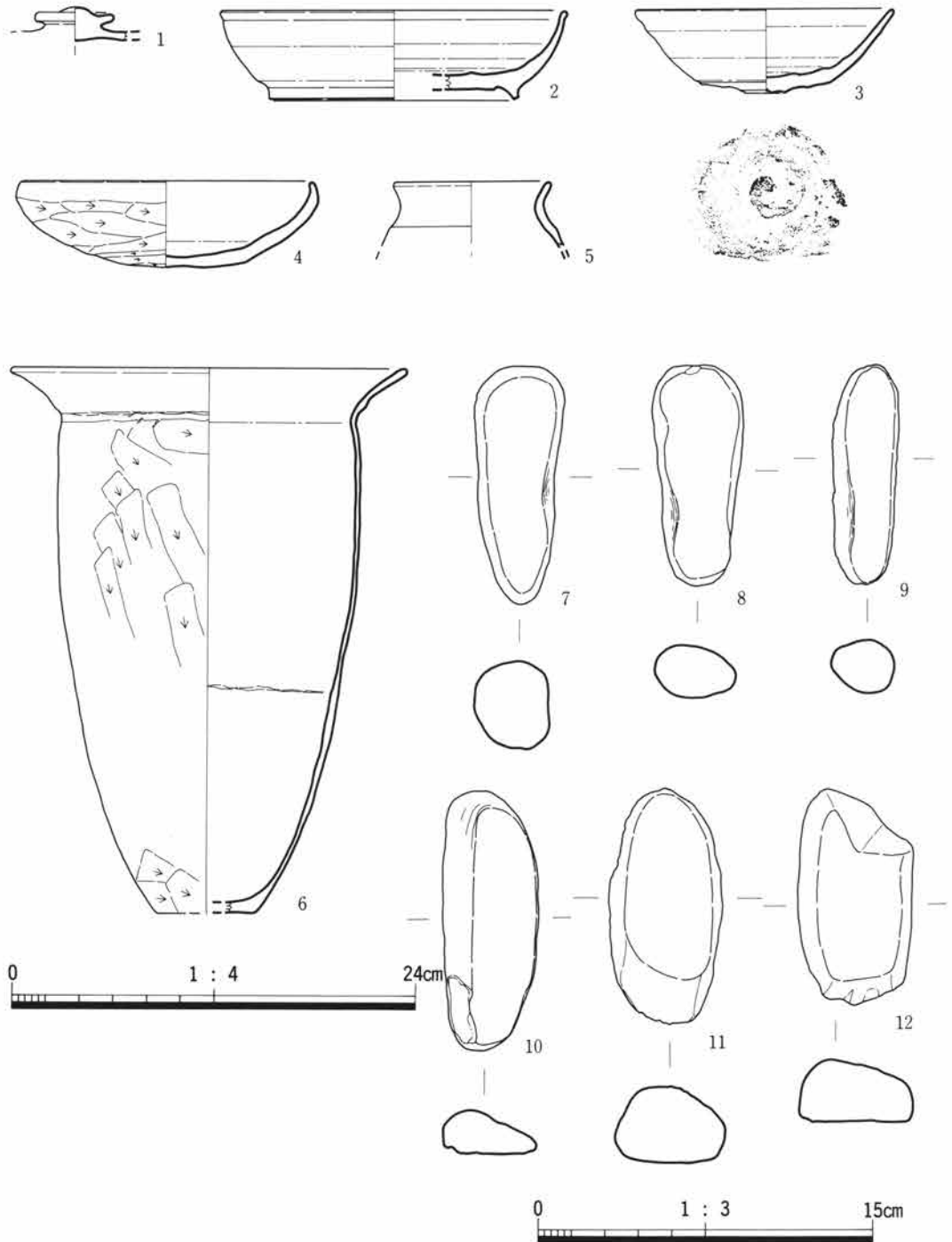


第1086図 寺東地区58号住居跡

第V章 遺構と遺物

遺物はカマド周辺からの出土が多い。第1087図1・2・5は中央部から、3・4はカマド周辺から、6はカマド内から、7～12は中央部南寄りの床面からまとめてそれぞれ出土した。石の用途は不明だが、すべて手の平のサイズである。

時期は7世紀代と考えられる。



第1087図 寺東地区59号住居跡出土遺物

寺東地区第62号住居跡（第1084図、図版329・366）

Jライン・70km980m付近で検出した。確認面は第10層である。57・67号住居と重複しており、62→57→67号の順に新しい（重複関係については57号住居を参照）。本住居は第4次調査で検出したもので南側道に位置し、南西隅は調査区外にある。覆土は自然に堆積している。壁は南辺で30cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは57号住居と同位置に設置されていたとみられ、東辺中央部にカマドに使用されたと考えられる石が2個出土している。57号のカマドを構築する際に破壊されたと推定できる。北東隅で検出したピット1は貯蔵穴の可能性がある。

遺物は東辺近くで小片が出土している。第751図3・4はカマド内から、5はカマド左脇の床面から出土した。

時期は6世紀後半～7世紀と考えられる。

寺東地区第63号住居跡（第1084図、図版330）

J-Iライン・70km983m付近で検出した。確認面は第10層である。57・64号住居と重複しており、これらは64→63→57号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので南側道に位置し、大半は北側の未調査区内にある。平面的には、全体のプランは不明である。底面が堅く締まった面を検出し、これが64号住居を切っていて、かつ57号によって切られていることが判明したのみである。従って、必ずしも住居とは考えられないが、底面の状態が住居の状態によく似ていることから住居跡とした。詳細は不明である。

遺物の出土はなく、時期は検出層位から、古墳時代と考えられる。

寺東地区第64号住居跡（第1088図、図版330・366）

Jライン・70km985m付近で検出した。確認面は第10層である。57・63号住居と重複しており、64→63→57号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので南側道に位置し、西辺は調査区外にある。南東隅を57号住居によって切られており、カマド煙道部の先端は63号住居カマドによって失っている。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、10cmほどが遺存している。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプである。袖部の形態は不鮮明で、石の据え付けは確認できなかった。

遺物は少なく、小片のみである。第751図6・10は中央西寄りの床面から、8・9はカマド周辺から出土した。7は掘形出土の参考品である。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。

寺東地区第65号住居跡 (第1084図)

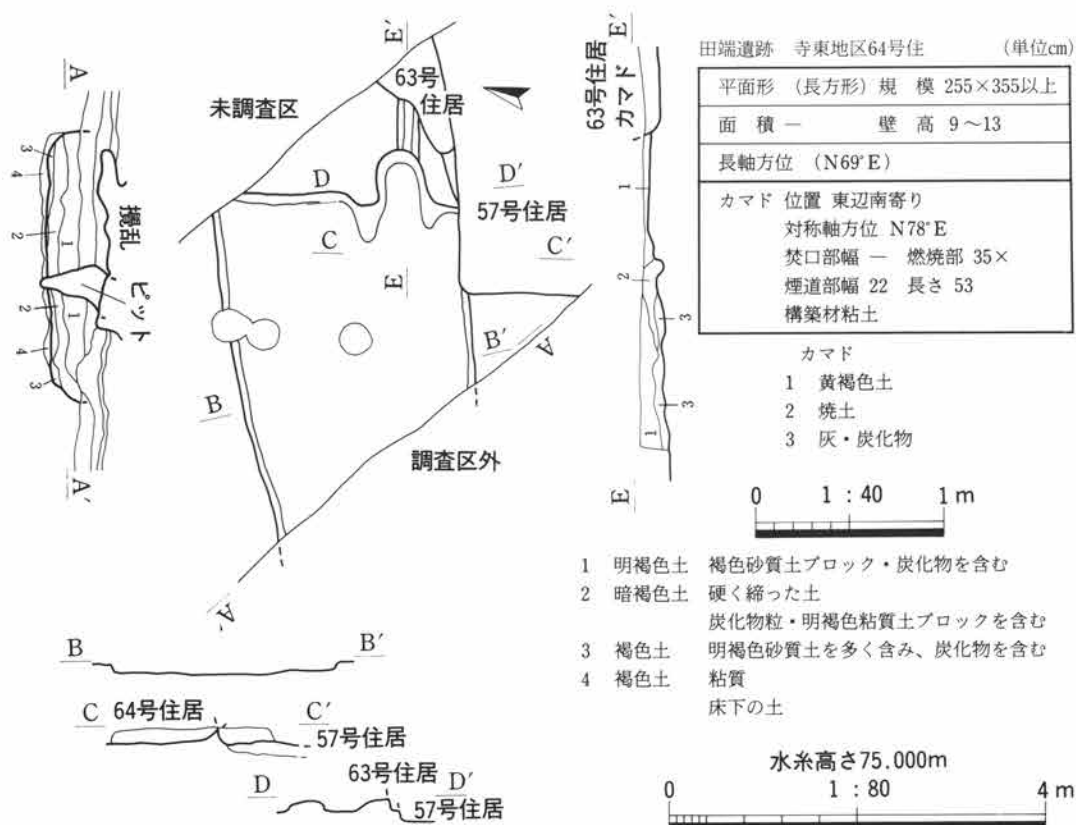
J-Kライン・70km978m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第4次調査で検出したもので南側道に位置し、大半は北側の未調査区内にある。平面的にはカマド煙道部の先端を検出したのみで、調査区北壁の土層断面で未調査遺構の直下に半円形の煙道横断面を確認した。未調査遺構は本住居の本体かもしれない。いずれにしても、詳細は不明である。

遺物の出土はなく、時期も不明である。

寺東地区第66号住居跡

Kライン・70km967m付近で検出した。確認面は第10層である。59・60号住居と重複しており、60→59→66号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので、南側道の北側壁面で確認した。59号住居の左カマド袖部付近の立ち上がりを切っており、本住居の方が新しいことが判明した。壁の土層断面ではさらに60号住居の床面を切っている。また、この土層断面では約100cmの幅で立ち上がりがはっきりしているため、重複する59号住居とは別の遺構と推定した。また平面的には、59号住居カマド燃焼部の北側で平坦面を検出し、この平坦面が土層断面の立ち上がりにつながってゆくことから、この遺構を住居の一部と認定した。本住居で検出したのは以上の範囲であり、詳細は不明である。

遺物の出土はなく、時期も不明である。



第1088図 寺東地区64号住居跡

寺東地区第67号住居跡（第1084図）

I-Jライン・70km981m付近で検出した。確認面は第10層である。本住居は第4次調査で検出したもので、南側道に位置し、大半は南側の調査区外にある。57号住居の覆土を切って掘り込まれており、62号と合わせて62→57→67号の順に新しい。平面的には62号の北西隅近くで、長さ30cm・幅40cmのカマド煙道部先端とみられる溝状の掘り込みを検出したのみである。中から30cm大の石が出土している。これ以外の詳細は不明である。

遺物の出土はなく、時期も不明である。

第8節 古墳時代の溝・土坑・その他

1 概 要

ここでは古墳時代に属する住居外の遺構の概要を記す。E区・寺東地区とも、土坑から出土する遺物は少ない。

田端地区B区

本来ここで扱う遺構ではないが、縄文時代に属する可能性がありながら、積極的な根拠を欠いているため、172・173号土坑はここで報告する。B区の南側で検出した土坑である。

田端地区E区

ここで報告するのは5～16号土坑と3号集石である。3号集石は水田を形成する灰色粘質土が石組みを覆い、下層にも石が組まれていた。しかし、遺構の半分は東側調査区壁の中にあり、十分な調査とはいえない。石組みの間から多量の土器と滑石製の白玉、鉄製のスキ先が出土している。土器のなかでは杯が多い。

土坑からは遺物の出土が少なく、図示できるものはない。

寺東地区

1号掘立柱建物跡と、いくつかの土坑がこの時期に属する。1号掘立柱建物跡は柱穴がしっかりしている上、柱穴の間に焼土を含んだ土坑があり、建物は居住施設の一つと考えられる。柱穴からは石が出土している。

54号土坑は平面不整形の掘り込みをもち、中から土器がまとまって出土している。59号土坑は北側道で検出したもので、54号によく似た形状をもつ。底面は礫が露出している。このほか、22・29・52号土坑から遺物が出土しているが、52号は住居の一部であるかもしれない。

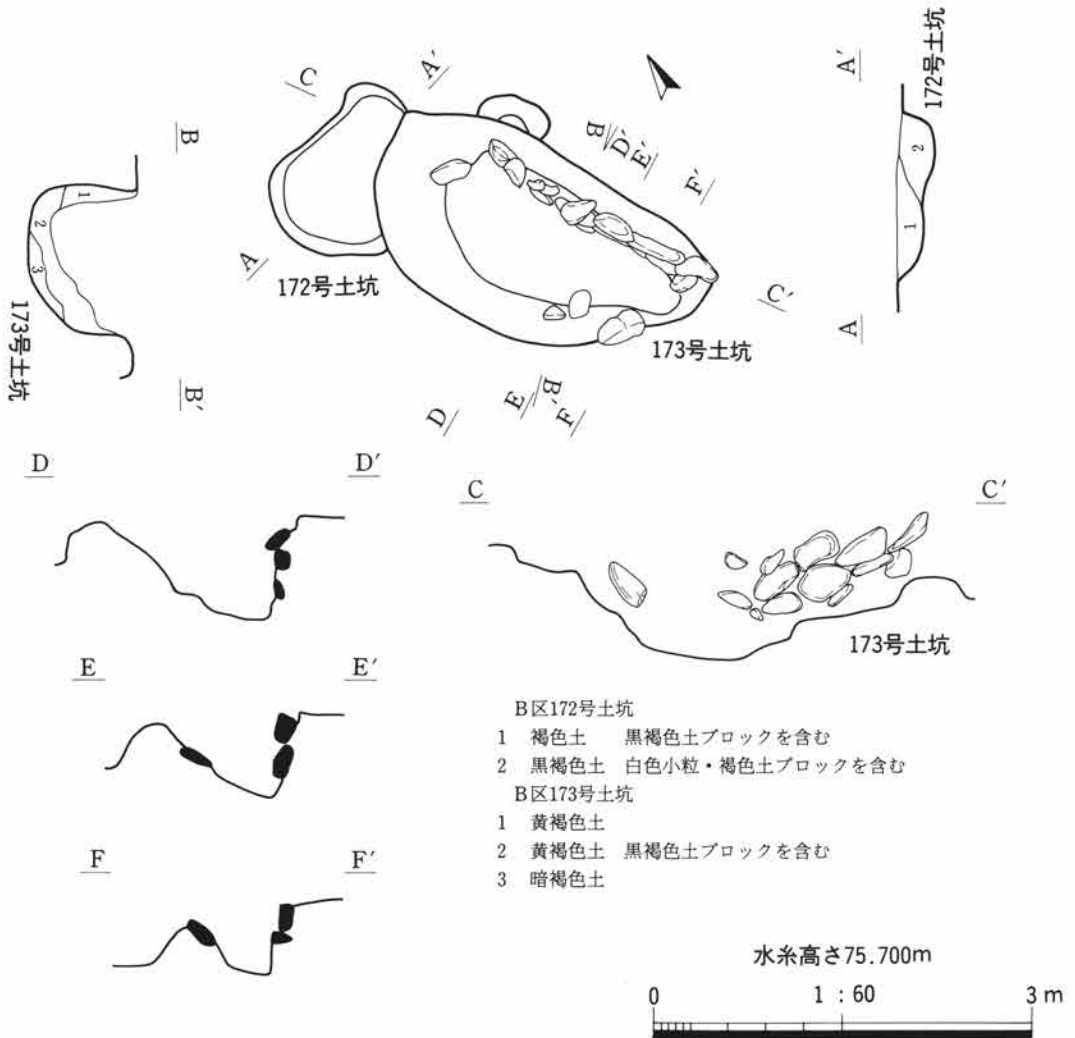
2 各区の溝・土坑・その他

田端B区第172・173号土坑（第1089～1092図）

Jライン・71km280m付近で検出した。確認面は第7層である。周辺の土坑はすべて新しい。

173号は東側の壁に沿って石垣状に30～50cm大の石が並び、高さ80cmほどになっていた。覆土は粒子の細かい砂質土で、隣接する39号住居の覆土と似ている。39号住居の一部である可能性がある。遺物は土器の小片のみで、図示しなかった。本遺構は縄文時代に属する可能性があるが、積極的な根拠がなく、ここで取り扱うこととした。

なお、39号住居は縄文時代後期の住居跡で、本分冊後半で扱う。



第1089図 田端地区B区172・173号土坑



第1090図 田端地区B区173号土坑（1）



第1091図 田端地区B区173号土坑（2）

田端E区第3号集石（第1093～1100図、図版367～369・第28表）

T-Uライン・71km038m付近で検出した。確認面は第7層である。4号集石と重複しており、土層断面からは前後関係は確認できなかった。また、東半部は調査区外にあるため、全体の様相を検出できなかった。本遺構は1号集石と同様に、水田を形成する青灰色粘質土が石組みをおおい、さらに下層から石が積み上げられている。従って、第3号集石も水田より古いものと推定できる。本遺構の下層で19号住居を検出していることから、19号住居→3号集石→水田の順に新しいと考えられる。水田を形成する土層の上位は浅間B軽石を含む褐色土が堆積していた。本遺構の上下では、土層は自然に堆積している。

調査区壁で検出した石組みの南西側から多量の滑石製白玉が出土し、土器片も多数出土している。土器の中からも白玉が出土していること、杯類の出土が特に多いこと、水田形成時にも一部の石組みは露出していたと考えられること等から供献された遺物群と推定している。ただし、未製品も出土している。

遺物は多量に出土し、中でも杯類の出土が圧倒的である。このほか、調査区壁直下から鉄製のスキ先が出土している。このスキ先は土器の集中して出土した地点のほぼ中央部から出土している。

時期は6世紀後半～7世紀とみられる。



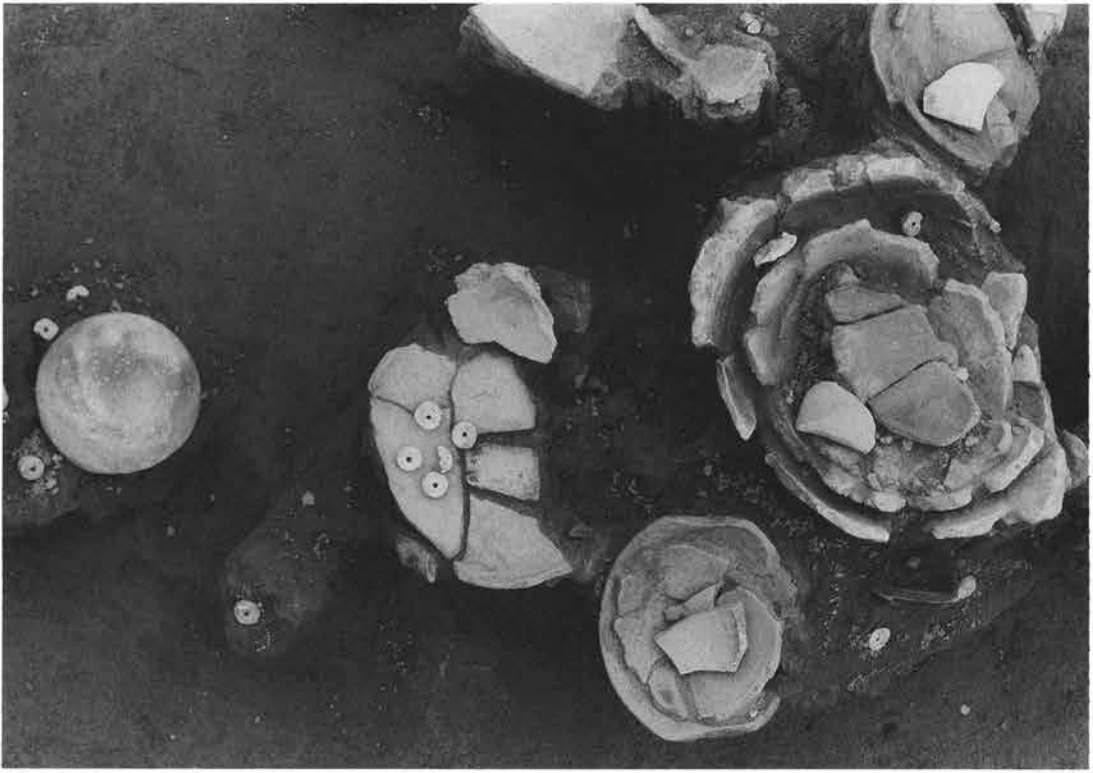
第1092図 田端地区B区173号土坑（3）



第1093図 田端地区E区3号集石(1)



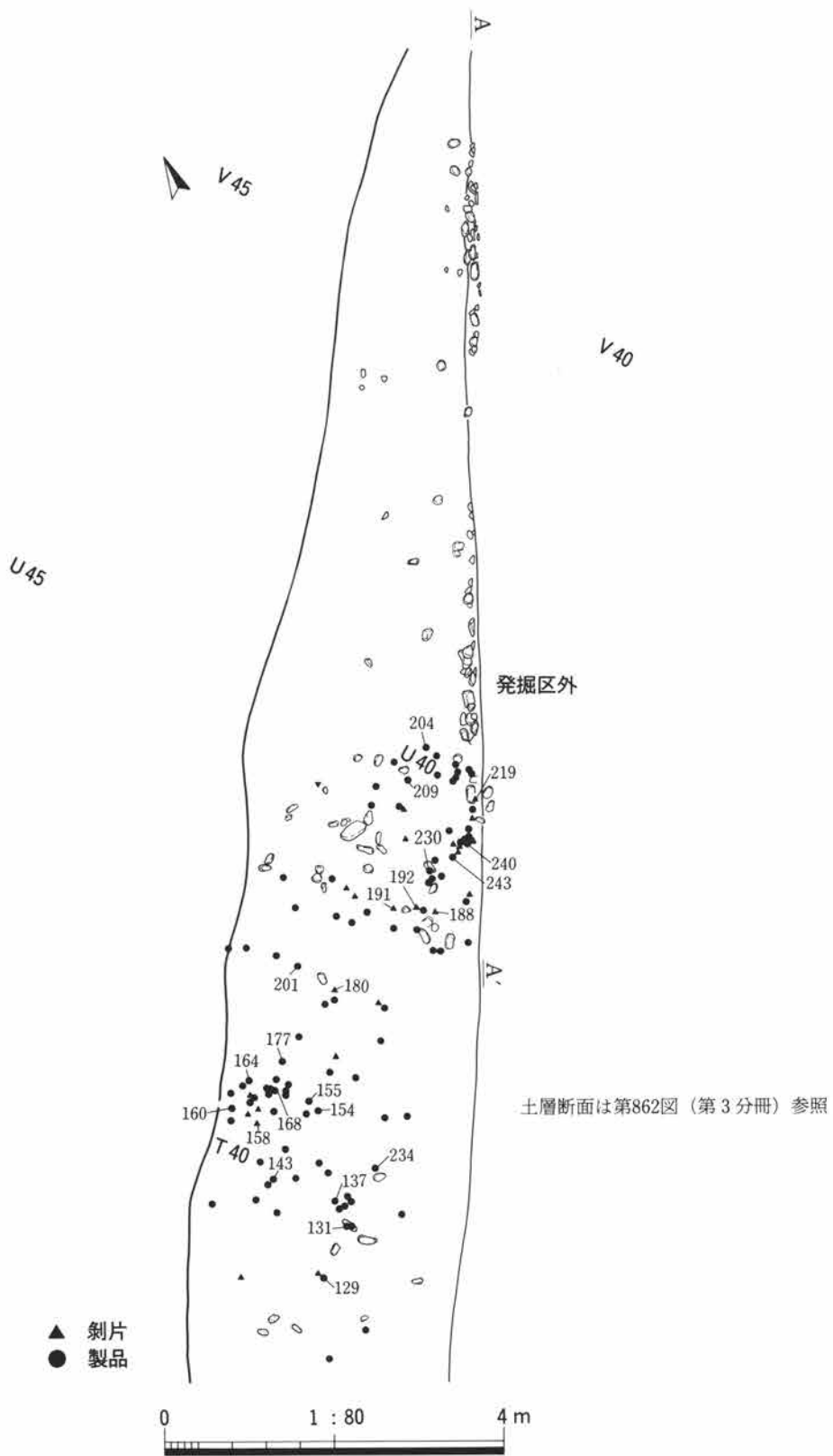
第1094図 田端地区E区3号集石(2)



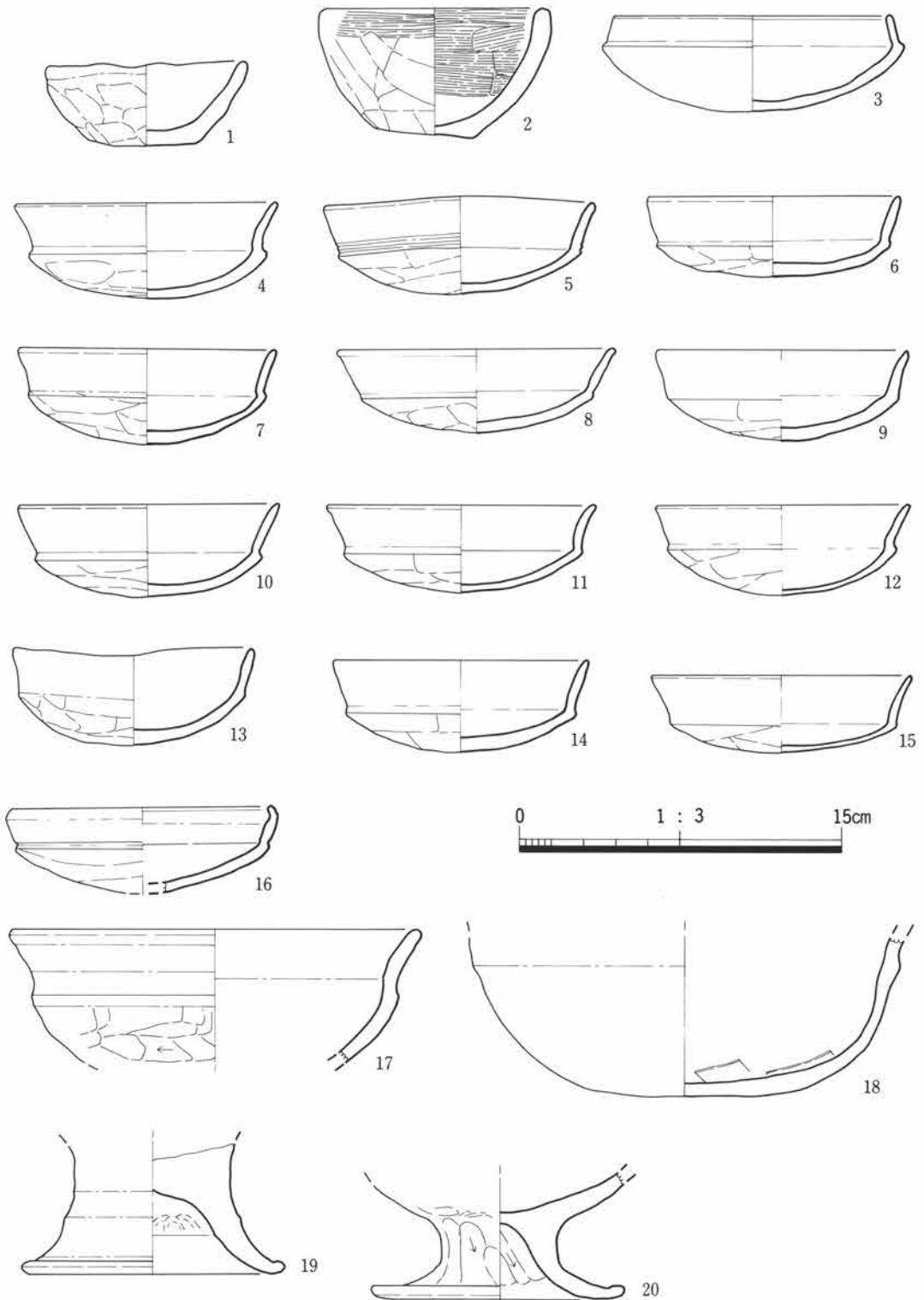
第1095図 田端地区E区3号集石(3)



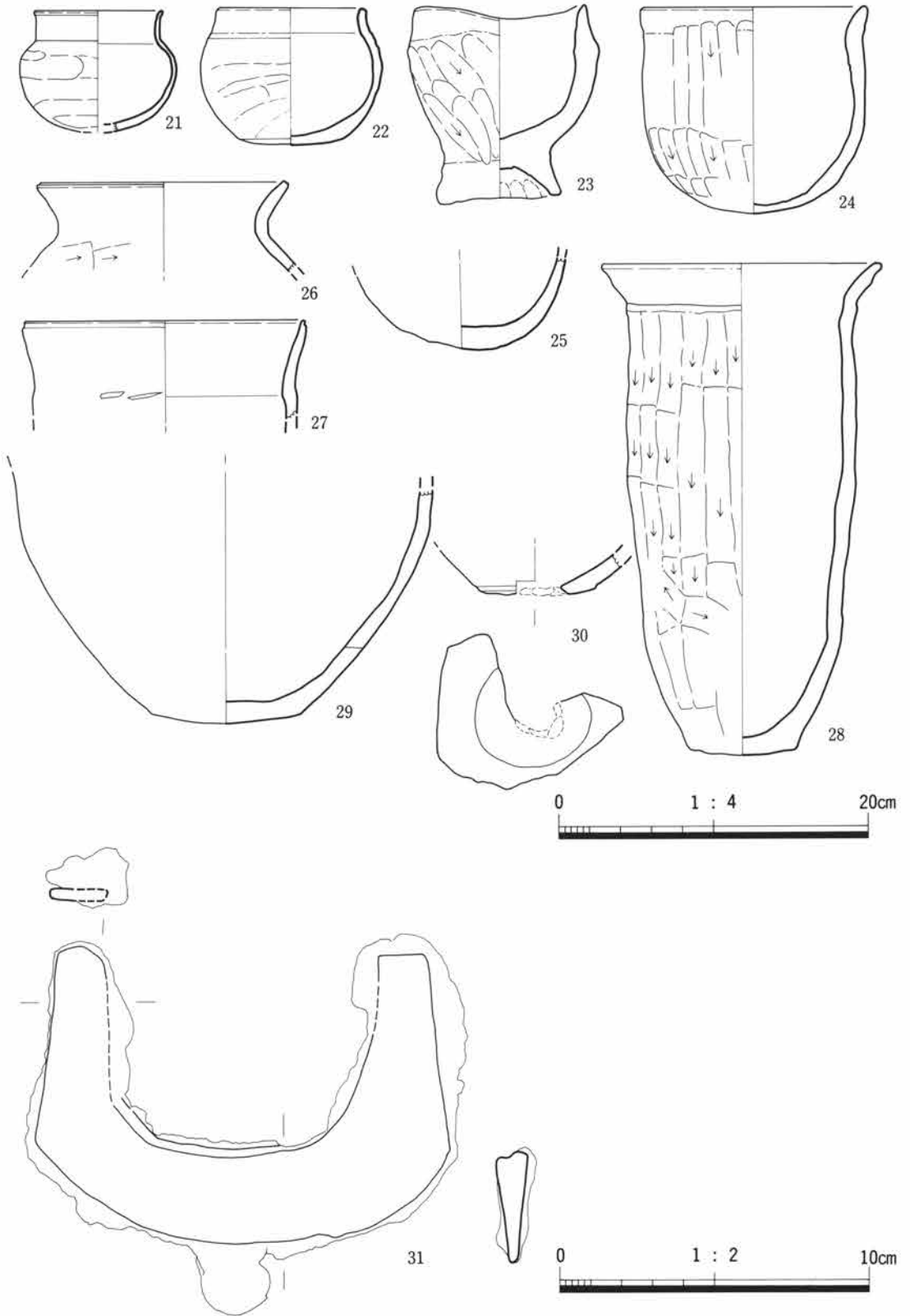
第1096図 田端地区E区3号集石(4)



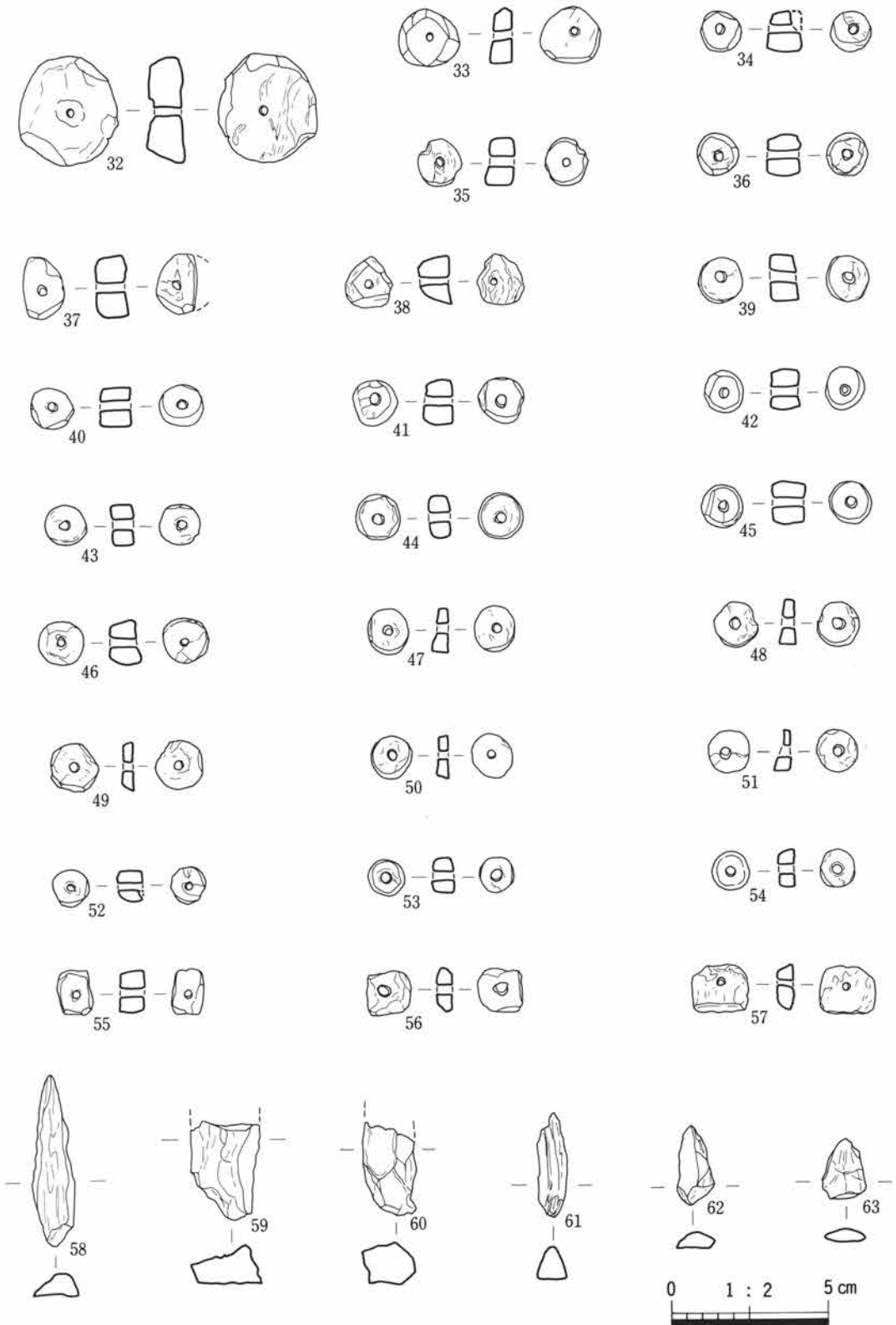
第1097図 田端地区E区3号集石



第1098図 田端地区E区3号集石出土遺物(1)



第1099図 田端地区E区3号集石出土遺物(2)



第1100図 田端地区E区3号集石出土遺物(3)

第28表 田端地区E区3号集石出土遺物観察表 臼玉

単位mm、g

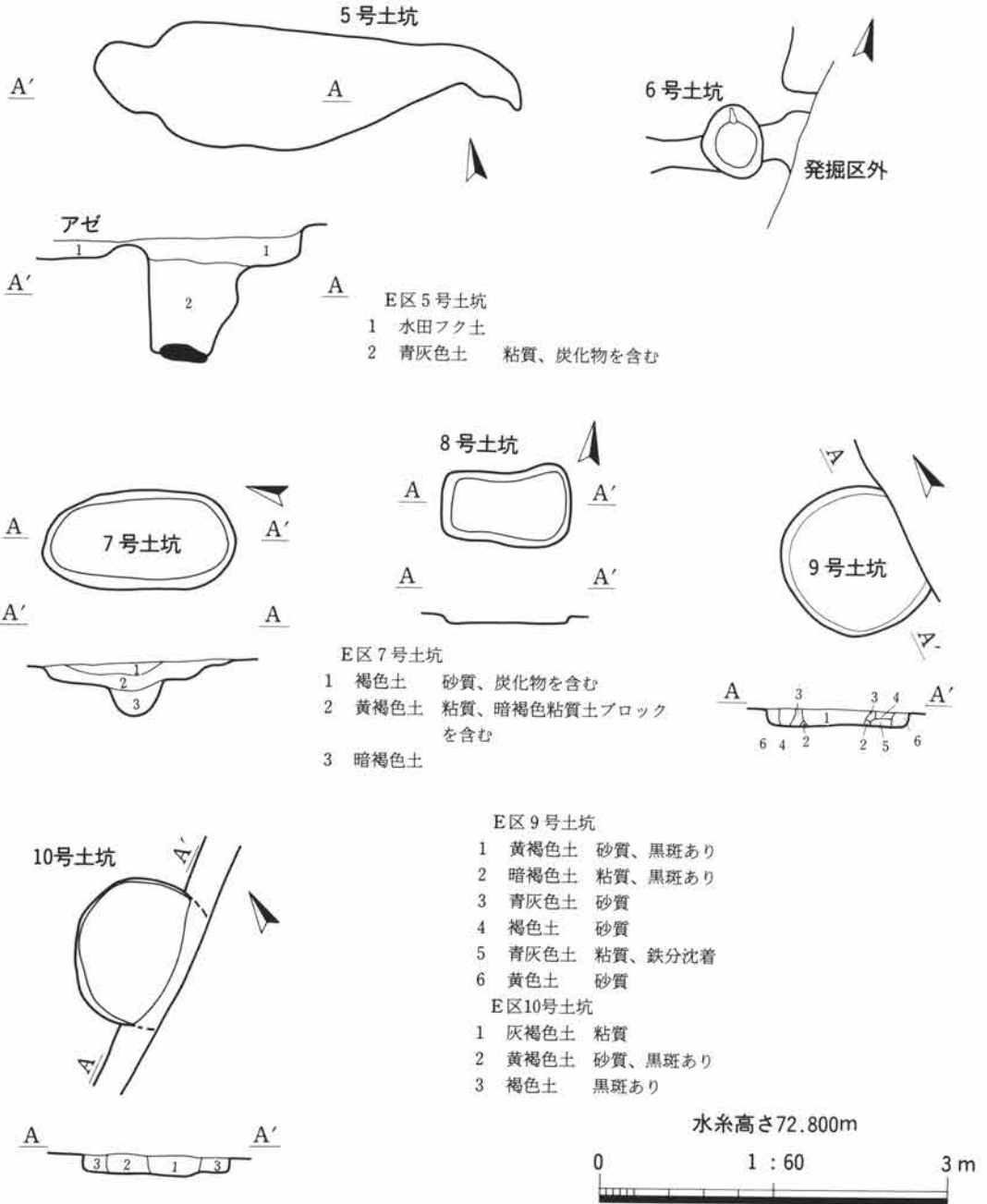
番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	備 考
32	31	2	12	16.0	3集石中最大④TAYE3集石-247
33	20	2	7	3.9	④TAYE3集石-240
34	13	3	11	2.4	④TAYE3集石-230
35	14	2	9	2.1	④TAYE3集石-204
36	13	3	10	2.4	④TAYE3集石-160
37	20	3	10	3.5	半欠、④TAYE3集石-89
38	15	2	10	2.8	隅丸三角形、④TAYE3集石-90
39	13	3	9	2.5	④TAYE3集石-201
40	13	3	10	3.0	④TAYE3集石-155
41	14	3	9	2.5	④TAYE3集石-209
42	12	3	9	2.3	④TAYE3集石-234
43	13	3	7	1.7	④TAYE3集石-243
44	14	3.5	6.5	2.0	④TAYE3集石-109
45	13	2.5	10	3.1	④TAYE3集石-143
46	14.5	2.5	10	2.6	④TAYE3集石-129
47	13	2.5	5	1.3	④TAYE3集石-168
48	13.5	3	5	1.3	④TAYE3集石-98
49	15	3	4	1.4	④TAYE3集石-83
50	13	2.5	4	0.9	④TAYE3集石-164
51	13	3	5	0.9	④TAYE3集石-131
52	11	2	8	1.4	④TAYE3集石-177
53	11	3	7	1.2	④TAYE3集石-154
54	11	3	5	1.2	④TAYE3集石-137
55	10×14	2	8	1.8	長方形、④TAYE3集石-92
56	14×14	4	5	1.4	略方形、④TAYE3集石-101
57	18×15	2	5	2.0	略長方形、④TAYE3集石-95
58	54×14	—	7	6.2	棒状の剥片、④TAYE3集石-192

番号	外 径	孔 径	厚 さ	重 さ	備 考
59	22×31	—	12	10.3	剥片、④TA¥E3集石-180
60	27×30	—	13	8.0	剥片、④TA¥E3集石-158
61	10×33	—	10	3.8	棒状の剥片、④TA¥E3集石-219
62	12×25	—	5	1.7	剥片、④TA¥E3集石-188
63	14×19	—	4	1.7	剥片、④TA¥E3集石-191

田端地区E区第5～16号土坑（第1101～1105図）

ここではE区検出の第5～16号土坑を報告する。いずれも水田検出面よりも下位で確認したが、遺物の出土がない。これらの土坑は6世紀後半以降の所産である。

5号土坑は掘り込み底面に石が据えてあり、平面形状は不整形である。6号土坑は14号住居のカマド煙道を、7号土坑は9号住居のカマド煙道を、8号土坑は6号住居のカマド煙道をそれぞれ切って掘り込まれている。

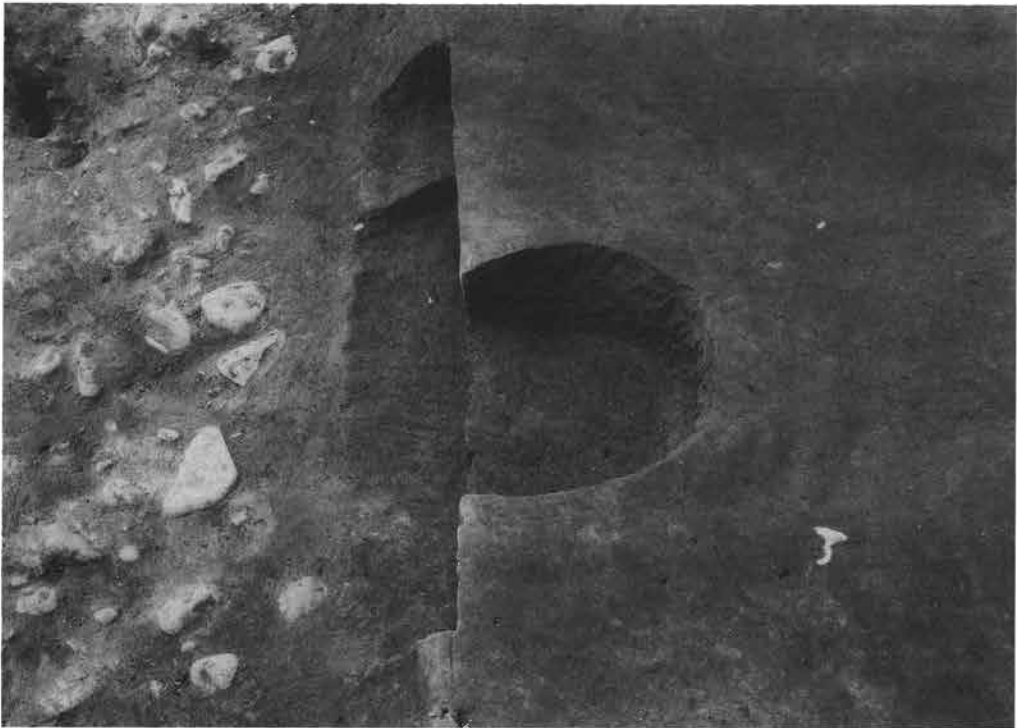


第1101図 田端地区E区5・6・7・8・9・10号土坑

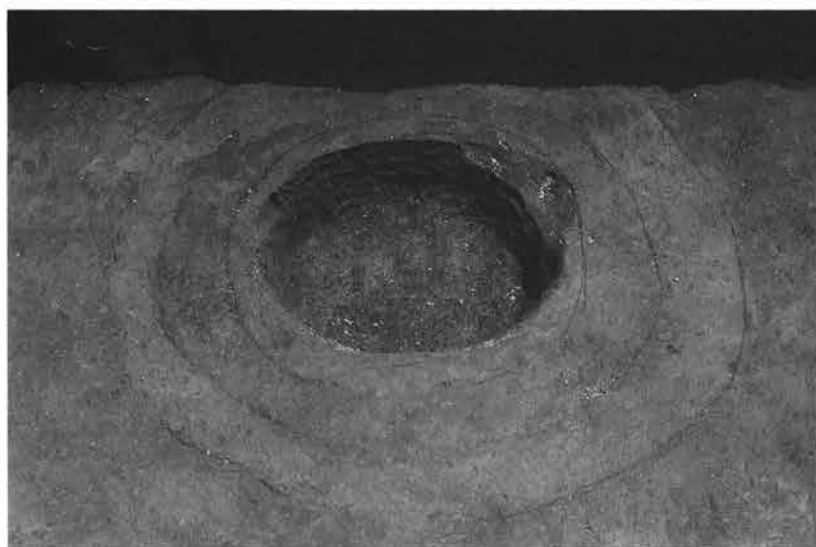
11号土坑は側道調査区西端近くに位置し、単独である。10・13・14号土坑は5号溝によって半分失っている。15・16号土坑は周辺の住居よりも古い可能性がある。



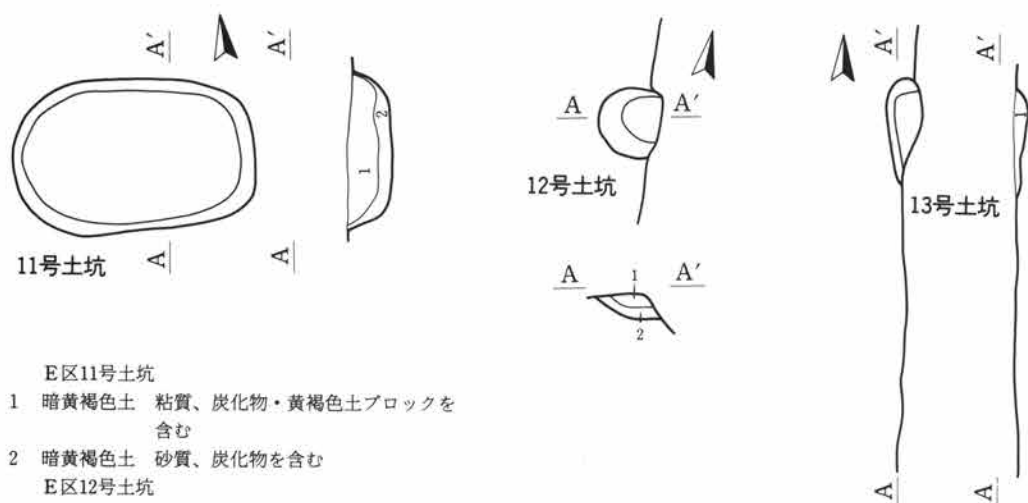
第1102図 田端地区E区9号土坑(1)



第1103図 田端地区E区10号土坑



第1104図 田端地区E区9号土坑(2)



11号土坑

12号土坑

13号土坑

E区11号土坑

- 1 暗黄褐色土 粘質、炭化物・黄褐色土ブロックを含む
- 2 暗黄褐色土 砂質、炭化物を含む

E区12号土坑

- 1 暗褐色土 砂質、黄褐色土粒子を含む
- 2 暗褐色土 砂質、炭化物粒子を含む

E区13号土坑

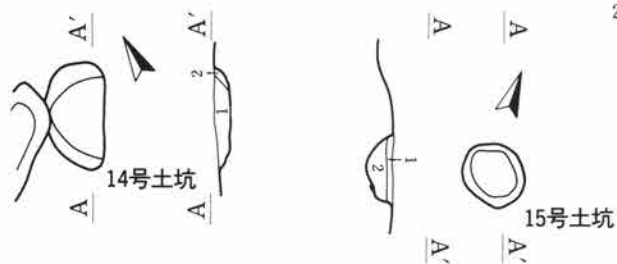
- 1 灰黄褐色土 砂質、鉄分沈着、青灰色粘質土ブロックを含む

E区14号土坑

- 1 暗褐色土 砂質、黄褐色土ブロックを含む
- 2 黄褐色土 砂質

E区15号土坑

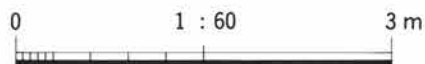
- 1 灰褐色土 砂質
- 2 灰褐色土 粘質、小石を含む



14号土坑

15号土坑

水糸高さ72.800m



第1105図 田端地区E区11・12・13・14・15号土坑

寺東地区第1号掘立柱建物跡（第1106～1108図、図版369・第29表）

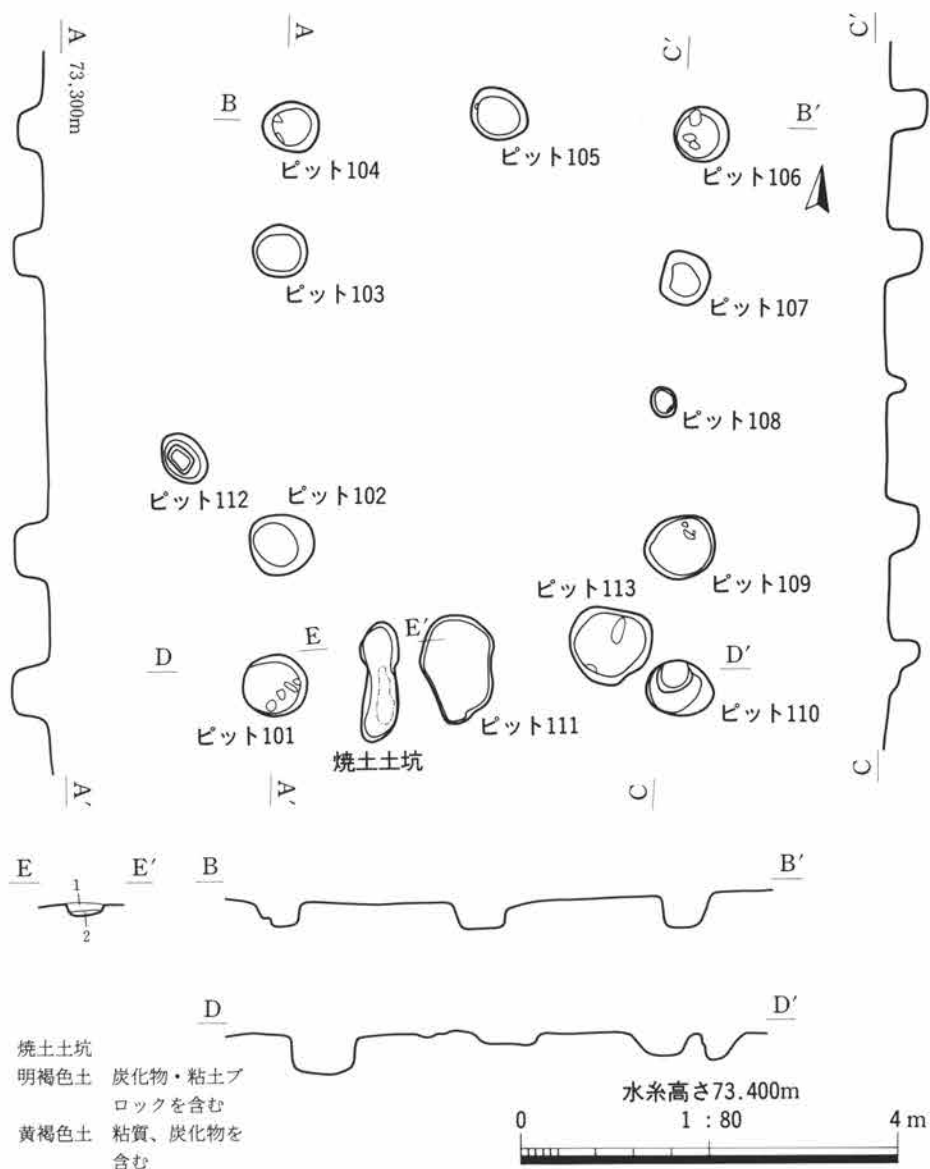
N-Qライン・70,967m付近で検出した。確認面は第10層である。第43号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

2間×4間で、長軸をN4°Wのほぼ北方向にとる。各ピットの計測値及び各ピット間の計測値は表の通りである。南側柱列の西寄りに焼土土坑があり、検出面・他の柱穴との相互の位置関係から、本遺構に伴うものと考えられる。西側の102ピットと103ピットとの間には柱穴が発見できず、西側にやや離れて112ピットを検出している。東側では対応する位置の108ピットが他の柱穴に比較して規模が小さい。大半のピットから小石が出土し、104・111ピットからは土器片が出土した。時期は6世紀後半と考えられる。

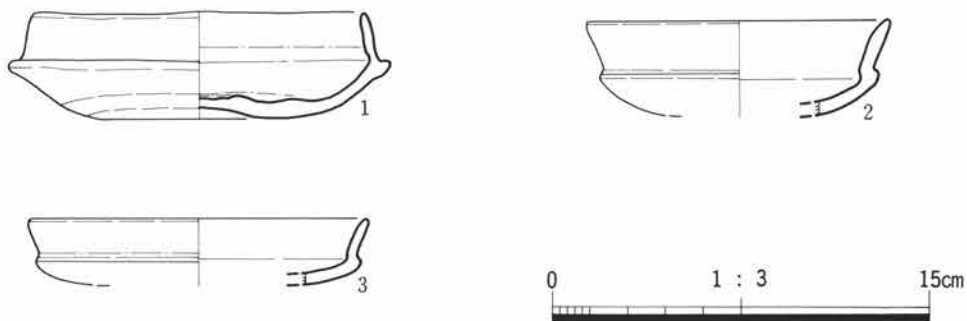
第29表 寺東地区1号掘立柱建物跡 計測値表

長軸方向	桁行cm	梁行cm	桁行柱間cm	梁行柱間	番号	規 模		
						上バcm 長径×短径	下バcm 長径×短径	深さcm
N 4°W	101-104 : 591	101-110 : 426	101-102 : 147	101-111 : 200				
	111-105 : 584	102-109 : 428	102-103 : 310	111-110 : 228				
	110-106 : 571	103-107 : 431	103-104 : 134	104-105 : 221	101	69×66	62×53	39
		104-106 : 433	110-109 : 144	105-106 : 213	102	68×69	50×41	35
			109-108 : 152		103	60×56	46×39	35
			108-107 : 133		104	60×54	40×38	23
			107-106 : 155		105	63×52	46×38	28
					106	径60	44×42	28
					107	56×52	36×25	34
					108	33×27	24×19	23
					109	74×65	63×57	32
					110	71×59	30×28	32
					111	116×76	105×68	15
				112	59×45	22×13	27	
				113	86×86	74×66	27	
				焼土坑	128×34	116×24	8	

※計測値は1/20原図から起こした数値である。柱穴間の距離は心線で計測した。



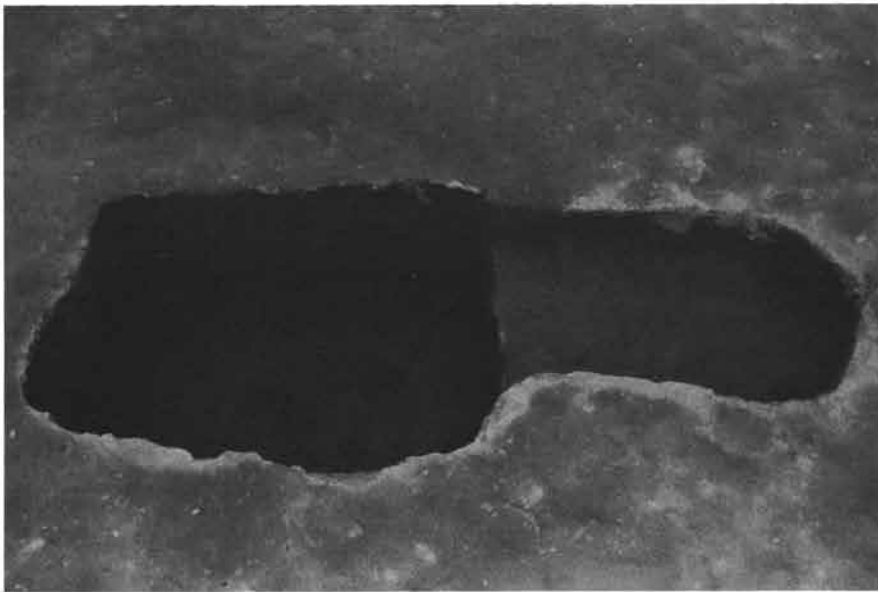
第1106図 寺東地区1号掘立柱建物跡



第1107図 寺東地区1号掘立柱建物跡出土遺物



第1108図 寺東地区1号掘立柱建物跡



第1109図 寺東地区40・41号土坑

寺東地区第54号土坑（第116・118・1120・1121図、図版370）

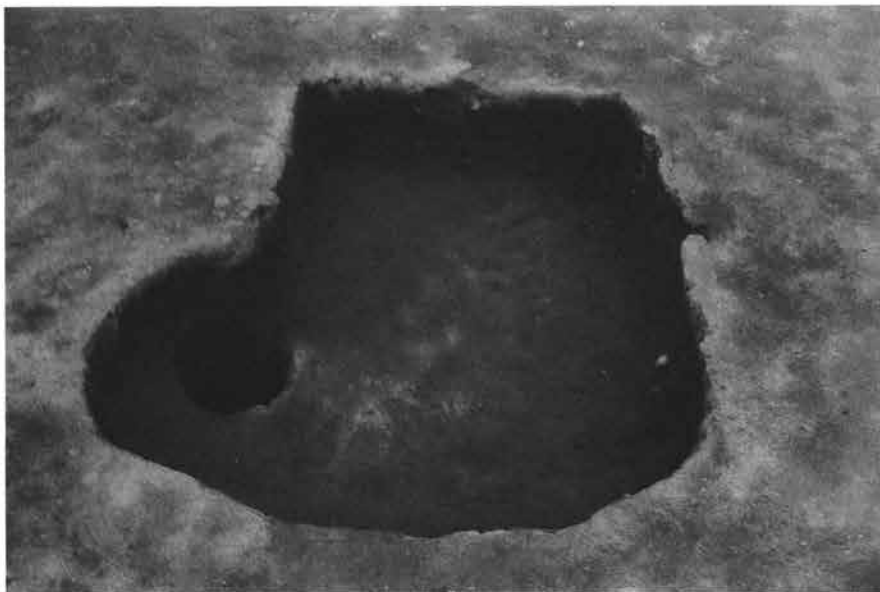
Lライン・70km962m付近で検出した。第3次調査で確認したもので、確認面は第10層である。南西部は排土置き場となり、また心洞寺の墓によって破壊されている可能性が高いため、未調査である。56B土坑と重複しており、56B→54号の順に新しい。

本遺構は不整の円形を呈し、深さは38cm前後である。覆土は自然に堆積し、中から石が出土した。壁は斜めに立ち上がり、底面に平坦面をもつ。

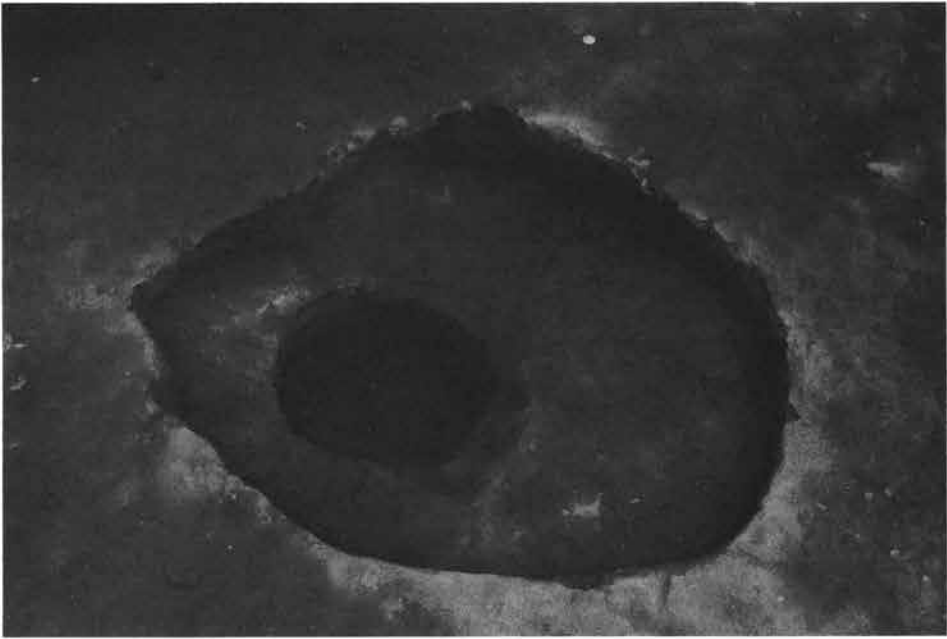
遺物は土器がいくつか出土した。土師器杯・高杯・甕がある。第1121図4は例の少ない土師器高杯、5は壺の肩部破片である。時期は6世紀後半とみられる。



第1110図 寺東地区42号土坑



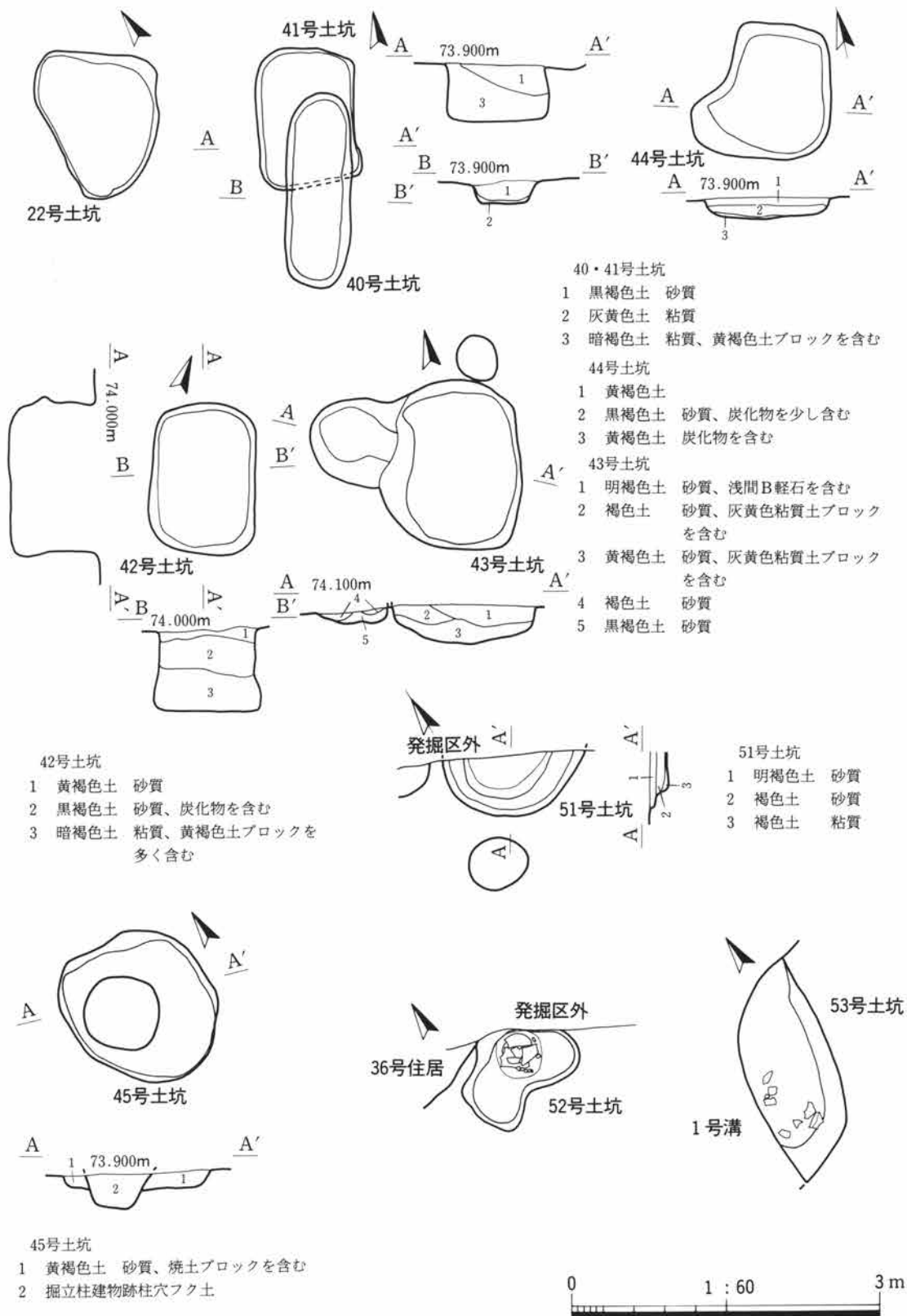
第1111図 寺東地区44号土坑



第1112図 寺東地区45号土坑



第1113図 寺東地区52号土坑



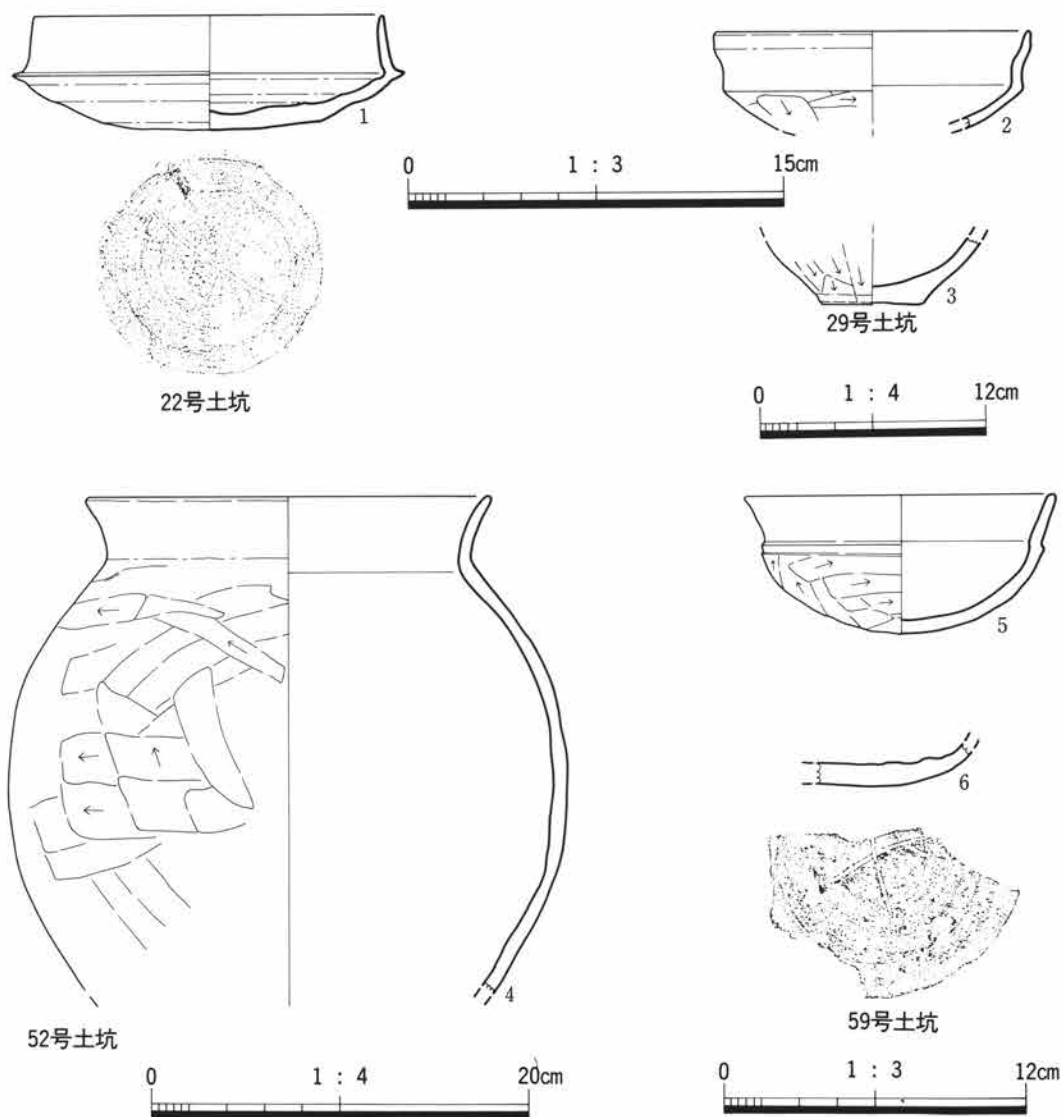
第1114図 寺東地区22・40・41・42・43・44・45・51・52・53号土坑

寺東地区第59号土坑（第1115・1119・1120図、図版369）

O-Pライン・70km950m付近で検出した。確認面は第10層である。56A号土坑と重複しており、59→56A号の順に新しい。

本遺構は不整の円形を呈し、深さ25cm前後である。覆土は自然に堆積し、中から多量の石が出土した。壁は緩い角度でたちあがる。底面は礫面が露出し、凹凸がある。本遺構は第3次調査で検出した54号土坑によく似た形状を示す。

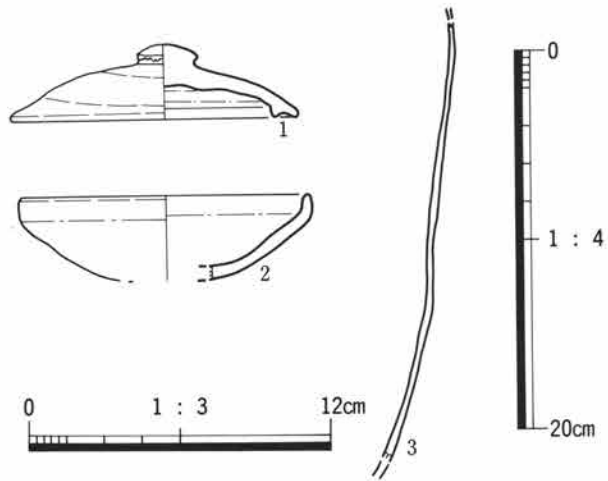
遺物は土器片が出土しているが、小片のため図示しなかった。時期は6世紀後半とみられる。



第1115図 寺東地区22・29・52・59号土坑出土遺物



第1116図 寺東地区54号土坑（1）



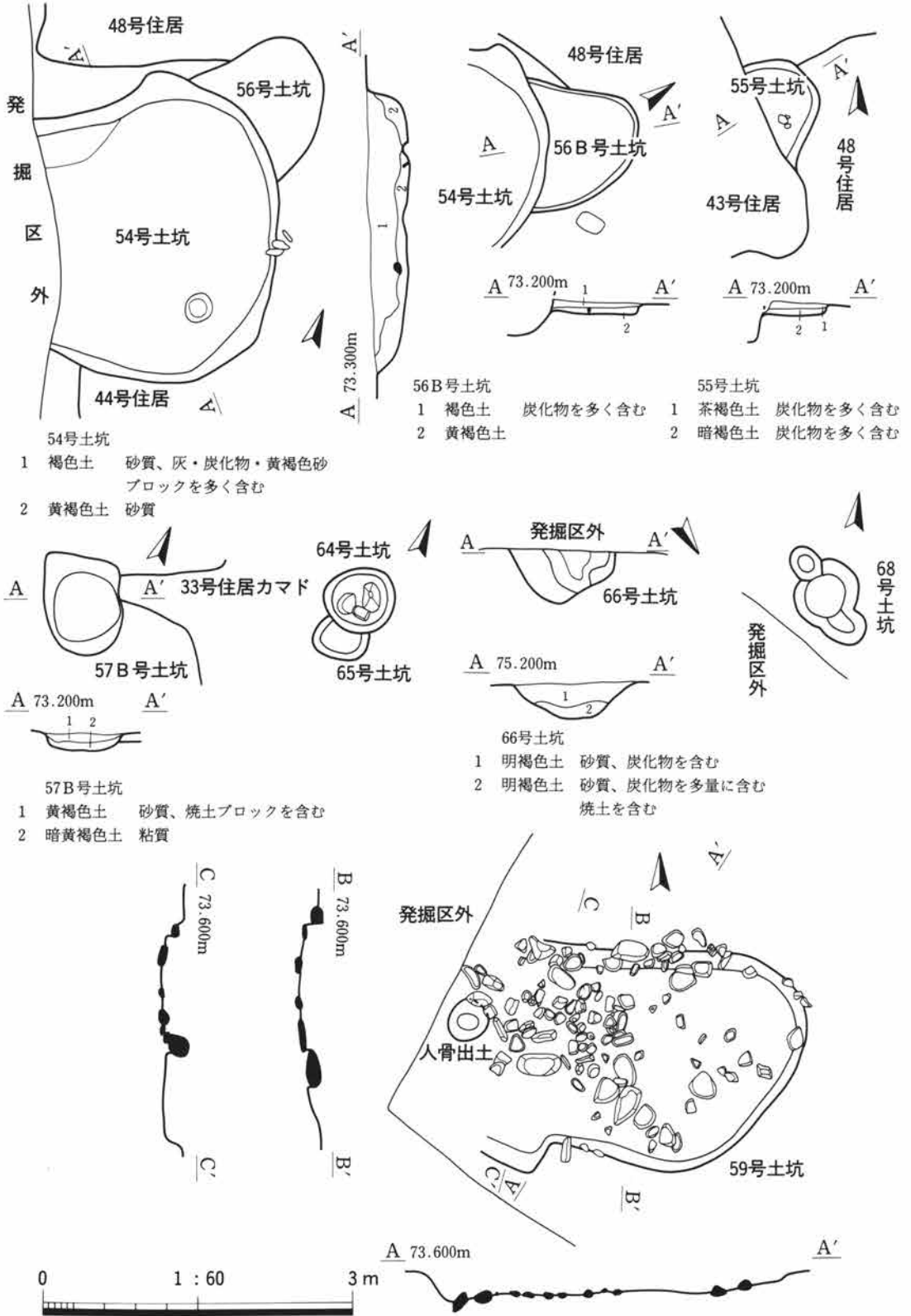
第1117図 寺東地区53号土坑出土遺物



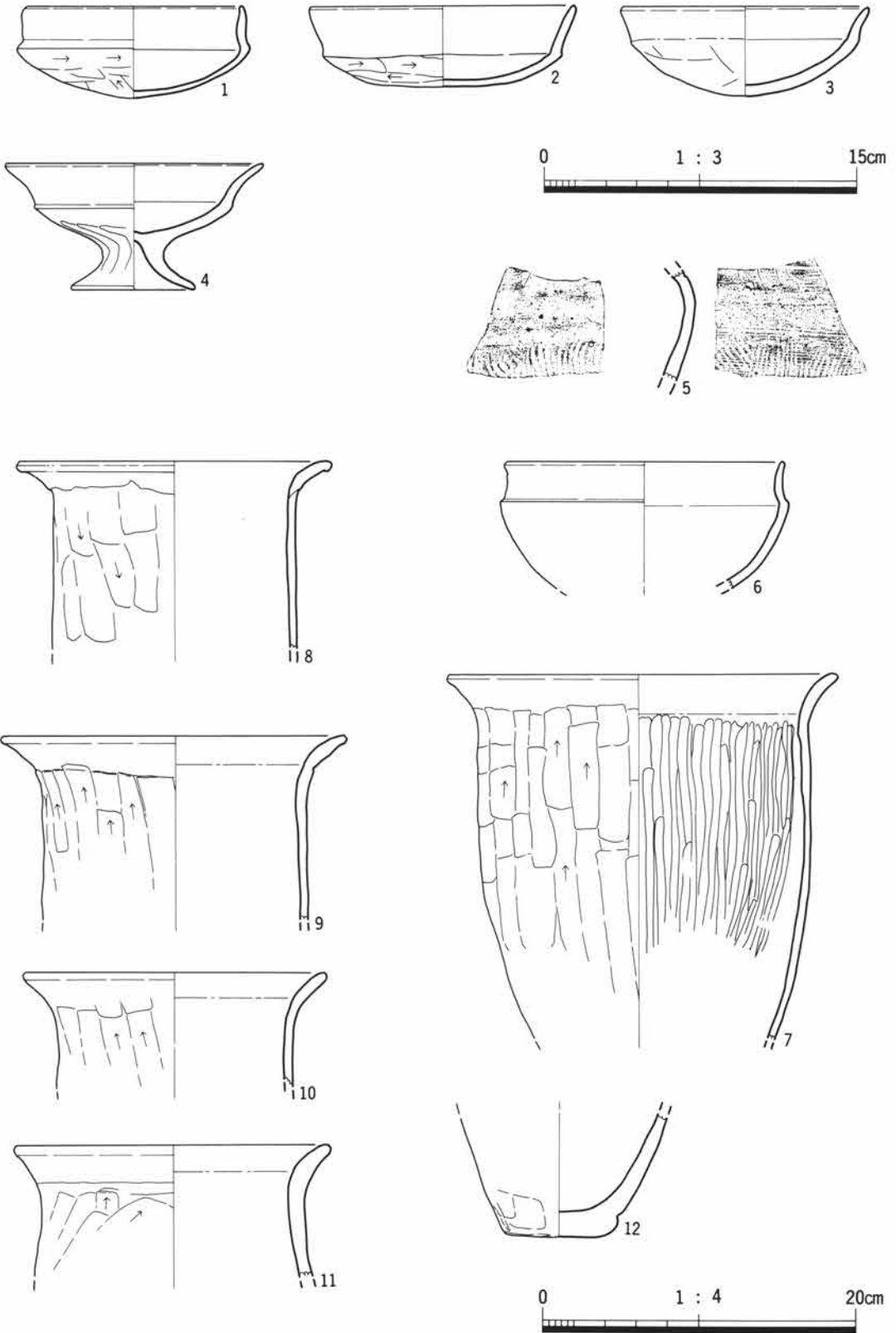
第1118図 寺東地区54号土坑（2）



第1119図 寺東地区59号土坑



第1120図 寺東地区54・55・56B・57B・59・64・65・66・68号土坑



第1121図 寺東地区54号土坑出土遺物

第V章 第9節

縄文時代の遺構と遺物

第9節 縄文時代の遺構と遺物

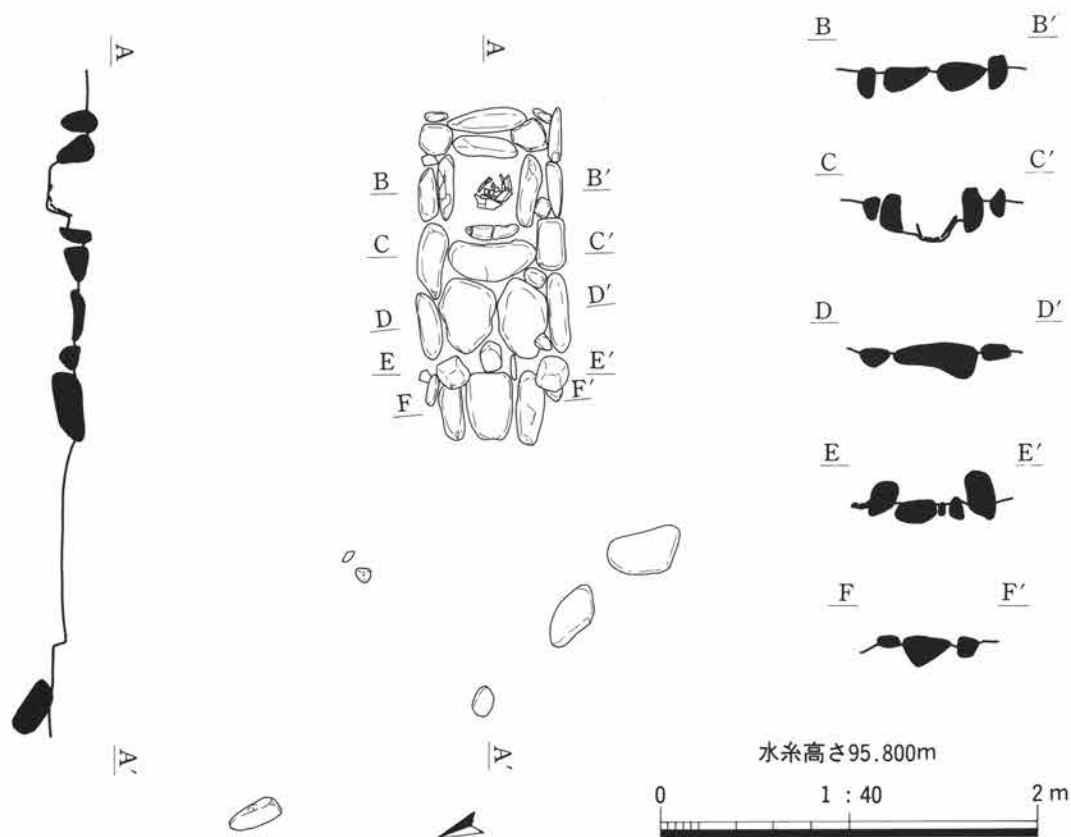
田端遺跡は烏川と鍋川の合流点に近い沖積地にあり旧河床礫層が所々露頭する砂礫層を基盤として
いるが、縄文時代の遺構と遺物がわずかながら存在する。遺構・遺物ともにB区に集中しており、2
軒の敷石住居と少量の土器と石器が確認された。

1 住居跡

田端地区B区39号住居跡（第1122～1124図、図版331・371）

J-Kライン・71km277m付近に位置し河床礫層直上の砂質土層中に構築されている。確認されたの
は炉と炉辺部から張出部基部までの敷石で、敷石の範囲は長さ1.75m、幅0.80mである。炉を起点に張
出部方向の軸線はN-72°-Wである。

主体部の形状・規模とも不明であるが、炉は張出部に寄った位置にあると考えられる。炉は4石の
河原石を方形に組んだ石囲い炉で内径は34×37cmである。炉底面は深さ22cmでやや擂鉢状をなし、さ
らに中央を8cmほど掘り込んで第1123図の1と2の深鉢を正位に据え炉体土器としている。炉縁石の
外周には接続部へ連なる長楕円形の河原石が直列して1周している。



第1122図 田端地区B区39号住居跡

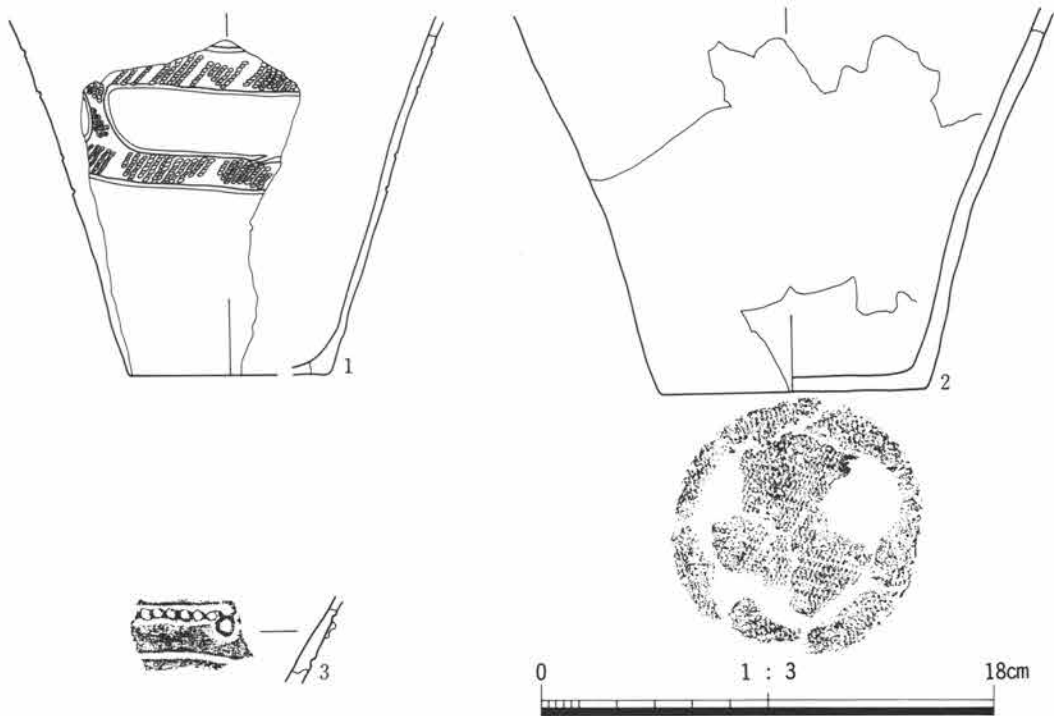
炉から接続部までは両側を長楕円形の2石ずつの河原石を立位で直線的に配し、内面は偏平で大型の河原石を水平に敷き、隙間を小型の河原石で詰めている。接続部の両側には35cmの間隔をおいて立石があり、主体部と張出部の境界を示している。張出部の形状も不明であるが、基部には3石の偏平な河原石が並列して敷かれていた。

出土した遺物は第1123図1・2の炉体土器と3の覆土中より出土した小破片と少量の土器片だけである。1は深鉢形土器の胴部下半の破片で、沈線により楕円区画を配しRL縄文を区画内に施している。2も深鉢で胴部下半から底部の破片である。胴部は無文で底部は網代底である。3は口縁部に近い破片で上位に1条の細紐線が貼付され、8字状文を添加している。下位には沈線が1条めぐる。

本住居は全体形状は不明であるが炉辺部から張出部基部までの部分敷石住居と考えられ、敷石は軸線に沿って左右対象となるように配されている。また、時期は出土遺物の特徴により堀之内2式と考えられる。

田端地区B区97号住居跡（第1125～1128図、図版371・332・333）

Qライン・71km285m付近に位置しB区39号住居の北33mにある。褶曲した河床礫層直上の砂質土層中に構築されている。確認されたのは炉と炉辺部敷石から張出部の敷石でB区39号住居と同様に主体部の平面形や他の施設は確認できなかった。敷石は接続部と張出部の一部が攪乱を受けており、敷石が



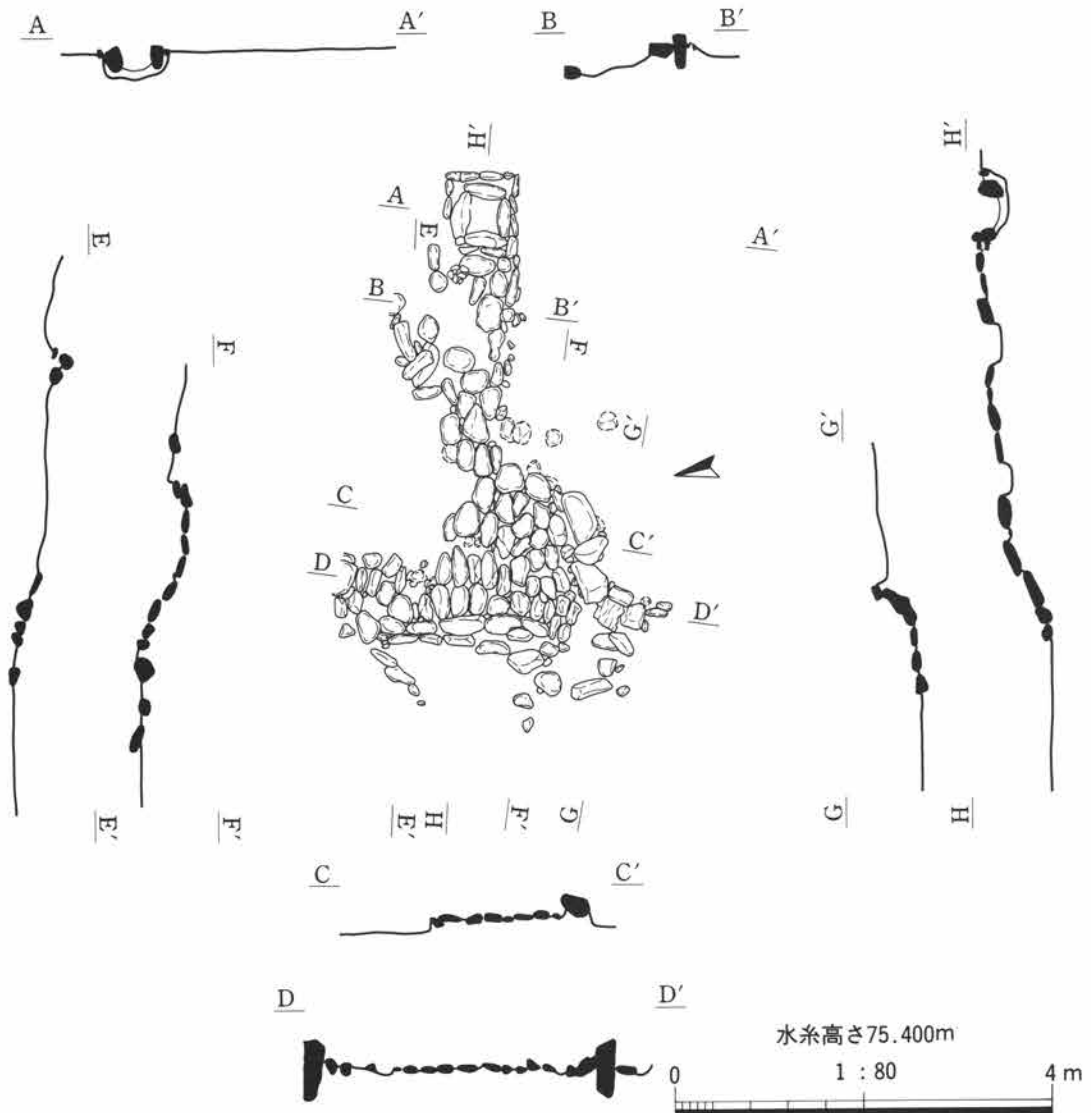
第1123図 田端地区B区39号住居跡出土遺物



第1124図 田端地区B区39号住居跡

取り除かれ動いている。炉東縁部から張出部先端までは長さ5.60mで、軸線はN-69°-Wである。また、主体部は張出部先端より55cm高くなっている。

炉は主体部中心より張出部に寄った位置にあり、河原石4石を方形に組んだ石囲い炉で内径は28×33cmで、丸底状に25cm掘り込まれている。底面は一部がわずかに焼けていた。炉縁石の外周には長楕円形の河原石が直列して1周し接続部へ続いて行く。



第1125図 田端地区B区97号住居跡

接続部南辺には立石がありB区39号住居と同様に対をなしていたと考えられる。炉から接続部までは側に長楕円形の河原石を直列して並べ、内面には偏平な河原石を敷いている。この敷石の炉縁石より2石目の河原石上面には住居の中軸線に沿うかのような線刻(第1128図7)があった。

張出部は丸みのある凸字形をなし、長さは接続部より4.10mである。基部は幅約70cmと狭く、先端部は幅約3.50mで大きく広がり楕円形をしている。張出部先端の出入口部は約25°の急角度で立ち上がり、炉に向って極めて緩やかに上って行く。

張出部基部の敷石は側に沿って小円礫を直列して配し、内面は偏平な河原石を敷いている。先端部は周縁に沿って大きな河原石を立てて並べ、出入口部両側には対をなす河原石の大きな立石がある。内面平坦部は偏平な河原石を不規則に敷いているが、出入口部の急傾斜部分では上半を楕円形で偏平な河原石を2列並列させて敷き、下半は同じ河原石を2列直列させて敷いており、敷石のない部分との境界を示している。出入口部の外縁は立石より円弧を描きながら長楕円形の河原石が配され、出入口部先端は敷石がない。

出土遺物は極めて少量で図示した以外は土器片と剥片が数点ある程度である。第1128図1は注口土器の破片で炉近くの覆土中より出土した。2は接続部の立石近くより出土した小型の異形壺形土器で黒色を呈し、器高5.1cm、口径3.3cm、底径7.1cmである。文様は無く底部は網代底である。3・4は同一個体で小型の深鉢と考えられ、炉上部の覆土より出土した。口縁直下に一条の細紐線が巡り、平行



第1126図 田端地区B区97号住居跡(1)

する沈線により乱れた三角形の区画文を配し、内部にLR縄文を施している。4は覆土より出土した短冊形の打製石斧で両端部が欠損している。表裏両面より荒い剝離が加えられやや粗い作りである。現状の長さは13.8cm、幅7.4cm、厚さ3.2cm、重さ211gである。6は同じく覆土より出土した偏平な磨石で表裏とも良く磨れている。径は9cm、厚さ2cm、重さ307gである。

本住居も炉辺部から張出部のみに敷石された部分敷石の住居で主体部の形状は不明であるが、張出部が大きく発達した敷石住居である。時期は出土遺物から堀之内2式に比定される。

2軒の敷石住居は炉辺部から接続部までの敷石の手法が類似しており張出部の方向性も合い、出土遺物も同時期であり、遺跡地において数軒の小集落を形成していたものと考えられる。

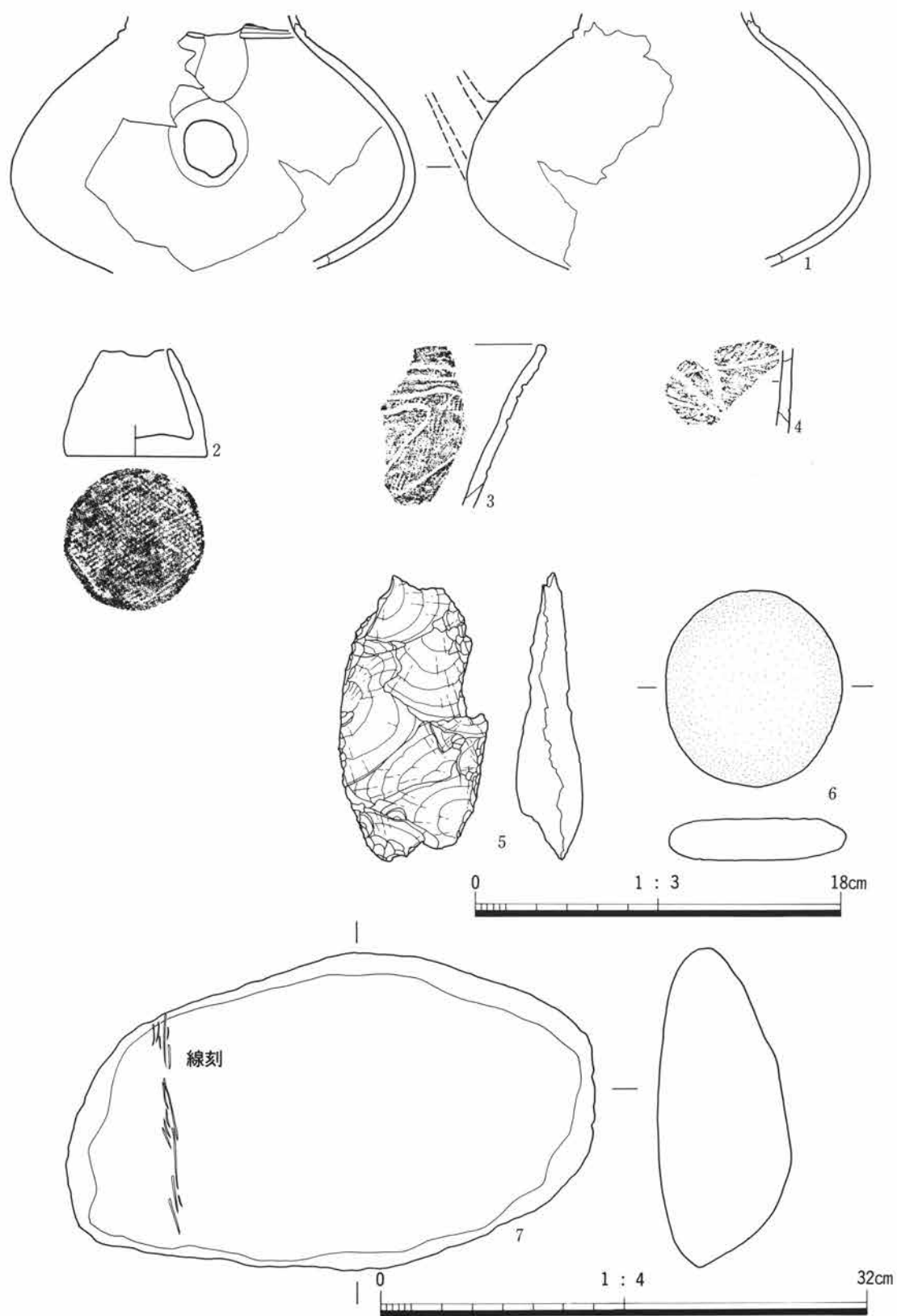


第1127図 田端地区B区97号住居跡(2)

2 遺構外出土の縄文時代遺物

(第1129～1132図、図版372～375)

1は深鉢の口縁部に近い破片で、断面三角形の隆帯



第1128図 田端地区B区97号住居跡出土遺物

が貼付されており上面に刻み目を入れ上部に一条の沈線が走っている。2は口縁部の突起部分の破片で、隆線により渦巻文と楕円区画文を構成し区画内に平行沈線を施している。3も口縁部の破片で、隆線により楕円区画をなし区画内に平行沈線を施している。5～9は胴部の小片である。4・5は同一個体で地文にLR縄文を施し、2条の平行沈線が垂下している。6・7も同一個体で地文にLR縄文を施し、3条の平行沈線が垂下している。8は地文にRL縄文を施し、沈線が1条垂下している。9はRL縄文を施している。1～9は中期後半に位置付けられ、1はB区54号土坑覆土より出土し、他はB区3号住居より出土した。

10～21は口縁部が外反し胴部上半に膨らみを持つ深鉢の同一個体破片である。口縁部には連鎖状文が貼付(単位不明)され、1条の紐線が横位に巡る。胴部には平行沈線が弧状に下り、沈線間にはLR縄文がまばらに施されている。この土器はB区の平安時代の住居を中心に散乱して出土した。堀之内2式に比定される。

22は直線的に開く深鉢の口縁部から胴部上半の破片で、口縁部には2条の平行する紐線が走り8字状文が両者を結んでいる。胴部には平行沈線により三角形の区画文が配され、沈線間にはLR縄文が施されている。

23～26は同一個体で22と同様の器形である。口縁部内面には1条の沈線が巡り、口縁端部外面には8字状文が貼付されている。胴部上半には平行沈線により三角形を基調とする幾何学文が配され、沈線間には細いLR縄文が充填されている。また、器面には焼成後の円孔が見られる。

27～29も同一個体で、口縁部直下に2条の平行する紐線が走り8字状文が貼付されている。胴部上半には平行沈線により幾何学文が配され、沈線間にはRL縄文が充填されている。30～36も沈線により幾何学文を施し、沈線間に縄文を充填している。22～36も堀之内2式に比定され、B区の平安時代の住居や土坑から出土した。

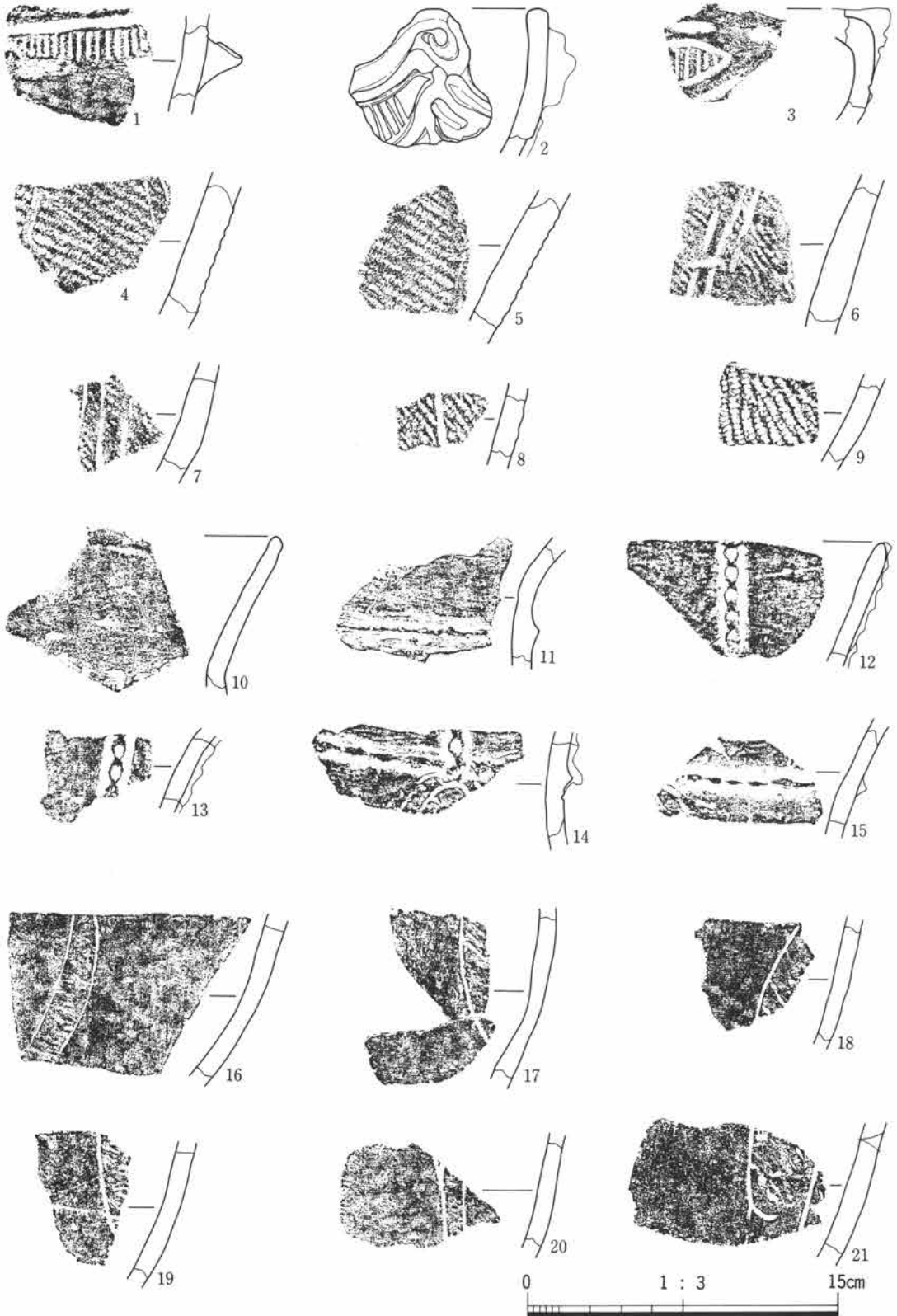
37～42は器厚が薄い精製土器の口縁部から胴部上半の破片で、口縁直下に1～3条の細紐線が横位に走り、8字状文が貼付されるものもある。下部には平行する沈線が巡り沈線間には縄文が充填される。43は間隔の狭い平行沈線が横位と斜めに走り間を細いLR縄文で充填している。これらの土器は堀之内2式に比定される。

44は口縁部の小片で黒色を呈し、内面に平行沈線と刺突文や円孔文が施されている。加曾利B1式に比定される。45・46は肩部が「く」の字状に折れる深鉢の破片で、横位の沈線と弧状の沈線により区画し内部にLR縄文を充填している。加曾利B2式に比定される。

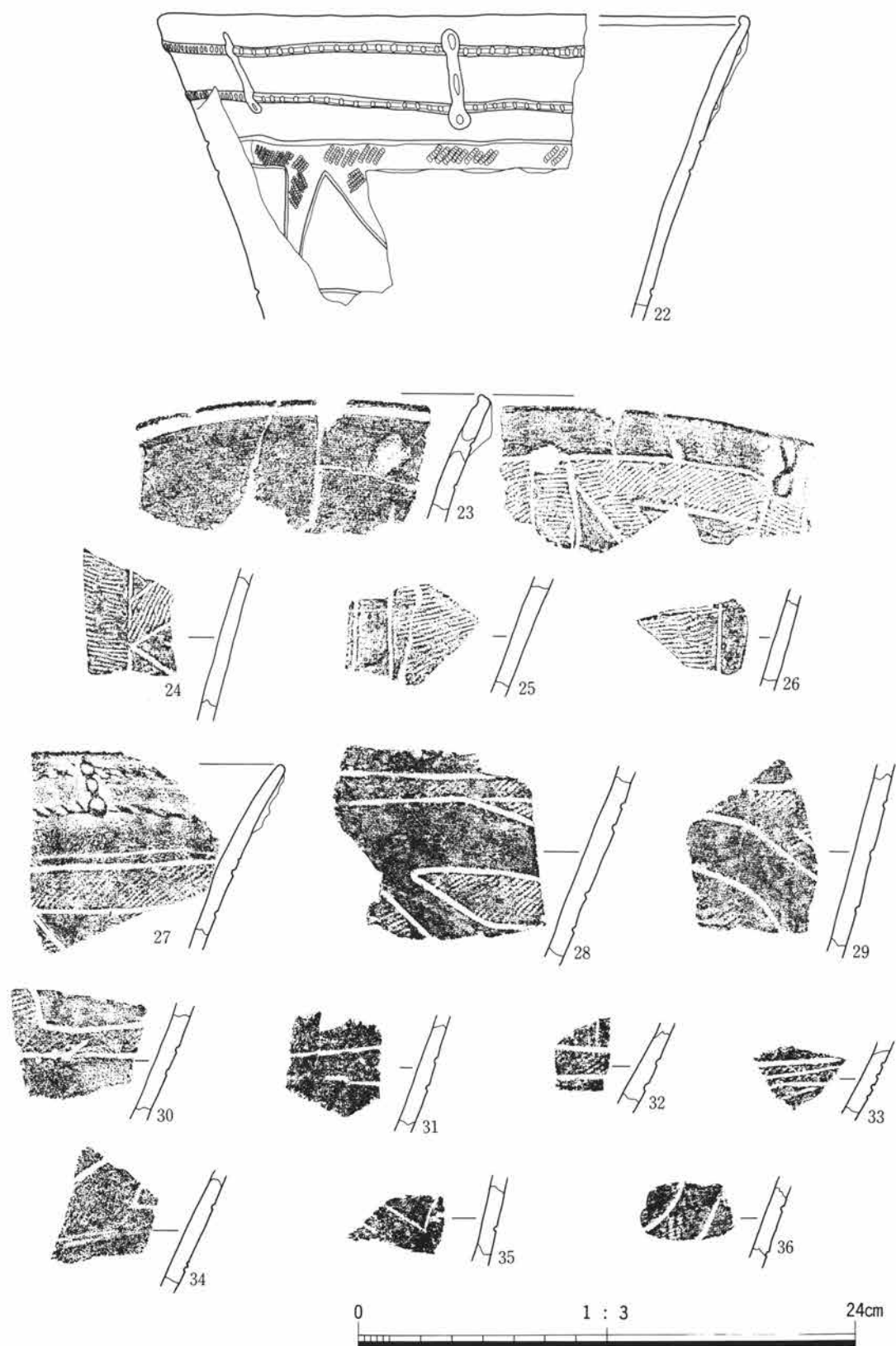
47は突起を持つ口縁部の破片で下半に斜行する沈線が施されている。48は口縁部の橋状把手の破片で、円形刺突があり端部に刻みを入れ2条の平行沈線が巡る。49は注口土器の把手と考えられ、沈線により渦巻文が施こされている。50も注口土器の注口部である。51～53は網代底の底部破片である。37～53もB区の新しい各遺構から出土した。

第1132図は遺構外出土の石器で1・2は短冊形打製石斧、3～8は分銅形打製石斧、9は剥片石器である。

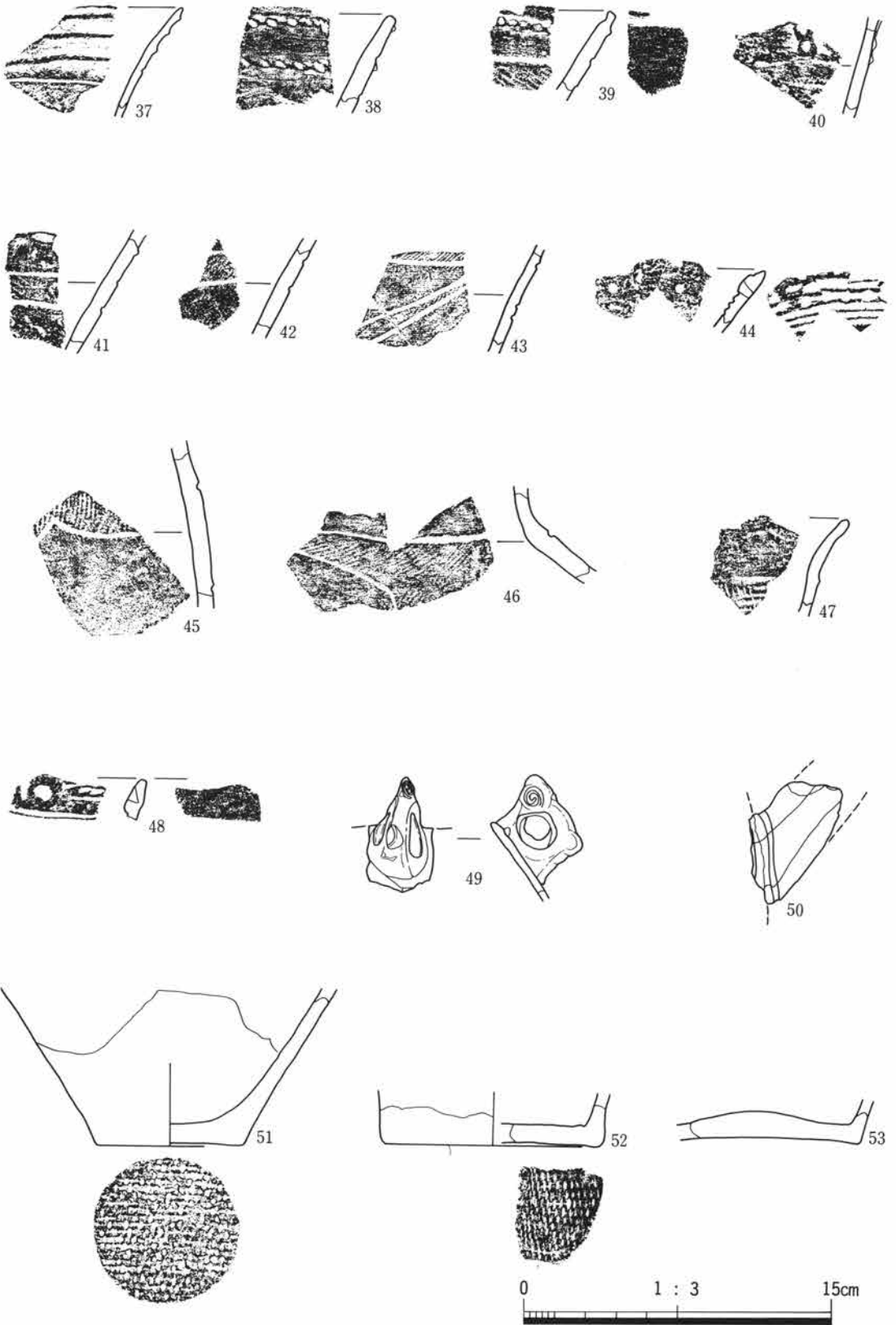
1は表面に自然面を大きく残し薄く作り上げている。長さ10.6cm、幅4.9cm、厚さ0.9cm、重さ63gである。2は厚みがあり屈曲し剝離も荒い。長さ14cm、幅6.3cm、厚さ3.8cm、重さ364gである。3は一



第1129図 田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物（1）土器

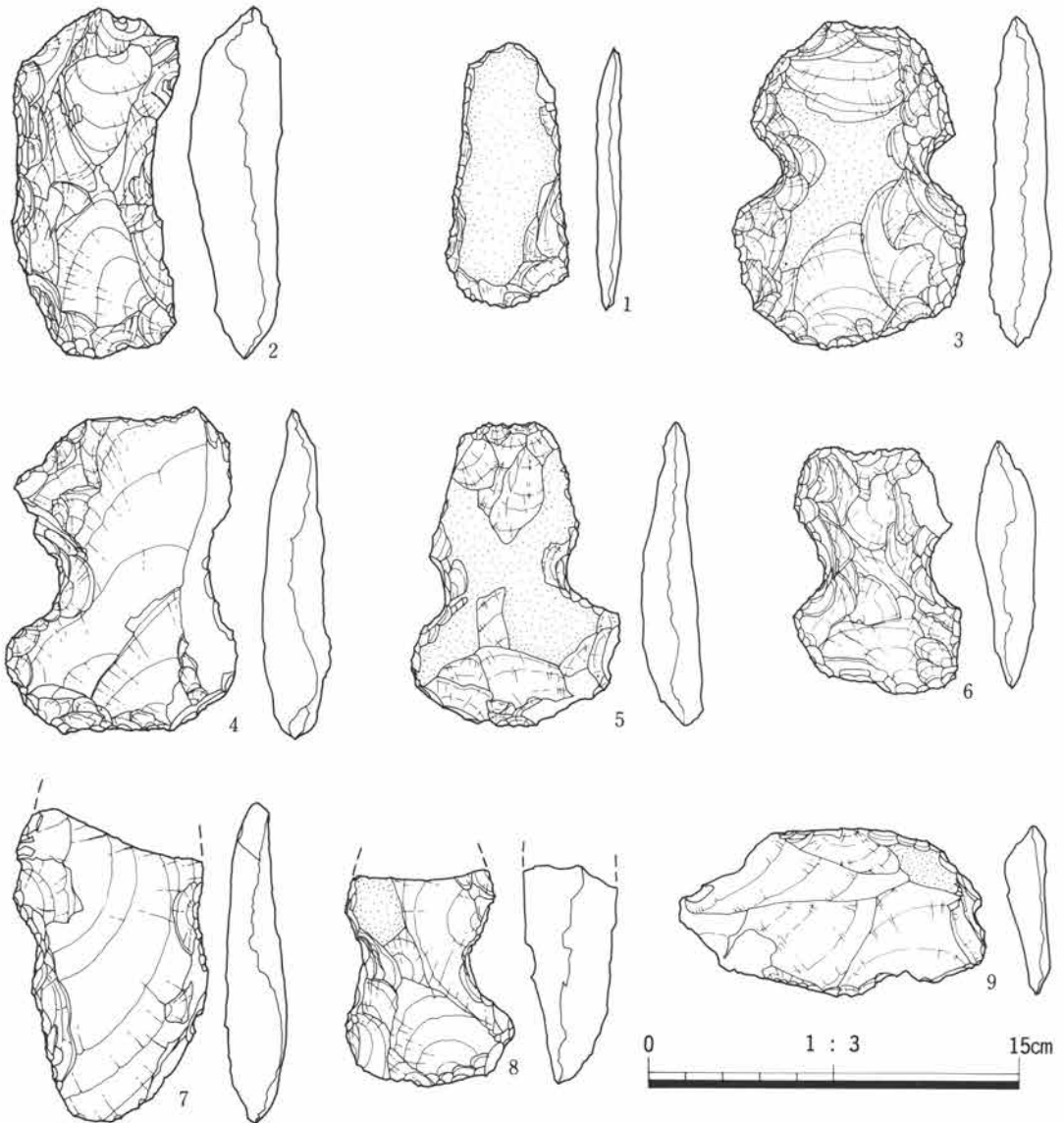


第1130図 田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物（2）土器



第1131図 田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(3)土器

部に自然面を残している。長さ13cm、幅9.5cm、厚さ2.5cm、重さ300gである。4も一部に自然面を残し斜め方向からの大きな剝離面が見られる。長さ13.1cm、幅9.4cm、厚さ2.8cm、重さ348gである。5も表面に大きく自然面を残す。長さ12cm、幅8.4cm、厚さ2.3cm、重さ196gである。6は荒い剝離が加えられ一部欠損している。長さ9.9cm、幅6.8cm、厚さ2.5cm、重さ171gである。7は斜め方向の剝離面を大きく残しわずかに抉り込みが作出されている。一方の端部を欠損している。現状の長さ12.6cm、幅8cm、厚さ2.5cm、重さ228gである。8も一方の端部を欠損している。一部に自然面を残し荒い剝離が加えられている。現状の長さ8.6cm、幅6.9cm、厚さ3.8cm、重さ188gである。9は表面の一部に自然面を残し、荒い剝離が加えられ、裏面は斜め方向からの大きな剝離が見られる。刃部は弧状をなし一方より押圧剝離されている。基部は細かい剝離により潰されている。



第1132図 田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(4)石器

遺物觀察表

遺物観察表

- 1 遺物番号は実測図・写真図版中の番号と一致する。
- 2 法量は上から口径・器高・底径とし、……は計測不能、●は丸底を表す。()に入った数値は推定復原値を表し、とくに単位を付けたもの以外は、単位はすべてセンチメートルである。脚部等をもつものは、裾端部径をもって底径とし、高台を付けるものは「高台……」とした。また、蓋の場合はツマミ径を加えたものがある。
- 3 住居跡出土遺物の出土位置は平面的位置－垂直的位置の順に記入したが、カマド・貯蔵穴等屋内施設として認識された部分から出土した遺物は、施設の名称を優先した。
- 4 備考欄または特徴欄には後日の検索を期して整理番号を記入した。整理番号は整理作業中に付けられた遺物番号で、この番号によって写真・実測図・遺物の検索・同定が可能である。
整理番号の意味については、第1分冊凡例中に記した。なお、瓦については個体数把握のため、「観察通番」が別にあり、整理番号が付かないものも、観察通番によって遺物の同定が可能である。
- 5 備考欄の②焼成については、酸化焰焼成と還元焰焼成の別を優先し、これに硬質・軟質を加えた。
- 6 遺物の種類は、土器の場合は器種－焼物種（須恵器・土師器・土師質）の順に、陶器・磁器の場合は焼物種－器種の順とした。須恵器の器形・成整形特徴をもち、酸化焰焼成の土器をここでは「土師質」と呼んだが、酸化・還元の別は平安時代以後、本質的な意味を失うと見ている。
- 7 瓦の観察に関しては、第5分冊の瓦についての考察を参照されたい。

田端地区E区第4号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高須恵器	脚部 1/5	…… 現存高2.0 底径(12.8)	中央ピット1内	脚部の筒状部以上を欠く。裾部は屈曲してほぼ直にたつ。外端に稜をもつ。内外面ともヨコナデを施す。仕上げは丁寧である。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TA¥E4-5
2	鉄? 鉄製	茎部		西辺南端壁際	本体部を欠く。鉄製の茎部とみられ、断面は長方形を呈する。先端部は細くなり、三角形に尖る。現存長さ6.2cm、幅0.5cm、厚さ0.4cmが遺存する。	
3	ヘラ状製品 鉄製			西辺寄中央	刀子か。先端部の丸い、ヘラ状を呈する。長さ9.1cm、幅1.8cm、厚さ0.2cmが遺存する。	

田端地区E区第5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕須恵器	口縁部 小片	…… 現存高4.4 ……	西辺南寄壁溝内	脚部の可能性がある。外面にクシ描の波状文を施し、その上から凹線を加える。焼成時の灰を被っている。内面はヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TA¥E5-2
2	土錘 土師質	略完		南西隅床直上	両端の一部を欠く。長さ4.2cm、外径1.2cm、孔径0.3cmが遺存する。重さ5.5g。	

田端地区E区第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	3/4	口径 12.1 器高 3.9 ●	南辺西寄床直上	体部と口縁部との境に外稜をもち、口縁部は直線的に外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表は摩滅している。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E6-1、深さ3.1
2	杯土師器	1/2	口径(12.5) 器高 4.6 ●	北辺壁際床面 (Aカマド右)	体部と口縁部との境に外稜をもち、口縁部は滑らかに外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。内底の器表は剥落している。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E6-2、深さ3.8
3	杯土師器	1/2	口径 12.6 現存高4.3 ……	Aカマド右脇床面	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に凹線を施し、その直下が外稜を形成する。口縁部の器肉はやや厚くなる。外底は非回転のヘラケズリを施す。口縁部にスガが付着する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TA¥E6-3
4	甕須恵器	頸部 ~体部	…… 現存高22.8 ……	Bカマド前床面	頸部片と体部片は接合しない。口縁部・底部中央を欠く。外面は格子目状のタタキの後、肩部までは細かいカキ目、肩部以下は粗いカキ目を施す。内面は同心円の当て具痕を体部中位に残し、底部近くは雑なナデ、頸部付近は丁寧なヨコナデを施す。割れ口は暗紫色を呈する。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TA¥E6-4・13
5	甕須恵器	体部 ~底部	…… 現存高11.0 ●	Bカマド前床面	体部以上を欠く。体部との接合部の内面は盛り上がり、内底は規則的な当て具痕を残す。外面は平行タタキの後、丁寧なナデを施す。外底の中央部は擦れて、器表が剥落している。	①白色粒子多くを含む②還元③灰色④TA¥E6-6

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	甕 土師器	頸部 ～体部	…… 現存高28.0 ……	Bカマド 前床面	口縁部・底部中央を欠く。頸部～体部は接合している。頸部に内稜をもち、体部は丸くふくらむ。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒多くを含む②酸化 ③赤褐色④TA¥E6-10
7	甕 土師器	体部 ～底部	…… 現存高30.1 底径 8.3	Bカマド 前床面	口縁部を欠く。体部は丸くふくらむ。底部は不安定な平底を呈する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③赤褐色④TA¥E6-12
8	砥石			Bカマド 前床直上	4面使用。2面がくぼみ、残り2面は平坦である。くぼんでいる面は鋭利な金属製品による磨れか。長さ10.6cm、幅5.2cm、厚さ3.8～4.7cmが遺存する。石質粗粒安山岩。④TA¥E6-7	
9	砥石 ?			Bカマド 前床直上	偏平な石で、長さ9.4cm、幅9.3cm、厚さ2.9cmが遺存する。偏平な一面の中央部に叩いたような浅いくぼみがある。石質粗粒安山岩。④TA¥E6-9	
10	不明			東北北寄 床面	長さ14.2cm、幅6.0cm、厚さ3.8cm。2つの平坦面をもち、両面に擦れた跡がある。石質粗粒安山岩。④TA¥E6-8	

田端地区E区第7号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	½	口径(11.8) 器高 4.1 ●	中央床直 上	体部と口縁部との境に凹線を施し、その直下が外稜を形成する。口縁部下位はやや肥厚する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TA¥E7-2、深さ3.7
2	甕 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(21.2) 現存高5.2 ……	南西隅床 面	体部以下を欠く。口縁部は強く外反し、口唇部は丸くなる。頸部内面に稜をもち。	①砂粒・小石を含む②酸化 ③にぶい橙 色④TA¥E7-16
3	白滑 玉石	略完		カマド左 前床面	外径1.3cm、孔径0.2cm、厚さ0.5～0.8cm。1面は割れたままの状態である。③灰黄色④TA¥E7-12	
4	白滑 玉石	略完		カマド前 床面	外傾1.3cm、孔径0.3cm、厚さ0.2～0.3cm。両面とも平滑に仕上げている。③灰色④TA¥E7-13	
5	白滑 玉石	略完		中央南寄 床面	外傾1.3～1.5cm、孔径0.2cm、厚さ0.3～0.4cm。両面とも割れたままの状態である。③灰黄色④TA¥E7-14	
6	不明			中央西寄 床面	円筒状の細長い石。長さ13.3cm、径4.3～5.5cm。重さ496g。石質黒色片岩。④TA¥E-6	
7	不明			中央床直 上	長さ14.3cm、幅5.8cm、厚さ3.8cm、重さ473g。石質雲母石英片岩。④TA¥E-7	
8	不明			中央南寄 床面	長さ14.0cm、幅5.5cm、厚さ4.1cm、重さ535g。石質石英斑岩。④TA¥E-8	
9	不明			カマド前 中央床直 上	略三角形を呈する偏平な軽石。1面は平坦で、残りの1面の中央部には叩いた痕跡がある。厚さ4.5～7.2cm、図の天地19.6cm、幅14.0cm。	

田端地区E区第9号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¼	口径(11.7) 器高 4.2 ●	フク土	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部中位はやや肥厚し、口唇部は尖り気味である。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E9-1、深さ3.5
2	杯 土師器	⅓	口径(12.4) 現存高4.0 ……	Aカマド 左袖	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部中位はやや肥厚する。体部外面は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E9-10
3	臙 須恵器	体部片	…… 現存高3.6 ……	北西隅床 面	孔の一部が遺存する。体部中位にクシ状工具による刺突文を施す。この文様の直下に浅い凹線を施し、それ以下の外面は回転ヘラケズリを加える。内面はヨコナデを施す。割れ口は暗紫色を呈する。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TA¥E9-4
4	甕 土師器	略完	口径 20.7 器高 37.6 底径 5.2	Aカマド 左袖	体部にふくらみがない。頸部でやや締めまり、口縁部は緩やかに外反する。外底には木葉痕を一部残す。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデ・ナデを施す。頸部は強いヨコナデを加える。体部外面にススが附着する。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E9-11、深さ36.8
5	甕 土師器	口縁部 小片	…… 現存高13.3 ……	Bカマド 右脇床面	小片のため径復原不能。体部は直線的で、口縁部は「く」字状に外反する。口唇部の外側は丸く肥厚する。内面は丁寧なヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E9-7
6	土 土師 錘 土師 質	略完		Aカマド 右脇フク 土	両端を欠く。長さ5.0cm、外径1.4cm、孔径0.4cmが遺存する。現在の重さ6.7g。②酸化③にぶい橙色④TA¥E9-12	

田端地区E区第10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高8.9 ……	カマド内	口縁部の遺存が少なく、径復原不能。体部は直線的で、口縁部は「く」字状に外反する。頸部外面にヘラのアタリが残る。体部外面は左上に向かうヘラケズリを施す。内面にもヘラのアタリが残る。ヘラナデか。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E10-2
2	丸 玉 ガラス製	略完		中央北寄 床面	外径1.4cm、孔径0.1～0.3cm、厚さ0.8cmのやや偏平なガラス玉である。穿孔は片方から行い、その断面は細い円錐台を呈する。穿孔する面は平坦面にしている。周囲は磨って丸くする。	

田端地区E区第12号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(12.9) 現存高3.8 ……	フク土	底部を欠く。体部との境に外稜をもち、口縁部は直線的に開く。外稜以下の外面は回転ヘラケズリを施す。歪みあり。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TA¥E12-12

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	杯 土師器	⅔	口径 10.1 器高 3.0 ●	貯蔵穴内	口縁部は内湾して立ち上がる。体部との境 にぶい外稜をもつ。外稜以下の外面は非回転 のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TAYE12-6、深さ2.6
3	杯 土師器	⅓	口径(10.4) 器高 3.5 ●	フク土	口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部との境 にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケ ズリを施す。外面は黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-2、深さ3.1
4	杯 土師器	略完	口径 10.8 器高 3.0 ●	貯蔵穴内	口縁部は内湾する。底部は平坦である。体部 と口縁部との境にぶい外稜をもつ。外底は 非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅が著 しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-1、深さ2.6
5	杯 土師器	略完	口径 10.5 器高 4.0 ●	フク土	口縁部は内湾して立ち上がる。口唇部は尖り 気味である。外底は非回転のヘラケズリを施 す。歪みがある。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-3、深さ3.6
6	杯 土師器	⅓	口径(13.1) 器高 4.5 ●	フク土	口縁部は内湾し、口唇部内側は丸く肥厚する。 外底は非回転のヘラケズリを施す。底部がや や尖り気味である。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-5、深さ4.1
7	杯 土師器	⅓	口径(13.3) 器高 4.9 ●	フク土	底部から滑らかに口縁部に至る。口唇部は丸 く肥厚する。外底は非回転のヘラケズリを施 す。外底中央のみ黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-7、深さ4.5
8	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(23.8) 現存高3.5 ……	フク土	口縁部と底部との境に外稜をもつ。外底は非 回転のヘラケズリ、内底は丁寧なナデを施す。 口縁部は外傾して立ち上がる。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-23
9	甕 須恵器	体部 ⅓	…… 現存高6.6 ……	フク土	底部・口頸部を欠く。肩部の上下にぶい凹 線を施し、その中間に径1.1cmの孔を焼成前 に穿つ。体部下半の外面はヘラケズリの後、ナ デを施す。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYE12-10
10	白 滑石製	略完		カマド前 左脇床面	外径1.4cm、孔径0.3cm、厚さ0.8cm。平坦面 の一方は磨っているが、他の 面は割れたままである。側面は穿孔の方向と 同じ方向に磨っている。③に ぶい黄色④TAYE12-29	
11	土 土師質	略完		カマド内	両端に割れがある。長さ4.2cm、外径1.5cm、 孔径0.5cm。断面は楕円形を呈 する。②酸化③橙色④TAYE12-11	
12	甕 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(23.2) 現存高14.5 ……	フク土	体部中位以下を欠く。体部にふくらみがあり、 口縁部は直に立ち上がって外反する。頸部内 面に稜線をもつ。体部外面はヘラケズリ、内 面は丁寧なナデを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化 ③橙色④TAYE12-15
13	甕 土師器	⅓	口径(11.7) 現存高11.2 ……	フク土	底部中央を欠く。丸い体部をもち、口縁部は 直に立ち上がる。体部内面は丁寧なナデを施 す。2次火熱を受けている。内面にスス附着。	①砂粒を多く含む②酸化 ③赤褐色④TAYE12-8
14	甕 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(12.7) 現存高4.5 ……	フク土	体部中位以下を欠く。体部に膨らみがなく、 口縁部は直に立ち上がる。口唇部は尖り気味 である。頸部内面にぶい稜線をもつ。体部 外面はヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。 小型甕。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE12-16

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
15	甕 須恵器	1/2	口径(12.3) 器高 19.6 ●	北東隅壁 際床面・ 中央西寄 床面	体部1/2・口縁部1/2を欠く。体部は丸味があり、上位がやや張ってここの外面のみヘラケズリを施す。体部の内面は同心円当て具痕を残し、さらにナデを施す。肩部外面はカキ目を加える。中位以下の外面は格子目風のタタキ目を残す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYE12-26、深さ18.9
16	甕 須恵器	口縁部 小片	…… 現存高10.2 ……	フク土	小片のため径復原不能。大型甕の口縁部か。外面はクシ描波状文を施した後、6本の凹線を加える。内面はヨコナデを施す。接合しない破片あり。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYE12-14

田端地区E区第14号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(19.4) 現存高19.2 ……	カマド右 袖脇床面	体部中位以下を欠く。体部に膨らみがなく、口縁部はかるく外反する。頸部はわずかに締まる。頸部に比べ、口唇部はやや薄くなる。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE14-1

田端地区E区第16号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径(11.9) 現存高4.0 ……	南辺寄床 直上	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部直下の外面にもぶい段をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE16-1
2	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(21.6) 現存高10.9 ……	カマド右 袖	体部中位以下、口縁部の大半を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部は強く外反する。頸部外面に強いヨコナデを加える。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化 ③橙色④TAYE16-4
3	甕 土師器	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高17.5 ……	カマド煙 道部煙出	径復原不能。体部にふくらみがなく、口縁部は外反する。頸部以下の外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③暗褐色 ④TAYE16-3

田端地区E区第19号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 13.6 器高 3.7 ●	カマド内	体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。底部はやや偏平である。内面に黒色の付着物がある。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。口唇部内側は丸く肥厚する。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TAYE19-7、深 さ3.2
2	杯 土師器	1/2	口径 14.7 器高 4.1 ●	南辺中央 壁際床面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部中位外面にも凹線を1本もつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。外面は黒色を呈する。磨きを施さない黒色処理か。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色 ④TAYE19-5、深さ3.7

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	高須恵杯器	杯部 1/2	口径(12.9) 現存高5.5 ……	カマド左 脇床面	脚部を欠く。蓋受けは水平方向に延び、口縁部は内傾して立ち上がる。杯部外底はヘラケズリの後、ヨコナデを加える。脚部の透かしの切り込みが一カ所遺存する。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYE19-8、深さ4.0
4	高土師杯器	略完	口径 16.6 器高 19.7 底径 13.7	カマド左 脇・カマ ド前床面	歪みあり。脚部を水平にすると口縁部が傾く。杯部は底部との境にぶい外稜をもち、口縁部は反転してつよく外反する。脚部は滑らかに開き、端部は丸くつまみ出される。脚部内面に粘土の接合痕を残す。脚部外面と杯部の器表は摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE19-16、深さ3.8
5	白滑石製玉	略完		フク土	外径1.3cm、孔径0.2cm、厚さ0.8cm、平坦面の一方に磨った跡がある。側面にも磨った跡が明瞭に残る。一部に割りの痕跡とみられるくぼみ(ノミ跡か)が残る。③黄灰色④TAYE19-18	
6	甕土師器	略完	口径 18.8 器高 32.4 底径 6.3	カマド内	体部に丸味があり、中位に最大径20.3cmがある。頸部がやや締め、口縁部はかるく外反する。底部は不安定な平底である。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE19-12深さ31.1
7	甕土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(15.0) 現存高13.7 ……	カマド前 右床面	体部中位以下を欠く。体部に膨らみがあり、口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部に平坦面があり、口唇部内側は上方に丸くつまみ出される。体部外面はヘラケズリ、内面はタテ方向のヘラケズリを施す。口縁部中位の器肉は厚くなる。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE19-15
8	甕土師器	略完	口径 12.0 器高 1.8 底径 6.6	カマド内	体部は丸く膨らみ、口縁部は外反する。口唇部は尖り気味である。体部外面はヘラケズリ後ナデ、内面は丁寧なナデを施す。外底はヘラケズリの痕跡が残る。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE19-13深さ11.6
9	甕土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(14.6) 現存高8.9 ……	カマド前 床面	体部にやや丸味をもつ。口縁部は短く、つよいヨコナデを施される。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。内面はスガが付着している。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE19-11
10	甕土師器	体部 ～底部 1/2	…… 現存高15.3 底径 9.2	カマド前 床面	体部中位以上を欠く。底部の孔は単孔である。焼成前に端部の面取りを施す。外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデまたはヘラナデを施す。内面の仕上げは丁寧である。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE19-14

田端地区E区第22号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	1/2	口径(12.0) 現存高3.6 ……	西辺壁際 床面	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は直に外反し、口唇部は丸くなる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE22-3
2	蓋須恵器	1/2	口径(13.5) 器高 3.8 ……	フク土	ツマミは付かない。体部と口縁部との境に外稜をもつ。天井部外面は丁寧な右回転のヘラケズリを施す。	①砂粒・黒色粒子を含む②還元③灰色④TAYE22-4、深さ3.1

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	杯 須恵器	¼	口径(11.9) 現存高3.9 ……	フク土	底部中央を欠く。蓋受けは丸味をもち、やや上方へ延びる。蓋受け径13.5cm。外底は丁寧な左回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYE22-5
4	丸玉 ガラス	略完		フク土	球形に近い。径1.5cm、孔径0.5cm。孔は穿孔ではない。内部に気泡が浮いている。③無色・透明④TAYE22-9	

田端地区E区第23号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 10.6 器高 3.9 ●	西辺中央 壁際床面	口縁部の大半を欠く。体部中位で屈曲し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。内底はくぼみ、外底はやや突出する。口縁部・底部中央の器肉は薄い。外底はヘラ切り離した後、ナデを丁寧に加える。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③明るい橙色④TAYE23-1、深さ3.5
2	壺 土師器	口縁部 ～体部 ¼	口径(22.4) 現存高11.9 ……	中央西寄 床面	体部中位以下を欠く。体部は丸味をもち、頸部が締まって口縁部は外反して立ち上がる。口唇部は丸味をもつ。体部の器表は剥落している。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYE23-2
3	瓶 土師器	底部 小片	…… 現存高 6.7 ……	西辺中央 壁際床直上	体部以上を欠く。端部の内側はヘラによる面取りを施す。内面は粘土の接合痕が一部残り、外面はタテ方向のヘラケズリの後、丁寧なナデを施す。外面の一部は黒色を呈する。	①精良②酸化③橙色④TAYE23-7

田端地区E区第26号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	壺 土師器	略完	口径 18.4 器高 38.7 底径 6.8	中央南寄 床面	体部中位がややふくらみ、頸部が締まって口縁部は外反して立ち上がる。底部は小さく、不安定な平底である。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。外底はヘラで調整する。体部下位に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE26-1、深さ37.1
2	壺 土師器	½	口径 16.3 器高 33.4 底径 5.9	カマド前 床直上	体部中位にふくらみがあり、頸部は締まって、口縁部は「く」字状に外反する。底部は突出し、不安定な平底を呈する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。体部下位の内面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③暗赤褐色④TAYE26-3、深さ32.3
3	壺 土師器	底部	…… 現存高9.8 底径 8.1	カマド右 前床面	体部中位以上を欠く。体部は丸く開き、底部は突出した平底を呈する。体部外面はナメ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。内面には粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYE26-4
4	瓶 土師器	¼	口径(27.2) 器高 31.4 底径(8.8)	南辺西寄 床直上	底部は単孔で、内径(8.0)cmである。体部は口縁部に向かって開き、頸部で屈曲して口縁部は大きく外反する。体部内面は丁寧なナデの後、ヘラミガキ、外面はタテ方向のヘラケズリを施す。底部の内側はヘラによる面取りを2回施す。体部下位の内面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYE26-12

遺物観察表

田端地区E区第28号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 ～体部 1/8	口径(12.0) 現存高3.5 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。口縁部は直に立ち上がる。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE28-2
2	高杯 土師器	杯部 1/8	口径(15.0) 現存高3.4 ……	南カマド 前床面	脚部を欠く。体部と口縁部との境に段をもつ。外面は非回転のヘラケズリを施す。杯部中央が略円形に剝離している。	①精良②酸化③橙色 ④TAYE28-1
3	甕 土師器	口縁部 1/8	口径(19.6) 現存高6.0 ……	カマド掘 形	体部以下を欠く。口縁部は直に近く立ち上がり、口唇部は丸く肥厚して外反する。口縁部内外面ともヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE28-6
4	臼 滑石製	略完		北カマド 左脇床面	側面は磨り加工と削り加工を施す。平坦面は平滑に磨っている。外径1.4cm、孔径0.4cm、厚さ0.8cmである。現在の重さ1.9g。③灰色④TAYE28-8	

田端地区E区第29号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/8	口径(12.6) 器高 4.2 ●	カマド内	口縁部と体部との境に明瞭な段をもつ。内面に黒色の付着物がある。外底は非回転のヘラケズリを施す。やや厚手。	①細砂粒を含む②酸化③暗褐色④TAYE29-2、深さ3.8
2	杯 黒色土器	口縁部 小片	…… 現存高3.6 ……	カマド内	底部を欠く。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。内面はヘラミガキの後黒色処理を施す。口縁部外面も黒色化するがミガキを加えない。	①細砂粒を含む②酸化③褐色④TAYE29-4
3	不明	完形		カマド内	長さ1.3cm、径0.5cmの小石である。表面は平滑に磨かれている。石質珪質変質岩。赤褐色を呈する。④TAYE29-1	

田端地区E区第30号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 ～体部 1/8	口径(15.6) 現存高3.4 ……	フク土	体部は直線的に開き、短い口縁部は丸く肥厚する。口縁部と体部との境にぶい外稜をもつ。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE30-4
2	土 土師質	錘		フク土	一端は割れている。長さ5.3cm、孔径0.5cm、外径1.2cmが遺存する。孔は中心に位置しない。①砂粒を含む②酸化③褐色④TAYE30-1	
3	土 土師質	錘		フク土	一端は割れている。長さ3.4cm、外径1.4cm、孔径0.5cmが遺存する。①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYE30-2	
4	土 土師質	錘		フク土	両端は割れている。長さ2.8cm、外径1.3cm、孔径0.6cmが遺存する。断面は略三角形を呈する。①砂粒を含む②酸化③暗褐色④TAYE30-3	

田端地区E区第32号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 9.9 器高 2.5 ●	南辺東寄 床面	口縁部は内傾して立ち上がる。蓋受けは上方へ開き、径11.8cmである。外底はヘラ切り離しの後、ナデを施す。	①細砂粒・白色粒子を含む ②還元③灰白色 ④TAYE32-10、深さ1.9
2	杯 土師器	口縁部 ～体部 1/6	口径(9.9) 現存高 2.6 ……	カマド左 袖	底部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-15
3	杯 土師器	1/3	口径(11.3) 器高 3.1 ●	カマド右 脇床面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は屈曲して外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-9、深さ2.6
4	杯 土師器	略完	口径 10.2 器高 2.9 ●	カマド右 脇床面	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。口縁部は外反気味に立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-5、深さ2.6
5	杯 土師器	1/6	口径 10.8 器高 3.5 ●	カマド右 脇床面	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。口縁部屈曲して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-7、深さ3.9
6	杯 土師器	1/2	口径(10.9) 器高 3.3 ●	カマド右 脇床面	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。口縁部は屈曲して立ち上がる。外底は非回転の丁寧なヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-6、深さ2.6
7	杯 土師器	1/2	口径(10.5) 器高 3.2 ●	カマド右 袖脇床面	口縁部は内傾気味に立ち上がる。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-3、深さ2.7
8	杯 土師器	略完	口径 10.2 器高 2.9 ●	北東隅床 面	口縁部は内傾気味に立ち上がる。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-8、深さ2.5
9	杯 土師器	1/3	口径(12.8) 器高 4.6 ●	南辺中央 壁際床面	口縁部は内傾気味に立ち上がる。体部と口縁部との境に外稜をもつ。内底は丁寧なナデ、外底は非回転のヘラケズリを丁寧に施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-2、深さ4.1
10	杯 土師器	略完	口径 13.2 器高 4.6 ●	南辺中央 壁際床面	口縁部は内傾して立ち上がる。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内外面に黒色の付着物がある。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色 ④TAYE32-4、深さ4.0
11	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/6	口径(23.2) 現存高32.2 ……	カマド底 面	底部を欠く。体部上位にやや膨らみをもち、口縁部はおおきく外反する。頸部に明確な内稜をもつ。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-23・26
12	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径 21.1 現存高20.7 ……	カマド前 床面	体部下位以下を欠く。体部中位に膨らみがあり、口縁部は「く」字状に外反する。頸部外面にヘラのアタリが残る。体部内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-22
13	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径 20.7 現存高9.7 ……	南東隅床 面・貯蔵 穴	体部中位以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はヨコ・ナナメ方向のヘラケズリを施す。頸部外面にヘラのアタリを残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE32-24

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	甕 土師器	口縁部 ～体部 ¼	口径(20.8) 現存高9.2 ……	カマド右 脇床面	体部中位以下を欠く。体部に膨らみがなく、口縁部はつよく外反する。体部外面はタテ方向のヘラナデ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰黄褐色④TAYE32-25
15	甕 土師器	口縁部 ⅓	口径(21.4) 現存高4.6 ……	カマド前 床面	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。内外面ヨコナデを施す。頸部外面にヘラのアタリを残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE32-20
16	砥石 ?			貯蔵穴西 床面	11.2×12.1cm、厚さ3.5cmほどの円形・偏平な石。凹面の表面は特に平滑で、凸面はやや粗い。石質閃緑岩。④TAYE32-28	
17	不明	完		カマド前 床面	長さ15.1cm、断面略方形の石。石質変質安山岩。④TAYE32-11	
18	不明			カマド左 袖中	長さ16.8cm、断面かまぼこ状の石で、一端は割れている。石質変玄武岩。④TAYE32-13	

田端地区E区第35号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(11.8) 現存高3.5 ……	南西隅床 面	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもち、口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色④TAYE35-38
2	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(13.9) 現存高3.9 ……	中央南寄 床面	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に段をもつ。口縁部は内傾して立ち上がる。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE35-36
3	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(10.2) 現存高3.5 ……	北辺西寄 床面	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもち、口縁部は屈曲して立ち上がる。口唇部は尖り気味である。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE35-37
4	鉢? 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(13.7) 現存高7.6 ……	中央東寄 床面	体部中位以下を欠く。体部～口縁部は直線的に開く。口縁部はヨコナデ、体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。甕の可能性あり。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE35-34
5	甕 土師器	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高4.5 ……	中央西床 面	体部中位以下を欠く。小片のため径復原不能。頸部外面に凹線を施し、口縁部は直に立ち上がる。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE35-39

田端地区E区第37号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 ～体部 ½	口径(23.2) 現存高6.4 ……	中央床下	体部中位以下を欠く。頸部が強く締まり、口縁部水平近くまで開く。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYE37-1

寺東地区第1a号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	完形	口径 10.7 器高 3.2 ●	西辺北寄 壁際床面	蓋受け径12.0cm。口縁部は内傾する。外底は右回転ヘラケズリを施す。内底がややくぼむ。	①砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TEY1-7、1a、深さ2.6
2	杯 土師器	略完	口径 12.7 器高 4.3 ●	西辺北寄 壁際床面	口縁部中位が肥厚する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-18、1a、深さ3.9
3	杯 土師器	略完	口径 13.5 器高 4.6 ●	西辺中央 壁際床面	底部中央を欠く。口縁部中位がやや肥厚する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-1、1a、深さ4.1
4	杯 土師器	略完	口径 13.2 器高 4.6 ●	西辺北寄 壁際床面	口縁部中位がやや肥厚する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内外面に黒色処理を施すが、磨きは行わない。	①砂粒を含む②酸化③黒色④TEY1-22、1a、深さ4.4
5	杯 土師器	略完	口径 13.7 器高 5.1 ●	西辺北寄 床面	口縁部は直に立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面に黒色の付着物がある。	①細砂粒を含む②酸化③灰黒色④TEY1-21、1a、深さ4.6
6	杯 土師器	略完	口径 13.4 器高 3.6	西辺北寄 壁際床面	口縁部中位がやや肥厚する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY1-20、1a、深さ3.1
7	杯 土師器	½	口径(13.9) 器高 4.5 ●	西辺中央 壁際床面	口縁部中位がやや肥厚する。体部との境に外稜をもつ。内面に黒色の付着物がある。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-2、1a、深さ4.1
8	杯 土師器	略完	口径 12.8 器高 4.6 ●	西辺北寄 壁際床面	口縁部中位がやや肥厚し、口唇部内側も丸く肥厚する。外面に黒色の付着物がある。体部との境に外稜をもつ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-3、1a、深さ4.0
9	杯 土師器	¾	口径 14.9 器高 4.2	西辺中央 壁際床面	口縁部は外傾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明灰褐色④TEY1-5、1a、深さ3.6
10	杯 土師器	¼	口径(12.9) 器高 4.5 ●	北西隅床 直上	口縁部は強く外反し、体部との境にぶい外稜をもつ。内面はヨコナデを施す。外面の器表は摩滅している。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY1-4、1a、深さ4.0
11	鉢 土師器	¾	口径 17.2 器高 8.6 底径 7.1	Aカマド 燃焼部	外底は突出しており、不安定な平底を呈する。体部は直線的に開き、口縁部は直に立ち上がる。口唇部はやや肥厚する。体部との境にぶい外稜をもつ。体部外面はヘラケズリを施す。内面は器表の剥落が著しい。使用によるものか。	①砂粒・小石を含む②酸化③浅黄色④TEY1a-8、1a、深さ6.8
12	甗 土師器	略完	口径 23.4 器高 29.6 底径 10.3	西辺北寄 床面	底部は単孔で、端部の一部を欠く。底部内面はヘラによる面取りを施す。口縁部はかるく外反し、口唇部外側は丸く肥厚する。内面は丁寧なナデ、外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-15、1a
13	甗 土師器	略完	口径 17.3 器高 12.5 孔径 1.8	西辺北寄 壁際床面	底部に焼成前の単孔をもつ。口縁部はかるく外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なヨコナデを施す。内面に褐色の付着物が残る。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY1-10、1a

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	甕 土師器	略完	口径 19.2 器高 37.8 底径 6.0	Aカマド 前床面	体部中位やや下にふくらみがある。口縁部はかるく外反する。底部は少し突出した不安定な平底である。体部下位に底部との接合部痕跡を残す。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY1a-14、1a、深さ36.1
15	甕 土師器	略完	口径 17.0 器高 33.0 底径 6.1	Aカマド 左脇床面	体部下位にふくらみがある。口縁部はかるく外反し、底部は突出する。底部と体部との境は器内が薄くなっている。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TEY1a-12、1a、深さ29.8
16	甕 土師器	底部	…… 現存高11.5 底径 6.3	Aカマド 前床面	体部中位以上を欠く。底部はやや突出し、平底を呈する。内面の器表が剥離している。底部と体部との接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TEY1a-13、1a
17	甕 土師器	略完	口径 13.8 器高 12.3 底径 6.5	西辺北寄 壁際床面	体部に丸味をもち、口縁部は直に立ち上がり、わずかに外反する。体部以下の外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TEY1-9、1a、深さ11.2
18	甕 土師器	略完	口径 13.8 器高 15.6 底径 5.6	Aカマド 右脇床面	体部に丸味をもつ。頸部は直に立ち上がり、口縁部は強く外反する。底部は小さく、不安定な平底を呈する。体部外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。歪みあり。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TEY1a-9、1a、深さ14.2
19	甕 土師器	略完	口径 11.8 器高 13.0 底径 4.7	西辺南寄 壁際床面	体部中位に丸味がある。口縁部はにぶい「コ」字状を呈する。口唇部は尖り気味である。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY1a-10、1a、深さ11.6
20	不明 石	完		Aカマド 前床面	細長い石。長さ18.0cm、一辺が4cmほどの断面方形を呈する。太い一端には細かい凹凸がある。重さ630g。石質変質安山岩。④TEY1a-16、1a	
21	不明 石	完		中央南寄 床面	軽石。一部に鋭利な刃物（金属製）によるキズとみられる痕跡がある。重さ600g。石質軽石（二ツ岳）。④TEY1a-18、1a	

寺東地区第1b号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	略完	口径 16.3 器高 5.1 ……	北西隅床 直上	肩部に一段をもつ。口唇部内側にも段をもち、仕上げは丁寧で薄くなる。天井部外面は右回転ヘラケズリ、内面はロクロナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TEY1-8、1b、深さ4.3
2	杯 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(11.6) 現存高4.5 ……	北辺壁際 床面	底部中央を欠く。口縁部は強く外反し、体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。底部はやや突出気味である。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY1-17、1b
3	甕 土師器	略完	口径(18.7) 器高 34.7 底径 8.8	貯蔵穴	体部下位にややふくらみをもつ。口縁部は体部から区切りなく外反する。底部は不安定な平底である。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TEY1a-15、1b、深さ33.0

寺東地区第4号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¼	口径(12.6) 器高 4.5 ●	カマド右 脇床直上	口縁部は外反気味に立ち上がる。口唇部は丸く肥厚する。体部との境に外稜をもつ。内外面の器表は摩滅著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY4-1、深さ3.9
2	甕 土師器	口縁部 ～体部 ¼	口径(19.8) 現存高14.5 ……	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。体部に丸味をもたず、口縁部は「く」字状に外反する。口唇部外側に細い凹線を施す。内外面ナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY4-3
3	甕 土師器	口縁部 ¼	口径(20.4) 現存高4.5 ……	北西寄床 直上	頸部以下を欠く。口縁部はかるく外反する。頸部以下の外面はタテ方向のヘラケズリを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③灰黄色④TEY4-4

寺東地区第10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 ～体部 ¾	口径(13.6) 器高 3.7 ●	南辺中央 壁際床直 上	口縁部は外反気味に立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。内底には放射状の暗文を施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。口縁部外面に黒色の付着物がみられる。	①細砂粒を含む②酸化③灰褐色④TEY10-1、深さ3.3
2	杯 須恵器	口縁部 ⅓	口径(11.5) 現存高2.4 蓋受(14.1)	フク土	底部を欠く。口縁部は強く内傾し、蓋受は外方へ開く。内外面に丁寧なヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TEY10-2
3	甕 土師器	口縁部 ¼	口径(21.0) 現存高 7.1 ……	中央床面	体部以下を欠く。体部にふくらみをもたず、口縁部外方へ水平近くまで開く。頸部以下の外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY10-5

寺東地区第13号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	¼	口径(16.4) 器高 5.7 ……	東辺壁際 フク土	ツマミなし。体部と口縁部との境に外稜をもつ。天井部は丸くふくらむ。天井部外面は右回転のヘラケズリ、内面は丁寧なヨコナデを施す。口唇部内側に浅い凹線をもつ。	①白色粒子を含む②還元③灰黄褐色④TEY13-1深さ4.9

寺東地区第14号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅓	口径(13.6) 器高 3.6	東辺寄床 面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は外方へ開く。内外面の器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY14-1、深さ3.2

遺物観察表

寺東地区第15号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 12.8 器高 4.6 ●	カマド右 脇床面	口縁部は内湾して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY15-1、深さ4.0
2	杯 土師器	略完	口径 13.0 器高 4.7 ●	北東隅床 面	口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部内側は丸く肥厚する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TEY15-2、深さ4.2
3	杯 土師器	略完	口径 14.2 器高 4.6 ●	カマド内 底面	口縁部は直線的に外反する。体部との境に外稜をもつ。口縁部外面ににぶい凹線を2~3本もつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY15-3、深さ4.1
4	杯 土師器	略完	口径 12.6 器高 4.5 ●	フク土	口縁部は直に立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内外面とも黒色処理を行うが、ヘラ磨きを行わない。	①砂粒を含む②酸化③黒色 ④TEY15-9、深さ4.0
5	甕 土師器	1/3	口径 21.9 現存高36.7 ……	カマド内 左奥	底部中央を欠く。体部中位にふくらみがあり、口縁部は「く」字状に外反する。頸部に強いヨコナデを施す。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TEY15-4
6	甕 土師器	口縁部 ~体部 1/3	口径 16.9 現存高8.5 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部は短く外反する。頸部に内稜をもつ。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TEY15-5

寺東地区第16号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	略完	口径 21.0 器高 36.3 底径 7.0	カマド内	口縁部の一部を欠く。体部下位にふくらみをもつ。頸部が少し締まり、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。口縁部の中心と底部の中心とは一致しない。口唇部に平坦面をもつ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TEY16-1、深さ35.0

寺東地区第18号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 1/3	口径(17.8) 現存高10.0 ……	中央北東 寄床面	体部下半以下を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部は強く外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。口縁部内面にくぼみをもつ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TEY18-1
2	土 土師質	略完		中央北西 寄床面	長さ7.5cm、最大径2.7cm、重さ53.2g。孔径0.5cmである。④TEY18-2	

寺東地区第19号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	略完	口径 11.8 器高 4.4 ツマミ3.6	中央南寄 床面	口唇部内側に段をもつ。口縁部は外方へ開く。ツマミは偏平で、中央部がくぼむ。天井部外面にはカキ目を施す。	①白色粒子を含む②還元 ③にぶい赤褐色 ④TEY19-2、深さ3.1
2	杯 土師器	略完	口径 10.6 器高 4.2	中央北寄 床面	歪みが著しい。体部と口縁部との境に外稜をもつ。器表の摩滅が著しいため、調整は不明。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY19-1、深さ3.7
3	甕 土師器	口縁部 小片	口径(18.9) 現存高5.5 ……	北西隅床 面	体部以下を欠く。口縁部はゆるく外反し、口唇部外側はまるく肥厚する。体部外面にハケ目状の調整をタテ方向に施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY19-5
4	甕 土師器	略完	口径 20.7 器高 36.7 底径 6.1	中央南寄 床面	体部中位にややふくらみをもち、底部はわずかに突出する。頸部がややしまり、口縁部は外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY19-6、深さ35.3
5	甕 土師器	略完	口径 19.1 器高 32.1 底径 5.7	南辺壁際 床面	体部下位にふくらみをもつ。外底に木の葉の圧痕がある。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY19-7、深さ31.0
6	甕 土師器	1/2	口径 24.6 器高 30.4 底径 9.3	中央南寄 床面	口縁部～体部の一部を欠く。体部にやや丸味があり、口縁部はゆるく外反する。口唇部に平坦面をもつ。底部は1孔で、端部は面取りを施す。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラ磨きを施す。内面の仕上げは丁寧である。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY19-8

寺東地区第20号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	口縁部 小片	口径(12.9) 現存高3.7	Bカマド 前床面	天井部を欠く。口縁部との境に外稜をもつ。内外面ともロクロナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY20-29
2	杯 須恵器	略完	口径 11.8 器高 2.9 ●	南辺壁際 床直上	蓋受け径13.8cm。口縁部は内傾し、全体に偏平な作りである。外底は非回転のヘラケズリを施す。内底中央はくぼむ。	①細砂粒を含む②還元、硬質 ③灰色④TEY20-9、深さ2.3
3	杯 土師器	完形	口径 12.3 器高 4.0 ●	南辺西寄 壁際床直 上	全体に歪みが著しい。体部と口縁部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY20-1、深さ3.0～3.6
4	杯 土師器	1/2	口径(11.2) 器高 3.2	Aカマド 前床直上	口縁部は強く外反する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY20-4、深さ2.8
5	杯 土師器	1/2	口径(11.1) 現存高3.7	中央南寄 床面	底部を欠く。口縁部は強く外反し、体部との境に外稜をもつ。器表摩滅。	①細砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY20-6
6	杯 土師器	1/2	口径(11.8) 現存高3.6 ……	Aカマド 前床面	底部を欠く。口縁部は強く外反し、体部との境に外稜をもつ。口唇部は丸く肥厚する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい褐色④TEY20-7

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
7	杯 土師器	⅔	口径(20.0) 現存高7.0 ……	南辺寄床 直上	底部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口唇部は丸く肥厚する。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY20-5
8	杯 土師器	口縁部 小片	口径(16.0) 現存高6.5 ……	中央北西 寄床面	底部を欠く。体部に丸味があり、口縁部はかるく外反する。体部との境に外稜をもつ。器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY20-27
9	高杯 土師器	脚部 ⅔	…… 現存高13.2 脚径 17.4	西辺南寄 壁際	杯部を欠く。裾部は強く曲げられ、端部近くは内湾気味である。筒部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコ方向のヘラケズリを施す。脚端部面取りを行っている。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY20-17
10	高杯 土師器	脚部 ⅔	…… 現存高16.6 脚径(14.4)	Bカマド 前フク土	杯部を欠く。裾部は強く曲げられ、水平に近くなる。外面は摩滅して調整は不明。筒部内面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY20-18
11	白玉 滑石製	略完		Bカマド 前床面	径1.2cm、厚さ0.6~0.8cm、孔径0.3cm。側面に加工を施すが、両平面は加工痕跡がない。	
12	甕 土師器	口縁部 ⅓	口径(15.5) 現存高7.0 ……	南東部床 面・Bカ マド前床 面	体部下半を欠く。体部はあまりふくらまず、口縁部外反する。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY20-12
13	甕 土師器	口縁部 ~体部 ⅓	口径(21.9) 現存高9.3 ……	Aカマド 前床直上	体部下半以下を欠く。口縁部は強く外反し、口唇部に凹線をもつ。体部外面は丁寧なヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰 褐色④TEY20-13
14	甕 土師器	口縁部 ⅓	口径(20.8) 現存高7.3 ……	Aカマド 前床直上	体部下半以下を欠く。体部に丸味をもたず、口縁部はゆるく外反する。口縁部内面にくぼみをもつ。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TEY20-31
15	甕 土師器	底部	現存高3.5 底径 8.2	Aカマド 右脇床面	体部以上を欠く。内面は丁寧なナデ、外底は無調整である。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY20-11
16	甕 土師器	底部片	…… 現存高4.7 底径 (6.5)	中央床直 上	体部以上を欠く。底部に2個の孔が焼成前にあけられている。内面はナデ、外面はタテ方向のヘラケズリの後、ナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY20-14

寺東地区第21号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅔	口径 11.6 器高 3.9 ●	西辺壁際 床面	口縁部は丸く肥厚する。口縁部と底部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY21-2、深さ3.5
2	杯 土師器	略完	口径 12.0 器高 4.7 ●	カマド前 床面	口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY21-1、深さ4.1
3	杯 土師器	⅔	口径(20.8) 現存高7.0 ……	西辺壁際 フク土	底部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は尖り気味である。口縁部外面に粘土の接合痕を残す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY21-3

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	刀子鉄製	略完		西辺壁際 フク土	全長12.3cm、刃部長さ6.5cmほどが遺存する。茎部には木質が遺存し、柄を留める目釘が残っている。また、ハバキとみられる金属質が遺存する。 ④TE¥21-9	

寺東地区第30号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	⅔	口径(13.7) 器高 4.0	北西隅床 面	口縁部は直立する。体部との境にふい段をもつ。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥30-4、深さ3.3
2	杯土師器	⅓	現存高3.7 ●	中央西寄 床面	口唇部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。内外面とも器表の剝落が著しい。	①砂粒を多く含む②酸化 ③明褐色④TE¥30-3
3	不明	底部片	…… 現存高4.0 底径 (5.7)	中央床面	器種不明の土製品。異常に厚い底部で、外底には木葉痕がある。内底にはヘラのアクリが遺存する。2次火熱を受けている。	①砂粒を多く含む②酸化 ③灰白色④TE¥30-2
4	凹石	一端欠		フク土	長さ9.9cm、幅7.0cm、厚さ3.7~4.2cmで、凹みの径は4.5cm前後で、深さ1.5cmほどある。石質砂岩(新第三紀層)	④TE¥30-1
5	甕土師器	口縁部 小片	口径(21.1) 現存高7.0	フク土	体部以下を欠く。口縁部は緩いカーブで外反する。外面の仕上げは粗雑である。	①白色粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TE¥30-5
6	甕土師器	底部片	…… 現存高6.0 ……	フク土	体部以上を欠く。単孔の甕。外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は研磨・黒色処理を施す。端部はヘラで面取りを行う。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TE¥30-14

寺東地区第31号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	⅔	口径(10.9) 器高 3.6 ●	カマド前 床面	体部に丸味をもつ。口縁部は内湾気味に立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TE¥31-10、深さ 3.1
2	杯土師器	⅓	口径(11.9) 現存高3.2 ……	北東隅床 面	底部中央を欠く。口縁部は直に立ち上がり、体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面はイブシを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TE¥31-8
3	杯土師器	略完	口径 13.8 器高 4.8 底径 10.3	Bカマド 前床直上	体部は直線的に開く。体部と底部との境にぶい外稜をもつ。内底は丁寧なナデ、外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TE¥31-11、深さ 4.0
4	高杯土師器	杯部片 ⅓	口径(18.0) 現存高4.0 ……	Aカマド 前床面	脚部・杯部底部を欠く。杯部底部と口縁部との境にシャープな外稜をもつ。口縁部は反転して外反し、口唇部は上方へ引き出される。底部外面は回転性のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥31-14
5	甕土師器	口縁部 へ体部 ⅓	口径(22.2) 現存高32.5 ……	Bカマド 左袖掘形	底部を欠く。体部に余りふくらみがなく、口縁部は「く」字状に外反する。口唇部に平坦面をもつ。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥31-12・16

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(19.9) 現存高14.0 ……	Aカマド 前床面	体部下半以下を欠く。体部に強い丸味があり、口縁部は直に立ち上がって外反する。頸部外面につよいヨコナデを施す。体部外面はヨコ方向のヘラケズリの後、雑なヘラ磨き、内面は丁寧なナデを施す。丸胴の甕。	①砂粒を含む②酸化③赤橙色④TEY31-5
7	甕 土師器	体部 ～底部 1/2	…… 現存高20.7 底径 5.8	中央床直 上	体部上半以上を欠く。体部にやや丸味をもち、小さな底部をもつ。器表の摩滅著しい。	①砂粒・小石を含む②酸化③にぶい橙色④TEY31-7
8	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径 21.2 現存高14.8 ……	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はごく丁寧なナデを施す。内面器表に薄く赤褐色の粘土を塗っている。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY31-1
9	甕 土師器	略完	口径 11.5 器高 8.7 底径 7.7	Bカマド 前床面	体部に丸味をもつ。頸部はやや縮まり、口縁部はかるく外反する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。外底はやや丸く突出した平底である。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY31-4、深さ8.3
10	甕 土師器	口縁部 1/2	口径(12.0) 現存高6.2 ……	中央床面	体部下半以下を欠く。体部に丸味がなく、口縁部は直に立ち上がる。頸部に強いヨコナデを施す。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY31-30
11	不明 滑石製			Bカマド 前床下	略三角形を呈する。中央部に両面から穿孔した孔が一つある。長さ7.2cm、幅4.4cm、厚さ1.3cmである。剣型か。	
12	紡錘車 滑石製	1/2		Aカマド 前床下	上面径2.6cm、下面径4.4cm、厚さ1.8～2.0cmである。側面に三角形のチェック文様、下部に山形の文様を施す。彫り込みは先端の細い工具で行なわれ、一部は摩滅している。現在の重さ30.4g。④TEY31-39	
13	土 土師質	略完		Bカマド 右袖東側	長さ4.6cm、最大径1.6cm、重さ11.5g。一部は黒色を呈する。④TEY31-42	

寺東地区第33号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	壺 須恵器	1/2	口径(15.0) 器高 8.6 ●	北西隅床 面	短頸。口縁部は直に立ち上がり、体部中位は偏平に張りだす。底部に厚みがある。最大径は体部中位にあり、上下を凹線に切られた波状文を施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TEY33-1、深さ7.5

寺東地区第35号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	1/2	口径 14.8 器高 4.7 ……	貯蔵穴内	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口唇部はわずかに外反し、器肉が薄くなる。天井部外面は左回転のヘラケズリを施し、「H」字状のヘラ記号がある。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TEY35-2、深さ4.0

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	蓋 須恵器	⅓	口径(13.1) 器高 4.6 ……	中央部東 寄床直上	口縁部の大半を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもち、口唇部内側に凹線をもつ。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。天井部には焼成時の灰を被っている。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TE¥35-5、深さ3.9
3	蓋 須恵器	略完	口径 13.4 器高 4.0 ……	中央部東 寄床直上	体部と口縁部との境に凹線をもつ。口唇部内側は器肉が薄くなる。天井部外面は左回転のヘラケズリを施す。全体にやや厚手である。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TE¥35-4、深さ3.4
4	蓋 須恵器	略完	口径 13.8 器高 3.9 ……	貯蔵穴上 位フク土	体部と口縁部との境に凹線をもつ。口唇部内側にも凹線を施す。天井部外面は左回転のヘラケズリを施す。天井部にふくらみが無い。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TE¥35-3、深さ3.2
5	杯 須恵器	⅓	口径 11.9 器高 4.6 蓋受 14.0	貯蔵穴上 位フク土	口縁部の大半を欠く。口縁部は内傾して立ち上がる。蓋受けは水平方向に延びる。体部に厚みがある。外底は左回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰白色④TE¥35-1、深さ3.8
6	杯 須恵器	⅓	口径(12.6) 器高 4.0 蓋受(14.3)	貯蔵穴上 位フク土	底部中央を欠く。口縁部は内傾して直線的に立ち上がる。蓋受けは上方へ開く。外底は左回転のヘラケズリを施し、ヘラ記号の残欠がある。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TE¥35-6
7	杯 土師器	⅓	口径 13.3 器高 4.2 ●	中央床面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部外面は非回転のヘラケズリ、内底は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥35-14、深さ3.7
8	杯 土師器	⅓	口径(13.1) 器高 4.7 ●	カマド左 袖西側床 直上	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。口縁部は直線的に開き、口唇部内側は丸く肥厚する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③に ふい赤褐色④TE¥35-11、 深さ4.2
9	杯 土師器	略完	口径 12.4 器高 4.4 ●	カマド左 袖前床面	口縁部と体部との境にふい外稜をもつ。口縁部は直に立ち上がり、口唇部は丸くなる。外底の器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③に ふい橙色④TE¥35-9、深さ4. 0
10	杯 土師器	⅓	口径(13.9) 現存高4.2 ……	貯蔵穴フ ク土	底部中央を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもち、口縁部は屈曲して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面に黒色の付着物あり。	①砂粒を含む②酸化③に ふい橙色④TE¥35-15
11	杯 土師器	⅓	口径(14.0) 器高 5.1 ●	北辺東寄 壁際フク 土	口縁部と体部との境に外稜をもつ。口縁部は直線的に開き、器内の厚みがある。外底は非回転のヘラケズリの後、ナデを加える。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TE¥35-17、深さ4.6
12	杯 土師器	⅓	口径(12.1) 器高 4.5 ●	中央東寄 床面	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。口唇部は尖り気味である。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元気味の 酸化③灰黄色④TE¥35-16
13	甕 須恵器	略完	…… 現存高15.0 ●	カマド前 床面	口縁部を欠く。頸部はラッパ状に開く。体部は肩部の上下に凹線を施し、体部中位にも凹線を1本もつ。この中間部はクシ状工具の刺突文様、頸部上半の外面は同様の工具による波状文を施す。肩部の頸部寄りにはカキ目を施す。外底は非回転のヘラケズリの後、雑なナデを加える。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TE¥35-26

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	壺 須恵器	略完	口径 10.8 器高 9.7	カマド左 袖	歪みあり。肩部に凹線を1本もつ。短かい頸部は直立する。体部中位に最大径14.0cmがある。外底は丁寧な右回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TEY35-25、深さ8.6
15	高杯 須恵器	⅔	口径(11.5) 器高 16.8 底径 11.9	貯蔵穴上 位フク土	杯部体部と口縁部との境に二段の外稜をもつ。脚は長方形の透かしを二段・三方向に施す。裾部の外端は接地しない。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TEY35-27、深さ3.3
16	高杯 土師器	½	口径(19.2) 器高 21.0 底径 17.6	カマド右 前	口縁部と体部との境に外稜をもち、反転して外反する。脚部の上方は粘土を絞った痕跡を内面に残し、脚部中位の内面には粘土の接合痕を残す。裾部はヨコナデを施す。脚部外面はタテ方向のヘラケズリ、杯部外底は回転性のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY35-18、深さ3.8
17	提瓶 須恵器	体部 ⅓	現存高15.1 ……	中央東寄 床面	口縁部・底部を欠く。体部の外面はカキ目を施し、内面にはロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY35-105
18	高杯 土師器	杯部 ～脚部	…… 現存高19.8 ……	中央東寄 床面	口縁部・脚裾部を欠く。杯部は口縁部との境にぶい外稜をもち、器表は剥落している。脚部は内面に粘土の接合痕を残し、外面の器表は摩滅している。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY35-21
19	甕 須恵器	頸部 ～体部	…… 現存高17.0 ……	中央北東 寄床面	口縁部・底部を欠く。体部外面は平行タタキの後、1.5cm前後の間隔でカキ目を施す。体部下半はナデを加える。内面は同心円当て具痕の連続文様をよく残し、底部近くはさらにナデを加える。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TEY35-106
20	横瓶 須恵器	体部片	…… 現存高15.5 ……	フク土	体部端の破片。外面には同心円のカキ目を施し、さらに十文字状にカキ目を加える。内面は同心円の当て具痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY35-66
21	横瓶 須恵器	体部 ⅓	…… 現存高20.7 ……	中央東寄 床直上	口縁部を欠く。体部端にふさぎの粘土円盤を貼付けた跡を残す。外面は平行タタキ目の上からカキ目を加える。内面は同心円の当て具痕を残す。一部に焼成時の灰を被っており、高温のためか膨れが多くみられる。	①砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TEY35-28・29
22	甕 土師器	体部 ⅓	口径(22.6) 現存高29.2 ……	フク土	底部を欠く。体部は丸くふくらみ、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はナメ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。底部近くに粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY35-30
23	甕 土師器	底部	…… 現存高4.4 底径 5.5	中央床面	体部以上を欠く。外底はやや突出し、不安定な平底を呈する。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY35-23

寺東地区第37号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅓	口径 11.3 器高 3.4 ●	南辺壁際 床面	口縁部は直に立ち上がる。体部は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③ぶい赤褐色④TEY37-1、深さ2.8

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	杯 土師器	1/8	口径(9.8) 現存高2.4	カマド内	底部を欠く。口縁部は内湾し、体部に丸味をもつ。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TEY37-10
3	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(22.6) 現存高17.2 ……	カマド煙 道部底面	体部下半を欠く。体部に丸味をもち、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面にタテ方向のヘラケズリを施し、頸部にヘラの止め跡を残す。内面はヘラナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TEY37-3
4	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/8	口径(11.2) 現存高9.1 ……	北西隅壁 際床面	底部を欠く。体部はつよい丸味をもち、口縁部は外反して立ち上がる。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③暗褐色④TEY37-2

寺東地区第39号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径(13.9) 器高 5.0 ●	西辺北端 壁寄床面	口縁部と体部との境に外稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。内面は黒色を呈するが、研磨を加えてない。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY39-1
2	蓋 須恵器	1/4	口径(12.5) 現存高4.6 ……	フク土	天井部を欠く。外面の肩部に凹線をもち、口唇部内側には段がある。天井部外面はヘラケズリを施す。	①白色小粒を少量含む ②還元③灰色④TEY39-6
3	杯 土師器	口縁部 小片	口径(13.8) 現存高2.3 ……	フク土	底部を欠く。平らな底部から口縁部は屈曲して立ち上がる。口縁部は外反する。内外面とも全面に黒色のものを塗っているが研磨は施さない。	①精良②酸化③にぶい赤褐色④TEY39-3
4	高杯 土師器	杯部 小片	口径(17.8) 現存高5.7 ……	フク土	脚部を欠く。杯部は体部中位で屈曲して開く。一部に研磨の痕跡が残る。外面は赤褐色を呈する。	①砂粒を多く含む②酸化 ③明るい褐色④TEY39-7
5	甕 土師器	底部	…… 現存高4.3 底径 7.9	南東隅床 面	体部以上を欠く。外底は丸く突出する不安定な丸底である。体部下半の外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。内面黒色。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY39-9

寺東地区第40号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	1/2	口径(14.9) 器高 6.7 ツمامミ4.9	中央西寄 床面	天井部との境に段をもち、口唇部内側に凹線を施す。ツمامミは偏平で中央部がくぼむ。天井部外面はヘラケズリを施す。内外面に灰を被っている。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TEY40-7、深さ5.0
2	蓋 須恵器	1/4	口径(14.6) 器高 4.9 ……	中央床面	ツمامミは付かない。天井部と口縁部との境に段をもち、口唇部内側にも段をもつ。天井部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒・小石を含む②還元 ③灰色④TEY40-17、深さ4.5
3	蓋 須恵器	1/8	口径(17.4) 器高(5.4) ……	中央北西 寄フク土	天井部との境、口唇部内側に段をもつ。口縁部は強く外反する。天井部外面はヘラケズリを施す。ツمامミは付かない。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY40-8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	蓋 須恵器	天井部	…… 現存高2.6 ……	カマド前 床直上	口縁部を欠く。ツマミは付かない。天井部外面はヘケズリを施し、その上からヘラ記号Ⅱを書く。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TEY40-18
5	杯 土師器	略完	口径 15.2 器高 4.6 ●	南辺中央 壁際床面	口縁部の一部を欠く。全体に厚手で、体部との境に段をもつ。口縁部は中位がふくらむ。内面の器表の剝落がみられる。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY40-1、深さ 3.6
6	杯 土師器	1/6	口径(12.6) 器高(3.6)	中央床面	体部との境に段をもつ。外底はヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY40-14、深さ3.0
7	杯 黒色土器	略完	口径 11.7 器高 4.7 ●	中央床面	口縁部の一部を欠く。体部との境にぶい段をもつ。内面は研磨され、黒色処理を施す。内面には3~15mm大の穴があり、器表が剝落している。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY40-2、深さ3.9
8	杯 土師器	1/6	口径 15.5 器高 7.1 ●	中央床直 上	体部との境に細い凹線を2本施す。内面にはわずかの段をもつ。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色 ④TEY40-3、深さ6.5
9	高 土師器	略完	口径 17.1 器高 15.6 脚径 12.1	南辺寄フ ク土	杯部と脚部との接合部近くで割れている。杯部は外稜をもち、外稜以下にはタテ方向のヘラケズリを施す。杯部内面に段をもつ。裾部は一部跳ね上がる。筒部はタテ方向のヘラケズリ、裾近くはヨコナデを施す。脚部内面に粘土紐の接合痕を残す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY40-9、杯部深さ4. 9
10	高 土師器	杯部 1/6	口径(16.5) 現存高6.0 ……	中央南寄 床面	脚部を欠く。口縁部と体部との境に外稜をもち、内面は段を形成する。外稜以下はヘラケズリ、内面は丁寧なヨコナデ・ナデを施す。	①精良②酸化③明るい橙色 ④TEY40-10、杯部深さ4.0
11	高 土師器	脚部	…… 現存高14.3 ……	中央床直 上	杯部・脚端部を欠く。脚部中位はわずかにふくらむ外面はタテ方向のナデを施し、内面には棒状工具の整形痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY40-12
12	高 土師器	脚部	…… 現存高10.4 ……	北東隅壁 際床面	杯部・脚端部を欠く。杯部内面は丁寧なナデ、脚部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY40-11
13	甕 土師器	体部片	口径(19.3) 現存高23.3 ……	南西隅床 直上	体部で径を復原した。底部を欠く。口縁部に歪みをもち、かるく外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。外面下位にススが付着する。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい赤褐色 ④TEY40-5
14	甕 土師器	底部	…… 現存高4.0 底径 6.6	カマド前 床直上	体部以上を欠く。底面近くの体部の開き具合から、壺の可能性がある。体部下端にヘラの先端部圧痕が残る。外面に赤褐色の土を塗布している。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY40-6

寺東地区第41号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅔	口径 10.4 器高 4.4 ●	中央東寄 床面	体部外面に段をもつ。口縁部はやや外反する。外底には平坦な面がある。器表の摩滅が著しい。	①精良②酸化③黄橙色 ④TEY41-1、深さ3.6
2	杯 土師器	⅔	口径 12.8 器高 4.9 ●	中央北寄 床面	体部外面に段をもつ。口縁部はやや外反する。2次火熱を受けているためか、器表の剥落が著しい。	①精良②酸化③橙色 ④TEY41-2、深さ3.4

寺東地区第42号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 11.9 器高 3.9	カマド床 面	体部に外稜をもつ。口縁部はやや外傾して開く。底部外面は不整方向のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY42-3、深さ3.5
2	杯 土師器	口縁部 ⅔	口径(13.0) 現存高3.7	中央東辺 寄床面	体部に外稜をもつ。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。底部を欠く。	①細砂粒を含む②酸化③明 褐色④TEY42-4
3	杯 土師器	口縁部 ⅔	口径(11.0) 器高(3.8) ●	カマド右 壁際床面	体部に外稜をもつ。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。外底は灰色を呈し、ヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY42-5、深さ(3.4)
4	鉢 土師器	口縁部 ⅔	口径(20.5) 現存高7.8	北西隅床 面	底部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は反転して外反する。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TEY42-6
5	蓋 須恵器	小片	口径(12.7) 現存高3.8	貯蔵穴脇 フク土	天井部を欠く。外面肩部に一段があり、口縁部内面に凹線を施す。	①白色の小粒を含む②還元 ③灰色④TEY42-21
6	甕 土師器	体部 ～底部	…… 現存高15.3 ……	カマド前 床面	体部上半以上を欠く。体部と底部との接合面を内面に残す。外底は木の葉の圧痕を一部残し、その周囲にヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY42-2
7	甕 土師器	口縁部 ⅔	口径(20.6) 現存高5.9 ……	カマド前 南寄床 面・東辺	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。頸部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い橙色④TEY42-1
8	甕 土師器	口縁部 小片	口径(21.7) 現存高5.5 ……	中央北東 寄床面	体部以下を欠く。口縁部は強く外反し、水平近くまで開く。口唇部の内側は丸く玉縁状を呈する。	①砂粒・黒色小粒を多く含 む②酸化③にぶい橙色 ④TEY42-16

寺東地区第43号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅔	口径(16.9) 現存高3.8 ●	南西隅壁 際	底部を欠く。口唇部は殆ど欠けている。体部との境に外稜をもつ。外底はヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③黒 褐色④TEY43-1
2	土 土師質	完形		東辺中央 床面	長さ7.0cm、径1.4cm、重さ11g。中央部がやや太く、両端は細い。精良な粘土を使用している。黄白色を呈する。④TEY43-2	
3	土 土師質	完形		フク土	長さ7.0cm、径1.4cm、重さ11g。中央部がやや太い。精良な粘土を使用している。一部黒色を呈する。④TEY43-3	

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	土師質 土師質	完形		フク土	長さ6.9cm、径1.4cm、重さ11g。中央部がふくらむ。精良な粘土を使用している。一部黒色を呈する。孔径0.3cm。④TEY43-4	
5	土師質 土師質	1/2		フク土	長さ4.1cm、径1.3cmが遺存する。中央部に向かって太くなる。精良な粘土を使用している。孔の位置は断面の中央から外れている。現在の重さ6g。④TEY43-5	
6	土師質 土師質	略完		フク土	長さ5.6cm、径2.5cmが遺存する。他の土師に比べて太い。胎土に砂粒を含む。現在の重さ29g。孔径0.7cm。④TEY43-6	

寺東地区第44号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	略完	口径 12.4 器高 3.7 ●	カマド左 袖床面	口縁部の一部を欠く。体部との境に鋭い外稜をもつ。天井部外面は左回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY44-1、深さ2.8
2	杯 土師器	1/4	口径(11.2) 器高 4.6	中央南西 部床面	体部との境に外稜をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。外底はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY44-2、深さ3.9
3	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(19.0) 現存高14.2 ……	カマド煙 道部	体部下半以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。口唇部外側に浅い凹線がある。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY44-3
4	不 明 鉄	製		南西部床 面	鎌または鋸先か。一端は丸味をもって曲がり、他の一端は本体部にサビついている。やや重量感がある。サビついた一端が折れ曲がったものかどうか確認できない。幅4.5cm、長さ3.0cm、厚さ0.3cm前後である。④TEY44-6	

寺東地区第45号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	小片	…… 現存高4.2 ……	西辺北寄 床面	底部を欠く。体部との境に外稜をもつ。体部外面と内面に細かい凹凸がある。内面は黒みのある黄褐色を呈する。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい黄褐色④TEY45-2
2	壺 須恵器	小片		フク土	口縁部・底部を欠く。体部中位にクシ描きの波状文を施す。内面は焼成時の灰を被っている。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY45-9

寺東地区第46号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径 11.4 器高 3.3 ●	カマド前 床面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口唇部は玉縁状に丸味をもつ。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TEY46-5、深さ 2.8
2	杯 土師器	1/2	口径 12.9 器高 3.5 ●	南西寄床 直上	体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY46-3、深さ3.1

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	甕 土師器	略完	口径 20.9 現存高36.4 底径 (4.5)	カマド前 床面	底部の一部を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部はゆるく「く」字状に外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TEY46-1、深さ(30.0)
4	甕 土師器	底部欠	口径 20.9 現存高36.4 ……	カマド前 床面	底部を欠く。体部上位にやや丸味をもつ。口縁部は一度くびれて強く「く」字状に外反する。体部外面にたて方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY46-2

寺東地区第47号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	¾	口径 12.1 器高 4.5 ●	北辺壁際 床面	蓋受けをもつ。最大径14.7cm。口縁部は内傾する。外底は左回転のヘラケズリ、その他の部分はヨコナデを施す。仕上げは丁寧である。	①白色粒子を含む②還元灰色④TEY47-1、深さ4.1
2	杯 須恵器	底部片	…… 現存高3.8 ●	北辺壁際 床面	口唇部・底部を欠く。体部との境に外稜をもつ。内底には細かい凹凸が一面にある。口縁部は外反する。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY47-3
3	高 土師器	杯部口 縁部片	口径(18.0) 現存高3.8 ……	北西隅壁 際	脚部を欠く。杯部下半に外稜をもつ。口唇部は上方へ少し引き出される。内外面とも器表の剝落が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY47-2

寺東地区第48号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¾	口径 14.5 器高 5.0 ●	南辺中央 床面	底部から口縁部へ滑らかに移行する。口唇部内側は丸く肥厚する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY48-1、深さ4.4
2	杯 土師器	¼	口径(12.0) 器高 4.1 ●	貯蔵穴内	底部との境にぶい凹線を施す。口唇部は内傾する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY48-2、深さ3.4
3	高 土師器	脚部	…… 現存高13.3 ……	中央南寄 床面	杯部・脚端部を欠く。脚部内面に粘土の輪積み痕を残す。外面はタテ方向のヘラ磨きを施す。上端に杯部との接合面を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY48-8
4	甕 土師器	口縁部 ～体部 ½	口径(20.4) 器高 33.3 底径 5.3	南東隅床 面	口縁部の大半を欠く。体部中位にややふくらみをもつ。口縁部は滑らかに外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TEY48-5、深さ32.0
5	甕 土師器	¾	口径 18.7 器高 34.6 底径 6.6	南東隅床 面	歪みをもつ。体部中位にふくらみをもつ。口縁部は滑らかに外反する。体部外面は丁寧なヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③明黄褐色④TEY48-3、深さ33.0
6	甕 土師器	体部 ～底部	…… 現存高16.1 底径 7.4	中央床 面・南東 隅床面	体部中位以上を欠く。外底は不安定な平底を呈する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY48-7

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
7	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(20.7) 現存高9.6 ……	北東隅床 面	体部中位以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。頸部内面の粘土に接合痕を残す。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY48-4
8	甕 土師器	体部 ～底部	…… 現存高19.6 底径 7.4	南東隅床 面	体部上位以上を欠く。体部につよいふくらみがあり底部は小さな平底を呈する。体部外面は右下がりのヘラケズリを施す。丸胴甕。	①砂粒を含む②酸化③明黄褐色④TEY48-6
9	甕 須恵器	体部片		カマド前 床面	大形の甕の体部片。外面は平行タタキ目、内面は同心円の当て具痕を残す。割れ口の中央は灰色、器表近くは淡紫色を呈する。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TEY48-13
10	砥石			中央床面	長さ11.7cm、幅8.3cm、厚さ4.9cm。両面に平坦面があり、一側面も使用している。石質流紋岩質凝灰岩(新第三紀層)④TEY48-9	
11	白玉 滑石製	略完		カマド右 脇	外径0.8cm、孔径0.3cm。外側面に磨った跡がある。④TEY48-25	
12	白玉 滑石製	略完		カマド右 脇	外径0.9cm、孔径0.2cm。一端に中心のずれた途中までの穿孔痕がある。両面穿孔。④TEY48-24	
13	白玉 滑石製	略完		カマド右 脇	外径0.9cm、孔径0.2cm。外側面に磨った跡を残す。④TEY48-23	
14	白玉 滑石製	略完		南東隅	外径0.8cm、孔径0.2cm。両平坦面とも割った面のまま残す。④TEY48-19	
15	白玉 滑石製	略完		南東隅	外径0.8cm、孔径0.2cm。外側面に磨った跡が残る。両平坦面とも割れた面のまま。④TEY48-17	
16	白玉 滑石製	略完		南東隅	外径0.8cm、孔径0.2cm。外側面に磨った跡が残る。両平坦面とも割れた面のままである。④TEY48-20	
17	白玉 滑石製	小片		カマド左 脇	平坦面の一面を残し、半欠している。遺存する平坦面は磨っている。④TEY48-14	
18	白玉 滑石製	1/2		南東隅	外側面に磨った跡を残す。④TEY48-21	
19	不明 滑石製			南東隅	一部に磨った面を残すが、製品の形状は不明。長さ2.5cmが遺存する。④TEY48-18	
20	破片 滑石			カマド左 脇	長さ1.2cm、幅0.9cmが遺存する。一部に磨った面が残る。④TEY48-22	

寺東地区第49号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	1/4	口径(14.1) 器高 4.1 ……	カマド前 床面	肩部に凹線を施し、口唇部内側にも段をもつ。口縁部は外方に開く。天井部外面は右回転のヘラケズリを施す。外面の一部は銀色を呈する。	①白色粒子を含む②還元 ③灰褐色 ④TEY49-9、深さ3.5

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	蓋須恵器	¼	口径(13.9) 器高 3.8 ……	カマド前床面	肩部に外稜をもち、直下は凹線状を呈する。口唇部内側に凹線を施す。口唇部は尖り気味である。天井部中央を欠く。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TE¥49-5
3	蓋須恵器	¼	口径(15.5) 現存高5.0 ……	貯蔵穴内	天井部中央を欠く。外面肩部に浅い凹線を施す。口唇部に平坦面をもち、口唇部直上は肥厚する。天井部外面は左回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TE¥49-8
4	蓋須恵器	口縁部 ⅕	口径(15.2) 現存高3.9 ……	カマド左脇床面	天井部を欠く。外面肩部に凹線を施し、口唇部内側にも深い凹線を施す。外面に焼成時の灰を被っている。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰褐色④TE¥49-6
5	蓋須恵器	⅕	口径 14.5 器高 4.9 ……	カマド左脇床面	肩部に段をもつ。口唇部内側に深い凹線を施す。天井部外面に丁寧な左回転のヘラケズリを施す。天井部外面に「A」に近いヘラ記号がある。筆順は「く」字状が先である。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色 ④TE¥49-10、深さ4.2
6	杯須恵器	略完	口径 12.2 器高 4.6 蓋受 14.4	西辺北寄壁際	口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部に平坦面をもつ。蓋受けは水平方向に延びる。外底は左回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TE¥49-11、深さ3.5
7	杯須恵器	口縁部 ～体部 ⅕	口径(12.9) 現存高4.1 蓋受(15.6)	貯蔵穴内	底部中央を欠く。口縁部は内傾して直線的に立ち上がる。外面に焼成時の灰を被っている。蓋受けはやや上方に開く。	①砂粒を含む②還元、硬質 ③灰黄色④TE¥49-14
8	杯須恵器	⅕	口径(12.2) 器高 4.8 蓋受(14.6)	カマド左脇床面	底部中央を欠く。口縁部は内傾して直線的に立ち上がる。蓋受けはやや上方に開く。外底は左回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TE¥49-7
9	杯須恵器	口縁部 ～体部 ⅕	口径(15.1) 現存高3.5 蓋受(18.1)	西辺北寄壁際床面	底部を欠く。口縁部は内傾して直線的に立ち上がる。蓋受けはやや上方に開く。内外面丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TE¥49-15
10	蓋土師質	略完	口径 10.0 器高 2.7 ……	西辺中央フク土	天井部は平坦で、口縁部は直線的に開く。天井部外面は非回転のヘラケズリの後ナデ、その他はヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②酸化気味の還元③灰黄色 ④TE¥49-3、深さ2.2
11	杯土師器	口縁部 ～体部 ⅕	口径(16.5) 現存高5.5 ……	カマド左脇床面	底部を欠く。体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は直線的に開く。体部外面は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥49-13
12	甌土師器	口縁部・底部	口径(26.1) 器高(28.0) 底径(8.0)	カマド左脇床面	体部中位を欠くため器高は推定である。体部は直線的に開き、口縁部は外反して開く。底部は単孔である。底部近くの内面はヘラケズリによる面取りを施す。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TE¥49-2・12
13	甌土師器	略完	口径 22.8 器高 19.5 底径 8.7	カマド前床面	体部に丸味があり、口縁部は直に立ち上がる。口唇部に平坦面をもつ。図の三角印以下の器表は赤褐色を呈し、2次火熱を受けている。頸部の内外面にヒモ状の圧痕が残る。	①白色粒子を含む②酸化 ③にぶい褐色 ④TE¥49-1、深さ18.1

遺物観察表

寺東地区第51号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	¼	口径(8.0) 器高 2.2 ツマミ1.6	フク土	最大径は蓋受けにあり、径10.5cmである。カエリは蓋受けよりも突出する。ツマミは宝珠形を呈する。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色 ④TEY51-6、深さ0.8
2	杯 須恵器	¾	口径(14.9) 器高 6.0 底径 10.6	フク土	体部は直線的に開く。口唇部は丸い。内底中央部は丁寧な非回転のナデ、外底は丁寧な右回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY51-1、深さ5.2
3	杯 土師器	口縁部 ～体部 ½	口径(9.7) 現存高2.8 ……	フク土	底部を欠く。口縁部は内湾し、最大径は口縁部直下の体部との境にある。体部外面はヘラケズリを施す。口唇部の内側は丸く肥厚する。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY51-7
4	高杯 須恵器	脚部 ¼	…… 現存高5.5 底径(13.6)	南辺中央 壁際床面	杯部を欠く。3方向に透かしをもつが、2カ所が遺存している。上位に1本、裾近くに2本の凹線を施す。脚端部は外方に開く。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰白色④TEY51-5
5	壺 須恵器	体部 ～底部 ½	…… 現存高10.6 底径 7.1	フク土	頸部以上を欠く。最大径は肩部にあり、体部に凹線を施す。底部中央は突出して安定しない。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY51-2
6	壺 須恵器	口縁部 ～体部 ¾	口径(10.5) 現存高7.9 ……	フク土	体部中位以下を欠く。短頸の壺。口唇部に平坦面をもつ。肩部に2本、頸部に1本の凹線を施す。内面体部はロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰褐色 ④TEY51-3
7	甕 土師器	口縁部 ～体部 ¾	口径(13.1) 現存高10.5 ……	中央南寄 床面	口縁部は直に立ち上がり、体部下位にふくらみをもつ。底部中央を欠く。体部内面はナデを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い赤褐色④TEY51-4

寺東地区第55号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¾	口径 11.9 器高 5.0 ●	カマド右 脇床面	口縁部との境に段をもつ。段は一部で二段である。口縁部は外反する。内底はやや深みをもつ。外底にはヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰黄色 ④TEY55-1、深さ4.2
2	杯 土師器	口縁部 小片	口径(13.0) 現存高4.0	カマド右 脇床面	口縁部は直立し、口唇部は尖り気味である。体部外面に丁寧なヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY55-7
3	壺 須恵器	肩部片	…… …… ……	カマド右 脇床面	口縁部・体部下半以下を欠いた小片。外面中位に上下それぞれ二本の凹線にはさまれた波状文を施す。波状文の施文の後、ヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY55-2
4	甕 土師器	口縁部 小片	…… 現存高8.5 ……	カマド前 床面	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰黄色 ④TEY55-6

寺東地区第59号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	ツمامミ	現存高1.5 ツمامミ3.6	中央西寄 床面	ツمامミのみ遺存。中央部はツمامミ外周よりも突出する。偏平なボタン状を呈する。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TE¥59-4
2	高台付杯 須恵器	½	口径(15.5) 器高 4.0 高台(10.7)	中央南西 寄床面	底部中央を欠く。体部は内湾気味に開き、口唇部はわずかに外反する。高台は「ハ」字状に開く。高台は内端が接地し、外端との間に凹線がある。	①白色小粒を含む②還元 ③灰白色 ④TE¥59-15、深さ(2.8)
3	杯 須恵器	½	口径(11.6) 器高 3.7 ●	カマド右 脇床面	外底はヘラ切り後、ナデを施す。体部は直線的に開く。器表の摩滅が著しい。底部は突出して不安定である。	①細砂粒を含む②還元③灰白色④TE¥59-1、深さ3.0
4	杯 土師器	略完	口径 12.9 器高 3.8 ●	カマド 脇・南西 部床面	全体に至んでいる。体部外面ににぶい稜をもつ。外底はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TE¥59-2、深さ3.3
5	壺 土師器	口縁部 小片	口径 (7.1) 現存高2.9	中央南寄 床面	体部以下を欠く。外面の肩部に稜をもつ。器表の摩滅が著しい。小型の壺。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TE¥59-17
6	甕 土師器	½	口径(23.9) 器高 32.3 底径 (5.9)	カマド内	体部上半½を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。底部は小さな平底を呈する。体部内面に下半部と上半部とを接合した痕跡を残す。厚さ4mm	①砂粒を多く含む②酸化 ③ 橙色 ④TE¥59-11、深さ31.5
7	不 明 石	完		中央南寄 床面	長さ14.1cm、径4.5cm、重さ595g。石質石英斑岩。④TE¥59-5	
8	不 明 石	完		中央南寄 床面	長さ13.1cm、径3.2×5.0cm、断面楕円形を呈する 重さ317g、石質粗粒安山岩④TE¥59-6。	
9	不 明 石	完		中央南寄 床面	長さ13.1cm、径3.1×4.0cm、断面楕円形を呈する 重さ181g、石質砂岩 (新第三紀層)④TE¥59-7。	
10	不 明 石	完		中央南寄 床面	長さ15.5cm、厚さ1.2~2.7cm、重さ341g。石質緑色片岩④TE¥59-8	
11	不 明 石	完		中央南寄 床面	長さ14.0cm、径4.6×6.7cm、重さ641g。石質粗粒安山岩④TE¥59-9。	
12	不 明 石	一端折 れ		中央南寄 床面	長さ12.9cm、最大厚さ3.8cm、重さ428g。石質変質安山岩④TE¥59-10。	

田端地区E区第3号集石出土遺物観察表(1)

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	完形	口径 9.2 器高 3.9 底径 4.8	中央部	手づくね土器。体部は内湾気味にたちあがる。外面は指頭痕が残る。内面はヨコナデを施す。口縁部に至みがある。	①細砂粒を含む②酸化③灰黄褐色④TA¥E3集石-27
2	杯 土師器	¾	口径 10.4 器高 6.0 底径 4.5	参考	体部以上に厚みがあり、底部は薄い。体部は内湾して立ち上がる。外面の口縁部以下はヘラケズリ、内面はハケ目調整を施す。	①砂粒を含む②酸化③黒褐色④TA¥E3集石-28

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	杯 土師器	1/2	口径(12.7) 器高 4.4 ●	中央西寄	口縁部の大半を欠く。口縁部は内傾して立ち上がり、体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYE3集石-53
4	杯 土師器	3/4	口径 12.1 器高 4.4 ●	北西寄	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-49
5	杯 土師器	略完	口径 12.4 器高 4.4	中央北寄 石下	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-6
6	杯 土師器	1/2	口径 11.6 器高 3.7 ●	北寄	口縁部は薄く、外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面の器表は摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-13
7	杯 土師器	3/4	口径 11.8 器高 4.3 ●	北寄	口縁部はやや内傾して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。外面は黒色を呈する。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-10
8	杯 土師器	3/4	口径(12.8) 器高 3.9 ●	北東壁際	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-54
9	杯 土師器	略完	口径 11.5 器高 4.2 ●	北東寄石 組中	体部は外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-1
10	杯 土師器	1/2	口径(12.0) 器高 4.3 ●	中央西寄	口縁部は直線的に外反する。体部との境に外稜を持つ。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-18
11	杯 土師器	略完	口径 12.3 器高 4.0 ●	北東壁寄	口縁部は強く外反する。体部との境に外稜をもつ。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-16
12	杯 土師器	略完	口径 11.6 器高 4.2 ●	北東壁寄	口縁部は直線的に開く。体部との境に外稜をもつ。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-22
13	杯 土師器	略完	口径 10.9 器高 4.5 ●	参考	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境にぶい外稜をもつ。口縁部の一カ所は片口状に突出している。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-2
14	杯 土師器	1/2	口径(11.8) 器高 4.2	中央西寄	口縁部は直線的に開く。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-14
15	杯 土師器	3/4	口径 11.9 器高 3.6 ●	北東壁際	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYE3集石-21
16	杯 土師器	1/2	口径(11.8) 器高 4.0 ●	北東壁際	口縁部は内湾して立ち上がる。口唇部の内側は丸く納める。外底は非回転のヘラケズリ、内面は強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-15
17	鉢? 土師器	口縁部 小片	口径(18.9) 現存高6.0	中央北寄	底部を欠く。体部に丸みがあり、口縁部は屈曲して外反する。屈曲部以下の外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-76

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
18	鉢 土師器	体部 ~底部 現存高7.3 ●	中央西寄	口縁部を欠く。体部の下位に丸みをもつ。口縁部直下にわずかな段をもつ。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-30
19	高杯 土師器	脚部	現存高6.0 底径 12.2	参考	杯部を欠く。鉢状の杯部か。脚部と杯部の接合部は粘土が詰まっている。脚部は強く開く。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-36
20	高杯 土師器	脚部 現存高5.8 底径 11.8	参考	杯部の大半を欠く。脚部は水平近くまで開く。杯部との接合部外面はタテ方向のナデを施す。杯部内底は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色 ④ TAYE3集石-46
21	壺 土師器	1/2	口径(8.3) 器高 7.8 ●	北寄中央	口縁部は直立する。体部は丸く、底部中央を欠く。口唇部は丸く肥厚して外方へ向く。器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-34
22	甕 土師器	1/6	口径(9.4) 器高 8.6 ●	北東壁際	小型甕。口縁部は直立し、体部は丸い。外底は丸く突出する平底。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-33
23	台付 土師器	3/4	口径 11.0 器高 12.3 底径 8.1	参考	脚台部をもつ。本体は小型の甕で口縁部は歪む。体部外面はタテ方向のナデ、内面はナデを施す。脚部の仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-41
24	甕 土師器	1/6	口径(14.6) 器高 13.3 ●	参考	口縁部の大半を欠く。口縁部は短く、わずかに外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TAYE3集石-40
25	甕 土師器	底部 現存高5.8 ●	中央西寄	体部中位以上を欠く。外底中央部が径5.5cmほど突出し、木葉痕に似た圧痕がある。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-29
26	甕 土師器	口縁部 1/4	口径(16.3) 現存高5.7	中央北寄	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はヘラケズリを施す。口唇部に凹線がある。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-57
27	甕 土師器	口縁部 小片	口径(18.2) 現存高6.3	参考	頸部以下を欠く。口唇部に凹線がある。「く」字状に外反する口縁部の可能性がある。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-58
28	甕 土師器	1/4	口径(18.1) 器高 31.6 底径 7.0	北東壁寄	体部3/4を欠く。体部に丸みがなく、口縁部は緩く外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE3集石-43
29	甕 土師器	底部 現存高15.1 底径 9.7	中央北寄	体部中位以上を欠く。体部にやや丸みがある。外底は凸レンズ状を呈する平底である。内外面に丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-42
30	甕 土師器	底部 現存高3.1 底径 7.5	中央南西寄	体部中位以上を欠く。焼成後に穿孔した甕孔がある。径3.0cm。外底は凸レンズ状の平底を呈する。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE3集石-35
31	鋤 鉄	先製	略完	中央壁際	先端部の幅14.0cm、長さ9.6cmが遺存する。先端部両端は尖り気味で、柄部の両端も角張っている。柄の挿入部は二股状に別れているが、サビのため観察不足である。柄挿入部の厚さ1.0cm、身の幅は先端部付近で3.1cmである。先端部にある丸いものはサビの膨れである。	

遺物観察表

寺東地区第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	⅔	口径 13.0 器高 4.2 ●		蓋受けに丸みがあり、口縁部は内傾して立ち上がる。外底は右回転のヘラケズリを施す。底部中央は焼成時の歪みをもつ。	①砂粒を含む②還元③灰色④TE¥掘1-2
2	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅔	口径(11.8) 現存高3.7 ……		体部と口縁部との境に段をもつ。口縁部は直線的に開く。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TE¥掘1-3
3	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅔	口径(13.2) 現存高2.6 ……		底部中央を欠く。偏平な体部に外反する口縁部をもつ。内外面とも黒色処理を施す。	①精良②酸化③暗褐色④TE¥掘1-5

寺東地区第22・29・52・59号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	⅔	口径(13.7) 器高 4.5 ●	フク土	口縁部は内傾して立ち上がる。蓋受けは水平方向に延びる。外底にヘラ記号がある。外底は右・回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TE¥22坑-1
2	杯 土師器	口縁部 ⅔	口径(12.3) 現存高3.8 ……	フク土	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は屈曲して立ち上がる。外底はヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TE¥29坑-1
3	壺? 土師器	底部	現存高3.5 底径 5.4	フク土	壺または甕の底部。外底は0.5cmほど突出する。内底はナデまたはヘラ磨きを施す。	①細砂粒を含む②酸化、硬質③橙色④TE¥29坑-1
4	甕 土師器	口縁部 ～体部 ⅔	口径(21.7) 現存高26.2 ……	フク土	丸胴の甕。体部は丸く張り、口縁部は「く」字状に外反する。体部内面は丁寧なナデ、外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TE¥52坑-1
5	杯 土師器	略完	口径 12.1 器高 5.5 ●	フク土 P6	半球形に近い体部に直線的に開く口縁部をもつ。体部と口縁部との境に段をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③浅黄橙色④TE¥59坑-1
6	杯 須恵器	底部片	現存高1.6 ●	フク土	口縁部を欠く。外底にヘラ記号をもつ。	①白色粒子を含む②還元③黄灰色④TE¥59坑-2

寺東地区第53号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	略完	口径 9.6 器高 2.9 蓋受径11.9	フク土	体部の一部を欠く。宝珠形の偏平なツマミをもつ。蓋受けと口縁部はほぼ同じ高さである。天井部外面に右回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TE¥53坑-3
2	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅔	…… 口径(11.2) 現存高2.8	フク土	底部中央を欠く。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。口縁部は短く立ち上がる。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TE¥53坑-2
3	甕 土師器	体部片	…… 現存高23.5	フク土	口縁部・底部を欠く。外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③明褐色④TE¥53坑-1

寺東地区第54号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅓	口径(10.2) 器高 4.4 ●	フク土 P15	部と口縁部との境に段をもつ。内外面とも黒色処理を施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。丁寧な仕上げ。	①細砂粒を含む②酸化 ③褐色④TE¥54坑-9
2	杯 土師器	⅓	口径(12.5) 器高 3.8 ●	フク土	体部と口縁部との境に段をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-6
3	杯 土師器	⅓	口径(11.6) 器高 4.2 ●	フク土	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は強く外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-7
4	高杯 土師器	⅓	口径(12.2) 器高 5.9 底径 (5.9)	フク土	低い台脚をもつ。体部は緩やかに開き、口縁部は屈曲して強く外反する。脚部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-8
5	壺 須恵器	体部片		フク土	壺肩部の小片。外面はタタキ目をもち、内面下位に当て具痕を残す。割れ口はアズキ色を呈する。	①精良②還元、硬質③黒褐色 ④TE¥54坑-41
6	杯 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(17.5) 現存高8.0 ●	フク土	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口唇部は丸く仕上げる。内面はナデ、外面は丁寧なヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-19
7	甌 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径 25.1 現存高23.0 ……	フク土	底部を欠く。口縁部は緩く外反し、体部は直線的にすばまる。体部内面はヘラ磨き、外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-42
8	甌 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(20.2) 現存高12.0 ……	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は強く外反して水平近くまで開く。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③ にぶい褐色④TE¥54坑-5
9	甌 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径 22.2 現存高11.6 ……	フク土	体部下半以下を欠く。体部は直線的で、口縁部は「く」字状に開く。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TE¥54坑-3
10	甌 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(19.5) 現存高7.4 ……	フク土	体部下半以下を欠く。体部から口縁部へ向かって緩く外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色 ④TE¥54坑-2
11	甌 土師器	口縁部 ～体部 ⅓	…… 口径(20.2) 現存高8.3	フク土	体部下半以下を欠く。体部から口縁部へ向かって緩く外反する。頸部にナデの痕跡を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い褐色④TE¥54坑-4
12	甌 土師器	底部	…… 現存高7.9 底径 6.5	フク土	体部上半以上を欠く。厚手の底部で、内底にナデを施し、外面の調整は不明。5mm大の砂粒も含む。	①砂粒を多く含む②酸化③ 灰褐色④TE¥54坑-1

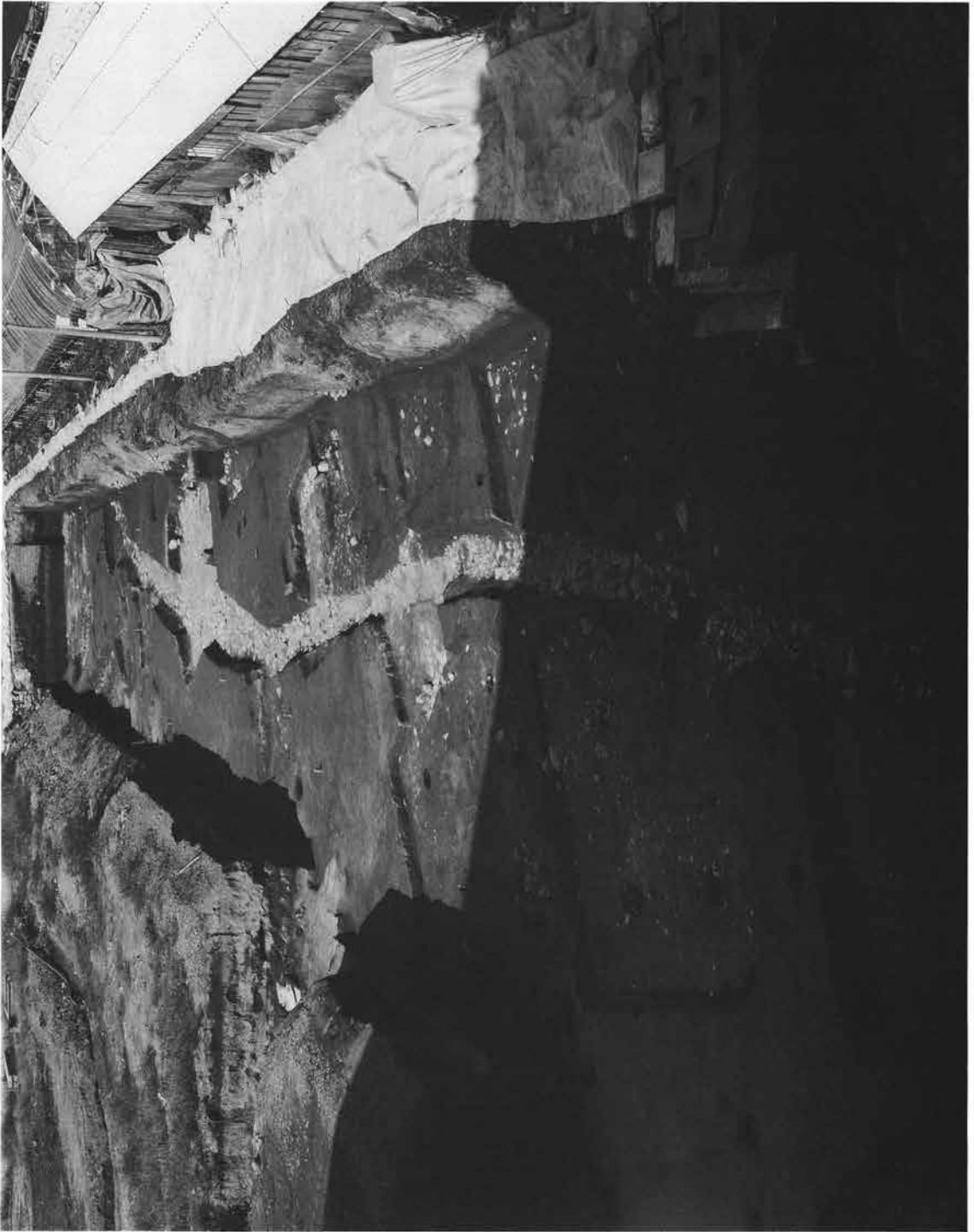
写 真 图 版



田端地区E区 住居跡（東から）



田端地区E区 住居跡（西から）



田端地区E区 住居跡(南から)



田端地区E区 住居跡（北から）



田端地区E区 住居跡掘形（南から）



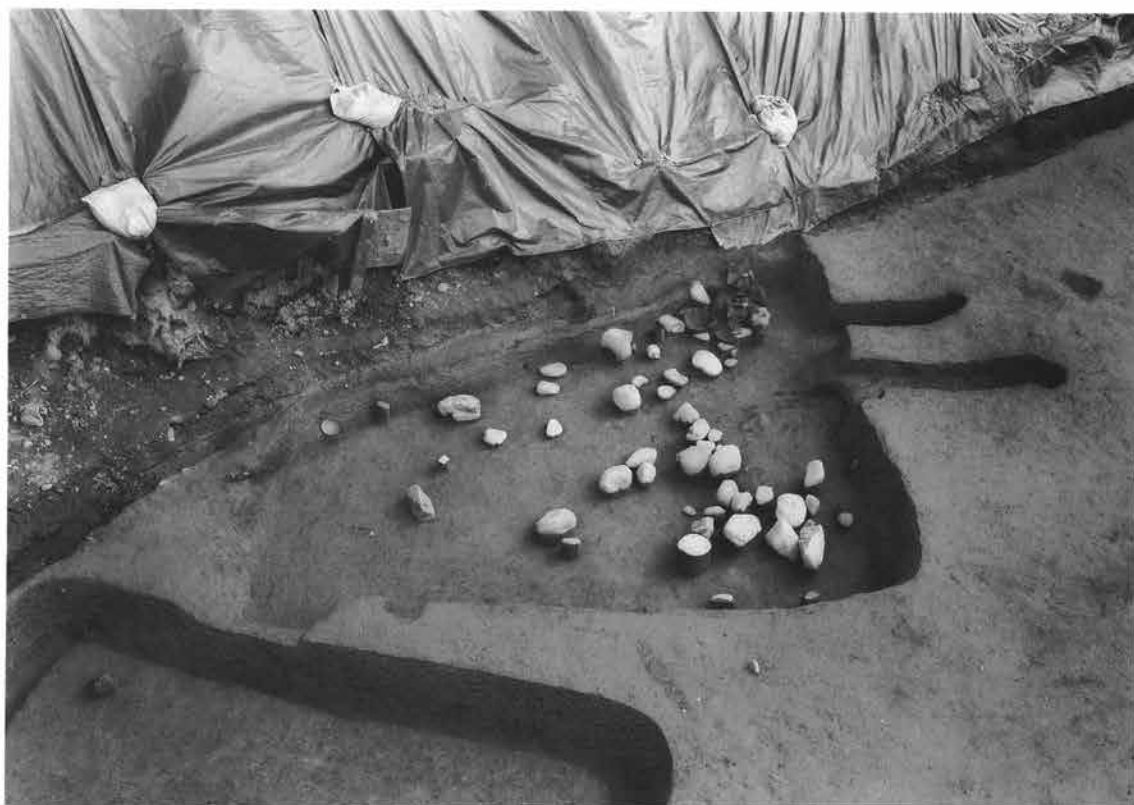
田端地区E区 4号住居跡（北から）



同上掘形



田端地区E区 5号住居跡 (北から)



6号住居跡 (東から)



田端地区E区 7号住居跡（北西から）



同上カマド



田端地区E区 9号住居跡(1) (北西から)



同上A・Bカマド(2)



田端地区E区 9号住居跡(3)Cカマド



10号住居跡カマド(西から)



田端地区E区 11号住居跡 (西から)



12号住居跡 (西から)



田端地区E区 13号住居跡（北から）



14号住居跡（北から）



田端地区E区 16号住居跡 (西から)



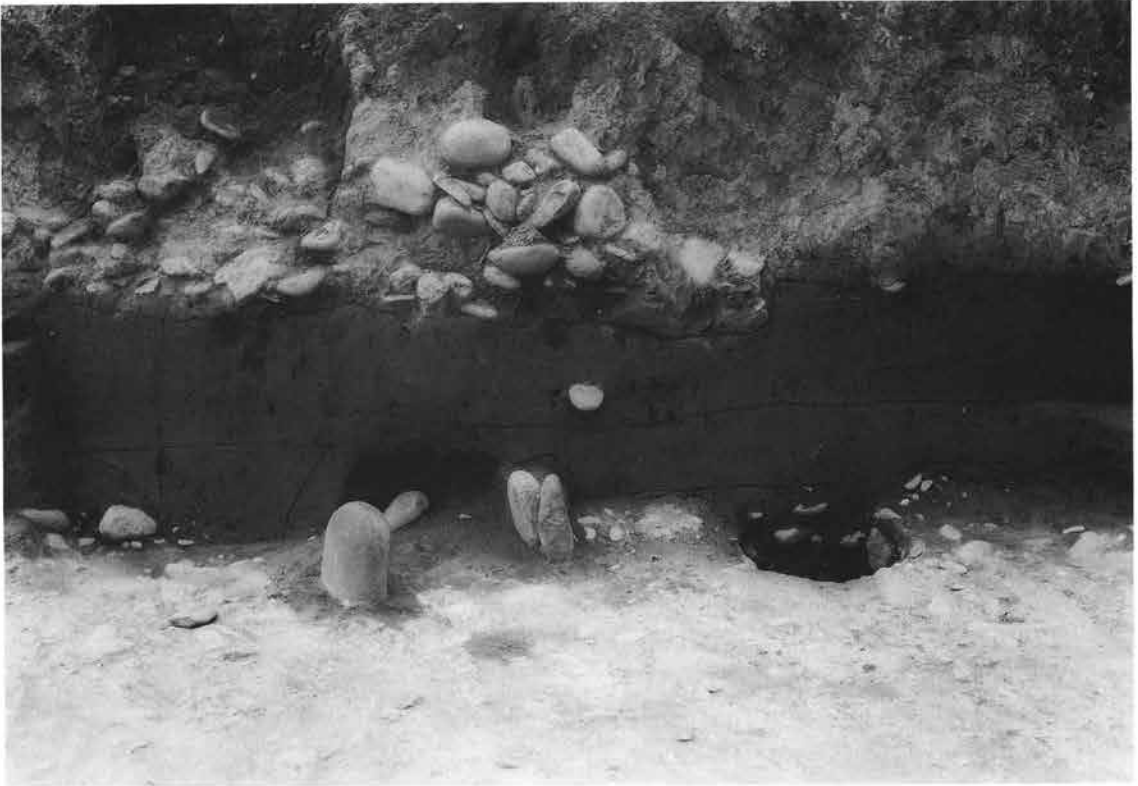
17号住居跡 (東から)



田端地区E区 18号住居跡（東から）



19号住居跡（西から）



田端地区E区 19号住居跡カマド



20号住居跡（北東から）



田端地区E区 21号住居跡 (西から)



22・23号住居跡 (西から)



田端地区E区 24号住居跡（北から）



26号住居跡（西から）



田端地区E区 28号住居跡 (西から)



29号住居跡 (西から)



田端地区E区 30号住居跡（北から）



同上カマド



田端地区E区32号住居跡（北から）



同上カマド



田端地区E区 34号住居跡（北から）



35号住居跡（北から）



寺東地区 3次調査 住居跡群（東から）



寺東地区 4次調査 南側道住居跡群（西から）



寺東地区 3次調査 本線敷住居跡群(1) (東から)



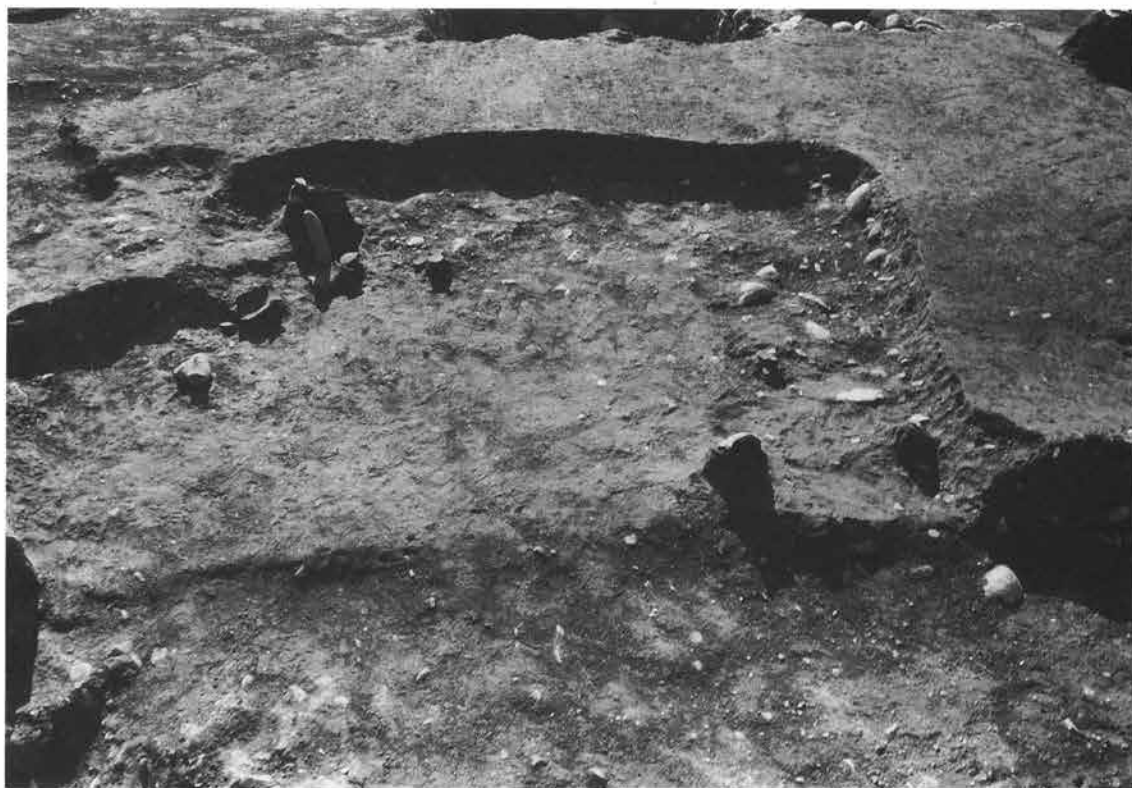
3次調査 本線敷住居跡群(2) (西から)



寺東地区 1a・1b号住居跡（北から）



同上



寺東地区 4号住居跡（北から）



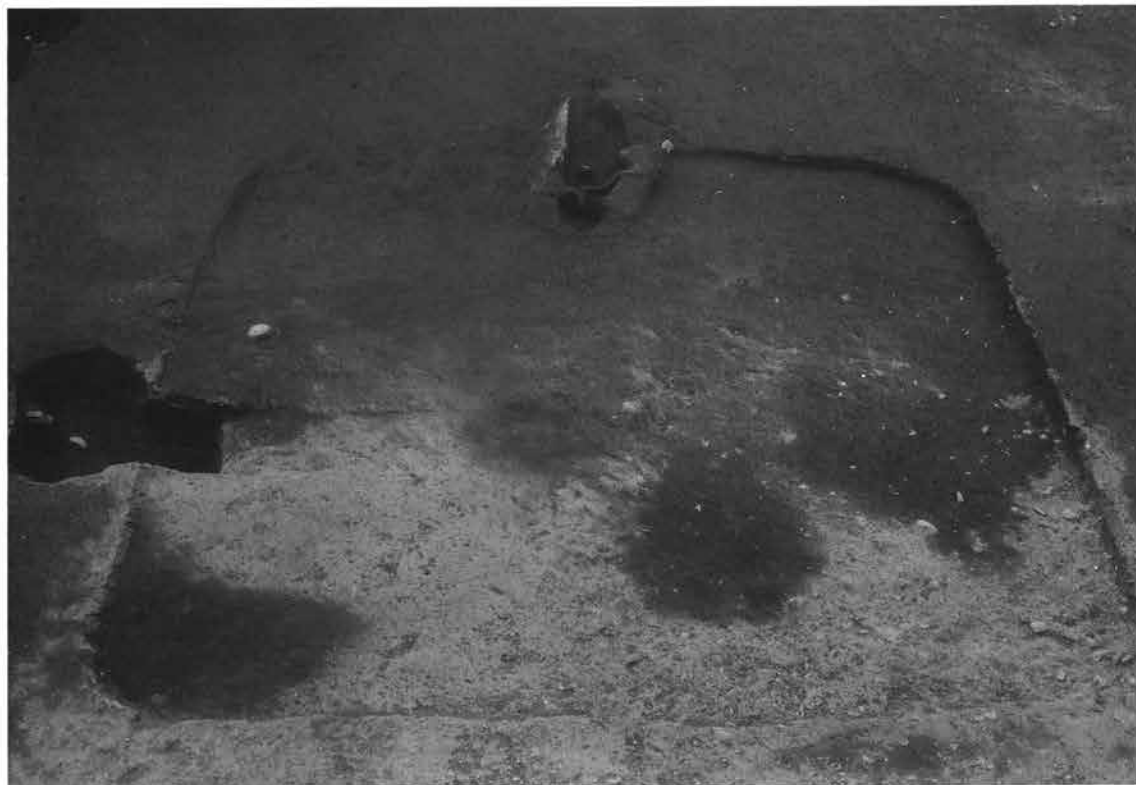
10号住居跡(1)（西から）



寺東地区 10号住居跡(2)カマド (南東から)



11号住居跡 (南西から)



寺東地区 13号住居跡（北西から）



14号住居跡（東から）



寺東地区 15号住居跡（西から）



同上カマド



寺東地区 16号住居跡カマド（西から）



17号住居跡（西から）



寺東地区 18号住居跡（東から）



19号住居跡（北東から）



寺東地区 20号住居跡（南から）



21・22号住居跡（東から）



寺東地区 30号住居跡（南から）



31号住居跡（南から）



寺東地区 33号住居跡（西から）



35号住居跡（南から）



寺東地区 37号住居跡（西から）



39・40号住居跡（南西から）



寺東地区 41号住居跡（北東から）



42号住居跡（南東から）



寺東地区 43号住居跡（北西から）



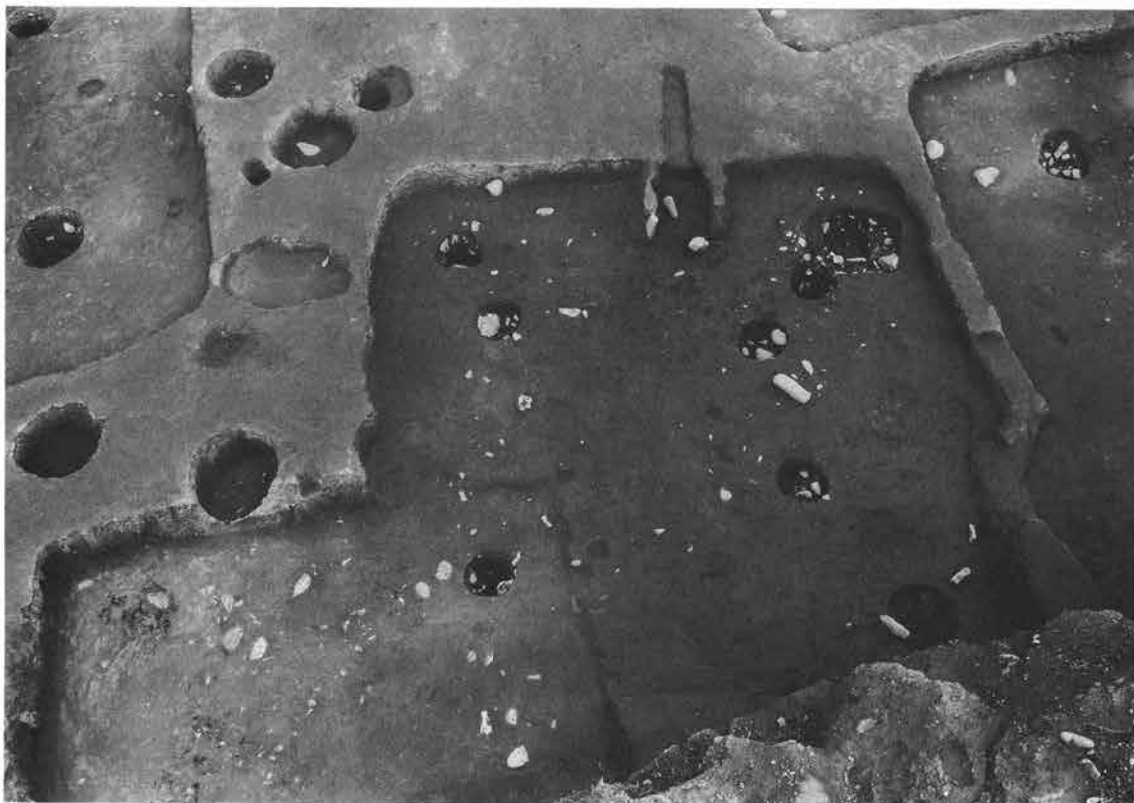
44・45号住居跡（北東から）



寺東地区 46号住居跡 (南西から)



47号住居跡 (北東から)



寺東地区 48号住居跡 (南西から)



42・49号住居跡(1) (南から)



寺東地区 49号住居跡(2)カマド



51号住居跡(西から)



寺東地区 59号住居跡（南西から）



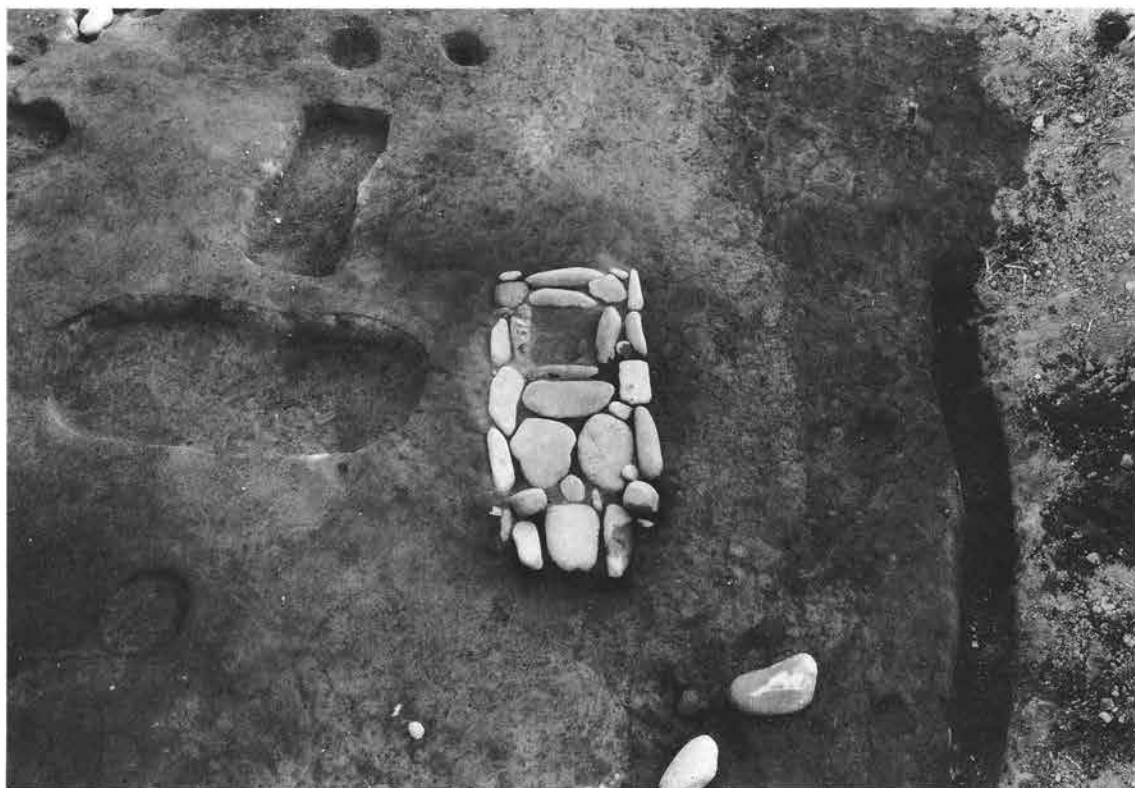
62号住居跡（南西から）



寺東地区 63・64号住居跡



同上カマド



寺東地区 39号住居跡(1) (西から)



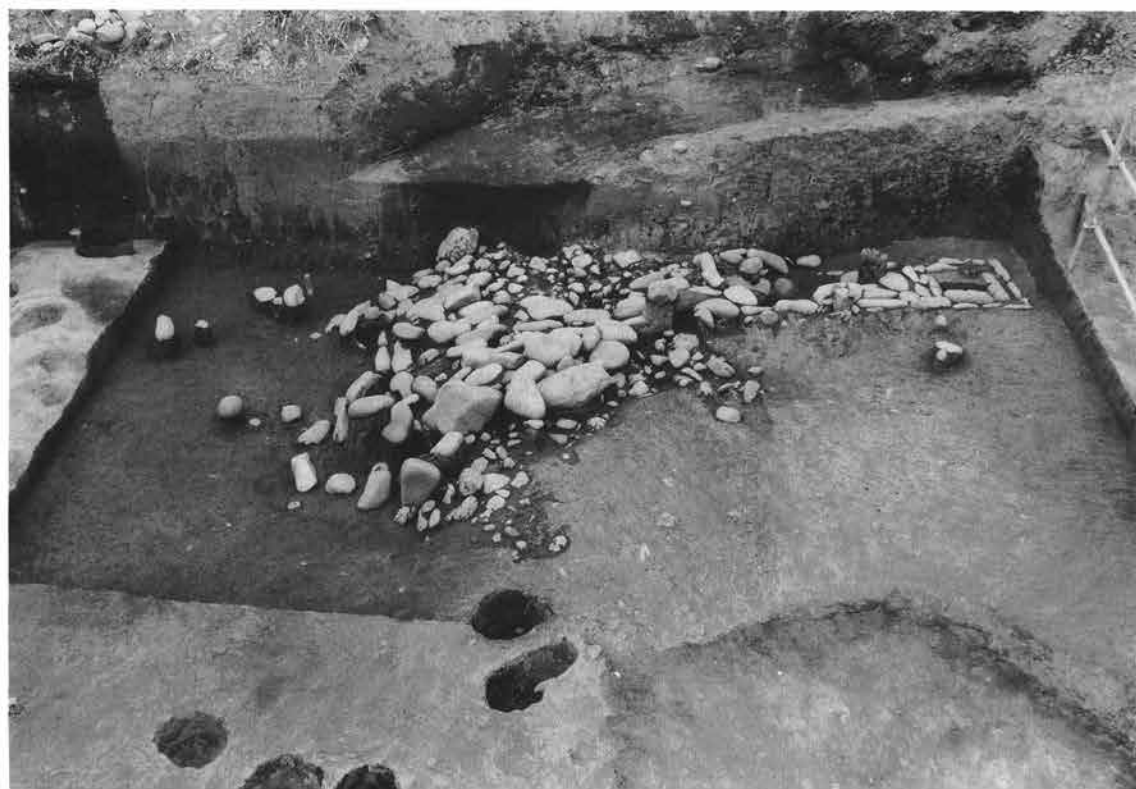
39号住居跡(2)



39号住居跡(3)



寺東地区 97号住居跡(1) (西から)



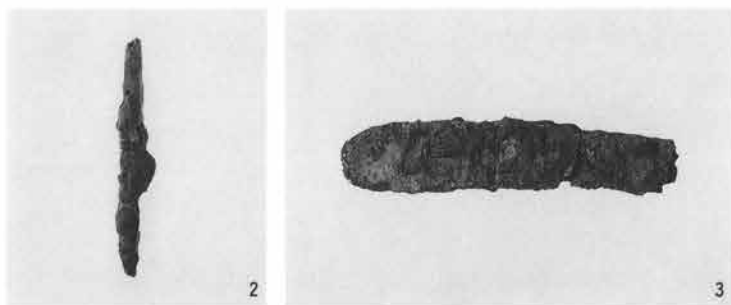
97号住居跡(2) (南から)



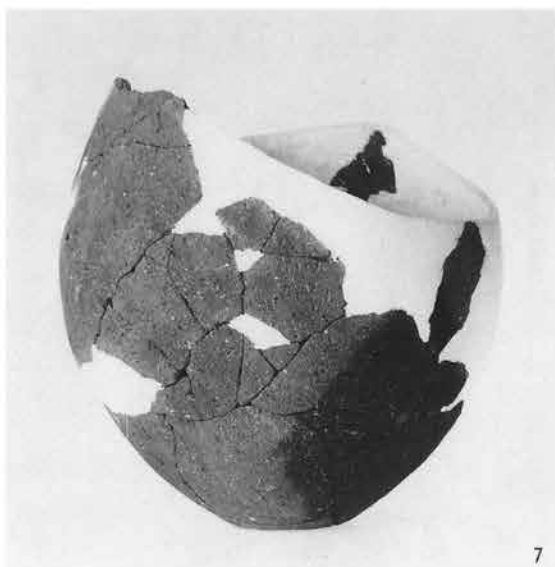
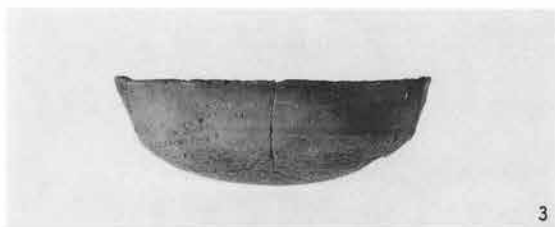
寺東地区 97号住居跡(3)



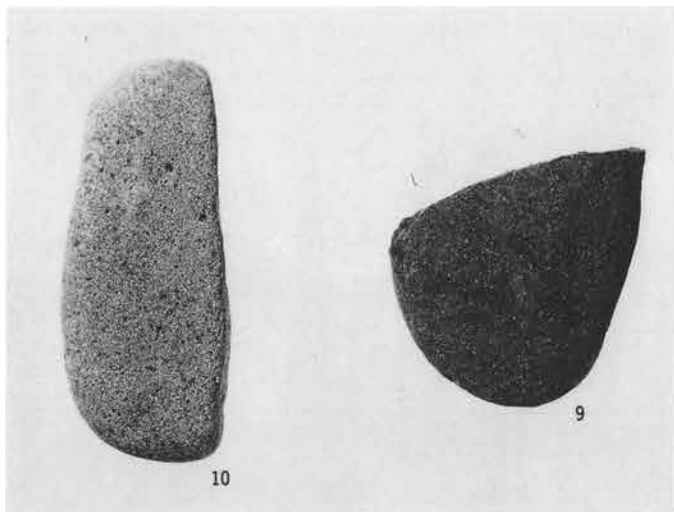
97号住居跡(4)



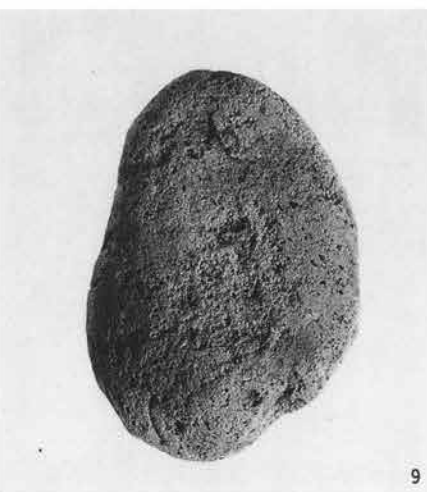
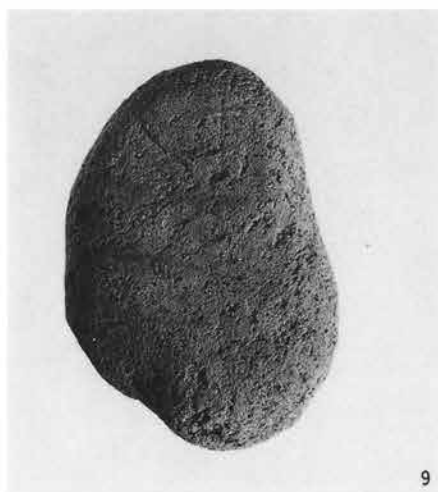
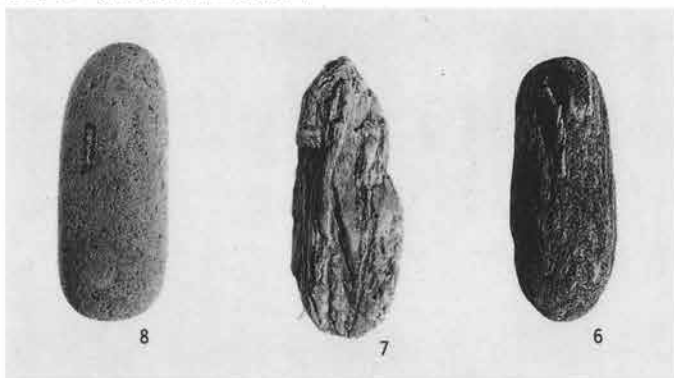
田端地区E区4号住居跡出土遺物



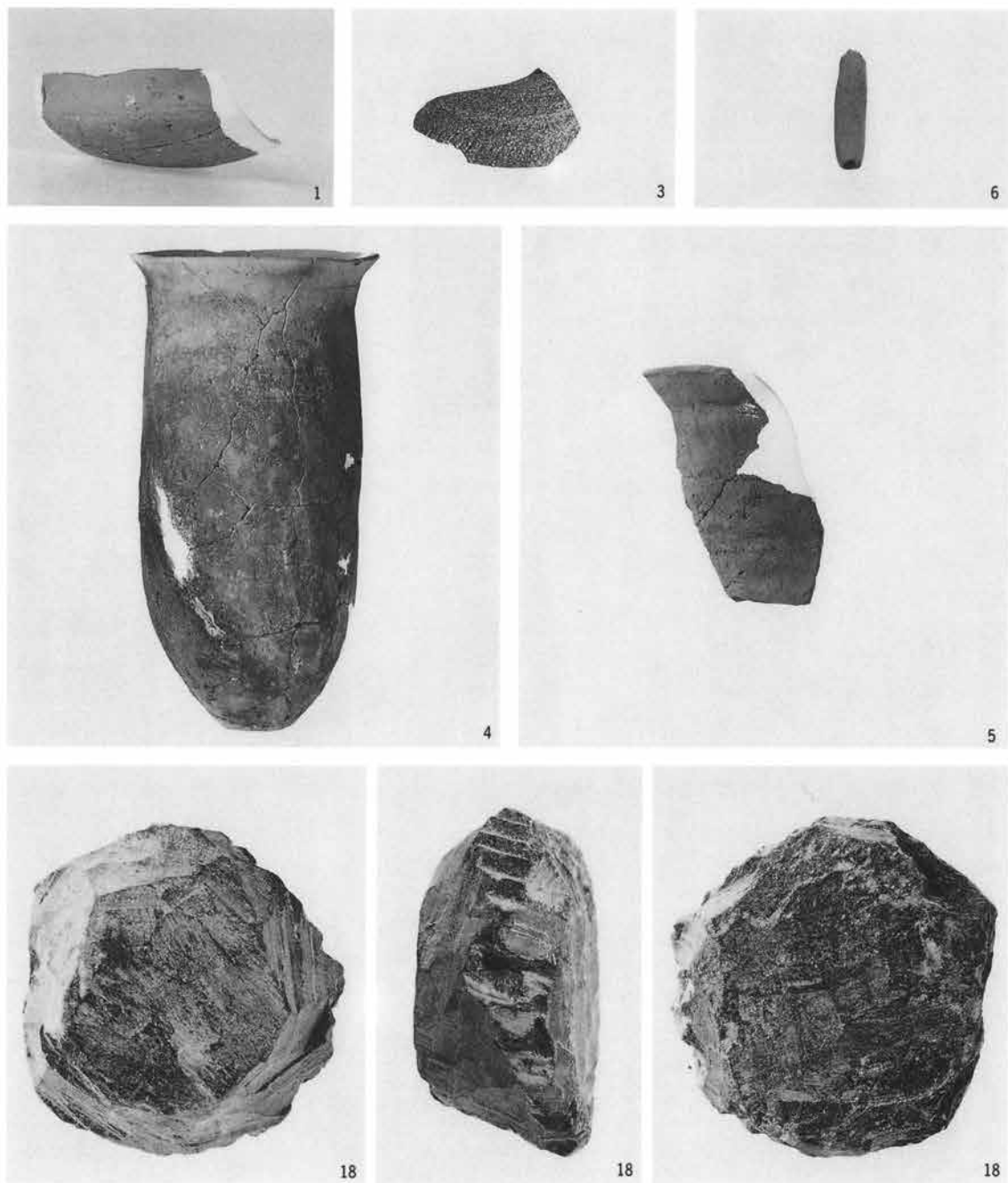
5 田端地区E区6号住居跡出土遺物(1)



田端地区E区6号住居跡出土遺物(2)



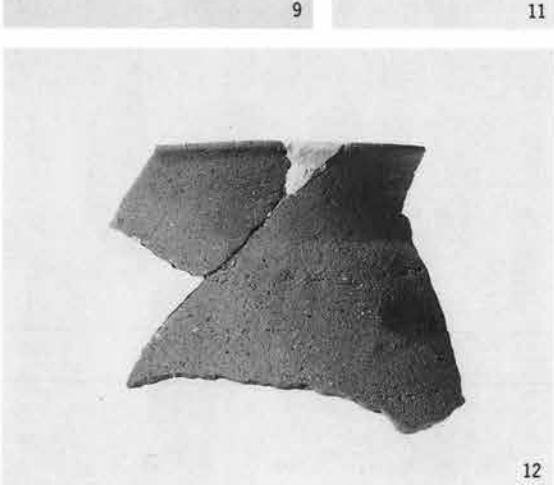
田端地区E区7号住居跡出土遺物



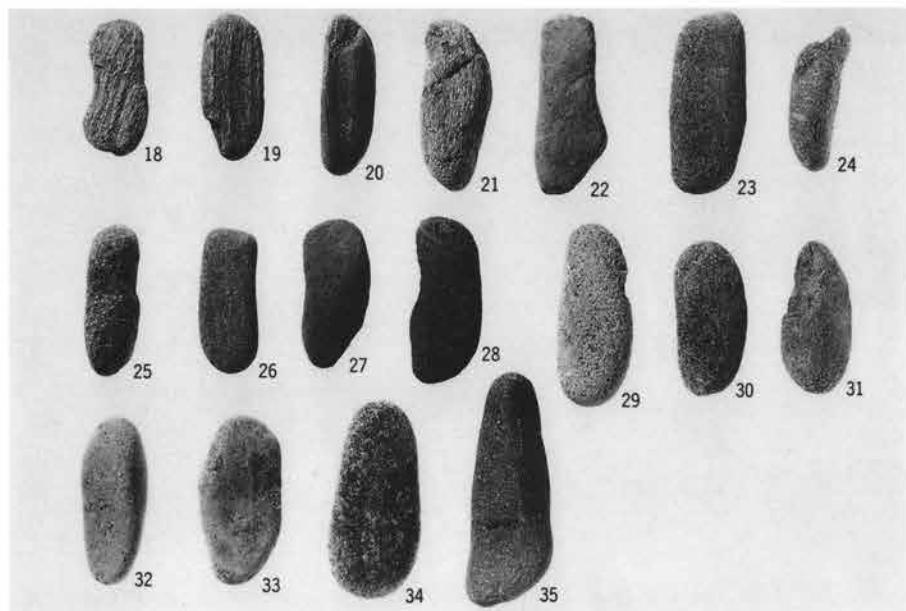
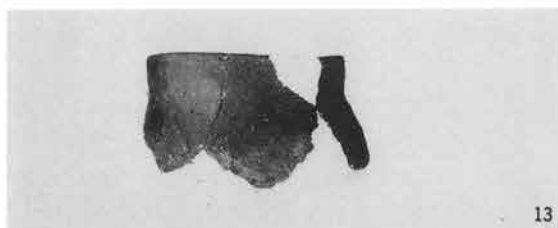
田端地区E区9号住居跡出土遺物



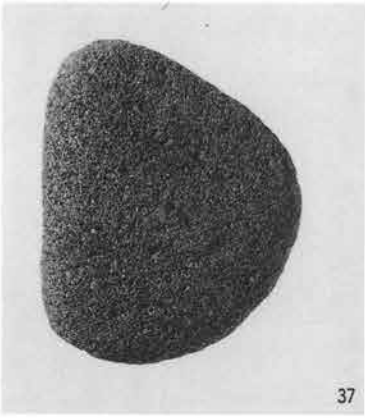
田端地区E区10号住居跡出土遺物



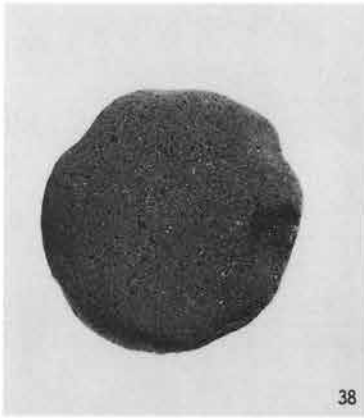
田端地区E区12号住居跡出土遺物(1)



田端地区E区12号住居跡出土遺物(2)



37



38

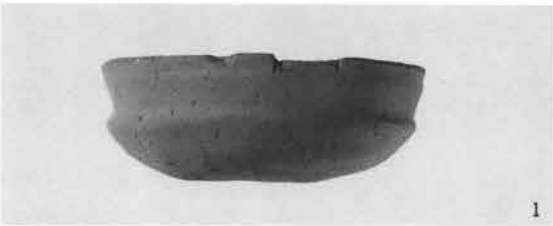


39

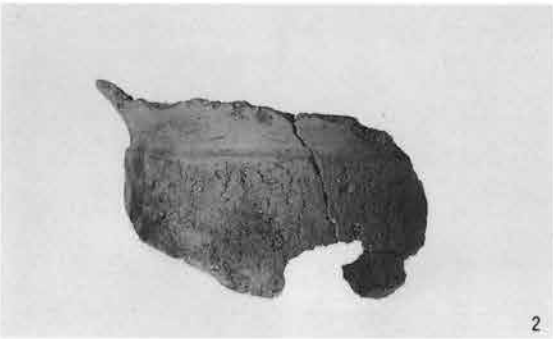
田端地区E区12号住居跡出土遺物(3)



1 田端地区E区14号住居跡出土遺物



1

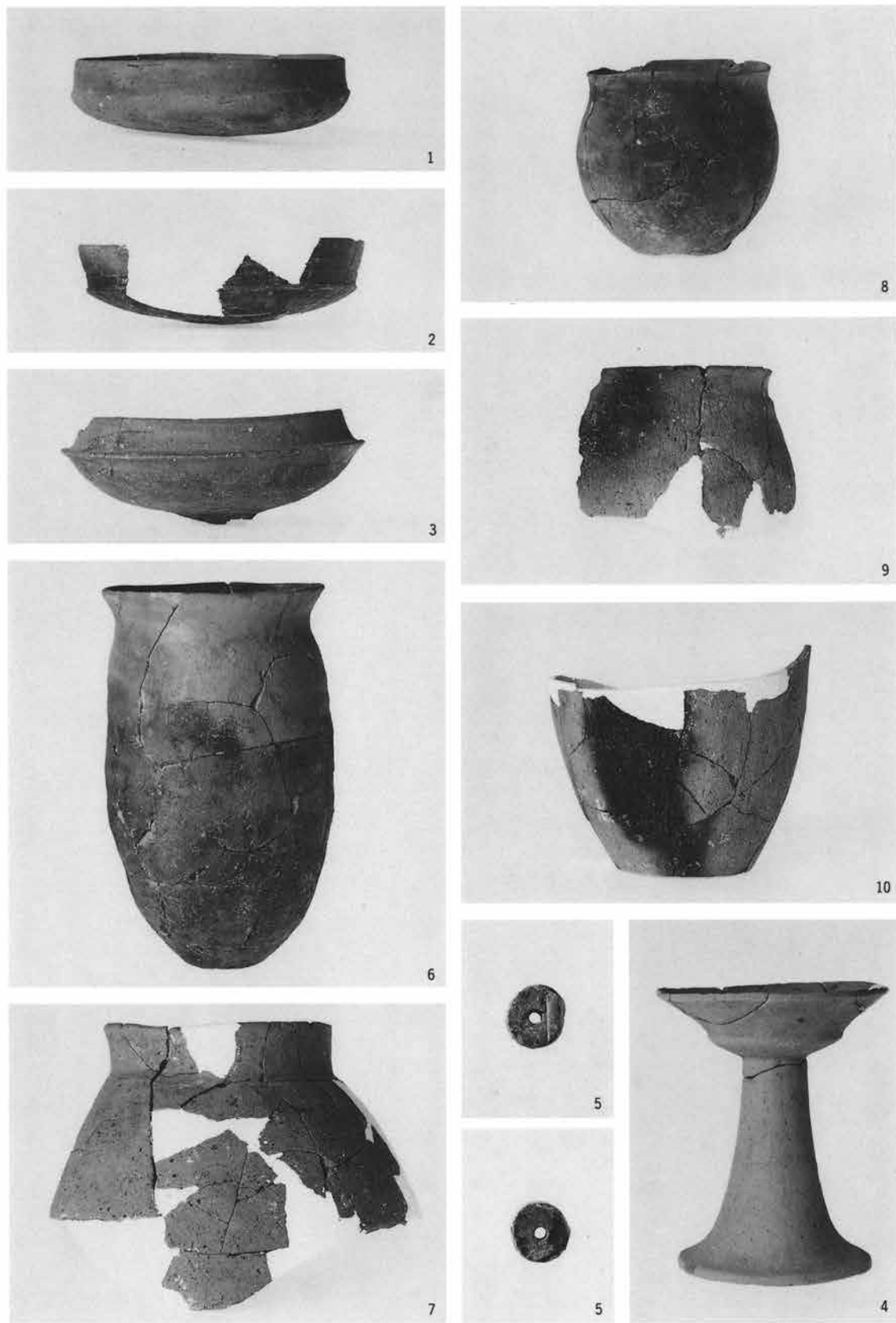


2



3

田端地区E区16号住居跡出土遺物



田端地区E区19号住居跡出土遺物



1



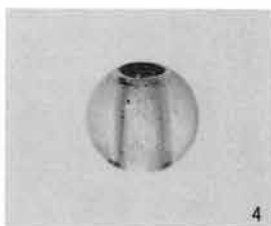
2



3



4

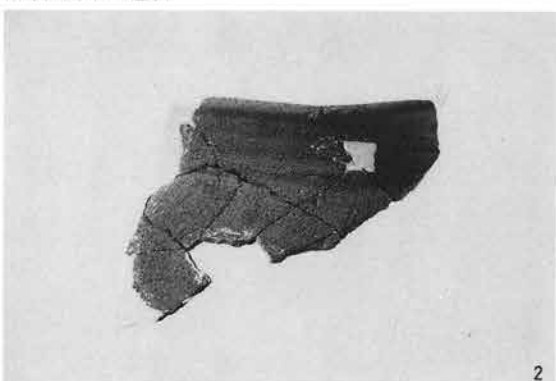


4

田端地区 E 区 22 号住居跡出土遺物

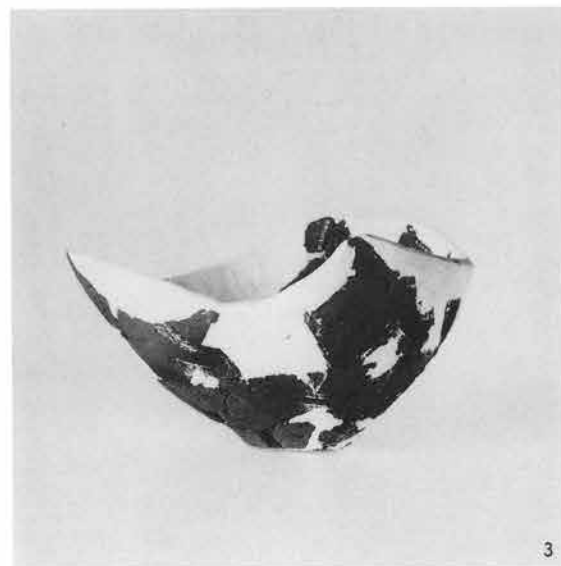


1



2

田端地区 E 区 23 号住居跡出土遺物



田端地区E区26号住居跡出土遺物



田端地区E区28号住居跡出土遺物



1 田端地区E区29号住居跡出土遺物



2

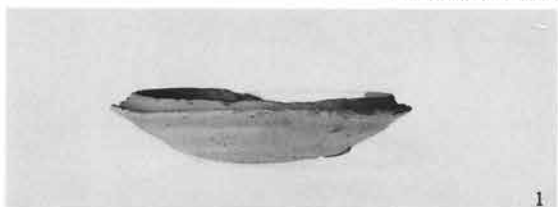


3



4

田端地区E区30号住居跡出土遺物



1



3



4



5



6



7



8

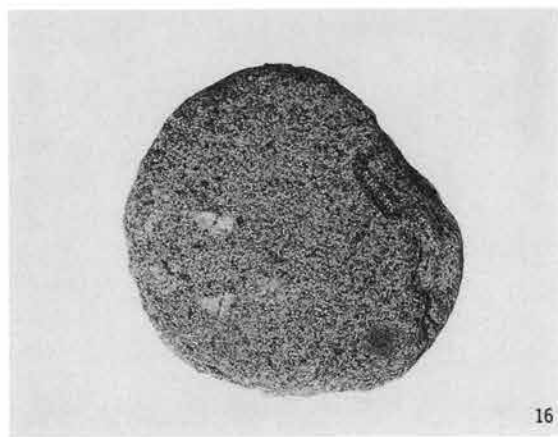
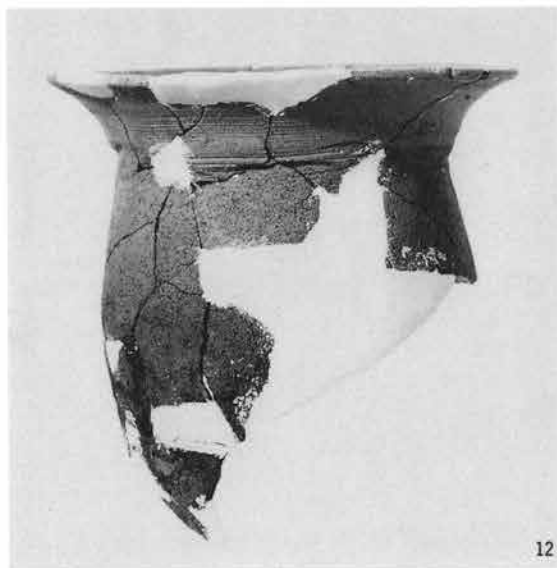
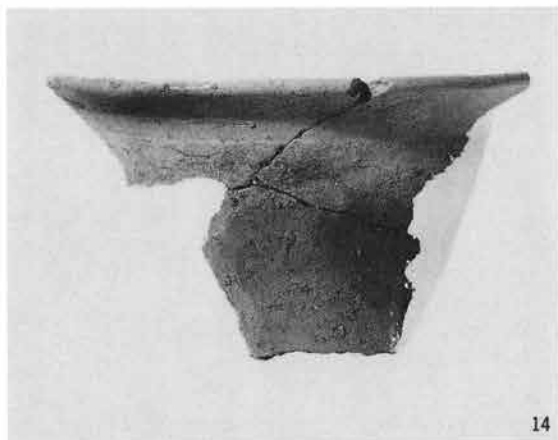


9

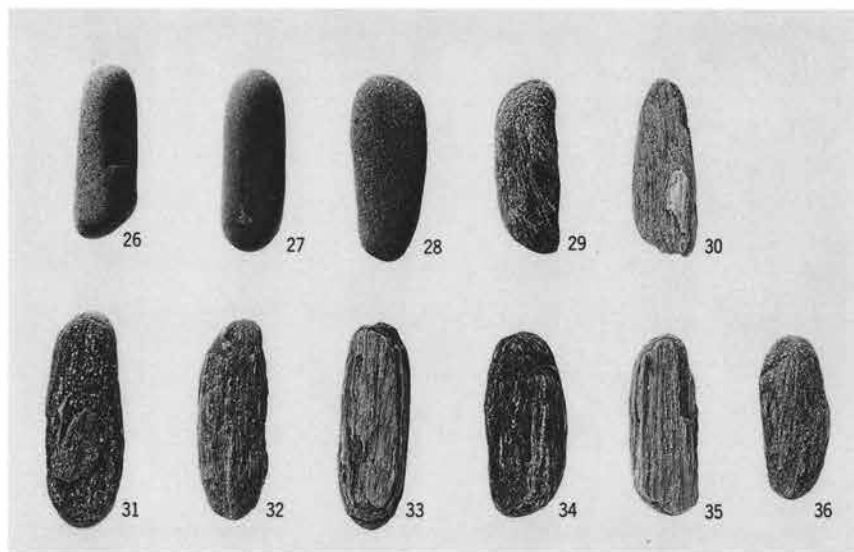


10

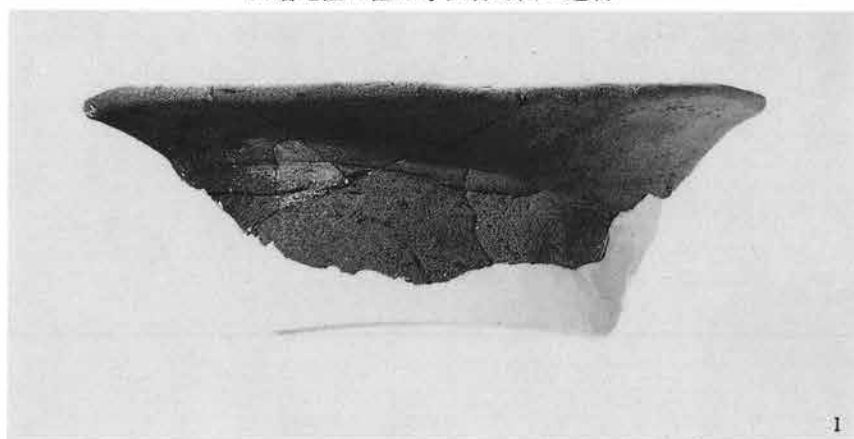
田端地区E区32号住居跡出土遺物(1)



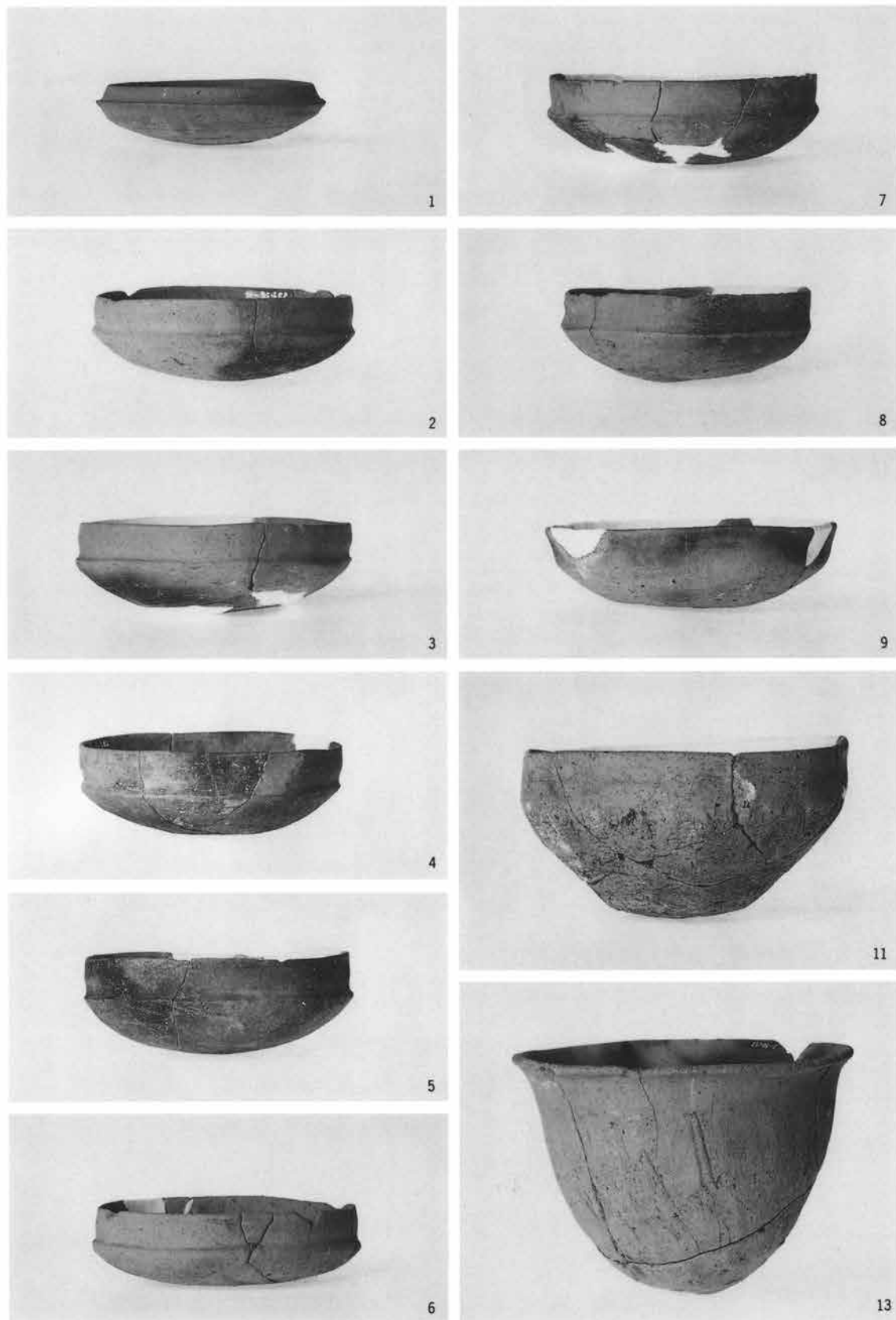
田端地区E区32号住居跡出土遺物(2)



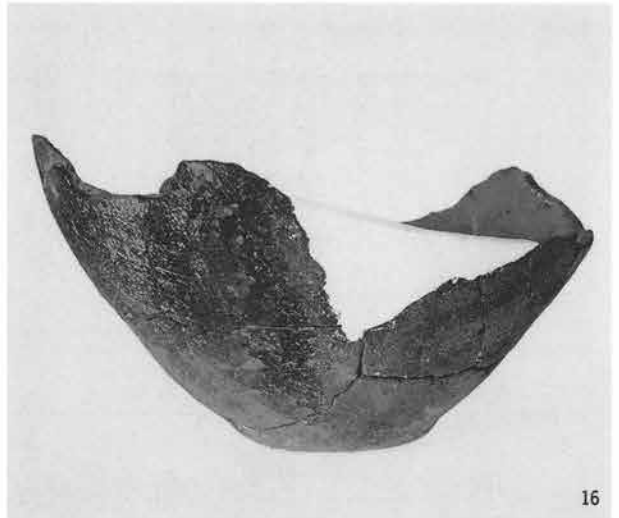
田端地区E区35号住居跡出土遺物



田端地区E区37号住居跡出土遺物



寺東地区1 a 号住居跡出土遺物(1)



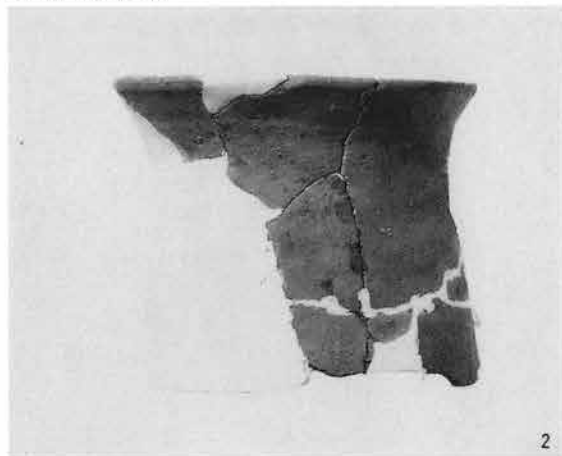
寺東地区1 a 号住居跡出土遺物(2)



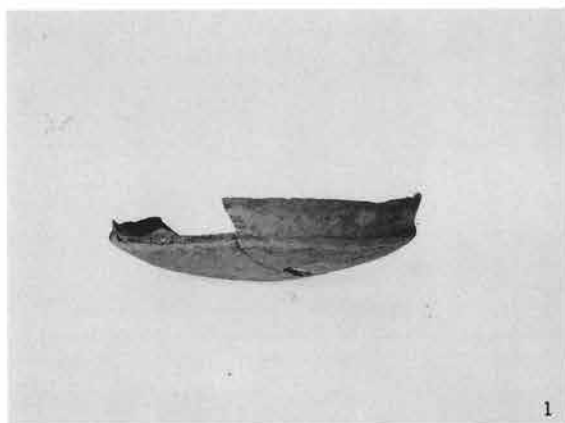
寺東地区1 a 号住居跡出土遺物(3)



寺東地区1 b 号住居跡出土遺物



寺東地区 4 号住居跡出土遺物



寺東地区10号住居跡出土遺物



寺東地区13号住居跡出土遺物



寺東地区14号住居跡出土遺物



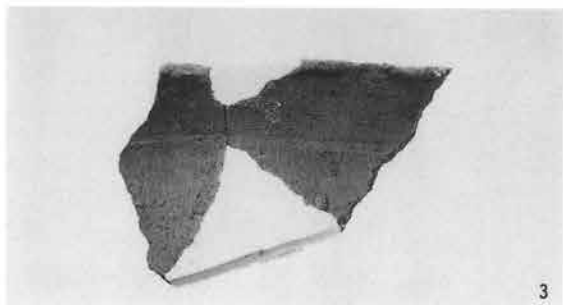
寺東地区15号住居跡出土遺物



寺東地区16号住居跡出土遺物



寺東地区18号住居跡出土遺物



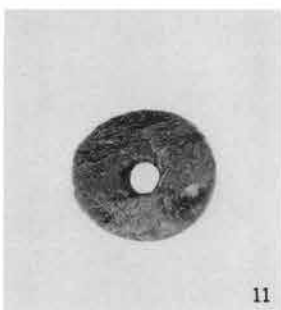
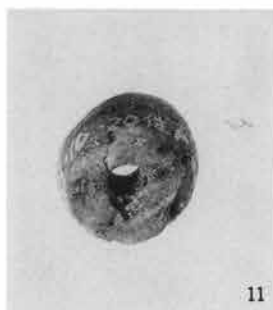
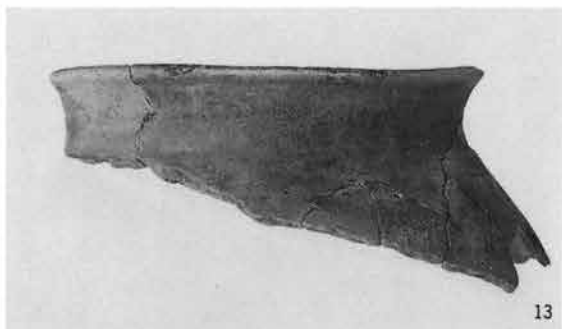
寺東地区19号住居跡出土遺物(1)



寺東地区19号住居跡出土遺物(2)



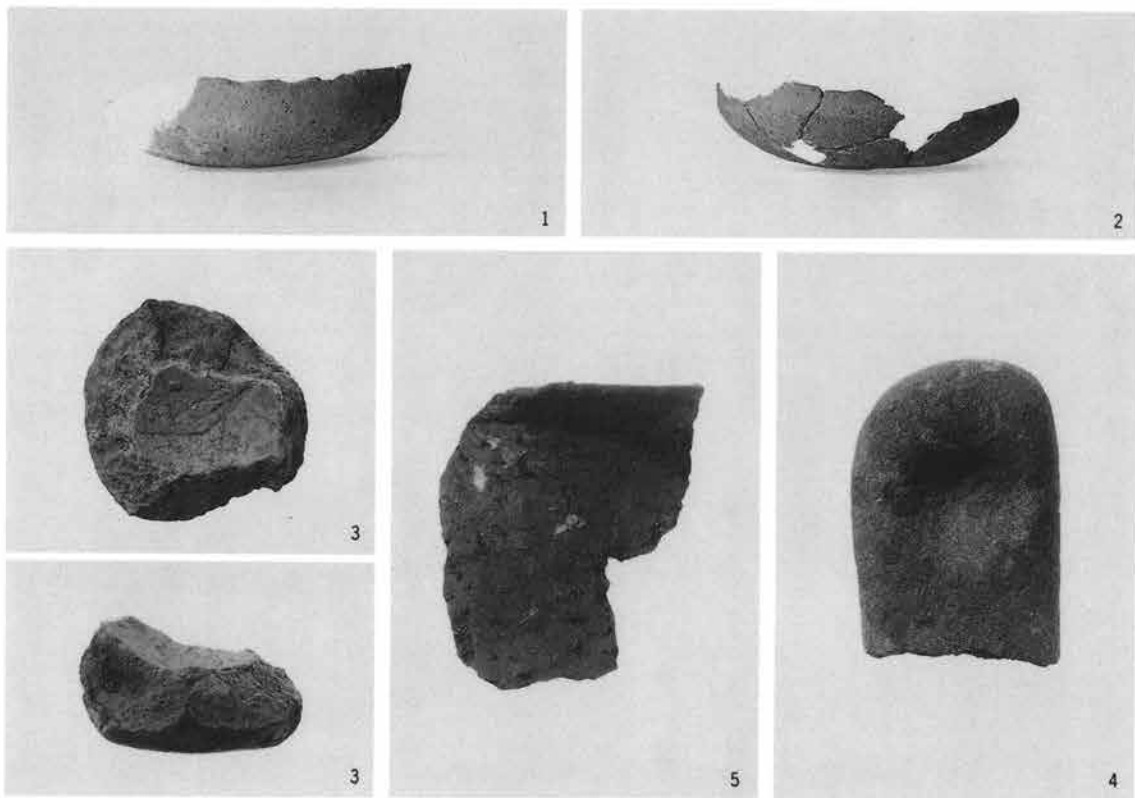
寺東地区20号住居跡出土遺物(1)



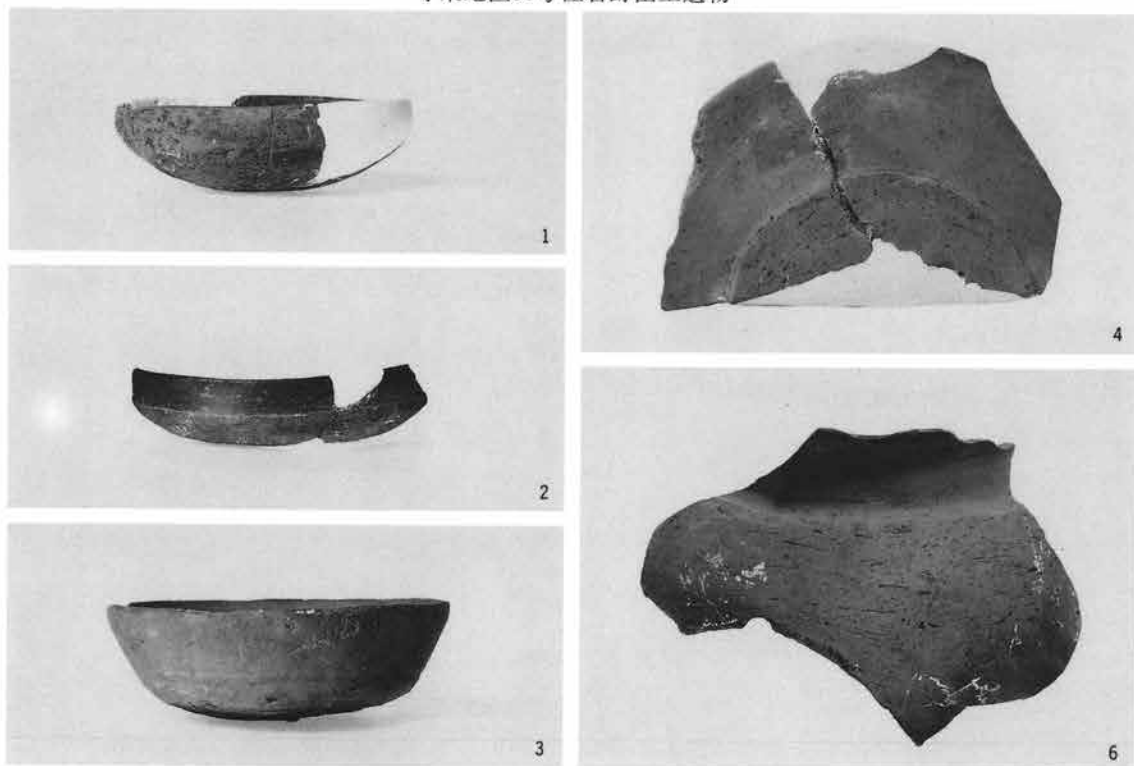
寺東地区20号住居跡出土遺物(2)



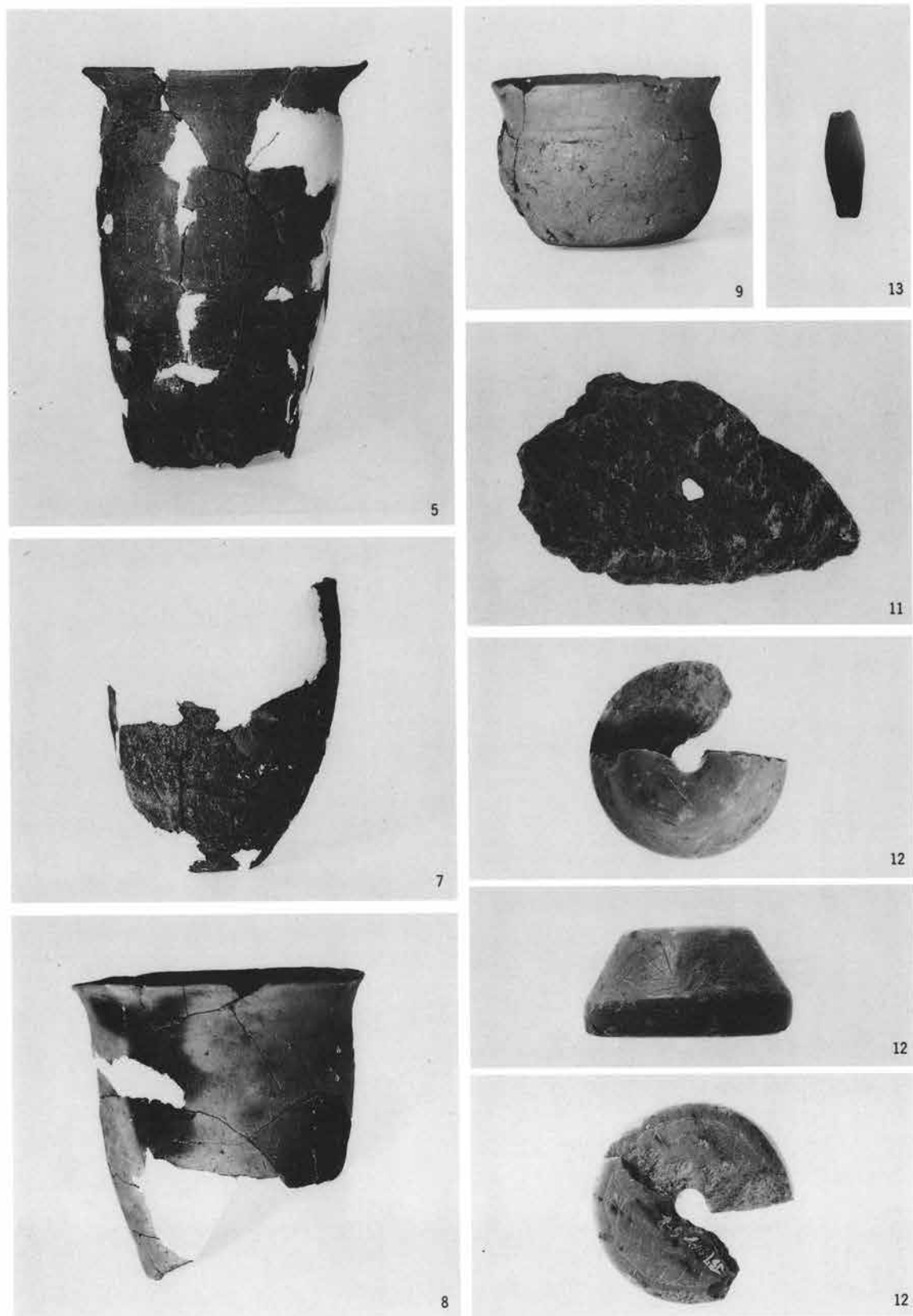
寺東地区21号住居跡出土遺物



寺東地区30号住居跡出土遺物



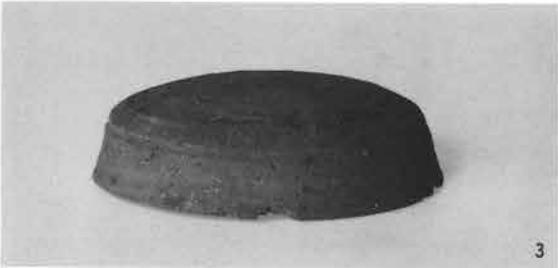
寺東地区31号住居跡出土遺物(1)



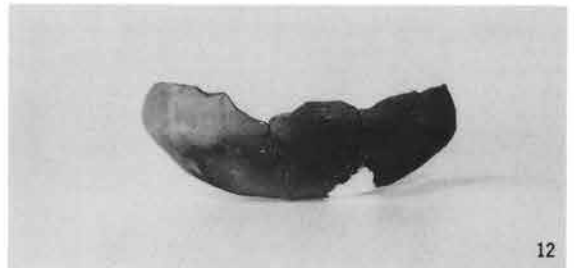
寺東地区31号住居跡出土遺物(2)



1 寺東地区33号住居跡出土遺物



3



12



4



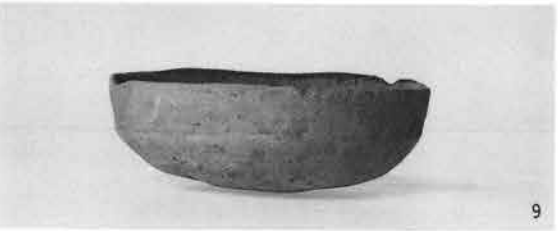
14



7



8

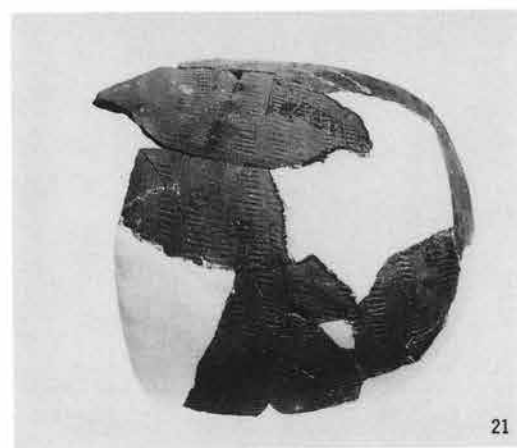


9

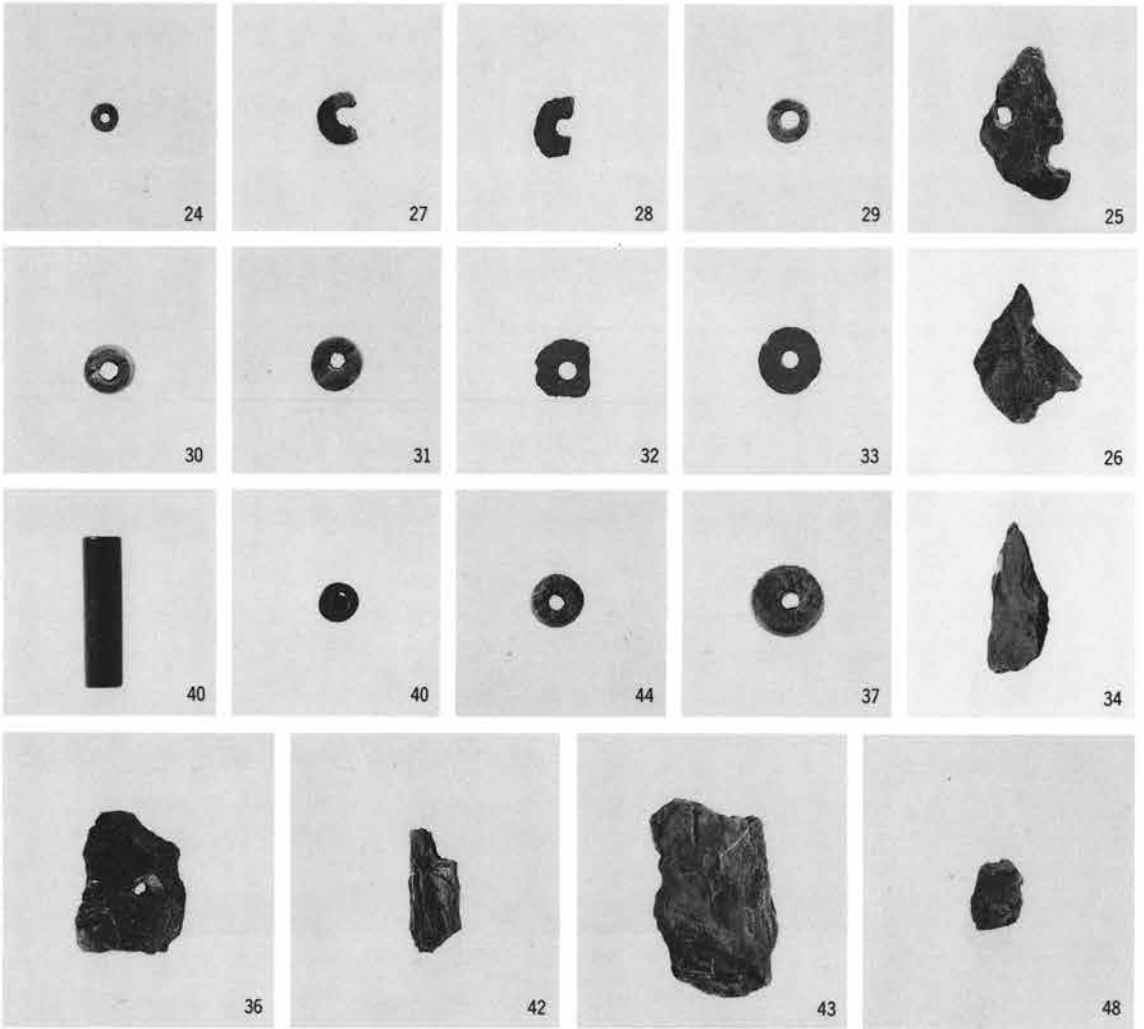


15

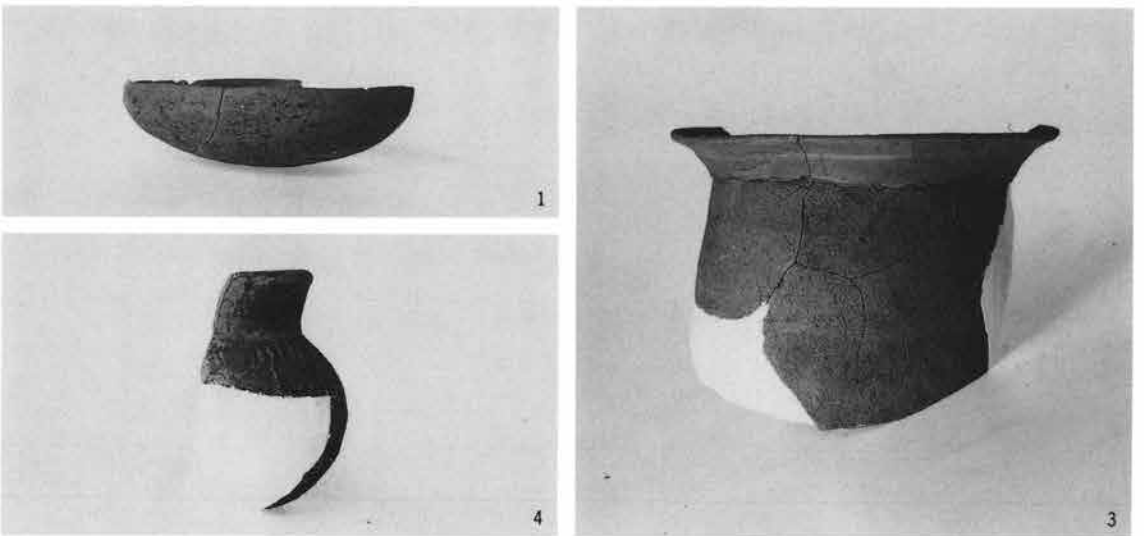
寺東地区35号住居跡出土遺物(1)



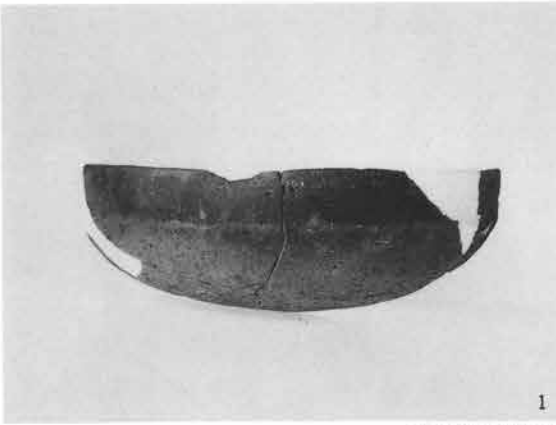
寺東地区35号住居跡出土遺物(2)



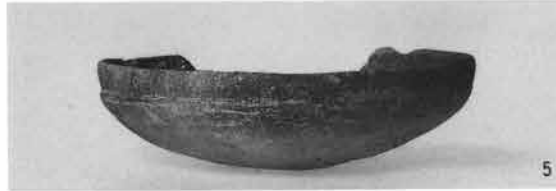
寺東地区35号住居跡出土遺物(3)



寺東地区37号住居跡出土遺物



寺東地区39号住居跡出土遺物



寺東地区40号住居跡出土遺物(1)



14

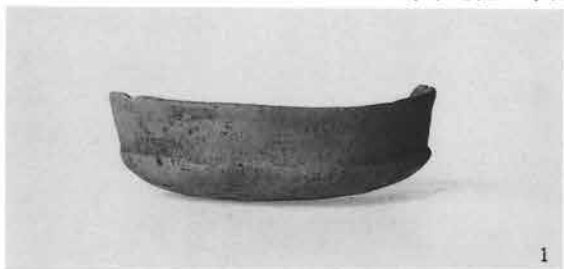


13



12

寺東地区40号住居跡出土遺物(2)



1

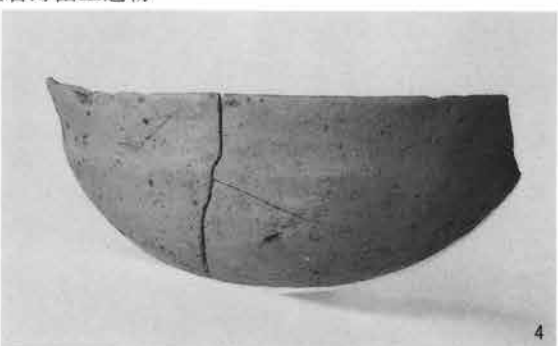


2

寺東地区41号住居跡出土遺物



1



4



2

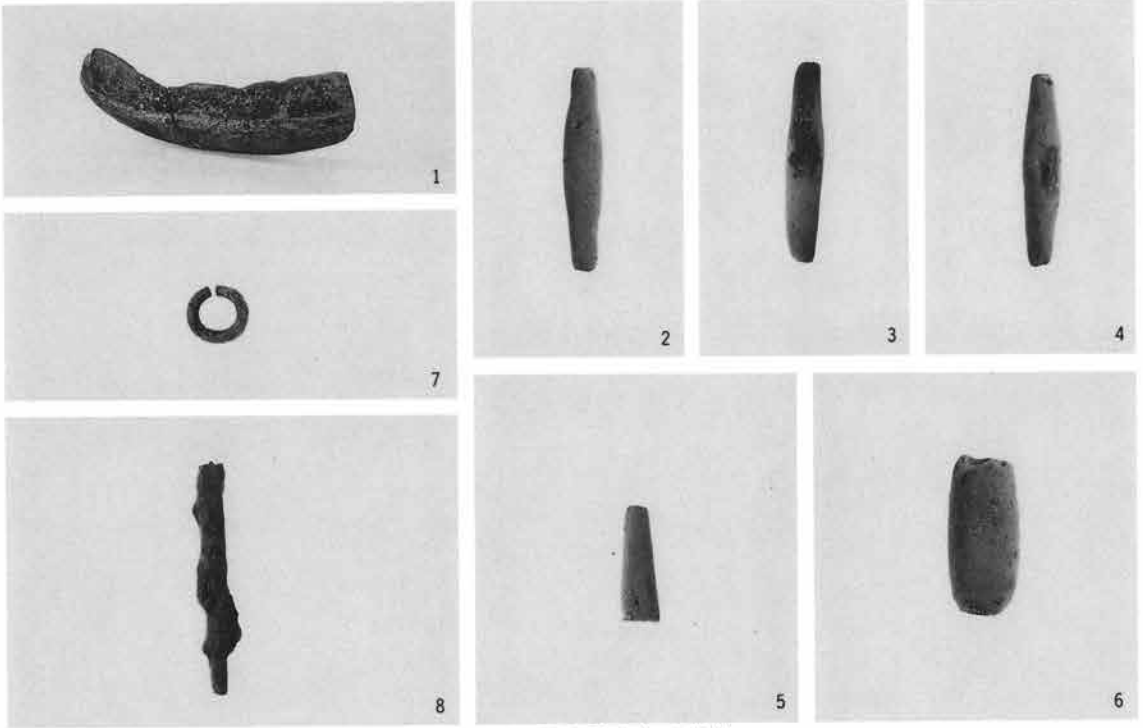


7

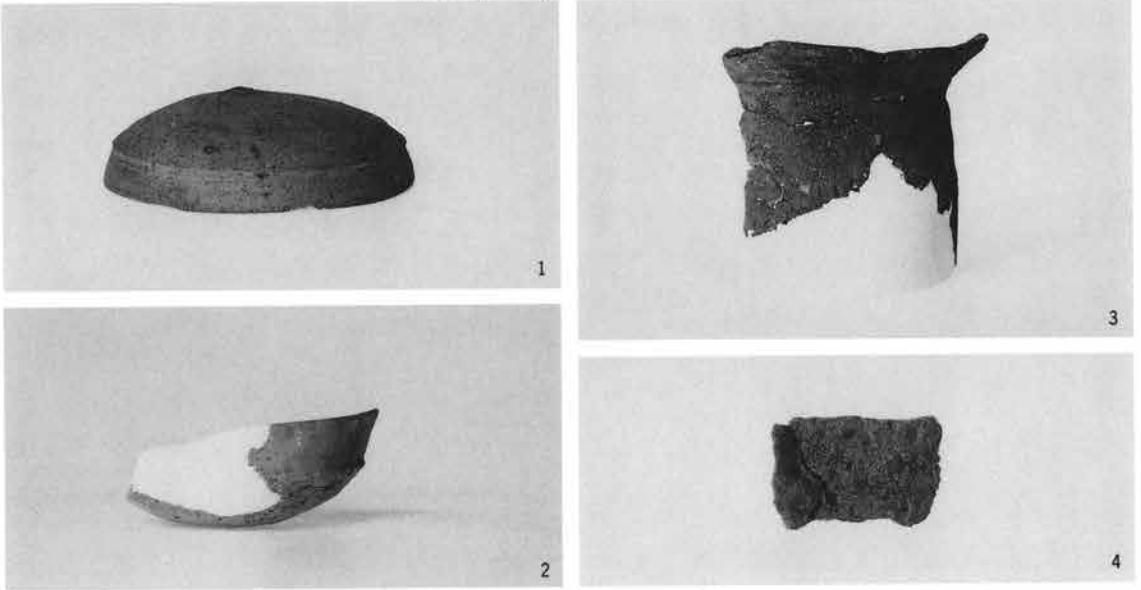


3

寺東地区42号住居跡出土遺物



寺東地区43号住居跡出土遺物



寺東地区44号住居跡出土遺物



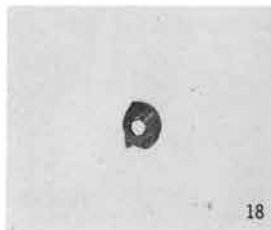
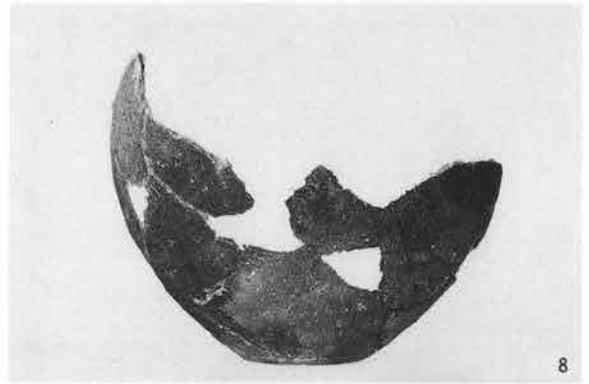
寺東地区46号住居跡出土遺物



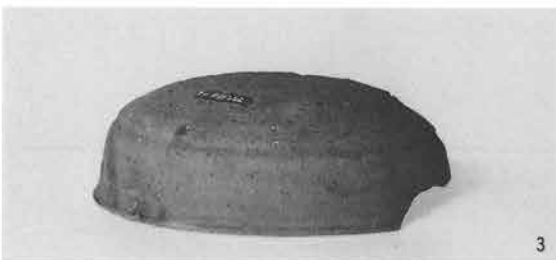
寺東地区47号住居跡出土遺物



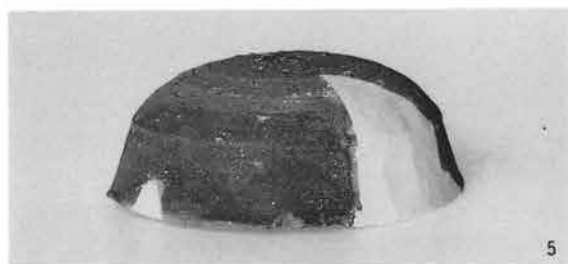
寺東地区48号住居跡出土遺物(1)



寺東地区48号住居跡出土遺物(2)



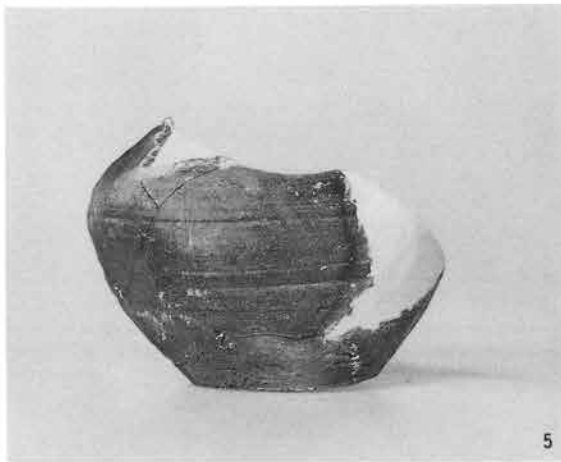
寺東地区49号住居跡出土遺物(1)



寺東地区49号住居跡出土遺物(2)



寺東地区51号住居跡出土遺物(1)



寺東地区51号住居跡出土遺物

寺東地区55号住居跡出土遺物



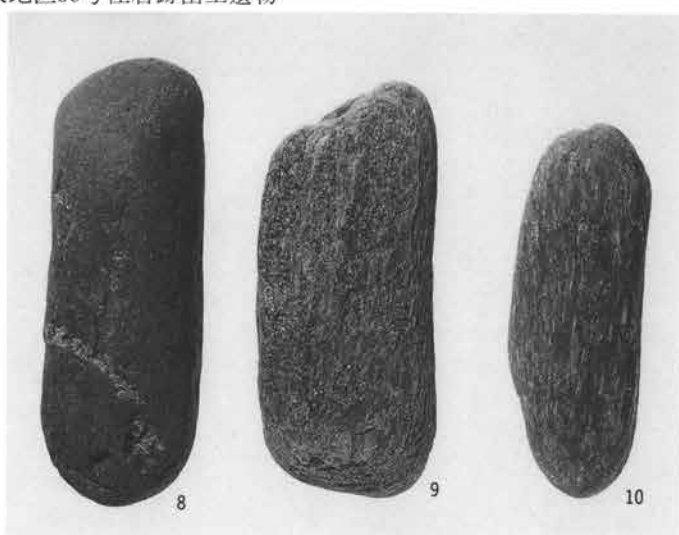
寺東地区57号住居跡出土遺物



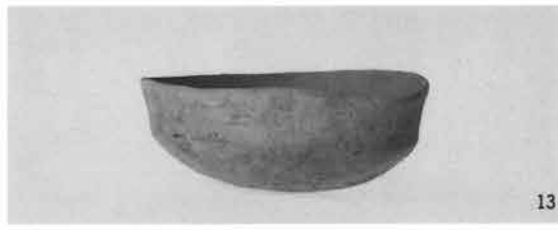
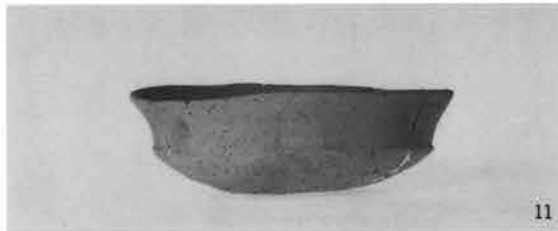
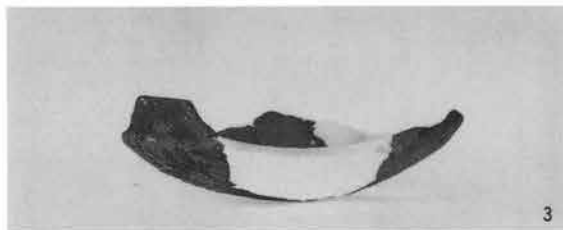
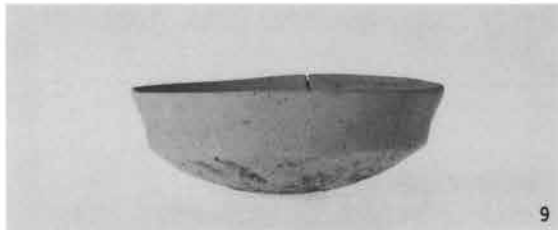
寺東地区59号住居跡出土遺物

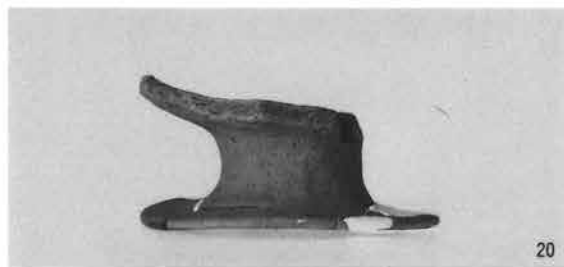
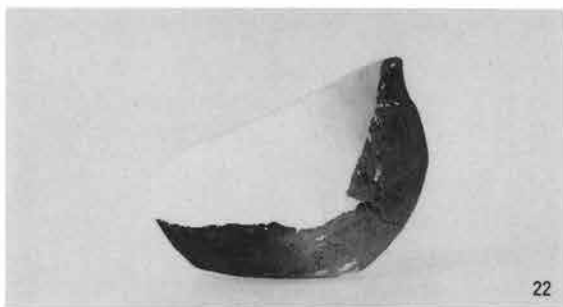
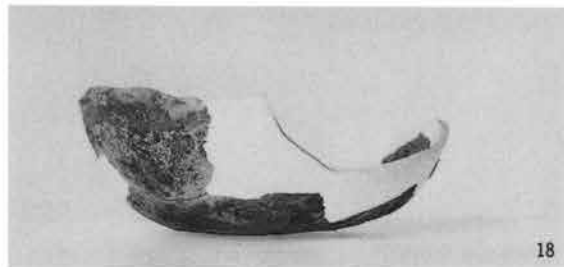
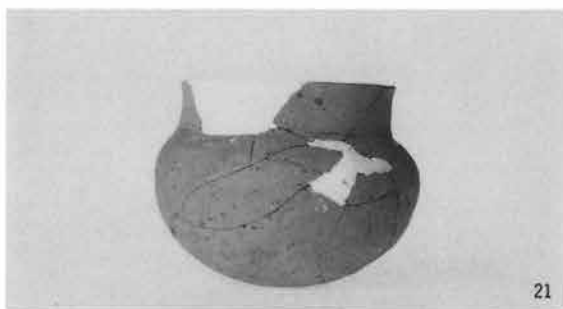


寺東地区62号住居跡出土遺物

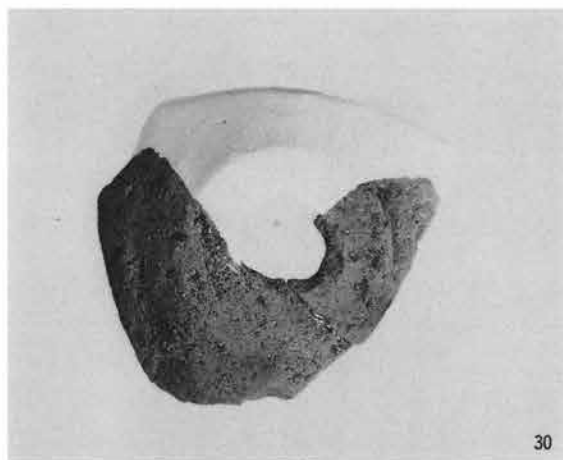


寺東地区64号住居跡出土遺物





田端地区E区3号集石出土遺物(2)



30

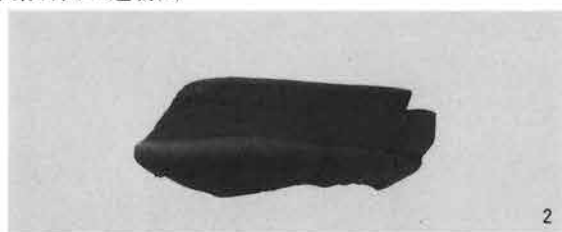


31

田端地区E区3号集石出土遺物(3)

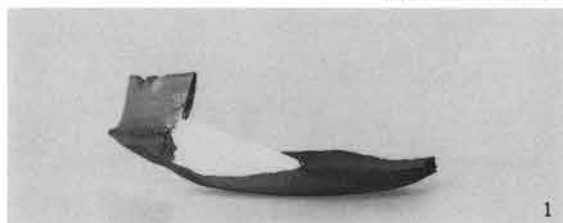


1



2

寺東地区1号堀立柱建物跡出土遺物



1



4

寺東地区22号土坑出土遺物

寺東地区52号土坑出土遺物



1

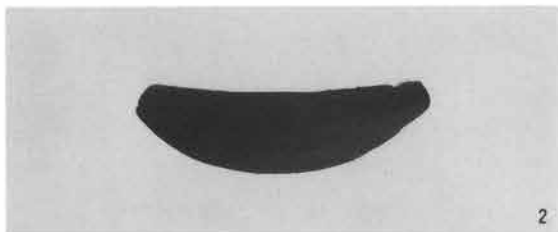


5

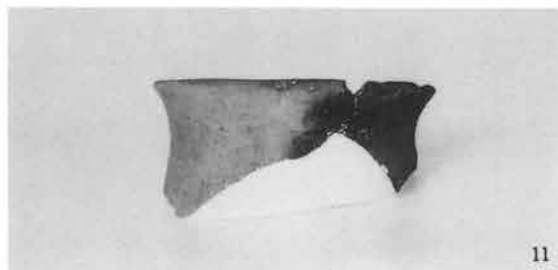


6

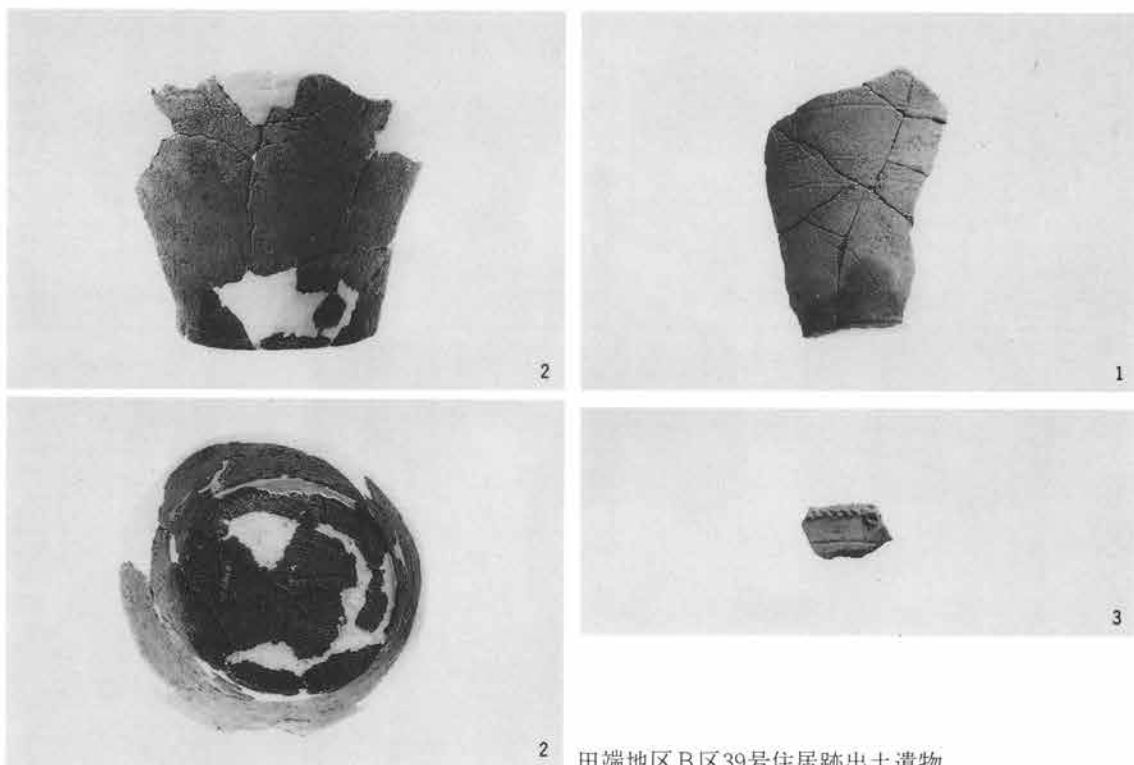
寺東地区59号土坑出土遺物



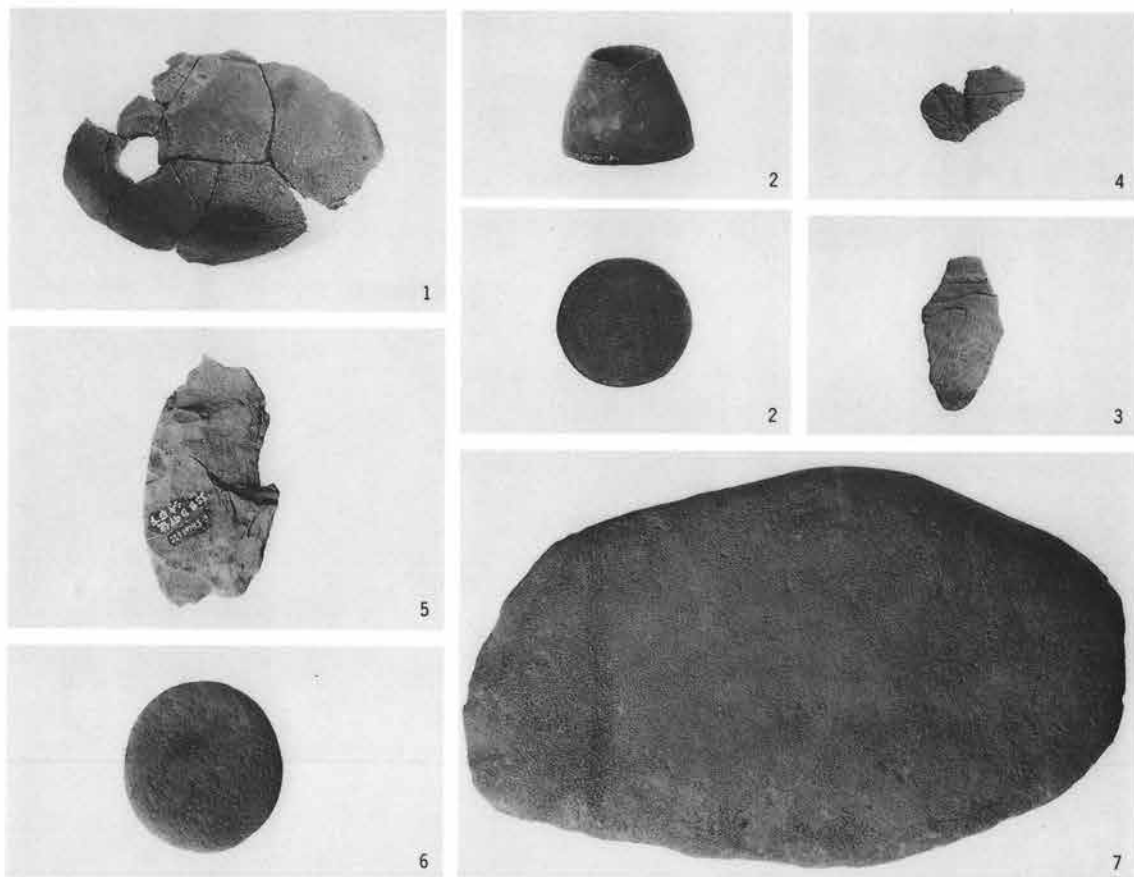
寺東地区53号土坑出土遺物



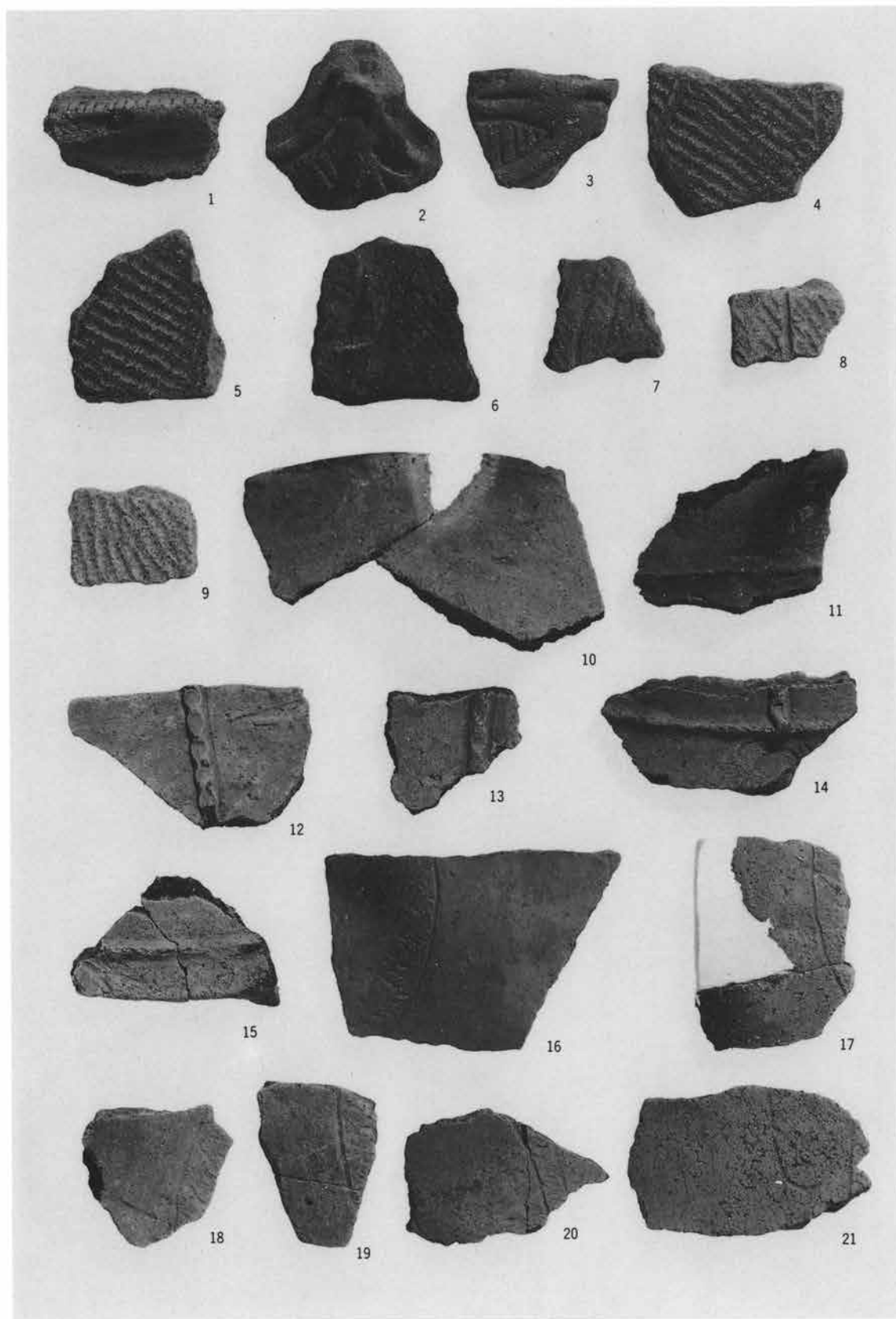
寺東地区54号土坑出土遺物



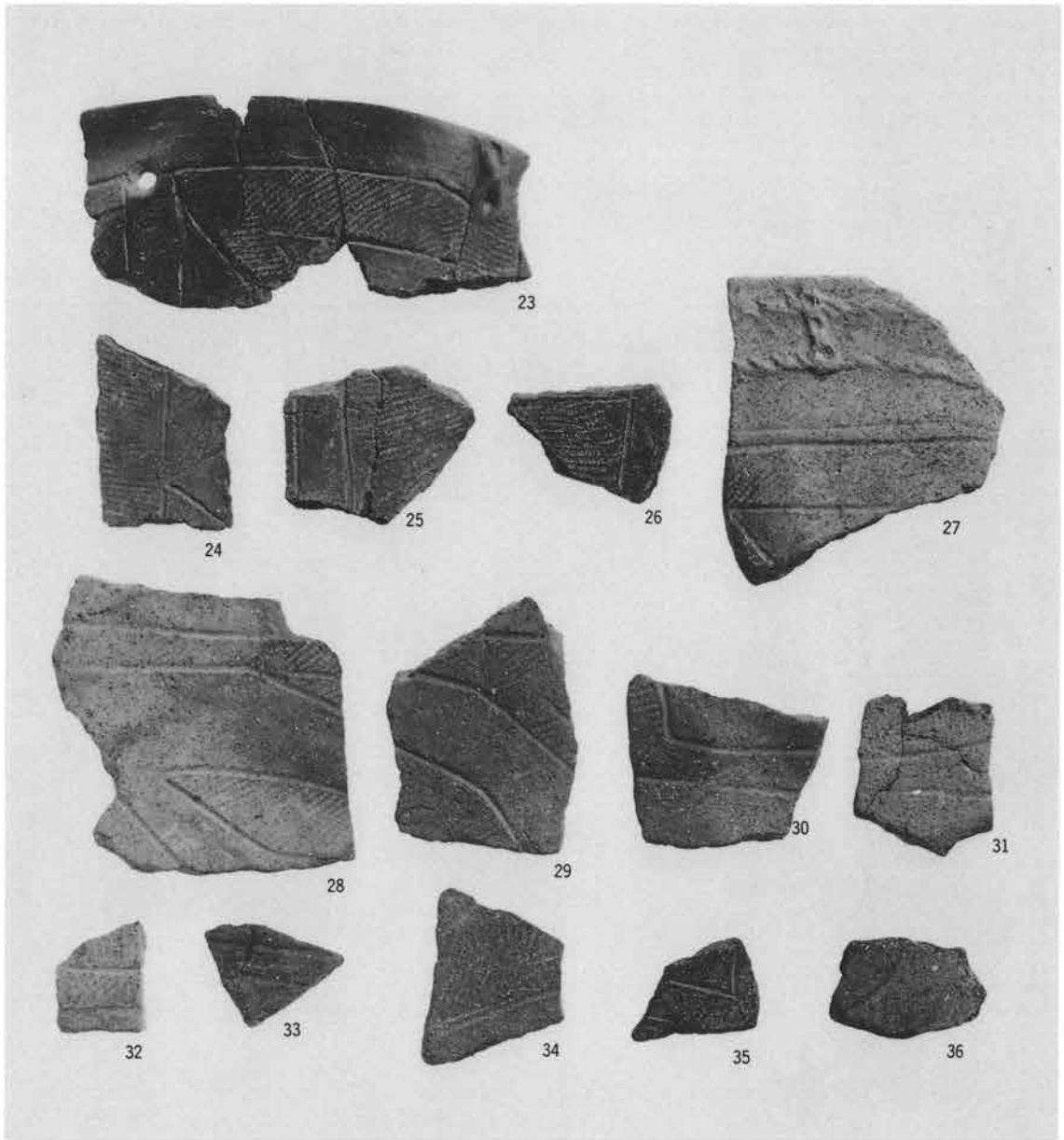
田端地区B区39号住居跡出土遺物



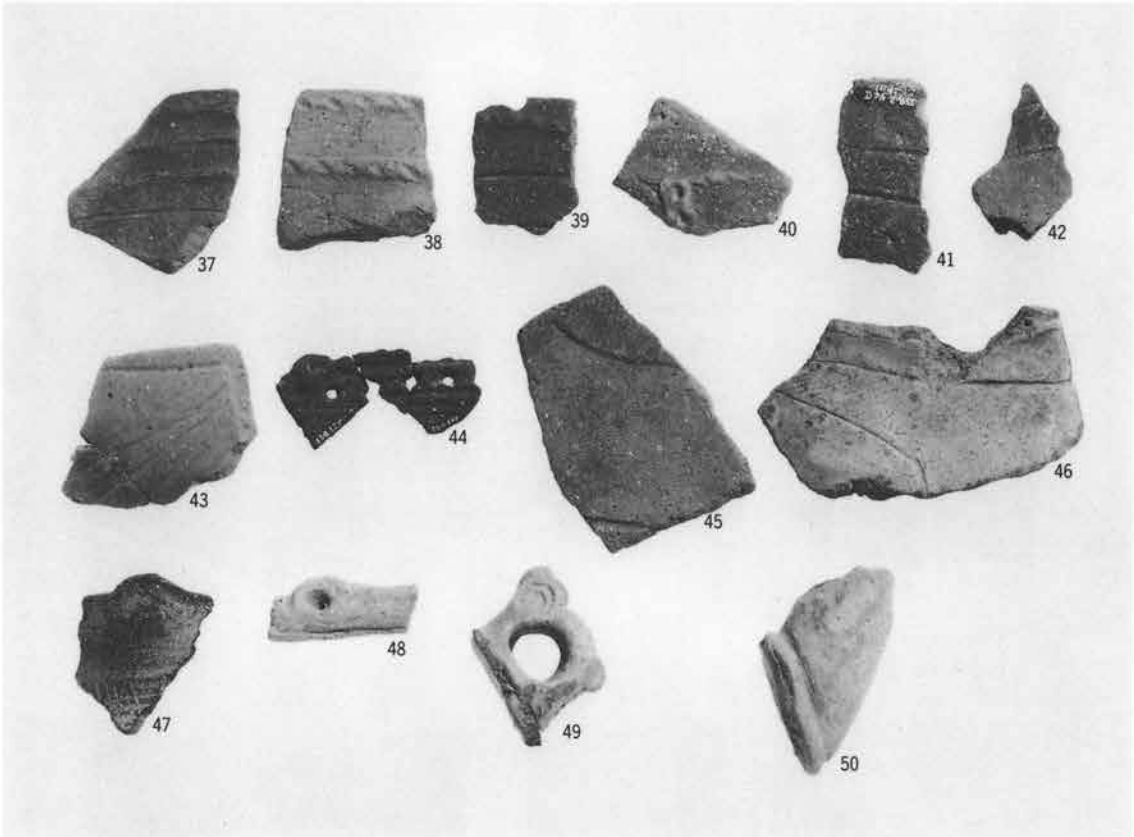
田端地区B区97号住居跡出土遺物



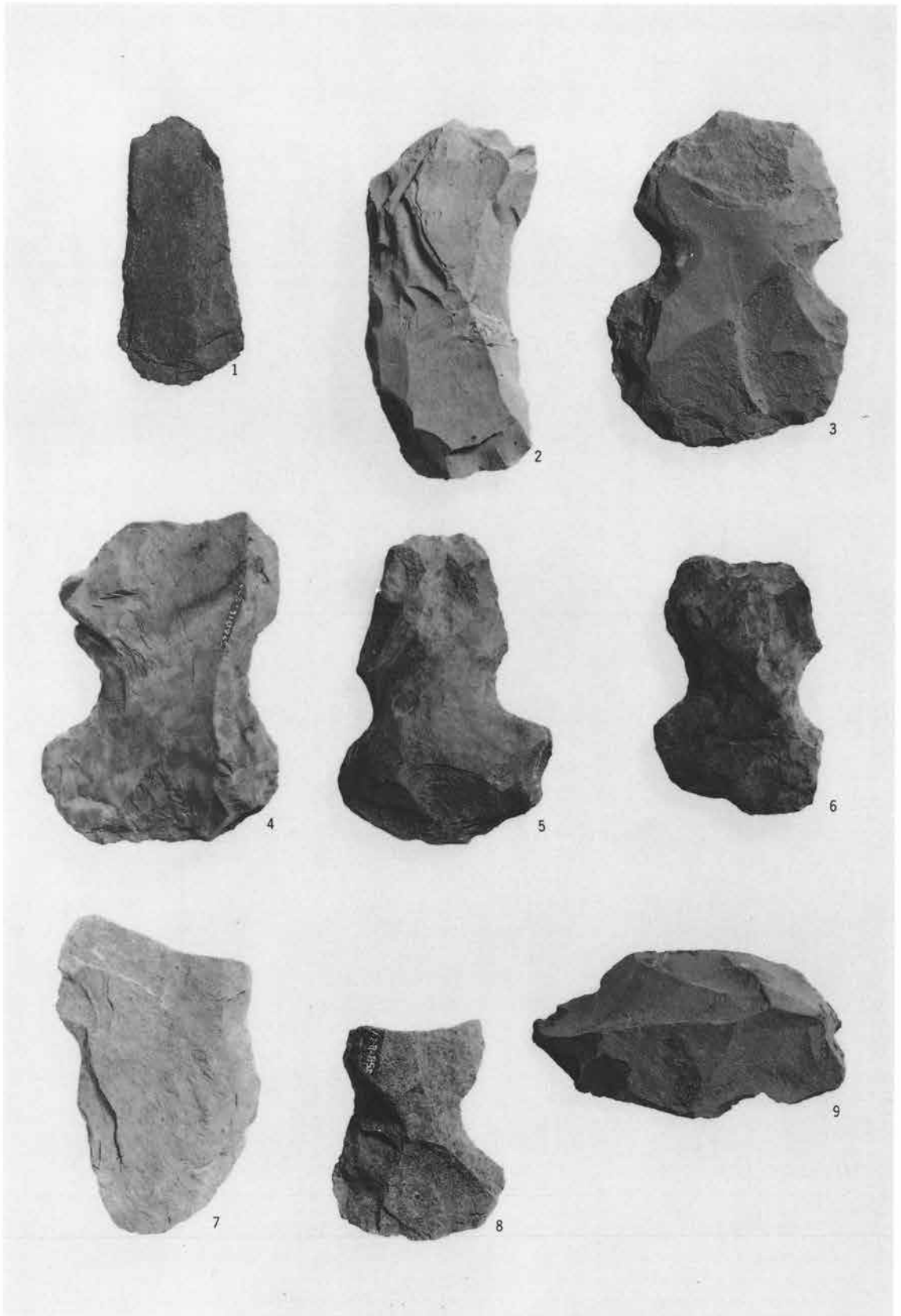
田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(1)土器



田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(2)土器



田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(3)土器



田端地区B区縄文時代遺構外出土遺物(4)石器

田 端 遺 跡

(第4分冊)

—上越新幹線関係埋蔵
文化財発掘調査報告第9集—

印 刷 1988年3月25日

発 行 1988年3月31日

編 集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
(0279) 52-2511代

発 行 群 馬 県 考 古 資 料 普 及 会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
(0279) 52-2511代

印 刷 朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社
